

文学部
(2016年度以降入学者用)

文学研究科

2025^{年度}
履修要項



立教大学

文学部/文学研究科

訂正表

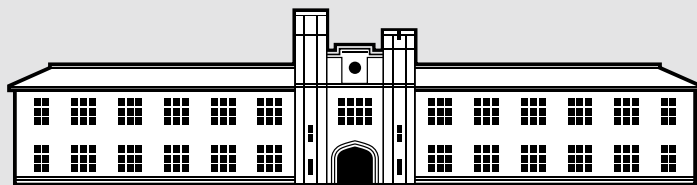


https://ry.rikkyo.ac.jp/yoko/file/pdf/2025/teisei/2025_bun_teisei.pdf



校章（シンボルマーク）にある聖書の中の標語「PRO DEO ET PATRIA」は、「神と国のために」というラテン語で、立教大学では、「普遍的なる真理を探究し、私たちの世界、社会、隣人のために」ととらえています。

また、「MDCCCLXXIV」は創立年の「1874」を意味するローマ数字です。この校章はみなさんが携帯する学生証にも刷り込まれています。



建学の精神

立教大学の建学の精神、それは「キリスト教に基づく教育」です。1874（明治7）年、米国聖公会の宣教師チャニング・ムーア・ウィリアムズ主教によって設立された「立教学校」。東京・築地に聖書と英学を教える、わずか数人の生徒で始まったこの小さな学校が立教大学の前身です。

ウィリアムズ主教は、当時の“実利主義”や知識、技術を物質的な繁栄と立身出世の道具とする日本の風潮をよそに、ここを「キリスト教に基づく真の人間教育を行う場」と位置づけました。現象にとらわれず、常にその本質に迫ろうとする自由の精神、そして、個性を重視した人間教育。これこそが立教のキリスト教に基づく精神といえます。

立教大学の 使命



キリスト教に基づいて人格を陶冶し、文化の進展に寄与する。

2025年度
履修要項
文学部
文学研究科

本書と合わせてR Guide(Web)を
必ず確認すること。



各種日程など年度毎に更新する部分や、
掲載後に生じた変更点・修正点は、
R Guideに掲載する。

文学部にかかわる事項

全学共通科目について

総合系科目（全学共通科目）

言語系科目（全学共通科目）

文学部基幹科目

キリスト教学科

英米文学専修

ドイツ文学専修

フランス文学専修

日本文学専修

文芸・思想専修

史学科

教育学科

文学研究科にかかわる事項

博士課程前期課程

博士課程後期課程

個人情報保護

各種案内

案内図

文
学
科

本書は、入学時に配付し、卒業(修了)まで使用する。再配付はしないので大切に保管すること。


教務事項の伝達について

1 掲示

大学から学生への連絡は、原則として掲示によって行う。掲示を確認しなかったために生じる不利益は、本人の責任となるので、必ず掲示を確認する習慣をつけること。掲示した事項については学生に伝達したものとみなす。

教務事務センターからの通知や連絡は、主にRIKKYO SPIRIT上の教務部掲示板（Web）によって行う。


掲示内容に疑問がある場合には、教務窓口にお問い合わせすること。

種類	掲載内容	設置場所
教務部掲示板 ●各学部・研究科 ●全学共通科目 ●学校・社会教育講座 ●試験 等	各学部生・各研究生への伝達事項	 https://spirit.rikkyo.ac.jp/academic_affairs/bulletin_board/SitePages/index.aspx
インフォメーションボード	全学の休講 全学の教室変更（2週間分）・学生呼出	池袋キャンパス（5/8/14号館） 新座キャンパス（1号館1階/4号館2階）

2 教務関連Webサービス

SPIRIT 教務部ページ



- 掲示板
- 教務からのお知らせ：各種お知らせ（緊急時対応，特別対応）
- 授業について：学年暦，R Guide（履修要項），シラバス・時間割検索システム，時間割PDF，休講情報など
- 履修登録・成績について：履修登録システム，成績参照システム
- 証明書・手続き：学生証再発行，住所変更，氏名変更，休学・退学など


https://spirit.rikkyo.ac.jp/academic_affairs/

R Guide 履修要項・教務関連案内 ※本書と合わせて必ず確認すること。

学部・研究科ごとの履修関連や教務関連情報


- 掲示板
- 年間スケジュール
- 履修登録：登録，中止，取消，卒業論文，修士論文，その他の手続き，カリキュラム改定，科目表，全学共通科目，f-Campus，グローバル教養副専攻など
- 試験・成績案内
- 学校感染症について
- 学籍関連日程：休学，退学，卒業など
- アカデミックアドバイザー，オフィスアワーなど
- 諸規則・各種案内（教務部案内，V-Campus案内，PC教室案内），教員一覧など
- 教務事務センター公式X（旧Twitter）



<https://rguide.rikkyo.ac.jp/>

RIKKYO Mobile


各種お知らせ，講義情報（休講情報・教室変更情報等），時間割，バス時刻表（新座キャンパス），PC貸出状況，立教OPACなどがスマートフォンなどから確認できる。

※更新にタイムラグが生じる可能性があるため注意


<https://spirit.rikkyo.ac.jp/mc/mobile/>

立教時間

立教時間は、RIKKYO Learning Styleにおける学生の学びを支える仕組み。目標を設定し、入学から卒業まで、日々の体験や学び、大学生活の中での気づきなどを蓄積できる。いつでも目標や行動計画を確認しながら自身の成長を振り返ることができる。


<https://portfolio.rikkyo.ac.jp/login>

授業支援システム (Canvas LMS)

LMSは授業をより充実したものにするために、教員がWeb上に用意する授業に対応したWebサイトである。資料をダウンロードして印刷することができたり、担当教員から課題が出題されていれば提出をしたりすることができる。



<https://canvas.rikkyo.bownet.cloud/login>

3 緊急時連絡

台風の接近等により、授業を平常通り行うことができないと判断した場合は、休講などの特別措置をとることがある。特別措置の内容については、立教大学緊急時情報サイト、SPIRITトップページ、掲示等で確認すること。

立教大学緊急時情報サイト

<https://sites.google.com/rikkyo.ac.jp/emergency>

SPIRITトップページ

<https://spirit.rikkyo.ac.jp/>

※試験期間についても上記の措置をとることがある。

※大学の窓口業務、諸施設の利用については、各主管部局のSPIRITページまたは掲示等によって周知する。

4 教務窓口

学部・研究科等	窓口	場所※1	窓口時間※2
文、経済、理、社会、法、経営、異文化コミュニケーションの各学部・研究科学生 グローバル・リベラルアーツ・プログラムの学生 キリスト教学研究科、ビジネスデザイン研究科、社会デザイン研究科、人工知能科学研究科の学生	教務事務センター	池袋キャンパス タッカーホール1階	月～金 9:00～17:00 土 9:00～12:30
観光、コミュニティ福祉、現代心理、スポーツウエルネスの各学部・研究科学生		新座キャンパス 7号館1階	
教職・学芸員・司書・社会教育主事課程登録者	実習・介護等体験について	学校・社会教育講座 事務室	月～金 9:00～17:00 土 閉室
	上記以外	教務事務センター	池袋キャンパス タッカーホール1階 新座キャンパス 7号館1階

※1 災害等により上記以外の場所に臨時的窓口を設ける場合がある。

※2 特別な場合の窓口時間については、ホームページおよび掲示によって周知する。

5 履修要項の使い方

本書は、入学時に配付し、卒業（修了）まで使用する。再配付しないので大切に保管すること。各種日程や年度毎に変更になること、掲載後に生じた変更点や修正点はR Guideに掲載する。
本書と合わせてR Guideも必ず確認すること（URL等は前頁参照）。
本書について不明点等がある場合は、速やかに各教務窓口で確認すること。

目次

建学の精神

教務事項の伝達について

文学部にかかわる事項

文学部で学ぶということ・学位授与方針	
I	カリキュラムのしくみ (RIKKYO Learning Style) 11
	1 カリキュラムのしくみ (RIKKYO Learning Style)
	2 科目ナンバリングについて
	3 カリキュラムと変更時のお知らせ
II	授業 (学修生活) 16
	1 学生証
	2 学期・授業
	3 授業時間
	4 授業形態
	5 休講
	6 補講
	7 授業の欠席について
	8 学校感染症に罹患した場合の措置について
	9 裁判員制度に伴う場合の措置について
III-1	履修規定 単位 21
	1 単位制度
	2 卒業要件単位
	3 科目区分
III-2	履修規定 履修についての注意事項 22
	1 全体についての注意事項
	2 卒業論文 (制作) 各種規定
	3 他学部等科目・他学科科目・他専修科目・5大学間単位互換制度の科目・大学院科目の履修について
	4 派遣留学生・認定校留学生の履修
III-3	履修規定 単位認定 28
	1 派遣留学制度による単位認定
	2 休学留学制度による単位認定
	3 認定校留学制度・文学部留学プログラムによる単位認定
	4 3年次編入学生、転部・転科・転専修生の履修免除・単位認定について
	5 入学前に修得した単位の認定
	6 入学後に他大学等で修得した単位の認定
IV	学修計画の立て方・アドバイザー 33
	1 学修計画の立て方
	2 アカデミックアドバイザー・オフィスアワー
V	履修登録 34
	1 履修登録とは
	2 履修登録の流れ
	3 履修届出方法
	4 登録科目の確認について 履修登録状況画面の確認
	5 科目コード登録における履修登録の修正と修正内容の確認
	6 必修科目履修辞退制度
	7 履修中止制度
VI	試験・成績 42
	1 試験に関する規定
	2 試験方法
	3 筆記試験
	4 口頭試問
	5 レポート
	6 追試験
	7 試験時間重複特別試験

	8 不正行為	
	9 成績	
VII	卒業に関する事項	55
	1 卒業および学位に関する規定	
	2 最長在学年数	
	3 卒業可否の発表	
	4 卒業の延期（希望留年）	
	5 特別卒業	
VIII	学籍・学費	58
	1 学籍	
	2 休学・復学	
	3 退学	
	4 希望留年（学部4年次生のみ）	
	5 特別卒業	
	6 再入学	
	7 学費	
IX	グローバル教養副専攻	63
	1 グローバル教養副専攻（G副専攻）とは	
	2 G副専攻の全体像	
	3 G副専攻修了のための要件	
	4 G副専攻のコース登録	
	5 G副専攻のコース・テーマ	
	6 海外体験の事前審査・認定申請手続き	
	7 4年間のスケジュール・モデルケース	
X	5大学間単位互換制度（通称f-Campus）	67
	1 履修登録	
	2 授業	
	3 試験・成績・単位認定	
	4 学費等	
	5 その他	
XI	文学部・文学研究科・キリスト教学研究科デュアル・プログラム 「SDGsリサーチプログラム」「人文情報・メディア学プログラム」 大学院特別進学生制度（2023年度以降1年次入学者に適用）	69
	1 文学部・文学研究科・キリスト教学研究科デュアル・プログラム「SDGsリサーチプログラム」「人文情報・メディア学プログラム」とは	
	2 文学部・文学研究科・キリスト教学研究科デュアル・プログラム「SDGsリサーチプログラム」「人文情報・メディア学プログラム」制度概要	
	3 大学院特別進学制度について	

全学共通科目について

全学共通科目とは	全-3
総合系科目について	全-7
1 総合系科目とは	
2 科目群	
3 科目表	
4 履修上の注意	
言語系科目について	全-19
1 言語系科目とは	
2 必修科目に関する特別措置	
3 履修免除（単位認定）者等の自由科目に関する特別措置	
必修科目	全-22
1 英語	
2 ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語（理学部・経営学部・コミュニケーション福祉学部福祉学科を除く）	

3-1	日本語（文学部文学科ドイツ文学専修・フランス文学専修・法学部国際ビジネス法学科グローバルコース以外の外国人留学生のみ）	
3-2	日本語（PEACEプログラム生，法学部国際ビジネス法学科グローバルコースの外国人留学生）	
3-3	日本語（NEXUSプログラム生）	
4	指定年次・学期以後の単位修得方法ー必修科目が不合格になったら（英語）	
5-1	指定年次・学期以後の単位修得方法ー必修科目が不合格になったら（ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語・日本語）	
5-2	指定年次・学期以後の単位修得方法ー必修科目が未履修となったら（ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語・日本語）	
自由科目	全-38
1	自由科目 履修上の注意	
2	英語	
3	ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語	
4	日本手話・ポルトガル語（ブラジル）・インドネシア語・タイ語・タガログ語・ベトナム語	
5	自由科目 科目表	

学科・専修ごとの履修規定・カリキュラム

文学部専門教育課程について	72
文学部基幹科目	75
キリスト教学科	76
文学科 英米文学専修	82
文学科 ドイツ文学専修	90
文学科 フランス文学専修	98
文学科 日本文学専修	104
文学科 文芸・思想専修	110
史学科	116
教育学科（2022年度以降1年次入学者に適用）	126
教育学専攻課程	128
初等教育専攻課程	132

文学研究科にかかわる事項

文学研究科における学び・学位授与方針	
科目ナンバリングについて・カリキュラム表と変更時のお知らせ	146
授業（学修生活・履修計画の立て方・オフィスアワー）	147

博士課程前期課程

博士課程前期課程 全専攻にかかわる履修規定その他注意事項	154
博士課程前期課程 専攻ごとの履修規定・カリキュラム	185

博士課程後期課程

2020年度以降入学者に適用	
博士課程後期課程 全専攻にかかわる履修規定その他注意事項	206
博士課程後期課程 専攻ごとの履修規定・カリキュラム	211

個人情報保護

プライバシーポリシー 立教大学における個人情報の取扱について	235
--------------------------------	-----

各種案内

1 大規模地震の警戒宣言が発令された場合の措置	239
2 地震発生時の心得	239
3 台風の接近等が予想される場合の措置	239
4 授業中にJアラートが作動した場合（弾道ミサイル発射時）の対応	239
5 緊急連絡システムについて	240

案内図

構内案内図・教室案内図（池袋キャンパス）	243
構内案内図・教室案内図（新座キャンパス）	248

文学部に かかわる事項

文学部で学ぶということ

学位授与方針

- I カリキュラムのしくみ (RIKKYO Learning Style)
- II 授業 (学修生活)
- III-1 履修規定 - 単位
- III-2 履修規定 - 履修についての注意事項
- III-3 履修規定 - 単位認定
- IV 学修計画の立て方・アドバイザー
- V 履修登録
- VI 試験・成績
- VII 卒業に関する事項
- VIII 学籍・学費
- IX グローバル教養副専攻
- X 5大学間単位互換制度 (通称f-Campus)
- XI 文学部・文学研究科・キリスト教学研究科
デュアル・プログラム

文学部で学ぶということ

学部長 加藤 磨珠 枝

立教大学の母体となる立教学院は、2024年に創立150周年を迎えました。この長い歩みの中で、文学部は、1907年の専門学校令によって「立教大学」が発足した年に「文科」として誕生したとされています。「文学部」の名称は、1922年の大学令によって大学として認可された時代にさかのぼり、立教大学における最古の学部の一つとして、100年以上にわたる歴史を持っています。皆さんが通っている池袋キャンパスは、1916年から建設が始められ、1918年に最初の授業が開講されたので、文学部の歴史は、まさにこの美しいキャンパスとともに育まれてきたといえるでしょう。

文学部の学びの豊かさは、池袋キャンパスがたたえる魅力に通じています。それは、伝統を大切に守りながらも、常に刷新し続けることで、現代の私たちの感性に訴えかける創造性を培い、歴史や文化の厚みを体験させ、人と人を繋ぐコミュニケーションの場を与えてくれる、いわば「人間の営み」を深く理解し、人間性を育むための土壌です。

では、ここでいう学問の伝統とはいかなるものなのでしょう。立教大学では「リベラルアーツ (Liberal Arts)」と呼ばれる学びの技法、知的素養を大切にしてきました。時に「教養」と訳されるリベラルアーツとは、人間が自由 (リベラル) に自ら思考し、行動するために必要な力を鍛え、知性を磨くための技術 (アーツ) です。これは、特定の職業スキルや資格取得に向けた知識とは異なるものですから、すぐ目に見える成果が期待できるわけではありません。

しかし、この学びを通じて、私たちは自己の存在について考え、他者の存在に気づき、異なる文化や価値観をもった世界を理解し、共感をもって対話する力を身につけることができます。これは、現在のグローバル化した社会で生きていくために欠かせない力であり、かつ、幸福感と共に日々の暮らしを送るウェルビーイングの実現にも重要な要素です。一見、遠回りに見えても、実はこれからの人生で、どんな分野に進んでも、またどんな職業に就いても大いに役立ち、困難に立ち向かうための学びなのです。「私たちはどう生きるのか」、この根源的な問いは、文学部で100年以上繰り返されてきましたが、決して色あせることはありません。

この学問の伝統に基づきながら、履修カリキュラムの新たな試みも続けられています。文学部には、キリスト教学、英米文学、ドイツ文学、フランス文学、日本文学、文芸・思想、世界史学、日本史学、超域文化学、教育学というそれぞれの学問領域を代表する優秀な教授陣がそろっていますので、高度に専門化された研究を究めることが可能です。と同時に、各自の興味・関心に応じた領域横断的な科目履修もできるようにカリキュラムが設計されています。

たとえば、各学科・専修の専門性に加えて、複数の分野にわたる知識を一つのテーマに沿って修得する「グローバル教養副専攻」や、学外の社会の現場を「第2の教室」として捉え、多様な体験学習を行う「立教サービスマーケティング」、さらに学生の海外経験を深める「海外フィールドスタディ」など、新しい学修スタイルを実現した豊富なプログラムが提供されています。とりわけ、2023年から本格始動した「デュアル・プログラム」では、各学科の専門領域に加え、「SDGsリサーチプログラム」または「人文情報・メディア学プログラム」のいずれかの専門分野を深めてゆく特別進学制度により、最短5年で修士号を取得できる新制度も導入されました。

これからも伝統を守りながら、進化を続ける文学部で、輝く未来の白地図を一緒に描いていきましょう。

2025年4月1日

文学部 学位授与方針

【教育目的】

世界の多様な文学・言語・文化・歴史・思想・教育に関するテキストや事象に触れることを通じて、幅広い人文的教養と深い人間理解に裏打ちされ、主体的な批評精神をもって社会に貢献できる人間を育てる。

【学修成果】

「学士（文学）」を授与される学生は、以下のような能力を有する。

1. キリスト教精神に裏打ちされた人文学の発想を幅広く深く身につけること
 2. テキストを正確に読解できること
 3. テキストについての自らの解釈を説得的かつ論理的に口頭ならびに文章で表現できること
 4. 複数のテキストや事象にわたる主題について、その細部を首尾一貫して分析しさらにその成果を総合する思考力を持つこと
 5. 他者を理解するための柔軟かつ粘り強い思考力を持つこと
- さらに全学共通科目により、
6. 言語Aの学修によって、聞く・話す・読む・書くという基本的技能にもとづいて、状況に応じて適切なコミュニケーションができる。さらに、英語圏の文化のみならず、英語を通して得た国際的な知見によって、多様な文化を理解し、対応できる。また、自分の専門領域の内容を英語で学ぶ基礎が身につく。また、NEXUSプログラムにより入学した学生については、言語Bと合わせて大学での学修に必要とされる高度な日本語運用能力を養うとともに、実社会のコミュニケーションに対応できる実践的な日本語力を身につける。
 7. 言語Bの学修によって、聞く・話す・読む・書くという基本的技能にもとづいて、日常生活における基本的なコミュニケーションができる。さらに、当該言語圏の文化のみならず、その言語を学ぶ過程で獲得した多元的な視点を通じて、異文化を理解し、対応できる。また、留学生については、大学での学修に必要とされる高度な日本語運用能力を養うとともに、実社会のコミュニケーションに対応できる実践的な日本語力を身につける。
 8. 学びの精神では、立教大学設立理念の一端に触れ、自ら主体的に学ぶ姿勢を身につけ、大学での講義科目受講の包括的スキルを体得する。
 9. 多彩な学びでは、学問的知見の多様性と豊饒性を理解し、他の諸学問の成果を交錯させることで、世界を複眼的に解読する柔軟な知性を涵養する。また、スポーツ実習では、心身の健康増進を目的とした科学的知識を理解し、スポーツの実践をとおした体力の維持・向上、運動習慣を醸成する。

以上に加えて、各学科・専修ごとにそれぞれの教育目標を記せば、

1. キリスト教学科ではキリスト教の歴史と文化について広く深い理解を持ち、宗教と社会の関連性を洞察できる能力を身につけることを目標とする。
2. 文学科は、言葉による人類の遺産を知り、文化創造の源に参加する。
英米文学専修では、英語および英米文学・文化について広く深い理解を持つ。
ドイツ文学専修では、ドイツ語およびドイツ語圏の文学・文化について広く深い理解を持つ。
フランス文学専修では、フランス語およびフランス語圏の文学・文化について広く深い理解を持つ。
日本文学専修では、古今の日本語および日本文学・文化について広く深い理解を持つ。
文芸・思想専修では、言語表現力に広く深い理解を持ち、哲学的思考を行い、それを論理的あるいは文芸的形式をもって表現できる。
3. 史学科は、過去を知り未来を志向するなかで、総合的な人間理解に達することを目標とする。
日本史学専修では、日本に関する史料に基づく歴史研究の手法および発想を身につける。
世界史学専修では、大陸世界と海域世界の史料に基づく歴史研究の手法および発想を身につける。
超域文化学専修では、複合社会文化論、文化人類学、アメリカ社会史、地域研究論、文化環境学、民俗学の研究手法および発想を身につける。
4. 教育学科では、幅広く教育学及び教育事象について理解し、深く思考するための視点と研究方法を身につける。とりわけ、教育学専攻課程では教育学の方法論について理解し、基礎的な研究方法と思考方法を身につける。初等教育専攻課程では、教育学についての理解をもとに、小学校教員としての知識と技能を身につけることを目標とする。

【学修環境】

上記のような学修成果をもたらすために、以下のような学修環境を提供する。

〈正課〉

文学部では、学生の自主性・主体性を重視し、教員とともに学問に取り組み、自ら問題を発見してそれを解決する経験を積ませ、その能力を育てることをカリキュラム作成の基本精神としている。すなわち、広く複合的学問体験を持たせ、各自の学問的関心を喚起し、その知的主体性を涵養するために、文学部は正課において以下の工夫を行っている。

1. 入試を学科ごとあるいは専修ごと(史学科を除く)に行うことによって、入学時から学生の学問的関心を明確化させ出発点の基盤を自覚させる。
2. 全学科・専修共通の「基幹科目」を独自の科目群として設定すると同時に、すべての学科・専修の講義科目を文学部学生全体が受講できるような体制を取っている。
3. 「基幹科目」では、複数教員担当による複合授業も展開されている。他学部科目や大学院科目も所属学科・専修の承認があれば、一定範囲内で卒業要件に組み入れることができる。
4. 4年間の幅広い一方で各自の関心によって特化され深化された学習に基づき、出発点からの学習軌跡によって必然性が認められれば、最終成果としての卒業論文・制作は所属学科・専修以外の専任教員の指導も受けることができるようにしている。
5. 通常の学生指導は、1年次から4年次まで毎学年履修可能な演習科目群、特定の教員の指導の下に自主研究で単位取得を目指す「フィールドワーク」科目群などを中心に行われる。それ以外に恒常的なオフィスアワーや教員研究室近くに設けられた学生の自由研究スペースなどの活用により多彩な指導が行われている。それによって、学生教員間の距離が限りなく小さく、顔の見えるコミュニケーション頻度の高い教育が展開されている。
6. 卒業後の将来や人文学的教養を持って社会的貢献する方法を考えさせる「人文学とキャリア形成」を2年次必修で課し、3年次・4年次には「インターンシップ」科目を選択できるように用意し、学生たちが学習と実生活とのつながりを主体的に自ら構築するよう促している。

〈正課外〉

文学部は正課外活動に関しては学生の自主性に任せているが、伝統的に学生をよく把握しており、正課外での学生との接触機会が多いのが特色である。

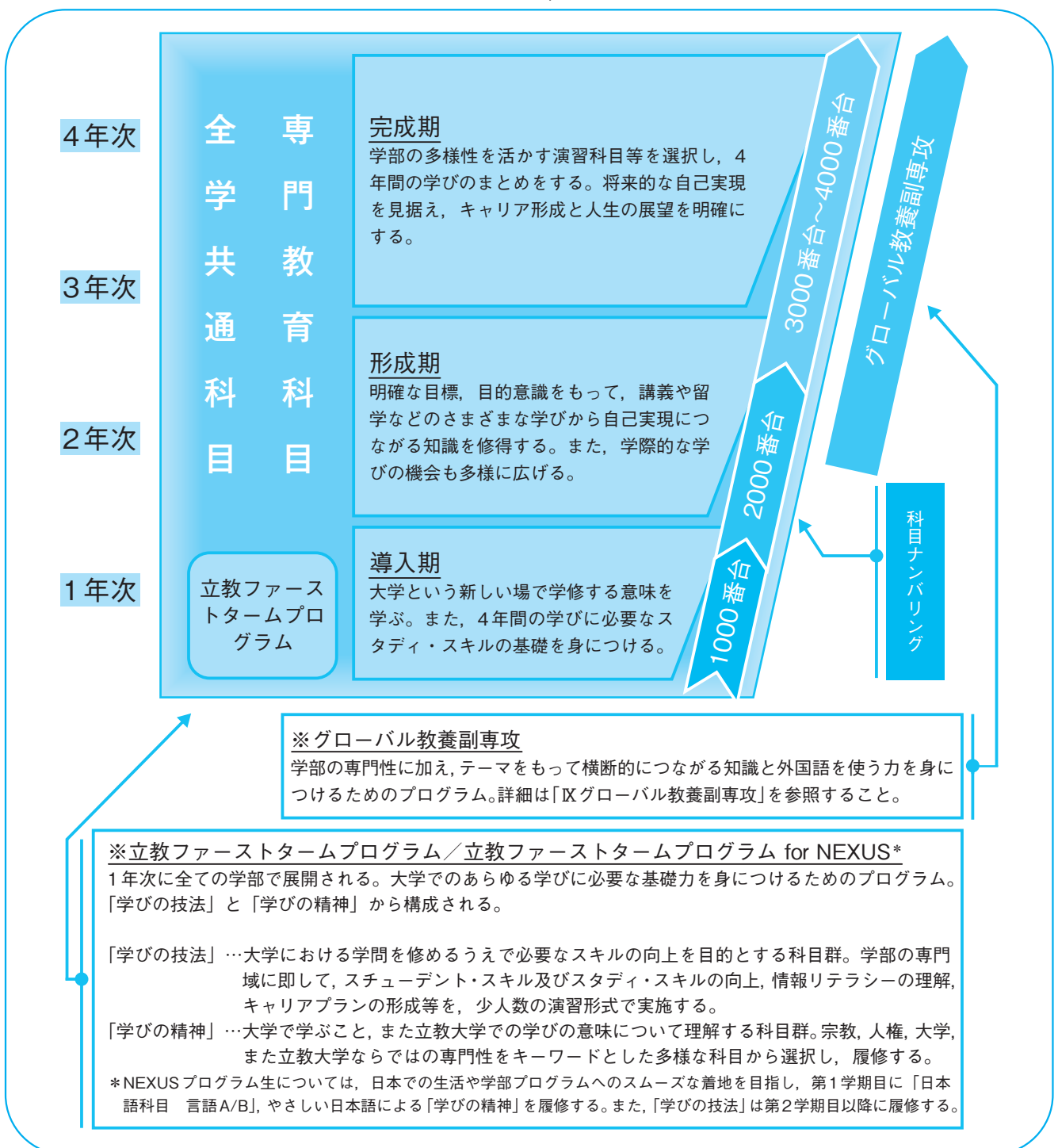
1. 文学部関係の各種講演会、シンポジウム、そのほかの学術的行事は年間30件程度催されており、高い頻度で学生たちに学内外の高い学問・文化に接する機会を提供している。
2. 文学部教員が引率する学外行事も数多く開催され、ゼミ合宿などの国内での研究・研修ツアーや海外での語学研修あるいは発掘・見学などの学習ツアーも多くの参加学生を得て実施されている。
3. 海外留学の機会も多く提供されており、協定校留学では留学先の授業料が免除される。それ以外の大学に留学する学生にも独自の奨学金を与えるなどして、学生の海外体験を促進している。
4. 学内での学生部をはじめ各部局が主催する多様な学生参加プログラムには積極的に参加するよう促しており、多様な経験を積ませている。その中には学内でのボランティア活動、大学が所属する地域貢献のための活動や、地方や海外での多様なボランティア活動がある。
5. 文学部教員の多くが学生の組織する体育会運動部や文化系研究会・サークルの部長・顧問を務めており、文学部教員は他学部学生を含めて日ごろから正課外においても学生と接する機会が多い。

1 カリキュラムのしくみ (RIKKYO Learning Style)

本学を卒業するためには、本学の学部にて4年以上在学して（3年次編入学または転部・転科・転専修した場合は2年以上、2年次に転部・転科した場合は3年以上）、所定の単位を修得しなければならない。詳細は所属する学科・専修の卒業要件単位表を参照すること。

本学の教育課程（カリキュラム）は、全ての学部において、全学共通科目と専門教育科目による「導入期」「形成期」「完成期」の3つの学修期によって構成され、段階的に学ぶ仕組みになっている。また、科目毎にどの学修期に学ぶことが適切な目安を示す科目ナンバリングが設定されている。

また、本学ではeポートフォリオ（自らのビジョンに沿って学びが進んでいるかをオンラインで確認できるシステム）を全学生に提供し、授業に関するだけでなく正課外活動を含めた学生生活で学んだことを蓄積し、いつでも目標を確認し自身の成長を振り返ることができるようなサポートをしているので、是非活用すること。



2 科目ナンバリングについて

立教大学では、2016年度より全学部・研究科で科目ナンバリング制度を導入している。科目ナンバリングとは授業科目に適切な番号を付与し分類することで、学修の段階や順序等を表し、カリキュラムの体系的性を明示する仕組みである。科目ナンバリングを用いて検索をすることで、学びたい分野を探し体系的に履修するための一つのツールとすることができる。また、成績証明書（2016年度以降入学者のみ対象）には修得科目ごとに科目ナンバリングが記載され、体系的に学修した結果を対外的に証明することが可能である。

1. 科目ナンバリングの構成について

本学の科目ナンバリングはアルファベット3文字と数字4文字の構成となっている。

※アルファベット3文字⇒科目の設置学部学科（専修）・研究科を示す。

数字4文字⇒レベル，学問分野・分類等を示す。

アルファベット部分	1000番台	100番台	10番台	1番台
A B C	1	2	3	0
↓	↓	↓	↓	↓
学科・専攻等	レベル	分野	学部自由領域	言語

例として、全学共通科目「学びの精神」科目であれば「CMP1100」のように示される。

他学部等の科目ナンバリングについては、当該学部等の履修要項を参照すること。

2. 全学共通科目のナンバリング

① 科目の設置学部学科（専修）・研究科を示すアルファベット3文字は以下のとおりとなる。

全学共通科目		コード
言語系	英語	LNE
	ドイツ語	LNG
	フランス語	LNF
	スペイン語	LNS
	中国語	LNC
	朝鮮語	LNK
	ロシア語	LNR
	日本語	LNJ
	ポルトガル語（ブラジル）	LNP
	日本手話	LNH
	インドネシア語	LNW
	タイ語	LNW
	タガログ語	LNW
	ベトナム語	LNW
総合系	CMP	

I カリキュラムのしくみ

② レベル，専門分野・分類等を示す数字4文字は以下のとおりとなる。

(1) 全学共通科目 言語系科目

◆1000番台（レベルコード）

言語系科目では，以下のとおり分類する。

コード	言語系科目の定義
0000	リメディアル科目：設定なし
1000	導入科目：【英語・言語B共通】言語必修クラスの科目（言語必修再履修クラスを含む），【言語B】言語自由科目 留学準備領域の科目
2000	形成期科目：【英語】言語自由科目 グローバル・コミュニケーション領域，グローバル・スタディーズ領域の科目，【言語B】言語自由科目 プロジェクト領域の科目
3000	完成期科目：【英語】言語自由科目 グローバル・キャリア領域の科目，【言語B】言語自由科目 キャリア領域，アカデミック領域の科目

◆100番台（科目の分野を示す）

言語系科目は，アルファベット部分で言語種類の分類を行っているため，100番台は共通で「0」とする。

◆10番台（授業形態を示す）

言語系科目では，授業形態に応じて以下のとおり分類する。

番号	授業形態
00	10人以下の極少数人数でコミュニケーションを重視する科目
10	20～40人程度の少数人数演習科目
20	eラーニング
30	海外研修

◆1番台（使用言語を示す）

言語系科目では，授業で使用する言語に応じて以下のとおり分類する（学修する言語とは異なる）。

番号	言語
0	日本語で行う授業
1	英語で行う授業
2	日本語・英語以外の言語で行う授業
3	その他（バイリンガル授業など）

(2) 全学共通科目 総合系科目

◆1000番台（レベルコード）

総合系科目では，以下のとおり分類する。

番号	総合系科目
0000	リメディアル科目：該当なし
1000	導入期科目：「学びの精神」，全期科目：「スポーツ実習」
2000	形成期科目：「多彩な学び」（「立教ゼミナール発展編」，「RSLゼミナール」を除く）
3000	完成期科目：「立教ゼミナール発展編」，「RSLゼミナール」（「多彩な学び」として設置）

I カリキュラムのしくみ

◆100番台（科目の分野を示す）

総合系科目では、以下のとおり分類する。

番号	総合系科目
100	人間の探究（「多彩な学び」）、学びの精神
200	社会への視点（「多彩な学び」）、スポーツ実習
300	芸術・文化への招待（「多彩な学び」）
400	心身への着目（「多彩な学び」）
500	自然の理解（「多彩な学び」）
600	知識の現場（「多彩な学び」）

◆10番台（授業形態を示す）

総合系科目では、授業形態に応じて以下のとおり分類する。

番号	授業形態
00	学びの精神、以下を除く講義系科目
10	コラボレーション科目
20	スポーツプログラム、スポーツスタディ
30	外国語による総合系科目
40	演習系科目、立教ゼミナール、立教ゼミナール発展編、RSLゼミナール
50	実習系科目

◆1番台（使用言語を示す）

番号	言語
0	日本語で行う授業
1	英語で行う授業
2	日本語・英語以外の言語で行う授業
3	その他（バイリンガル授業など）

3. 文学部専門科目のナンバリング

① 科目の設置学部学科（専修）を示すアルファベット3文字は以下のとおりとなる。

学科等	コード
文学部共通	ART
キリスト教学科	CHS
史学科	HIS
教育学科	EDU
英米文学専修	EAL
ドイツ文学専修	GRL
フランス文学専修	FRL
日本文学専修	JAL
文芸・思想専修	PCW

I カリキュラムのしくみ

② レベル、学問分野・分類等を示す数字4文字は以下のとおりとなる。

◆1000番台（レベルコード）

番号	専門科目
0000	リメディアル科目
1000	入門科目
2000	基礎科目
3000	発展科目
4000	最終学年演習・卒業論文・卒業研究

◆100番台（科目の分野を示す）

番号	分野
000	哲学
100	宗教学
200	芸術学
300	文学
400	言語学
500	史学
600	超域文化学
700	教育学
800	その他

◆10番台（授業種別）

番号	授業種別
00	講義系
10	演習系
20	実技系
30	フィールドワーク系
40	その他

◆1番台（使用言語を示す）

番号	言語
0	日本語で行う授業
1	英語で行う授業
2	日本語・英語以外の言語で行う授業
3	その他（バイリンガル授業など）

3 カリキュラムと変更時のお知らせ

1. カリキュラム

学部・学科等のカリキュラムについては、「学科・専修ごとの履修規定・カリキュラム」のページもあわせてよく確認すること。

各年度の科目担当者や開講学期については、R Guideの「科目表」を参照すること。

2. カリキュラムの改定・変更

カリキュラムの一部が改定または変更される場合は、R Guideに詳細を掲載する。必ず各年度初めに各自で確認すること。

1 学生証

1. 学生証

学生証は、立教大学の学生であることを証明するものである。学生証は、プラスチックカードと通学定期乗車券発行控がセットになっている。請求があった場合にはいつでも提示できるよう、常に携帯すること。

2. 学生番号について

学生番号は固有の番号で、在籍中および卒業後も変わることはない。各種手続きの際に必要なもので正確に覚えること。

2 5		A A		1 2 3			Z
入学年度	入学時の 学部・学科等 (研究科・専攻)	個人番号					

3. 有効期間

学生証の有効期限は在籍期間中である。ただし次の場合は学生証（プラスチックカードと通学定期乗車券発行控）を返却しなければならない。

- (1) 卒業・修了・退学・除籍などで学籍を失ったとき。
- (2) 紛失等により再交付を受けたのち、前の学生証が見つかったとき（前の学生証を返却すること）。

4. 貸与・譲渡の禁止

学生証は学生本人を証明する大変重要なものである。学生証を他人に貸与、または譲渡することは固く禁止されており、違反した学生は本学では懲戒の対象となる。なお、複写物の貸与・譲渡についても同様の扱いとなる。

5. 紛失・破損したとき

学生証を紛失・破損した場合や劣化により顔写真が不鮮明な場合は、直ちに教務窓口（巻頭参照）へ届け出ること。

再交付（再交付手数料2,000円[※]）は2日後（窓口閉室日を除く）になる。

※劣化により顔写真が不鮮明な場合は、現在の学生証と交換（再交付手数料は不要）。

2 学期・授業

学期

本学の授業は1年を2学期に分けて行われ、それぞれを春学期、秋学期と呼ぶ。

さらに各学期を前半と後半に分けた4半期（春学期1、春学期2、秋学期1、秋学期2）がある。

授業

授業には以下の種類がある。

通年科目	
通年開講科目	春学期・秋学期通して行われるもの
通年他科目	学部・学科で期間を定めて行われるもの
春学期科目	
春学期開講科目	春学期で完結するもの
春学期1開講科目	春学期前半で完結するもの
春学期2開講科目	春学期後半で完結するもの
春学期他科目	春学期に学部・学科で期間を定めて行われるもの
春学期期間外科目	春学期期間外に学部・学科で期間を定めて行われるもの (履修登録時期が通常より遅れる科目)
秋学期科目	
秋学期開講科目	秋学期で完結するもの
秋学期1開講科目	秋学期前半で完結するもの
秋学期2開講科目	秋学期後半で完結するもの
秋学期他科目	秋学期に学部・学科で期間を定めて行われるもの
秋学期期間外科目	秋学期期間外に学部・学科で期間を定めて行われるもの (履修登録時期が通常より遅れる科目)

3 授業時間

本学における授業時間は次のとおりである。

〈時限・授業時間〉

時限	1	2	3	4	5	6
授業時間	8:50 }	10:45 }	13:25 }	15:20 }	17:10 }	18:55 }
	10:30	12:25	15:05	17:00	18:50	20:35

一部の研究科で設定しているG5, G6時限の授業時間は次のとおりである。

G5時限	18:30~20:10	G6時限	20:15~21:55
------	-------------	------	-------------

4 授業形態

科目ごとの授業形態は、大学方針に基づき科目設置学部等が決定する。授業形態はシラバスに記載しているため授業計画の際に確認すること。また、遠隔授業による修得単位数は、学部卒業要件単位数に60単位を超えて算入することはできない。「遠隔授業60単位上限」に含めるか否かは、授業形態ごとに明示しているので下記の一覧を確認すること。分類や注記に変更がある場合があるため、最新の情報はR Guide「授業について」を参照すること。

授業形態分類一覧（2025年度現在）

種別	授業形態	備考			
		授業回数 (対面：オンライン)	曜日時限 指定	教室配当	遠隔授業 60単位上限
対面科目	①対面（全回対面）	14回：0回	あり	あり	含まない
	②対面（一部オンライン）	7回以上：7回以下			
オンライン科目	③オンライン（全回オンライン）	0回：14回	あり	原則なし	含む
	④オンライン（一部対面）	6回以下：8回以上		あり	
オンデマンド科目	⑤オンデマンド (全回オンデマンド)	0回：14回（オンデマンド）	なし	なし	含む
ハイフレックス科目	⑥ハイフレックス (対面・オンライン同時開講)	学生自身が授業回ごとの授業形態を選択	あり	あり	
ミックス型	①対面（全回対面）	14回：0回	あり	あり	含まない
	③オンライン（全回オンライン）	0回：14回		原則なし	含む

(1) 4半期科目について

4半期科目の場合は、①は全7回対面、②は対面4回以上・オンライン3回以下、③は全7回オンライン、④は対面3回以下・オンライン4回以上、⑤は全7回オンデマンドとする。

(2) 教室配当について

教室配当「あり」の授業形態は、対面授業回の授業実施、オンライン授業回の学内受講場所として教室を配当する。科目に配当された教室はシラバス、履修登録状況画面を確認すること。

教室配当「なし」「原則なし」の授業形態は科目ごとに教室を配当しないため、学内で受講する場合は各キャンパスのオンライン受講用教室を利用すること。当該年度のオンライン受講用教室は、R Guide「授業について」を参照すること。

(3) 遠隔授業60単位上限について

上限の対象となるのは学部卒業要件単位である。学部卒業要件単位に含まれない学校・社会教育講座科目（G****で始まる科目）および大学院修了要件単位は「遠隔授業60単位上限」の対象外となる。

なお、学部学生が大学院科目を履修し、その単位が学部卒業要件に含まれる場合は、学部科目と同様に授業形態により「遠隔授業60単位上限」の対象となるため注意すること。

II 授業（学修生活）

(4) その他注意事項

- ハイフレックス科目（対面・オンライン同時開講）は、学校・社会教育講座科目（G****で始まる科目）および大学院科目のみを対象とする。
- ミックス型は、授業形態のバリエーションとして、①対面（全回対面）と③オンライン（全回オンライン）を同時（併置）開講するものを指し、全学共通科目総合系科目、同言語系科目自由科目のみを対象とする。学生は、あらかじめいずれかの科目（授業形態）を選択して履修登録したうえで、学期を通じて選択した授業形態により履修する。
- オンライン科目を受講する場合は、十分な通信環境を確保し、静穏な環境で受講すること。詳細はR Guide「授業について」を参照すること。

5 休 講

休講とは、通常開講している曜日時限に授業が提供されないことを指す。大学または各授業科目の担当者にやむを得ない事情が発生した場合には、授業を休講することがある。

休講は、大学としての決定または科目担当者からの届出があり次第、掲示板（インフォメーションボード）に表示する。

〈掲示板（インフォメーションボード）設置場所〉

池袋キャンパス：5号館1階、8号館1階、14号館1階

新座キャンパス：1号館1階、4号館2階

休講情報は、RIKKYO MobileおよびSPIRIT 教務部ページからも確認することが可能である。

*休講の掲示がないにもかかわらず、始業時刻後30分以上経過しても担当教員が入室しない場合は、教務事務センター（池袋：タッカーホール1階／新座：7号館1階）に連絡し、その指示に従うこと。

*大規模地震の警戒宣言が発令された場合、および台風の接近が予想される場合等、緊急時の休講の措置については、巻頭および巻末の各種案内を参照すること。

6 補 講

休講等により講義の進行が予定より遅れた際に、臨時の授業を行うことがあり、これを補講という。

補講は、①予め決められた補講日（特定の土曜日3時限以降の時間）に行う場合と、②授業実施期間中の①以外の土曜日3時限以降・月～金曜日の5時限以降に科目担当者が設定して行う場合がある。

①の日程については、R Guideの「年間スケジュール」にて詳細を確認すること。

②については教員の指示に従うこと。

補講が行われる場所は、補講実施日の約1週間前に教務部掲示板で発表する。

7 授業の欠席について

本学では、学校感染症により出校停止となった場合、裁判員選任手続期日または裁判員に選任された公判のため裁判所へ出頭する場合以外の事由による欠席は認めていない（いわゆる公欠制度は設けていない）。

8 学校感染症に罹患した場合の措置について

学校感染症に罹患した場合は、出校を停止する。速やかに各教務窓口へ連絡し、指示を受けること。
※最新の情報はR Guideで必ず確認すること。

1. 対象となる
学校感染症

疾患名	
第1種	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎（ポリオ）、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群（SARSコロナウィルス）、中東呼吸器症候群（MERSコロナウィルス）、特定鳥インフルエンザ *上記の他、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第6条第7項から第9項までに規定する新型インフルエンザ等感染症、指定感染症及び新感染症
第2種	インフルエンザ（特定鳥インフルエンザを除く）、百日咳、麻しん（はしか）、流行性耳下腺炎（おたふく）、風しん、水痘（水ぼうそう）、咽頭結膜熱（プール熱）、結核、髄膜炎菌性髄膜炎、新型コロナウイルス感染症
第3種	コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎、その他の感染症（医師より登校を控えるよう指示され、かつ学内で重大な流行が起こった場合に感染拡大を予防する観点などから、学校医が第三種の感染症として措置が必要と判断した場合のみ） *学校医による判断は、提出された「学校感染症登校可能証明書（本学書式）」または診断書によって行います。

2. 授業欠席の
扱い

学校保健安全法によって定められた学校感染症に罹患した場合の授業欠席については、以下のとおりとする。

- (1) 学校感染症に罹患したことにより、授業を欠席した学生が、所定の申請手続きを行った場合は、欠席扱いとはならない。
- (2) 申請手続きは以下のとおりである。所定の申請手続きを行うためには、医療機関による診断が必要となるため、必ず医療機関を受診すること。市販の検査キット等による判定結果では、出校停止期間が証明されないため申請できない。
 - ① 医療機関により学校感染症に罹患したと診断された学生は、登校可能となった日を含む7日以内（締切日が窓口業務を行わない日の場合はその翌日まで）に、医療機関が記載し証明した本学所定の書式である「学校感染症登校可能証明書（本学書式）」*^{1, 3}または医療機関の発行する出校停止期間と登校可能日が記載された「診断書」*^{2, 3}を、各教務窓口へ提出すること。

*1 「学校感染症登校可能証明書」の書式はSPIRIT 教務部ページからダウンロードできる。医療機関を受診する際は、「学校感染症登校可能証明書（本学書式）」の注意書きをよく読み、指示に従うこと。

*2 罹患開始時と治癒時の診療医療機関が異なった場合は、治癒時の医療機関において「出校停止期間についての証明」が受けられない場合がある。その場合は、罹患開始時の医療機関が発行する「罹患日記載がある『診断書』」と、治癒時の医療機関が発行する「治癒日と登校可能日の記載がある『診断書』」の2種類をもって「出校停止期間事項についての証明」とすることができる。

*3 「学校感染症登校可能証明書」および「診断書」は、治癒後の日程で発行されたものを提出すること。ただし、インフルエンザ（特定鳥インフルエンザを除く）および新型コロナウイルス感染症に限り、初診時に発行された「学校感染症登校可能証明書」または医療機関発行の「診断書」でも申請を受け付けることがある。

- ② 申請者は、各教務窓口にて科目担当者宛文書を受け取り、各授業時間に科目担当者に提出すること。

3. 試験欠席の扱い

定期試験に関する事項は「VI 試験・成績」を確認すること。

9 裁判員制度に伴う場合の措置について

1. 授業欠席の扱い

裁判員選任手続期日または裁判員に選任された公判のため裁判所へ出頭し、授業を欠席した学生の扱いについては、以下のとおりとする。

- (1) 裁判員選任手続期日または裁判員に選任された公判のため裁判所へ出頭し、授業を欠席した学生が所定の申請手続きを行った場合は、欠席扱いとはならない。
- (2) 申請手続きは以下のとおりである。

① 裁判員に選任された場合

公判終了日の翌日から7日以内（締切日が窓口業務を行わない日の場合はその翌日まで）に、裁判員の職務従事期間についての「証明書*」を持参し、「裁判員制度による学生の欠席について」（各教務窓口で交付）に必要事項を記入し、履修登録状況画面のコピーとともに各教務窓口へ提出する。

*「証明書」は出頭先の裁判所に申し込み、発行を受けること。

② 裁判員に選任されなかった場合

選任手続期日の翌日から7日以内（締切日が窓口業務を行わない日の場合はその翌日まで）に、裁判所出頭日の証明*を受けた「選任手続期日のお知らせ（呼出状）」を持参し、「裁判員制度による学生の欠席について」（各教務窓口で交付）に必要事項を記入し、履修登録状況画面のコピーとともに各教務窓口へ提出する。

*裁判所出頭日の証明は出頭先の裁判所で受けることができる。

- ③ 申請者は、各教務窓口にて受付印を押印された申請書類を受け取り、各授業時間に担当教員へ提出する。

2. 試験欠席の扱い

定期試験に関する事項は「Ⅵ 試験・成績」を確認すること。

1 単位制度

1. 単位制度

大学での学修は、すべて単位制になっている。すべての科目には一定の単位が定められており、その科目の履修登録をし、授業を受け、かつ、試験に合格した場合、当該科目の単位が与えられる。その単位の合計が卒業に必要な単位（卒業要件単位）を満たした者に対して卒業の資格が与えられる。

2. 単位の数え方

各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。各科目の単位数は科目表で確認すること。

- (1) 講義及び演習については、15時間から30時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 輪講、実験、実習及び実技については、30時間から45時間の授業をもって1単位とする。
- (3) 前述の(1)(2)にかかわらず、卒業論文、卒業研究等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定める。

2 卒業要件単位

- (1) 卒業に必要な単位数（卒業要件単位）は、各学科・専修等の定めるところによる。入学年度によっても異なるので注意すること。

☞ 所属学科・専修の該当入学年度の履修規定や卒業要件単位表を参照

- (2) 「随意科目」として指定される科目は、卒業要件単位に含めることはできない。

☞ 随意科目とは、①随意科目として設定している科目と、②科目自体が随意科目というわけではなく、重複履修や教職のために設置している科目等を履修した結果、履修規定により卒業に必要な単位数に算入されない科目の2種類がある。

- (3) 全授業回の半数を超える授業回を遠隔により実施する科目で修得した単位は、60単位まで卒業要件単位に含めることができる（遠隔授業60単位上限）。60単位を超えた単位は随意科目となり、卒業要件単位には算入されない。

履修中及び修得した遠隔授業の単位数は、成績参照画面で確認すること。

☞ 「遠隔授業60単位上限」の対象となる科目は、授業形態により定められる。授業形態については、「II 授業（学修生活）」4「授業形態」を参照

3 科目区分

文学部の専門教育科目は以下の区分に分けられる。「基幹科目」「指定科目」という科目群の名称についての詳細は「文学部専門教育課程について」を参照のこと。

区分名	区分についての説明
必修科目	卒業要件として単位の修得が義務づけられている科目。他の科目では代替できない。
選択科目	一定単位数の修得が義務づけられている指定された科目の枠内で規定の単位数になるまで、修得しなくてはならない科目。卒業に必要な単位数に算入される。
自由科目	必修、選択等の枠内にとられない科目。卒業に必要な単位数に算入される。

1 全体についての注意事項

1-1 学年配当

- (1) 科目の履修は、原則として当該科目の配当されている年次において行うものとする。配当年次はR Guideの「科目表」で確認すること。
- (2) 特に指示のない限り、高学年次の者が低学年次に配当されている科目を履修することはできる。
- (3) 低学年次の者が高学年次に配当されている科目を履修することはできない。ただし、資格要件等により、履修が認められる科目についてはこの限りではない。

※配当年次の他に、履修の前提となる条件が定められている場合がある。

* 休学した学生の履修の原則について

休学した学生は、在学学期数にかかわらず、年次は4年次まで自動的に進む。この場合、特に学部・学科・専修等で定める場合を除き、進んだ年次の配当科目について履修登録が認められる。

1-2 履修登録上限単位数

1年間に履修登録できる単位数は、全学共通科目、文学部専門教育科目（他学部履修科目を含む）について、春学期・秋学期・通年を合計して登録できる単位数が所属学科および在籍の年次によって定められている。

学科	学年	履修登録上限単位数				履修登録上限の範囲		
		通年	春学期		秋学期		上限に含む	上限に含まない
			春1	春2	秋1	秋2		
キリスト教学科 文学科 史学科	1	42	30	30	16	16	・文学部専門教育科目 ・他学部科目 ・全学共通科目 ・教職関連科目 ・5大学単位互換制度 (f-Campus) 科目	・学校・社会教育 講座科目 (科目コードがG ~で始まる科目)
	2	42	30	30	16	16		
	3	44	30	30	16	16		
	4	46	30	30	16	16		
教育学科	1	44	30	30	16	16	・文学部専門教育科目 ・他学部科目 ・全学共通科目 ・教職関連科目 ・5大学単位互換制度 (f-Campus) 科目	・学校・社会教育 講座科目 (科目コードがG ~で始まる科目)
	2	48	30	30	16	16		
	3	48	30	30	16	16		
	4	48	30	30	16	16		

春1：春学期1，春2：春学期2，秋1：秋学期1，秋2：秋学期2

単位認定により修得した単位については、「入学後に他大学等で修得した単位」を除き、履修登録上限単位数には含まれない。

* 9月入学者は当該年度秋学期と翌年度春学期で通年（1年間）の登録上限

* 4月入学者・NEXUSプログラム生（2学期目以降）は当該年度の春学期・秋学期で通年（1年間）の登録上限

* 通年科目の単位は、半期（春学期・秋学期）それぞれの履修登録上限単位数にその単位数の1/2が算入され（例1参照）、4半期（春1・春2・秋1・秋2）科目を履修した場合、4半期それぞれの履修登録上限単位数にその単位数の1/4が算入される（例2参照）。

（例1）通年科目（4単位）は、春学期・秋学期に2単位ずつ算入

（例2）通年科目（4単位）は、春学期1・春学期2・秋学期1・秋学期2に1単位ずつ算入

* 春学期科目・秋学期科目の単位は、4半期（春1・春2，秋1・秋2）科目を履修した場合、4半期それぞれの履修登録上限単位数にその単位数の1/2が算入される（例3参照）。

（例3）春学期科目（2単位）は、春学期1・春学期2に1単位ずつ算入

秋学期科目（2単位）は、秋学期1・秋学期2に1単位ずつ算入

* 春・秋学期期間外科目は、年間の履修上限単位数に算入される（学期ごとの上限には含まれない）。

Ⅲ-2 履修規定（履修についての注意事項）

いずれの学科・年次も、各学期30単位まで履修登録をすることができるが、年間履修登録単位数（春学期と秋学期を合計したもの）は上記の上限単位数を超えることは認められない。

履修登録した科目で、単位を修得できなかった科目も履修登録上限に含まれる。

例えば、1年次で春学期に30単位登録すると、秋学期には12単位（教育学科は14単位）しか登録することができなくなる。したがって、4月に履修計画を立てる際には、春学期・秋学期のバランスを考え、偏らないよう注意すること。

〈全学共通科目の履修登録上限単位数〉

- ・総合系科目は、全学年において各学期それぞれ6単位以内とする。ただし、海外で行う科目などで登録上限のカウントの仕方が異なる場合があるのでR Guideの「科目表」で確認すること。

1-3 必修科目

文学部における必修科目は以下のとおりである。単位が未修得となった場合は再度履修し、単位を修得しなければならない。配当年次の履修、再履修いずれにおいても自動登録される。

必修科目	履修登録方法
基幹科目A（「人文学とキャリア形成」）	各年度始めに、R Guideの「科目表」で確認すること
指定科目Aのすべての科目 ただし、教育学科初等教育専攻課程の学生は、指定科目A1・A2	

1-4 履修資格の制限

基幹科目、所属する学科・専修内の科目であっても、教職課程登録者以外は履修できない科目がある。R Guideの科目表を確認しておくこと。

他学科・他専修の学生に履修を認める科目は、**3 他学部等科目・他学科科目・他専修科目・5 大学間単位互換制度の科目・大学院科目の履修について**を確認すること。

1-5 履修者人数の制限

基幹科目またはそれぞれの学科・専修において科目の性格により履修するクラスを指定、あるいは履修者の人数を制限することがある。

講義および演習科目等によって、履修者の範囲および人数を制限することがある。

履修登録方法の詳細について履修要項「V 履修登録」およびR Guideを確認すること。

クラスを指定される科目は、指定以外のクラスの授業に出席、試験を受験しても単位を修得することはできないので注意すること。希望を受け付けたいうえで、履修クラスを決定する人数制限科目は、いずれも当該授業開始前の定められた時期に希望を受け付ける。

科目により前年度中に希望を受け付ける科目もあるので、注意すること。

1-6 同一曜日時限の履修

同一曜日時限に2科目以上にわたり履修をすることはできない。授業が集中形式で行われる科目については、実施日時が他の履修科目と一部でも重なる場合は履修することはできない。

1-7 キャンパス間の移動にかかわる措置

同一日の異なるキャンパスでの授業については、移動の必要上連続した時限の履修は不可能であるから、その場合の履修登録は認めない。ただし、昼休みをはさむ場合を除く。

実際の移動時間が不足する場合でも自己責任となるので、履修登録の前に移動に要する時間をよく確

認すること。

1-8 重複履修

重複履修とは、同一名称*（同単位数）の科目を単位修得後に再び履修することである。

〈全学共通科目〉

- (1) 言語系科目必修科目および「英語R」は重複履修をすることはできない。
- (2) 総合系科目、言語系科目自由科目は学期を変えれば重複履修をすることはできる。その場合には、最初に修得した1科目分だけが卒業要件単位として認められ、2回目以降に修得した単位は随意科目となり、卒業要件単位には算入されない。

〈専門教育科目〉

文学部の各科目については、別に定める場合を除き、重複履修は認めない。対象科目はR Guideを参照すること。

重複履修により修得した文学部科目の単位は、同じ区分の卒業要件単位となる。

*同一名称についての補足（他学部科目の同一名称の定義は各学部の定めるところに従う）

科目名「○○○a」「○○○b」など「○○○（番号または大文字アルファベットまで含む）」が同一である場合、これを同一名称とみなす。なお、上記「a」「b」のような小文字のアルファベットはクラス名を表す。

1-9 同時履修

同一科目（科目名称および単位数が同一の科目）が同一学期に複数クラス開講されている場合、1学期に1科目（1クラス）しか履修することができない。

1-10 超過履修

超過履修とは同一区分内の科目を、卒業に必要な単位数を超えて履修することである。

超過履修が認められる科目区分は、学科・専修により異なるので、以下の表で確認すること。なお修得した単位は、自由科目の単位となる。

〈2016年度以降1年次入学者に適用〉

超過履修が認められている科目区分	修得単位の算入先
基幹科目B 基幹科目C 基幹科目D	自由科目 ★教育学科初等教育専攻課程の学生が指定科目C1を超過履修した場合は、指定科目C2になる。
指定科目B1（史学科を除く*） 指定科目B2 指定科目C（教育学科初等教育専攻課程の学生は指定科目C1・C2） *史学科の学生は、指定科目B1を所定単位数（8単位）を超えて履修することができない。	

1-11 科目の開講について

各科目は、原則として毎年開講されるが、事情によっては開講しない科目もあるので注意すること。また、開講学期は、年度によって変更になる科目もあるので注意すること。

2 卒業論文（制作）各種規定

1. 卒業論文の位置付け

「卒業論文（制作）・卒業論文（制作）指導演習」は、3年次までの学習を踏まえつつ、自ら設定した研究課題に対する問題解決学習の集大成の機会であり、4年次カリキュラムの中核をなすものである。その学習上の意義を深めるために、3年次から卒業論文（制作）演習の予備的な科目を置く学科・専修もある。

「卒業論文（制作）・卒業論文（制作）指導演習」を履修する場合、所属学科・専修で卒業論文（制作）を執筆・作成できるが、所属学科・専修以外で卒業論文（制作）を執筆・作成することも可能である。すなわち、自らのテーマに最もふさわしい学科・専修のもとで、卒業論文（制作）の執筆・作成に取り組むことができる。

2. 履修手続

(1) 「卒業論文（制作）・卒業論文（制作）指導演習」は、6学期以上在学した学生が7学期目以降の4学期に履修登録できる（通年科目）。*NEXUSプログラム生は在学期数に1加算して読み替えること。

履修開始前の学期に手続きが必要な場合、履修開始時に上記条件が満たされるか確認すること。

履修手続に関しては、年度によって変更になる可能性があるため、R Guideの「履修登録・科目表」に掲載される卒業論文の項目も必ず確認すること。

所属学科・専修で
執筆・作成する場合

(2) 所属学科・専修で卒業論文（制作）を執筆・作成する場合は、学科・専修の指示に従って手続きを行うこと。

(3) また、履修開始時に上記条件が満たされるが、手続きすべき学期に休学中であった場合、所属学科・専修の教務委員に復学した年度の4月のガイダンスで申し出ること（ドイツ文学専修の学生で秋学期に復学した場合は、復学後速やかに所属専修の教務委員に申し出ること）。

なお、派遣留学生・認定校留学者で「卒業論文（制作）・卒業論文（制作）指導演習」の履修を希望する者は、池袋キャンパス教務事務センターに相談すること。また、4 派遣留学生・認定校留学の履修 も確認すること。

所属学科・専修以外で
執筆・作成する場合

(4) 所属学科・専修以外で卒業論文（制作）を執筆・作成する場合は、履修前年度において別途定める履修の手続きをとる必要がある。詳細はR Guideを参照すること。

3. 提出について

(1) 提出期間 12月上旬～中旬

(2) 提出場所と提出時の注意など 詳細はR Guideに掲載する。

※学校感染症のため出校停止となった場合、不測の事態が発生した場合の卒業論文（制作）の提出については「Ⅵ 試験・成績 5 レポート」参照。

4. 最終面接（必修）

各学科・専修の学生は1月下旬に最終面接を行う。時間等の詳細は、1月中旬に学科・専修別に文学部掲示板に掲示されるので、論文を提出した者は、注意すること。

3 他学部等科目・他学科科目・他専修科目・5大学間単位互換制度の科目・大学院科目の履修について

3-1 他学部等科目の履修

修得単位の扱い

他学部等科目を履修して修得した単位は、5大学間単位互換制度を利用して他大学で修得した単位とあわせて16単位まで卒業要件単位に算入することができる。

履修登録に関する注意事項

(1) 他学部等科目の履修を希望する場合は、当該科目のシラバスや、その科目を設置している学部等のR Guideに掲載している自身に該当する入学年度の科目表を、よく確認すること。

*他学部等科目のシラバスは、シラバス・時間割検索システムを参照すること。

*科目表に掲載されている配当年次に従うこと。ただし先修規定は問わない。

- (2) 他学部等学生の履修を許可していない科目もある。履修登録システムに掲載の「他学部学生履修不許可科目」を確認しておくこと。
- (3) 他学部学生履修不許可科目や、科目表に掲載の配当年次が合致しない科目は、履修できない。
*上記の科目は、履修登録しようとしてもエラーとなるので注意すること。
- (4) 履修登録方法については、当該学部等のR Guideを確認すること。
- (5) 届け出た他学部等科目は、履修登録の完了を以て、履修許可となる。

3-2 他学科科目・他専修科目の履修

他学科・他専修が開講する科目のうち、履修を認められない科目は、R Guideを参照のこと。ただし、教職等免許取得のため必要な場合はこの限りではない。

3-3 5大学間単位互換制度（f-Campus）による科目の履修

登録等の詳細は「X 5大学間単位互換制度（通称f-Campus）」を参照すること。

5大学間単位互換制度を利用して他大学で修得した単位は、他学部科目を履修して修得した単位とあわせて16単位まで自由科目の単位に算入することができる。

3-4 大学院科目の履修（学部4年次生のみ）

学科・専修および教授会が申請者にとっての学習の必要性を認め、許可した4年次生に限り、大学院文学研究科およびキリスト教学研究科の科目を、自由科目として履修することが認められる（上限8単位）。

履修を希望する者は、池袋キャンパス教務事務センターで配付する「4年次生大学院科目履修希望届」を持参して4月期の各学科・専修のガイダンスにて教務委員と相談すること。教務委員の指導のもと履修する科目を決定し、所定の締切日までに「4年次生大学院科目履修希望届」を池袋教務事務センターに提出すること。

*提出方法および締切日については、R Guideの「履修登録・科目表」を参照すること

4 派遣留学生・認定校留学生の履修

派遣留学・認定校留学*が決定した者は、ただちに所属キャンパスの教務窓口で、出国年度・帰国年度の履修について説明を受けること。

*「派遣留学」とは、1. 大学間協定に基づく「派遣留学制度」、2. 大学間協定に基づく「学費非免除留学プログラム」、3. 学部間協定等に基づく海外研修・留学プログラムによる留学をさす。また、「認定校留学」とは4. 認定校留学制度による留学をさす。なお、1～3の制度により留学する学生を「派遣留学生」、4の制度による留学生を「認定校留学生」という。

派遣留学生および認定校留学生は本学の履修科目において、下記の特別措置の対象となる。派遣留学生および認定校留学生以外は、下記の特別措置の対象とはならない。

1. 出国年度の履修と単位修得

「在学留学」・「休学留学」中は、本学の科目（オンライン科目・オンデマンド科目を含む）を履修し、単位修得することはできないが、留学開始前の学期に開講されている科目の履修は以下の通り認められている。留学開始日より履修、単位修得が認められる科目が異なるため注意すること。

- (1) 留学開始日が本学の定める春学期（または秋学期）の試験期間終了後の場合：

「在学留学」・「休学留学」のどちらを選択しても、出国年度の春学期1・2（または秋学期1・2）開講科目および春学期（または秋学期）開講科目を履修し、単位を修得することができる。通年科目

の履修については、「2. 通年科目の接続」を確認すること。

- (2) 留学開始日が本学の定める春学期1（または秋学期1）の試験期間終了日の翌日から春学期（または秋学期）の試験期間終了日までの場合：

「在学留学」の場合に限り、出国年度の春学期1（または秋学期1）開講科目を履修し、単位を修得することができる（春学期2および春学期（または秋学期2および秋学期）開講科目の履修は認められない）。春学期1（または秋学期1）開講科目の履修を希望する学生は、留学決定後速やかに所属キャンパスの教務窓口で、手続き方法などについて説明を受けること。

※試験期間は R Guide で確認すること。

※科目の開講学期は、R Guide 科目表およびシラバスで確認すること

- ㊦ その他、詳細については国際センターが発行する派遣留学生の募集要項を参照すること。

2. 通年科目の接続

派遣留学生および認定校留学生については、本学における通年科目の履修に関し学年暦の国際的差異による支障がある場合、教授会または研究科委員会の議により、教授会または研究科委員会が認めた科目については、同一の通年科目の出国年度の春学期における履修と帰国年度の秋学期における履修を接続し、通年で履修したものとすることができる。ただし、「通年科目の接続」が適用されるのは、秋学期に留学に出発し、留学期間の終了時期が翌年度の6月以降で、かつ帰国届を6月以降に提出した場合に限る。派遣留学・認定校留学が決定し、上記の通年科目の接続を希望する学生は、所属キャンパスの教務窓口で、手続き方法などについて説明を受けること。

注意点

- (1) 「通年科目の接続」は、原則として翌年度の履修に限るものとし、翌々年度に亘ることはできない。
- (2) 個人都合による休学を挟むと「通年科目の接続」は適用されない。

- ㊦ その他、詳細については国際センターが発行する派遣留学生の募集要項を参照すること。

3. 帰国年度の履修登録

- (1) 5月末日（秋学期は10月末日）まで（末日が窓口業務を行わない日の場合はその前日まで）に帰国届の提出および履修登録をした場合、帰国年度の春学期科目および通年科目（秋学期は秋学期科目）を履修することができる（春学期1開講科目、秋学期1開講科目は、対象外）。ただし、抽選登録科目等、履修登録できない科目もあるので、必ず所属キャンパスの教務窓口を確認すること。

※帰国年度の履修登録は帰国届を提出していることが前提となる。

※全学共通科目の抽選登録科目は、科目コード登録対象科目に移行した科目のみ履修することができる。

- (2) 「在学留学」を選択した学生は留学期間の終了時期が6月以降の場合でも、秋学期授業開始前までに留学期間を終了して帰国届を提出し、学部の許可を得た場合、通年の「卒業論文（制作）・卒業論文（制作）指導演習」等については特別に履修を認めることがある。

- ㊦ その他、詳細については国際センターが発行する派遣留学生の募集要項を参照すること。

通常の履修による単位修得以外に、下記のとおり、単位が認定される場合がある。詳細は以下の各制度の内容を確認のこと。なお、単位認定の上限は学則（「立教大学学則第2章第10条の2第1項～第10条の4第3項」参照）により合計60単位までと定められている（ただし3年次編入学または転部・転科等による単位認定，入学前に本学で修得した単位の認定，随意科目として認定された単位などについてはこの上限に含まない）。

1 派遣留学制度による単位認定

本学部の学生が、国際交流制度による派遣留学生（在学留学生）として外国の大学で修得した単位は以下のとおり扱う。

㊦ 認定の上限については、「立教大学学則第2章第10条の2第1項から第10条の4第3項」を参照すること。

(1) 在学留学の学生が外国の大学で修得した科目の単位の認定を申し出る場合、下記①～⑥の書類を、派遣留学期間終了後1ヶ月以内に所属キャンパスの教務窓口に提出すること。派遣留学期間終了後1ヶ月を過ぎると一切受け付けないので注意すること。

- ①立教大学派遣留学生単位認定願
- ②留学先大学・機関等が発行した成績証明書（原本）
- ③留学先大学の学年暦（授業開始日・終了日・試験期間・休祝日を示す書類）
- ④学業成績評価の基準を示す書類（可否の基準が明記されているもの）
- ⑤シラバス等、授業内容がわかる書類

※言語系科目についてはシラバスの提出がない限り単位認定できないため、シラバスがない場合は科目担当教員に事情を説明して必ず作成してもらうこと（科目名・目的・内容・成績評価基準・テキスト・使用言語が記載されたものであり、担当者のサインがあることが望ましい）。

※言語Bの単位認定を希望する場合は、シラバスに加え、授業で使用したテキスト及びノート等授業内容詳細が分かるものを提出すること。

⑥各科目の総授業時間数を示す書類

※シラバス等に記載がない場合は、最終試験を除く授業回数・1回あたりの授業時間・授業実施曜日を示す書類（コーススケジュール、時間割など）

提出された書類に基づき、文学部および全学共通カリキュラム運営センターが審査を行う。その結果単位認定を受けられないこともある。なお、5月末日までの申請受付分が当該年度の9月卒業判定の対象となり、10月末日までの申請受付分が当該年度の3月卒業判定の対象となる。

※派遣留学期間後の学籍が休学であっても申請は有効となる。

※申請した単位が認定される以前に退学した場合は、派遣留学単位認定の申請が無効になる。

郵送（書留相当）による派遣留学単位認定申請について

以下の条件すべてに該当する場合は、派遣留学単位認定の申請について郵送（書留相当）で行うことができる。

- ①派遣留学期間終了後、引き続き現地にて研究・勉強等を継続して行う者で、1ヶ月以内に帰国できない者
- ②派遣留学期間終了日以前に、①の内容について所属キャンパスの教務事務センターに申し出た者
- ③大学側からの連絡に回答可能な方法を構築できる者
- ④以下の条件を了解できる者
 - ・ 手続書類の不備がないよう申請すること
 - ・ 手続書類不備については、派遣留学単位認定の申請が無効になる場合があること

(2) 原則、以下の基準により単位数を計算する。

講義：11.25時間＝1単位

語学・実習・体育実技：22.5時間＝1単位

ECTS^{*1}を採用している欧州の大学：ECTS単位数の1/2単位数を算出。但しスペインの大学のみの時間数により換算する。

※1 ECTS：European Credit Transfer System（欧州単位互換制度）

Ⅲ-3 履修規定（単位認定）

- (3) 文学部専門教育科目としての認定を受けた科目の単位は、卒業要件単位に算入できる。履修区分は、留学先大学の授業内容をもとに決定する。
- (4) 全学共通科目として認定を受けた科目は、認定を受けたカテゴリーに応じて卒業要件単位に算入することができる。卒業要件単位への算入については、全学共通科目および所属学科の履修規定を参照すること。
- (5) 留学による単位認定科目の成績評価は「認定」とする。

2 休学留学制度による単位認定

大学間協定に基づく派遣留学、認定校留学、大学間協定に基づく「学費非免除留学プログラム」で「休学留学」を選択した学生が留学先大学で修得した単位は、国際センターへの成績証明書の提出と全学共通カリキュラム運営センターの審議により以下のとおり認定される場合がある。

- 認定科目名：長期海外留学認定科目
- 履修区分：全学共通科目「多彩な学び」
- 認定単位数：修得単位数にかかわらず一律2単位（単位を修得した場合に限る）
- 単位の扱い：随意科目（卒業要件単位には算入されない）
- 認定科目の成績表示：「認定」

3 認定校留学制度・文学部留学プログラムによる単位認定

本学部の学生が認定校留学制度または文学部留学プログラムにより在学留学中に外国の大学で修得した科目の単位は、国際交流制度による派遣留学生の単位認定に準じて扱う。

4 3年次編入学生、転部・転科・転専修生の履修免除・単位認定について

1. 3年次 編入学者

※単位認定手続き・編入後の履修科目等詳細については、編入学年度始めの3年次ガイダンスに出席し、指示を受けること。

- (1) 全学共通科目

本学部に編入学した者は、言語系科目必修科目および総合系科目（計28単位）の履修を免除する。なお、編入学後に全学共通科目を履修して修得した場合は、文学部の自由科目として卒業に必要な単位に算入される（言語系科目必修科目は履修することができない）。履修にあたっては履修規定および総合系科目・言語系科目自由科目の「履修上の注意」に従うこと。

(2) 専門教育科目

認定対象	本学部への編入学以前に立教大学を卒業するまでに修得した単位のうち、卒業要件単位数を超えて修得した単位。
認定方法	各学科・専修の一定の基準に基づき審議し、本学部の1年次または2年次の専門教育科目（必修科目に重点をおく）に相当する科目であると認められた場合、専門教育科目の履修を免除してその単位を認定する。 *文学科フランス文学専修においては、必修科目に関する特別措置が設けられている。同専修の履修規定を参照のこと。
認定科目名	①必修科目に相当するとして認定された科目 本学部開講の科目名に振り替える。 ②選択科目・自由科目に相当するとして認定された科目 1) 本学部で単位を修得した科目：本学部開講の科目名。 2) 1) 以外の科目：科目名「専門自由科目□」（□は認定単位数の合計）に振り替える。

2. 学内転部・転科・転専修者

※編入後の履修科目等詳細については、転部・転科・転専修した年度始めの3年次ガイダンスに出席し、指示を受けること。

(1) 全学共通科目

転部前に所属していた学部において修得した全学共通科目の単位で転部後の所属学部・学科の卒業要件単位を満たすことができない場合、全学共通科目を更に履修して転部後の所属学部・学科の卒業要件単位を満たさなければならない。

*文学科ドイツ文学専修およびフランス文学専修における、言語教育科目、言語Bの履修免除に関しては言語系科目の **2 必修科目に関する特別措置** を参照すること。

(2) 専門教育科目

先に所属した本学他学部・他学科・他専修において修得した単位は、新しい所属学科・専修で審議後、卒業要件単位として認められる場合がある。

特に、転部者については、新しい所属学科・専修が定めた範囲でのみ卒業要件単位として認定され、その他の科目は卒業要件単位として認められないので注意すること。

*文学科フランス文学専修においては、必修科目に関する特別措置が設けられている。同専修の履修規定を参照のこと。

5 入学前に修得した単位の認定

入学前に
本学または本
学以外で
修得した単位
の認定

入学前に本学または本学以外の大学・短期大学等で修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む）および短期大学・高等専門学校の専攻科での学修について、認定を希望する場合は、以下のとおり認定することがある。

(1) 申請時期・方法

入学前に修得した単位の認定を申し出る場合、下記①～④の書類を、定められた期日までに所属キャンパスの教務窓口へ提出すること（ただし、本学で修得した科目については、①単位認定申請書のみ、提出すればよい）。入学前の修得単位認定申請は入学時にしか受け付けない。

- ① 単位認定申請書（所属キャンパスの教務窓口で配布，新入生オリエンテーションWebサイトからダウンロード可能）
- ② 単位修得先の大学等が発行した成績証明書
- ③ シラバス等，授業内容がわかる書類
- ④ 学業成績評価の基準および授業時間数を示す書類（修得先が，短期大学および高等専門学校の専攻科もしくは海外の機関の場合）

提出された書類に基づき、全学共通カリキュラム運営センターまたは学科等が審査を行う。審査においては、当該学科教員との面談も実施することがある。その結果単位認定を受けられないこともある。

申請期日	新入生オリエンテーションWebサイト参照
結果通知	4月入学者 4月下旬 9月入学者 9月下旬

(2) 認定対象の範囲

〈全学共通科目〉

一定の基準に基づき、全学共通科目に相当する科目を修得したと認められた場合には、その単位を認定する。なお、認定対象としては、総合系科目相当のもののみを扱い、言語系科目相当のものはこの制度での認定対象としない。ただし、言語必修科目については、一定の実力・学習歴がある場合には、別途履修免除制度による単位認定の可能性もある。履修免除制度の詳細については「全学共通科目 言語系科目 2.必修科目に関する特別措置」を参照のこと。

〈専門教育科目〉

一定の基準に基づき、専門教育科目（全科目対象）と同一の科目を履修したと認められた場合は、その単位を認定する。ただし、原則として、卒論、演習科目は認定の対象外。

(3) 認定科目名・履修区分

〈全学共通科目〉

全学共通科目として認定する場合は、科目名では表示せず、その内容から特定の履修区分に振り替えて認定する。ただし、本学で修得した科目については、本学の科目名で認定する。

〈専門教育科目〉

専門教育科目として認定する場合は、その内容から本学開講の科目名に振り替えて認定する。認定を受けた科目の履修区分は、修得先の授業内容をもとに決定する。

(4) 認定単位数の換算

認定を受けた科目の単位は、修得先の授業時間数を考慮して決定する。

(5) 認定科目の単位の扱い

認定を受けた科目は、認定された履修区分に従って卒業要件単位に算入する。

(6) 認定の上限単位数

入学前修得単位の認定は40単位を上限とする（入学前の修得単位について、その修得先が本学および本学以外のどちらの場合でもこの上限に含まれる）。また、入学前に本学以外で修得した単位の認定は、学則（「立教大学学則第2章第10条の2第1項～第10条の4第3項」）で定められている単位認定の上限60単位に含まれる。

(7) 認定科目の成績表示

入学前に修得した単位の認定の成績は「認定」とする。

6 入学後に他大学等で修得した単位の認定

入学後に他大学等で修得した単位の認定

入学後に他大学（本学以外の大学・短期大学）等で修得した単位について認定を希望する場合は、以下のとおり認定することがある。認定対象者は学部1～3年次生で、4年次生は対象外とする。

他大学等の範囲は立教大学学則第2章第10条の2、および第10条の3において規定されているものとする。ただし、海外の大学等での修得単位の単位認定については、派遣留学、認定校留学の認定制度を適用し、本単位認定制度の対象外とする。

(1) 申込時期・方法

入学後に他大学等での修得単位の認定を申し出る場合、事前申請は特に設けず、他大学等での成績確定後に認定の申請を行う。また単位認定の申請は、単位を修得した年度のみ行うことができるものとし、過年度に修得した単位は単位認定の対象外とする。ただし、成績評価が年度を越えて（次年度4月）発表になる科目の場合は、次年度春学期授業開始日までに申請しなければならない。

申請にあたって、下記①～③の書類を、所属キャンパスの教務窓口へ提出すること。

- ① 単位認定申請書（所属キャンパスの教務窓口で配付）
- ② 単位修得先の大学等が発行した成績証明書
- ③ シラバス等、授業内容がわかる書類

提出された書類に基づき、全学共通カリキュラム運営センターまたは学科等が審査を行う。その際、必要に応じて当該学科教員との面談も実施する。また、その結果単位認定を受けられないこともある。結果は認定作業が完了次第通知するが、成績評価が年度を越えて発表になる科目は履修登録修正期間の初日までに通知する。

(2) 認定対象の範囲

〈全学共通科目〉

全学共通科目に相当する科目を修得したと認められた場合には、その単位を認定する。なお、認定対象としては、総合系科目相当のもののみを扱い、言語系科目相当のものはこの制度での認定対象としない。

〈専門教育科目〉

一定の基準に基づき、専門教育科目（全科目対象）と同一の科目を履修したと認められた場合は、

Ⅲ-3 履修規定（単位認定）

その単位を認定する。ただし、原則として、卒論、演習科目は認定の対象外。

(3) 認定科目名・履修区分

〈全学共通科目〉

全学共通科目として認定する場合は、科目名では表示せず、その内容から特定の履修区分に振り替えて認定する。

〈専門教育科目〉

専門教育科目として認定する場合は、その内容から本学部開講の科目名に振り替えて認定する。認定を受けた科目の履修区分は、修得先の授業内容をもとに決定する。

(4) 認定単位数の換算

認定を受けた科目の単位は、修得先の授業時間数を考慮して決定する。

(5) 認定科目の単位の扱い

認定を受けた科目は、認定された履修区分に従って卒業要件単位に算入する。また、認定を受けた科目は、単位を修得した年度における本学の履修登録上限単位数の計算に含まれるので、履修計画を立てる際に十分注意すること。

(6) 認定の上限単位数

学則（「立教大学学則第2章第10条の2第1項～第10条の4第3項」）で定められている単位認定の上限60単位に含まれるが、「入学後に他大学等で修得した単位の認定」としての上限はない。

なお、全学共通科目について、総合系科目の卒業要件単位数を超えて単位認定された場合、その履修区分の扱いについては、各学科等の定めるところによる。

(7) 認定科目の成績表示

成績評価は「認定」とする。

1 学修計画の立て方

大学における学修の特徴は、自分で履修計画を立て、受講する科目を選択し、卒業に必要な単位を満たしていく点にある。そのため、時間割は各自異なったものとなる。

学修の成果をあげるためには、たとえば1時間の講義に対して、その倍の時間の予習と復習が必要である。この主旨からすれば、1年間で履修することができる授業科目の単位数にはおのずと限界がある。そこで、履修登録には上限が設定されている。

履修計画を立てるにあたっては、目的別に以下の方法を参照しながら進めるとよい。

- (1) 履修ルールを確認 → 履修要項（本冊子）を読む
- (2) 日程や登録方法を確認 → R Guideを確認する
- (3) 科目の情報を得る → シラバス・時間割検索システムを確認する

各ガイダンスで、授業科目や単位修得、履修登録などの説明が行われるので、履修要項を持参のうえ、必ず出席すること。

2 アカデミックアドバイザー・オフィスアワー

1. アカデミック
アドバイザー

アカデミックアドバイザー制度は、学生一人ひとりに対して担当者（専任教員）を定め、本学における学修全般に関する助言・指導や情報提供を行う制度である。アカデミックアドバイザーは学生にとって身近な相談相手となるので、学修に関する悩みや相談がある場合には、気軽に連絡を取ること。アカデミックアドバイザーの相談時間は、各アドバイザーのオフィスアワーの時間とする。

アカデミックアドバイザーの詳細は、R Guideにて発表する。

2. オフィスアワー

オフィスアワーは、それぞれの専任教員^{*}が、主として担当する授業に関する質問や勉学の相談等に応じることを目的として、授業期間中の毎週決まった時間帯に待機する制度である。授業内容等に関する質問がある場合には、オフィスアワーの時間帯に担当教員との面談等を受けることができる。

オフィスアワーの一覧は、R Guideにて発表する。

※全学共通科目言語系科目教育講師のオフィスアワーの一覧はR Guideにて各学期はじめに発表する。

※兼任講師の担当する授業に関する質問は、授業終了後の時間等を利用し質問すること。

1 履修登録とは

履修登録は、学生がその年度・学期に自分が履修しようとする科目を届け出る手続きであり、学修計画の出発点となるものである。定期試験期間の試験は、全学共通科目、学部専門教育科目、学校・社会教育講座科目いずれも同一期間内に、1時限目から5時限目まで行われる。そのことも考慮して、無理のない履修計画を立て、登録してほしい。

学生は自己の責任において履修する科目を決定し、所定の期間内に登録の手続きを完了しなければならない。履修登録をしていない科目は、授業に出席し、また試験を受けても、当該科目の単位を修得することはできない。

履修登録は、年2回、4月に春学期科目と通年科目、9月に秋学期科目を届け出る。登録のあとには、履修登録状況画面が更新されるので、必ず内容を確認すること。登録科目に修正の必要がなければ履修登録は完了する。

履修登録時期

■春学期科目，通年科目 ⇒ 4月

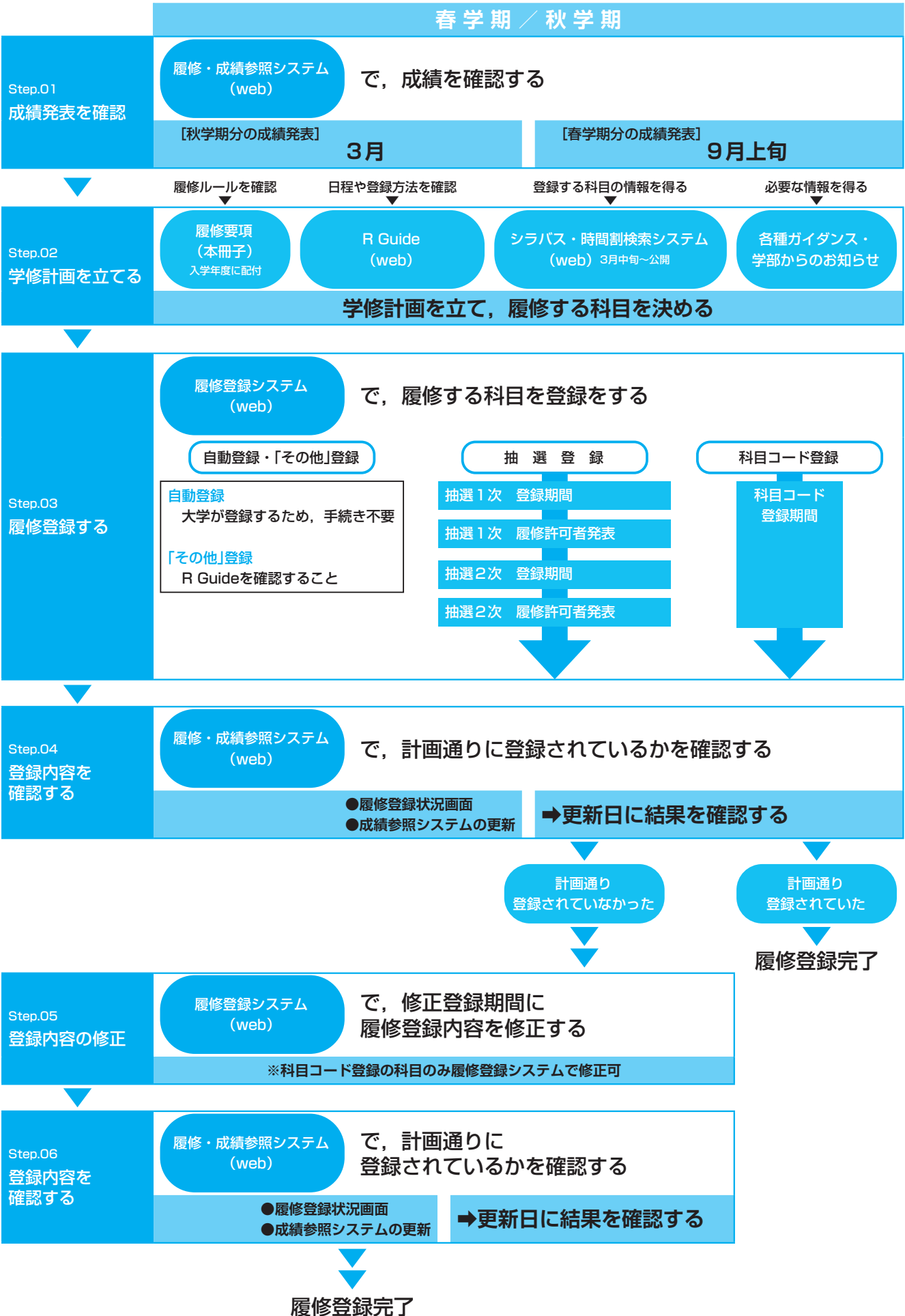
■秋学期科目 ⇒ 9月

※各登録日程や、登録システムの稼働時間は、R Guideで確認すること。

※春学期期間外科目，秋学期期間外科目については履修登録時期が異なるので、別途確認すること。

2 履修登録の流れ

※各登録日程や、システム稼働時間はR Guideで確認すること。



3 履修届出方法

履修登録には科目の性格によって、自動登録、「その他」登録、抽選登録、科目コード登録の方法がある。届出方法がそれぞれ異なるので、指示に従うこと。抽選登録、科目コード登録の届出は履修登録システム (<https://r.rikkyo.ac.jp/>) により行うこと。このシステムは大学内のコンピューター教室の他、自宅等からもアクセス可能だが、ブラウザの種類、バージョン等により一部使用できない場合もある。

1. 自動登録

(1) 対象科目

全学共通科目（言語系科目）の必修科目（全学共通科目言語系科目必修科目の項を確認すること）およびR Guideの科目表の登録方法欄に「自動登録」と記載されている科目。

(2) 履修登録・注意事項

- ① 大学であらかじめ登録しているため、履修登録に関する手続きは一切不要である。
- ② 配当年次に自動登録される必修科目を修得できずに再履修する場合は、次の年度も自動登録される。
※全学共通科目言語系科目の必修科目については、全学共通科目言語系科目必修科目 **4・5 指定年次・学期以後の単位修得方法** の項を確認すること。
- ③ 自動登録科目の取り消しは原則として認めない。
- ④ 同一科目が複数の担当教員に分かれる場合、授業開始日前に履修登録状況画面で担当教員を確認すること。

2. 「その他」登録

(1) 対象科目

R Guideの科目表の登録方法欄に「その他登録」と記載されている科目。

(2) 履修登録・注意事項

- ① 履修を許可された場合は、大学が登録する。
- ② 履修を許可された科目は、原則として履修の取消はできない。
- ③ 選考・選抜のための提出書類の届出方法、届出期間、選考の有無、結果の発表は科目により異なるので、R Guideの「その他登録一覧」を参照すること。
- ④ 全学共通科目（総合系科目）の「その他」登録および抽選登録における申請上限単位数は、各学期6単位であるが、海外で行う科目などで登録上限のカウントの仕方が異なる場合があるのでR Guideの科目表で確認すること。

3. 抽選登録

(1) 対象科目

R Guideの科目表の登録方法欄に「抽選登録」と記載されている科目。

(2) 履修登録・注意事項

- ① 履修可否は、履修登録システムで発表する。履修を許可された場合は、大学が登録する。
- ② 履修を許可された科目は、原則として履修登録の取消はできない（ただし全学共通科目総合系科目は2次申込終了後に科目コード登録対象となった科目については科目コード登録期間および履修登録修正期間に取消・変更が出来る）。
- ③ 1次申込において抽選定員に達しなかった科目のみ、2次申込受付を行う。
- ④ 必修科目などすでに登録されている科目や、抽選登録申込期間後に登録を予定している科目と重複する曜日・時限には、抽選登録科目の申込を行わないこと。
- ⑤ 全学共通科目総合系科目の抽選登録における1次申込の申請上限単位数は、各学期6単位である。2次申込時においては、1次申込で履修を許可された科目の単位数を含め6単位である。

抽選登録期間内は、何度でも申請科目の確認、修正ができる。

4. 科目コード登録

(1) 対象科目

〈全学共通科目〉

総合系科目で抽選登録の結果、定員を満たさなかった科目（※一部科目を除く）は対象科目となる。なお、申請上限単位数は、「その他」登録・抽選登録科目を含め各学期6単位である。

〈学部専門教育科目〉

R Guideの科目表の登録方法欄に「科目コード登録」と記載されている科目。

※5大学間単位互換制度による他大学科目は、科目コード登録では登録できない。

(2) 履修登録・注意事項

- ① 科目コード登録と同時期に抽選登録の申込を行うが、全学共通科目総合系科目については、科目コード登録期間が抽選2次履修許可者発表後からとなる。なお科目コード登録対象科目は履修登録システムで発表する。
- ② 入院その他やむを得ない事由により、期日に手続きできない場合は、必ず期日前に所属キャンパスの教務窓口連絡し、指示を受けること。また、疑問がある場合は、事前に所属キャンパスの教務窓口で相談してから手続きすること。
- ③ 届出科目が確定したら、「登録内容送信」ボタンを必ずクリックし、届出内容およびエラー状況を確認すること。
- ④ 科目コード登録期間内に、「エラー」の無い状態で完了すること。エラーが表示された際は【エラーメッセージと対処法】を参照すること。
- ⑤ 科目コード登録期間中に、登録が正常に行われたことを確認するために、「履修登録」画面に再度ログインし、登録内容を確認すること。
- ⑥ 「履修登録」画面は、科目コード登録期間あるいは履修登録修正期間以外は使用できない。
- ⑦ 履修登録修正期間後、「履修照会」画面に申請内容が反映されるので、申請内容を必ず確認すること。
- ⑧ 科目コード登録で届け出る科目が1科目もない場合も、科目コード登録期間内にアクセスして、大学に届け出ている連絡先が正しいかを確認すること。

科目コード登録期間内は、何度でも科目コード登録科目の確認、修正ができる。

4 登録科目の確認について

1. 登録科目の確認方法について

履修登録の内容は、履修登録状況画面により確認できる。これらが正規の登録科目となるため記載事項の誤りの有無を確認すること。更新日程は履修登録システムで確認すること。

また、履修登録の内容と併せて、成績参照画面の更新結果（履修登録後に単位計算した結果）も確認すること。更新日程等詳細は、成績参照システムで確認すること。

履修登録状況画面以外の時間割は正式な登録科目の確認には使用できないので注意すること。

〈履修登録状況画面の表示内容と更新日〉

履修登録状況画面は、教務窓口に提示する際の資料として使用できる。

履修登録状況画面の確認

履修登録状況画面は、履修登録された科目が曜日・時限順に表示されている。下部に「エラー科目」として記載されているものは無効となり、登録されていない（ただし「～上限オーバー」エラーを除く）。

記載事項に誤りがある場合、「～上限オーバー」などのエラー表示がある場合は、5 科目コード登録における履修登録の修正と修正内容の確認を参照し、所定の期間内に手続きをとること。

【表示方法】

- 履修登録システムにアクセスする。
- メニューから『履修登録状況画面』をクリックする (Aの①)。
- 『⇒「WEB履修・成績参照サイト」ログイン』をクリックする (Aの②)。
- ログイン画面が表示されるので、V-CampusID（学生番号）とパスワード（V-Campusと同じ。新入生については、学生証等交付の際に配付される）でログインする。
- 履修登録状況画面が表示される。(B)

A

メニュー
履修登録 (抽選登録・科目コード登録)
履修登録状況画面
履修中止
成績参照

⇒「WEB履修・成績参照サイト」ログイン
② ↑ここをクリック

B

必ず一番下までスクロールして、エラー表示が出ていないかチェック

予定している科目がすべて正しく登録されているかをチェック

立教大学 履修登録システム / 成績参照システム

Webサイトから履修登録、成績参照等を行うためには、V-CampusのIDとパスワードが必要になります。パスワード紛失時には、所属キャンパスのメディアセンターカウンターへ学生証を持参して再発行を受けてください。

履修登録状況画面について

履修登録状況画面の更新日

更新日	更新時間
9月6日(火)	11:00(予定)
9月17日(土)	11:00(予定)
9月19日(月)	21:00(予定)
9月22日(木)	18:00(予定)
9月28日(水)	21:00(予定)

※上記以降は毎日情報が更新されます。

⇒「WEB履修・成績参照サイト」ログイン
※履修登録状況サイトがリニューアルしました。
※上記にアクセス後「履修登録状況」タブをクリックしてください。

立教大学

基本情報 履修登録状況 成績参照 留置再進学状況

表示期間: 2023/11/14

学年	所属	学生番号	氏名	選択した履修年	在学期	クラス
文字部		21X0001X	立教 太郎	2021	05	
実学科			RDKKYO TARG	3	C	

2023年度 履修科目数(単位数)

女子科通	専門	講義	その他	選択授業
2(4)	7(14)	0(0)	0(0)	5(10)

表示科目: すべて 春学期 秋学期

曜日	時限	科目名	科目コード	単位数	担当教員	学期	教室	備考
月	2-2	HIS3600	AC367	2	後藤 龍実	秋学期	S501	
月	3-3	EAL2600	AM340	2	内藤 純子	秋学期	H305	
火	2-2	ART2800	AL001	2	秋塚 龍樹	秋学期	9号大	
水	3-3	HIS3600	AC374	2	西川 基	秋学期	S405	対面
木	2-2	TRC2400	HB107	2	原 一樹	秋学期	N321	対面
木	3-3	CM82140	IB215	2	森倉 真寿美	秋学期	N833	対面
金	3-3	CMF1100	FH117	2	橋本 弓子	秋学期	H302	対面
土	4-4	EAL2600	AM338	2	西条 龍之	秋学期	HB01	対面
		CMF2100	FA137	2	阪内 洋平	秋学期	わがモト	

エラー科目

曜日	時限	科目コード	科目名	担当教員	学期	教室	メッセージ
		AC003	卒業生履修登録				必修科目です

※「エラー科目」と記載がある科目は一部オンラインあり、「EAL003」と記載がある科目は一部対面ありの科目です。
なお授業の詳細についてはシラバスを参照してください。

【池袋キャンパス 教務事務センター】 〒171-8501 東京都豊島区池袋3-1-1 TEL.03-3985-2320

【新座キャンパス 教務事務センター】 〒350-8508 埼玉県新座市池野1-2-26 TEL.048-471-6942

Copyright © Rikkyo University. All Rights Reserved.

! **重要** 履修登録状況画面・成績参照画面の記載事項について誤りの有無を必ず確認すること。

注意 履修登録の誤りや、エラー表示への対処は、履修登録修正期間に履修登録システムで行うこと。

2. 登録の完了
履修登録状況画面を確認した結果、修正する必要がない（自分が履修する予定の科目がすべて間違いなく記載されている）場合、登録は完了となる。
3. 登録の無効について
履修登録状況画面でエラー表示された科目に対して所定の期間内に履修登録修正の手続きをしなかった場合、その届出科目は無効となり、本年度の履修はできない。したがって授業に出て試験を受けても無効となる。
なお、「～上限オーバー」エラーに対して所定の期間内に手続きを行わなかった場合には大学が無作為にオーバー単位数分の科目を削除する。
⓪ 履修登録期間および履修登録修正期間以外の修正は原則として認めない。

5 科目コード登録における履修登録の修正と修正内容の確認

1. 履修登録の修正
修正対象となる科目は「科目コード登録」で登録した科目に限られる。また、科目コード登録の科目であれば、新たな科目の追加も可能である。
履修登録状況画面の表示内容を確認し、登録内容の修正が必要な場合は、履修登録修正期間に履修登録システムで手続きを行うこと。
なお、エラー表示された科目は、登録無効となっている（ただし、「～上限オーバー」エラーを除く）。
2. 修正についての注意点
(1) 履修登録状況画面上に記載され、登録無効となった科目については、エラーになった理由を調べ、エラーへの対処を行うこと。履修登録システムに掲載している「履修登録」マニュアルの【エラーメッセージと対処法】を参照すること。
(2) 履修登録修正期間内に、エラーの無い状態で完了すること。
履修登録修正期間内は、何度でも科目コード登録科目の確認、修正ができる。
(3) 履修登録修正期間後の修正は原則として認めない。入院その他やむを得ない事由により期日に手続きできない場合は、必ず期日前に所属キャンパスの教務窓口連絡し、指示を受けること。
3. 履修登録修正結果の確認
(1) 履修登録修正期間に届出科目の修正を行った者は、履修登録状況画面で履修登録内容の修正手続きが正しく行われたかを確認すること。履修登録状況画面に記載されている科目が正規登録科目となる。したがって、必ず記載事項の誤りの有無を確認すること。
(2) 履修登録システムや履修登録状況画面上でエラー表示のまま修正しなかった科目は登録無効となり、削除されている。また、「～上限オーバーエラー」が発生したまま修正しなかった場合は、大学が無作為にオーバー単位数分の科目を削除している。各自が行った修正手続き終了時点の申請状況は申し出期限までに履修登録システムの履修照会画面で確認すること。
4. 申し出期限
履修登録の内容に関する疑問がある場合は、申し出期限までに所属キャンパスの教務窓口へ申し出ること。ただし、新たに科目を追加ならびに取消すことはできない。申し出期限はR Guide年間スケジュールを確認すること。
申し出の際には次の2点を提示すること。

V 履修登録

- ① 履修登録状況画面のコピー
- ② 履修登録システムの履修照会画面のコピー

「履修照会画面」には、履修登録システムで、各自が行った手続き終了時点の申請状況が、各学期の申し出期限まで表示される。

5. 登録の無効について

履修登録状況画面の確認を怠り、届け出たつもり科目が正しく履修登録されていなかった場合、その科目は無効であり、本学期または本年度の履修はできない。したがって授業に出ても試験を受けても無効となる。

6 必修科目履修辞退制度

必修科目履修辞退制度とは

休学や単位修得状況により、前提として必要な学修経験を経ないまま、後で学ぶべき必修科目（低年次配当科目と高年次配当科目であれば高年次配当科目、春学期科目と秋学期科目であれば、秋学期科目）が自動登録され、学修効果があがらないことがある。このような場合、順を追って必修科目を履修したり、他の科目を履修したりする方がより効果的な場合もあるため、本人の願い出にもとづき、学部が必要と認めた場合に、後で学ぶべき必修科目の当該年度の履修辞退を認めることがある。

対象科目、申出方法については、R Guide「履修登録・科目表」に掲載している「必修科目履修辞退制度」を確認すること。

7 履修中止制度

1. 履修中止制度とは

履修登録を行った科目について、大学の定める一定期間に本人からの申請により、履修を中止することを認める制度である。

履修中止申請を行った科目については、当該学期の授業の出席、試験等の受験、単位の修得はできない。また、履修中止単位数分の新たな履修登録は認められない。

2. 申請した科目の扱い

履修中止を申請された科目は、以下のように扱われる。

- (1) 成績評価：評価対象とはならない。成績証明書には、科目名、成績評価とも記載されない。
- (2) 履修登録上限：上限単位数に算入される。
- (3) 追加登録：当該学期開講科目の追加登録は認められない。
- (4) GPA：計算対象とならない。

3. 履修中止申請対象とならない科目

履修登録科目のうち、以下の科目は履修中止申請が認められない。(4)、(5)の科目名についてはR Guideを確認すること。ただし、全学共通科目および所属学部専門教育科目に限り、長期療養等の事由により、審査のうえ正当であると認められた場合は、この限りではない。事由の提示にあたっては、事実の確認できる証明書類を提出すること。

- (1) 必修科目
- (2) 他大学で開講している科目（例：f-Campus等）
- (3) 集中講義形式で開講する科目
- (4) 実習料等授業実施にあたっての費用を別途徴収している科目
- (5) 特に定める科目

4. 申請期日

- (1) 申請期間

申請期間は履修中止を希望する科目によって異なる。所定の期間に申請すること。

入院その他やむを得ない事由により申請期間に申請できない場合は、原則として申請締切日以前に所属キャンパスの教務窓口へ連絡すること。連絡があった場合には、教授会において審査されるので、追試験受験申請書提出時に準じ、事実を確認できる書類を提出すること。

V 履修登録

(2) 申請手続き

履修登録システムよりアクセスし、履修中止申請画面より申請手続きを行うこと。

〈手続内容〉

履修中止申請の対象となる科目が表示されているので、中止する科目について、**中止する**ボタンをクリックし、「履修中止申請状態」欄に「履修中止申請中」と表示されたことを確認すること。

(3) 履修中止処理結果の確認

履修中止を行った科目は、成績参照システムで確認できる。履修中止処理が行われた科目の成績欄には、「Q」と表示される。

1 試験に関する規定

立教大学では、学位授与方針に基づきカリキュラムが定められ、各科目において成績評価が行われる。試験は、学修の成果を成績に反映させる点で重要な取り組みの一環である。学生間の公平性を確保し、厳正な成績評価を行うために、本学の試験制度については関連する規程に則り行われる。

試験制度に関しては、履修要項（本冊子）・R Guide（「授業・学籍・試験」）・試験方法発表掲示（「2 試験方法 2. 試験方法発表」の項を参照）で確認すること。それらの確認をしなかったために生じる不利益は学生本人の責任となるので、必ずそれらを確認する習慣をつけること。履修要項（本冊子）・R Guide・試験方法発表掲示で示した事項については、すべての学生に伝達したものとみなす。なお、R Guide掲載の「立教大学試験実施全学共通規程」もあわせてよく読んでおくこと。

他学部および学校・社会教育講座科目の試験に関しては、その科目が設置されている学部等の履修要項・R Guideおよび掲示に従うこと。

1. 試験の種類と
実施時期

(1) 定期試験

講義終了後に期間を定めて行う試験。

① 春学期末試験——春学期科目に対する試験

※春学期1開講科目は筆記試験を実施しない。

② 秋学期末・学年末試験——秋学期科目および通年科目に対する試験

※秋学期1開講科目は筆記試験を実施しない。

*通年科目の試験を、定期試験（中間テスト）として春学期末に実施する場合がある。

◎全学の定期試験期間は、以下のとおり定められている。

■ 専門教育科目、全学共通科目、学校・社会教育講座科目とも、同一の定期試験期間で行う。

■ 1日5時限の試験を実施し、各時限とも、全科目同一時刻に試験を開始する（各時限の試験終了時刻は、科目の設置学部等により、また科目により異なる）。

☞試験は授業と同じ曜日・時限に実施されるとは限らない。

試験方法発表（「2 試験方法 2. 試験方法発表」の項を参照）をよく確認すること。

〈定期試験期間（全学）〉

春学期末	秋学期末・学年末
7月中旬～下旬	1月下旬～2月上旬

(2) 最終授業時試験

春学期末、秋学期末・学年末の最終授業時に行う試験。

※春学期1開講科目、秋学期1開講科目は筆記試験を実施しない。

(3) 追試験

大学が定める「入院その他やむを得ない事由」によって、最終授業時試験および定期試験を受験できなかった場合に実施する試験（いずれも試験方法発表時（「2 試験方法 2. 試験方法発表」の項を参照）に、筆記試験として発表され、追試験対象科目に指定された場合に限る）。

☞ 6 追試験 の項を参照のこと。

(4) 試験時間重複特別試験

試験時間に重複が生じた場合（池袋・新座キャンパス間の移動時間不足を含む）に実施する試験。

☞ 7 試験時間重複特別試験 の項を参照のこと。

(5) 英語単位認定試験

英語単位認定試験は全学共通科目言語系科目言語A必修科目の不足単位の修得を目的として、所定の期日に行う試験。その詳細については別途定める（全学共通科目 言語系科目 **4** 指定年次・学期以後の単位修得方法—必修科目が不合格になったら（英語）の項を参照）。

〈英語単位認定試験実施日程〉

春学期	秋学期
6月上旬	11月上旬

2. 受験資格・受験資格の喪失・出校停止

(1) 受験資格

在学中の者であって、かつ当該科目について履修登録を完了している者のみ、受験資格（レポート提出資格等を含む）がある。

(2) 受験資格の喪失

次のいずれかに該当する者は、受験資格（レポート提出資格等を含む）を喪失し、受験した場合はその答案、レポート等は無効となる。

- ① 学生証または臨時学生証のいずれも不携帯の者*¹
- ② 当該試験期間中に休学中・停学中の者
- ③ 出席その他、当該科目の担当者があらかじめ指示した受験資格要件を欠く者
- ④ 派遣留学・認定校留学中の者*²

*¹ 試験方法発表時（「**2** 試験方法 2. 試験方法発表」の項を参照）に、筆記試験と発表された受験に関してのみ適用される。

*² 当該学期が派遣留学または認定校留学期間となっている学生は、帰国時期にかかわらず、当該学期に開講されているすべての科目の受験資格がない。

(3) 出校停止による受験不可

次に該当する者は、出校停止となるため、試験方法発表時（「**2** 試験方法 2. 試験方法発表」の項を参照）に、筆記試験と発表された試験の受験はできない。追試験の受験を希望する場合は、追試験の受験申請をすること。出校停止期間中に受験した場合、その試験は無効となる。

試験方法発表時（「**2** 試験方法 2. 試験方法発表」の項を参照）に、レポート試験と発表された試験については「**5** レポート 2 提出方法」の項を参照すること。

インフルエンザ、麻しん等、学校保健安全法の定める学校感染症（学校において予防すべき感染症）に罹患中の者（対象となる学校感染症の詳細は、R Guideを参照すること）。

2 試験方法

1. 試験方法

(1) 試験は、筆記またはレポートによって実施する。ただし科目によっては、試験によらず平常点によって成績評価する場合もある。

△各科目の成績評価方法・基準は、シラバスの記載内容によるが、履修者数、教室などの条件により、やむを得ず変更する場合もある。シラバスの変更については、変更内容を各学部等掲示板およびホームページ上のシラバスにも示すので、確認すること。

△試験（筆記・レポート）についての詳細は、「2. 試験方法発表」における発表内容が最終的な試験方法の指示となるので、必ず確認すること。

△試験方法発表（「2. 試験方法発表」の項を参照）において発表された、筆記試験を欠席した場合、または「レポート試験」と発表されているレポート（**5** レポート の項を参照）を提出しなかった場合は、シラバスに記載された成績評価の割合にかかわらず、成績評価は「欠席」となる。

(2) 試験によらず平常点によって成績評価する科目は試験方法発表掲示を行わない。各科目の成績評価方法は、ホームページ上のシラバスにて確認すること。

(3) 次のテスト等は、平常点として扱う。

VI 試験・成績

- ① 学期中に随時実施される、筆記・口頭による小テスト・中間テスト、学期末の最終テスト（学期末に実施されるが、試験方法発表（「2. 試験方法発表」の項を参照）においては筆記試験とは発表されないもの）
- ② 学期中に随時課されるレポート、学期末に課されるレポート（学期末に課されるが、試験方法発表（「2. 試験方法発表」の項を参照）においてはレポート試験とは発表されないもの）
- ③ 学期中に随時実施される口頭試問
- ④ 全学共通科目言語系科目において実施される筆記によるテスト、口頭試問等は全て平常点として扱う。

2. 試験方法発表

試験方法は、所定の日程で試験方法発表掲示において発表する。試験方法発表はWebによる掲示とし、掲載場所は、教務部掲示板「試験」ページとする。

〈試験方法発表〉

春学期1末	5月中旬
春学期末・春学期2末	7月上旬
秋学期1末	11月上旬
秋学期末・秋学期2末・学年末	12月中旬

3 筆記試験

筆記試験には、定期試験期間内に行われるもの、および最終授業時に行われるものがある。

1. 試験の時間割 ・試験時間

- (1) 文学部専門教育科目および全学共通科目の定期試験時間は、通常の授業とは異なり70分である。

〈定期試験期間内筆記試験 試験時間〉

時限	1	2	3	4	5
試験時間	9:10 } 10:20	11:00 } 12:10	13:20 } 14:30	15:10 } 16:20	17:00 } 18:10

*科目によっては、試験時間が変更される場合がある。

*他学部科目、全学共通科目、学校・社会教育講座科目の試験時間は、当該学部等の履修要項、試験方法発表掲示を確認すること。

〈最終授業時筆記試験 試験時間〉

通常授業時間内（Ⅱ 授業（学修生活）**3 授業時間**の項を参照）で行われる。

*科目によっては、試験時間が変更される場合がある。

*他学部科目、全学共通科目、学校・社会教育講座科目の試験時間は、当該学部等の履修要項、試験方法発表掲示を確認すること。

- ㊦ 交通機関の遅れなどにより、試験の開始・終了時刻が遅くなる可能性があるため、試験当日の行動予定を立てるに際して、そのことを考慮しておくこと。

- (2) 試験方法等

- ① 試験方法・試験日程・時間割・試験場は、試験方法発表掲示において発表する（「**2 試験方法** 2. 試験方法発表」の項を参照）。
- ② 試験日程には、予備日が設けられている。予備日とは、定期試験期間内筆記試験および最終授業時筆記試験において、災害等、突発的な事情により試験を実施することができなくなった場合の代替日を示す。予備日に代替された科目、予備日の試験日程については、随時試験方法発表掲示およびSPIRIT 教務部ページ上で発表するので、必ず確認すること。
- ③ 受験者は、必ず指定された教室で受験すること。
- ④ 試験は、授業時の教室と異なる教室で行うことがあるので注意すること。

2. 筆記試験受験時の学生証携帯義務
- (1) 学生証（または臨時学生証）を携帯しない場合は、いかなる理由があっても受験できない。
 - (2) 受験中は、学生証（または臨時学生証）を机上の試験監督者の見やすい位置に明示しておかなければならない。
 - (3) 学生証を紛失・破損した場合や、劣化により顔写真が不鮮明となった場合は、直ちに所属キャンパスの教務窓口で再交付を受けること。
 - (4) 試験当日、学生証を忘れた者は所属キャンパスの教務窓口で「臨時学生証」の発行を受けること。
臨時学生証 発行手数料500円・2日間有効・写真不要
 ＊試験当日に入金できない場合は、所属キャンパスの教務窓口にお問い合わせすること。
3. 試験場への入退室
- (1) 定期試験期間内文学部専門教育科目筆記試験の受験者は試験時間開始の15分前までに試験場に入室すること。
 - (2) 定期試験期間内全学共通科目筆記試験の受験者は試験時間開始の15分前までに試験場前の廊下に集合し、試験場入口で指定された場所に着席すること。
 - (3) 最終授業時筆記試験の受験者は授業開始時刻までに試験場に入室すること。
 - (4) 試験開始後15分までの遅刻については、試験監督者が許可した場合に受験を認める。
 - (5) 交通機関等の遅延による遅刻者であって、交通機関発行の遅延証明書を持参した者は、試験開始後15～30分までの遅刻については試験監督者が許可した場合に限り、受験を認める。
 - (6) 上記(5)において、やむを得ず「遅延証明書」を持参しなかった者については、試験場で「交通機関遅延受験許可申請書」に必要事項を記入した上で、試験監督者の許可を得て受験することができる（監督者から指定された期日までに、交通機関発行の遅延証明書の提出が必要となる）。
 - (7) 試験開始後30分を経過しなければ退室することができない。また、原則として試験終了前10分間は、退室することができない。
 - (8) 交通機関の大幅な遅延、事件、事故などのため試験時間に遅れそうな場合は、速やかに所属キャンパスの教務窓口にお問い合わせ、指示を受けること。
4. その他
- (1) 解答用紙および試験出席票に記入する所属、学年、学生番号、氏名は、特に指示のないかぎりペンまたはボールペンで記入すること。
 - (2) 学生番号・氏名が未記入の答案は無効とする。
 - (3) 当該科目の履修登録を完了していない者は、受験資格を持たない。万一受験した場合は、その答案は無効となる。
 - (4) 受験した科目の解答用紙および試験出席票、試験問題は、氏名等を記入して、必ず提出すること。
 - (5) 携帯電話等の電子機器類は、試験場での使用を認めない（試験方法に「すべて持込可」とされた科目の場合も使用不可）。また、同機器類の時計・電卓としての使用も認めない。
 - (6) 筆記用具は筆入れから出すこと。筆記用具・消しゴム・メガネ・時計・学生証（臨時学生証）以外のものは、当該科目について特に許可されているものを除き、かばん等に入れて、指定された場所に、試験開始前におくこと。
 - (7) 受験中は、学生同士の会話、物の貸借を一切禁ずる。

4 口頭試問

口頭試問には下記の2種類がある。

- ① 卒業論文・修士論文等で実施される口頭試問
卒業論文・修士論文等の該当頁およびR Guideを確認すること。
- ② 最終授業時等、学期中随時行われる口頭試問（上記①以外）
科目担当者の指示に従うこと。

5 レポート

レポートを作成する場合の注意事項は後述の「レポート・論文作成時のルールについて」も参照すること。

1. レポート

- (1) レポートには下記の2種類がある。
 - ① 試験方法発表（「**2 試験方法** 2. 試験方法発表」の項を参照）において「レポート試験」と発表され、レポート提出期間に提出するレポート
 - ② 最終授業時など、①以外の方法・時期に提出するレポート
- (2) 上記(1)-①におけるレポートの提出日時、提出場所（Webシステム）、題目の発表
提出日時、提出場所（Webシステム）、題目の発表方法は、試験方法と同時に、試験方法発表掲示において発表する。
- (3) 上記(1)-②におけるレポートの提出日時、提出場所、その他については科目担当者の指示に従うこと。

2. 提出方法

- (1) レポート試験
 試験方法発表（「**2 試験方法** 2. 試験方法発表」の項を参照）で指定された期日・場所（Webシステム）に提出すること。試験方法発表掲示において詳細を発表するので必ず確認すること。
 - ① 指定期日後は、理由の如何にかかわらず一切受け付けないので十分注意すること（後述「レポート・論文等の提出に際しての注意」も参照）。
 *通信上のトラブル（インターネットに接続できない等）や電子機器上のトラブル（処理速度が遅くなった等）、文字化け、ファイルの破損を理由とした提出期間後の提出も一切認められない。
 - ② 当該科目の履修登録を完了していない者はレポート提出資格を持たない。
 - ③ 指定された提出方法以外では一切受け付けないので十分注意すること。

レポート・論文等の提出に際しての注意

■Web提出

レポート・論文等は、指定された提出期限後は受理しないので時間厳守のこと。通信上のトラブル（インターネットに接続できない等）や電子機器上のトラブル（処理速度が遅くなった等）を理由とした提出期間後の提出は一切認められないので、十分余裕をもって臨み、提出すること。ただし、締切日当日、不測の事態により、本人が提出期限までにレポート・論文等を提出できない場合は、当日の締め切り時刻以前にその対応について所属キャンパスの教務窓口にお問い合わせ、指示を受けること。不測の事態とは、事件・事故などの場合を言う。

*機器（パソコン等）の故障、通信上のトラブル、データの紛失などは、不測の事態に含まれないので注意すること。

学校感染症のため出校停止となった学生のレポート・論文等の提出について

出校停止となった場合でも自宅等からWeb提出が可能であるため、いかなる代替措置も認めない。必ず提出期間内に提出すること。

■現物（紙）提出

論文等は、指定された提出期限後は受理しないので時間厳守のこと。交通機関等の遅延も予測されるので、提出にあたっては十分余裕をもって臨み、本人が提出できない場合は、信頼できる代理人に依頼する等の措置を講ずること。ただし、締切日当日、不測の事態により、本人または代理人が提出期限までに論文等の提出に來られない場合は、当日の締め切り時刻以前にその対応について所属キャンパスの教務窓口にお問い合わせ、指示を受けること。不測の事態とは、事件・事故や交通機関等の大幅な遅延などの場合を言う。

*プリンター等、機器の故障は不測の事態に含まれないので注意すること。

学校感染症のため出校停止となった学生の卒業論文・修士論文の提出について

上記に該当した場合は、以下の指示に従うこと。

1. 上記の提出物の提出期間において本人が出校停止中である場合は、代理人を立て、当該の期間内に提出することを原則とする。

代理人による不備は、依頼した本人の責任となる。

2. 1. において代理人を立てることができない場合は、締め切り時刻以前に所属キャンパスの教務窓口連絡し、指示を受けること。

<以下のすべてに該当する場合、後日の提出を認めることがある>

- ① 上記2. に該当する学生であること。
- ② 医療機関が記載し証明した大学所定の書式である「学校感染症登校可能証明書」、または医療機関の発行する出校停止期間と登校可能日が記載された「診断書」の提出によって、締切日当日に学校感染症に罹患して出校停止中であった事実が証明できること。
- ③ 「出校可能となった日またはその翌日（窓口対応可能日）」に提出すること。

(2) レポート試験以外のレポート

- ① 紙媒体での提出による場合は各自で表紙をつけ、表紙には、必要事項（科目名・科目担当者名・所属学部・学科・年次・学生番号・氏名）を必ず記入すること。
- ② 紙媒体以外の提出方法による場合も、上記必要事項を必ず明記すること。
- ③ その他の提出方法については、科目担当者の指示に従うこと。

レポート・論文作成時のルールについて

皆さんは、さまざまな授業でレポートや論文を書く機会があると思います。授業の中で指示されて書くレポートや期末試験の代わりに書くレポート、討論会のために作成する論文や卒業論文など、その性質はさまざまですが、どのレポートや論文にも共通なルールがいくつかあります。その一つが、他人が書いたものを写して、あたかも自分が書いたかのように装ってはいけない、というルールです。

これは、元の文章や図表が書物のものであっても、Web上のデータのものであっても、友人のレポートであっても同じです。たとえその文章が著作権を放棄したもので、リンクフリーのサイトに載っているものでも同じです。問題は、元の文章の性格ではなく、他の人の成果を自分の成果であるかのように装ってはいけない、ということなのです。このような他人の成果を盗む行為は「盗用」や「剽窃（ひょうせつ）」と呼ばれます。

もちろん、他の人がこれまで積み重ねてきた研究の業績を自分のレポートや論文に全く利用してはいけないということではありません。独りよがりにならないためには、従来の研究の成果に大いに学ばなければなりません。他人の業績のアイデアを利用することもあるでしょうし、他人の作った文章や図表などを引用して説明を行う場合もあるでしょう。

ただし、こうした利用や引用にはルールがあります。他の人のアイデアや文章、図表などを用いるときには、それがもともと誰の成果なのかを明記するというルールです。このルールをないがしろにすれば、悪気のあるなしにかかわらず「盗用」や「剽窃」になってしまうのです。

具体的な表記の仕方については授業で学びますが、一般的には次の通りです。

- ・引用対象が文章なら、その文章を「 」で囲み、他の部分と区別する。
- ・その対象の出典を明記する。

【例】【図書の場合】 著者名、『書名』、出版社、発行年、ページ

【雑誌論文、記事の場合】 筆者名、「論文名」、『雑誌名』、巻、号、発行年月、ページ

【ホームページの場合】 URL、取得年月日

【新聞記事の場合】 新聞紙名、朝夕刊の区別、号数、第何面か

これ以外にも表記の仕方にはいろいろなバリエーションがあります。そうした表記の方法や、そもそも論文やレポートでどのくらいの引用をすべきなのかといった点については教員の指導に従ってください。

盗用や剽窃は文章を書く場合にはもっとも恥ずべき行為のひとつであり、研究者がこうしたことを行えば研究者生命を失いかねない程の大問題になります。皆さんのレポートや論文についてもこうした盗用・剽窃がなされないように適切に指導することと、こうした行為が行われたときには厳しく対処することが全学の教員で合意されています。

レポートや論文は他の人の成果を調べて書き写したり、コピー&ペーストのみで作ったりするものではありません。さまざまな研究成果やデータをルールに則って利用しつつ、最終的に自分の考えや主張を論じることで完成するものです。他者の成果には十分に敬意を払い、ルールを守って論文やレポートを作成するようにしましょう。

6 追試験

大学が定める「入院その他やむを得ない事由（別表参照）」によって春学期末試験または秋学期末・学年末試験を受験できなかった者で、本学が定める客観的な証明書類によって当該事実を証明することができ、追試験受験申請書を提出した者に対しては、審査の上追試験の受験を許可することがある。

学生間の公平性を確保し、厳正な成績評価を行うとの観点から、追試験受験を希望する者に対しては、厳正なる追試験受験申請手続きを自らの責任の下、遺漏なく適切に行うことが求められる。これらを遺漏なく適切に行うことができなかった者は、如何なる場合であっても追試験の受験は許可されない。

申請手続きにおいて不備、不足、誤りがあった場合、理由の如何にかかわらず申請者の責任となるため、申請が不受理とならないよう十分に注意すること。申請が不受理となり追試験の受験が許可されなかったことに対する大学への問合せには、一切応じない。

☞ R Guideの「立教大学試験実施全学共通規程」を参照のこと。

1. 対象科目

追試験の対象となる科目は、試験方法発表時（「2 試験方法 2. 試験方法発表」の項を参照）に、筆記試験として発表され、追試験対象科目に指定された、最終授業時試験科目および定期試験科目である。

- * 試験方法発表時（「2 試験方法 2. 試験方法発表」の項を参照）に、追試験対象科目として指定されなかった科目は、追試験の対象とはならない。
- * その他授業時間内に科目担当者が任意に実施する小テスト・中間テスト・最終テストは、追試験の対象とはならない。それらが実施された授業日に欠席した場合は、科目担当者の指示に従うこと。

2. 申請手続

追試験受験申請書を、履修登録状況画面のコピーと別表の証明書類を添付の上、試験実施日の翌日から1週間以内（翌週の同じ曜日を含む。なお、締切日が窓口業務を行わない日の場合は次に窓口業務を行う日まで）に所属キャンパスの教務窓口へ提出すること。

追試験受験申請書は、所属キャンパスの教務窓口で交付する（SPIRIT 教務部ページからもダウンロード可能）。

- * 入院等により所定の提出期間内に追試験受験申請書を提出できない場合は、必ず提出期間内に所属キャンパスの教務窓口へ連絡し、指示に従うこと。特に、学校感染症に罹患した場合は、速やかに連絡し、指示を受けること。
- * 所属キャンパスとは異なるキャンパスで履修した科目の追試験受験申請書は、当該科目の開講キャンパス窓口へ提出すること。ただし、所属キャンパスで履修した科目を同時に申請する場合はその限りではないので、事前に所属キャンパスの教務窓口へ相談すること。

3. 対象者・試験方法・時間割の発表

対象者・試験方法・時間割は、所定の日程で掲示において発表する。対象者・試験方法・時間割の発表はWebによる掲示とし、掲載場所は、教務部掲示板「試験」ページとする。

〈追試験対象者・試験方法・時間割発表〉

春学期末	秋学期末・学年末
8月下旬	2月中旬

- * 掲示による発表は当該科目の開講キャンパスごとに行う。

4. 追試験実施期間

追試験は、所定の期間に実施する。

〈追試験 実施期間〉

追試験実施方法	春学期末	秋学期末・学年末
筆記試験	実施期間：9月上旬	実施期間：3月上旬
レポート試験	提出期間：9月上旬	提出期間：3月上旬

- * 追試験の実施は当該科目の開講キャンパスごとに行う。

VI 試験・成績

5. 追試験（筆記試験）受験についての注意事項

実施要領は **3 筆記試験** に準じる。

なお、追試験を受験できなかった場合の特別措置は一切行わない。また、虚偽の申請や証明書類の改ざん等、不正な行為を行ったことが判明した場合は、追試験の受験を認めない。また、不正行為とみなされ、懲戒の対象となる場合がある。

〈別表：追試験受験申請書添付書類〉

	試験欠席事由	添付するべき証明書類 <small>事由によっては、立教大学が記入用紙を作成する場合がある</small>
(1)	入院またはそれに準ずる登校不能（風邪・下痢等の一時的な疾病は含まない）ただし、必修科目、先修科目については欄外*を参照	入院先機関の発行する入院証明書 ^{注1)}
(2)	インフルエンザ、麻しん等、学校保健安全法の定める学校感染症（学校において予防すべき感染症）の罹患による登校不能 ^{注2)}	医療機関が記載し証明した大学所定の書式である「学校感染症登校可能証明書」 ^{注3, 5)} 、または医療機関の発行する出校停止期間と登校可能日が記載された「診断書」 ^{注4, 5)}
(3)	忌引（保証人、配偶者および3親等以内の血族または姻族に限る）（法事は含まない） ^{注6)}	本人と保証人の署名・捺印のある書類（様式は自由、本人との続柄を明記）およびその事実を明らかにするもの（死亡に関する公的証明書もしくは会葬礼状等）
(4)	交通機関の30分以上の遅延	交通機関発行の遅延証明書
(5)	重大な災害による登校不能	官公庁発行の被災証明書
(6)	学校・社会教育講座の各種実習・体験等	実習・体験期間証明書 ^{注7)}
(7)	就職試験（就職試験の日程が変更できない場合に限る。セミナー、複数企業の合同説明会、OB・OG訪問等は含まない）	本人が受験したことを証明する受験先機関発行の証明書（就職試験の場所、日時を明記、社印が押印されていること）
(8)	他大学大学院入学試験	受験票のコピー
(9)	日本代表としてのスポーツ公式競技への参加	派遣元団体が大学に宛てた公文書
(10)	裁判員選任手続期日における裁判所への出頭、または裁判員に選任された公判のための裁判所への出頭	裁判員選任手続期日における裁判所への出頭の場合、出頭した裁判所で出頭日の証明を受けた「選任手続期日のお知らせ（呼出状）」、裁判員に選任された場合、裁判員職務従事期間についての「証明書」
(11)	上記各事項に準ずる事由 ^{注8)}	

* 必修科目、先修科目については、医師の診断書がある病気・けがによる登校不能についても欠席事由とする。この場合は、試験を欠席した日に受診し発行され、その病気・けがを証明する内容の診断書が必要となる。

先修科目とは、ある科目を履修するための条件として、先立って単位を修得しておくことが必要な科目をいう。具体的には、科目設置学科等の規定を参照すること。

注1) 上記(1)の場合の入院証明書・医師の診断書は、試験を欠席した日の入院・病気・けがを証明する内容であること。

注2) 上記(2)に該当した場合には、速やかに所属キャンパスの教務窓口連絡し指示を受けること。なお、罹患中に試験を受験した場合には、その試験は無効となる。

注3) 上記(2)に該当した場合の「学校感染症登校可能証明書」の書式は、SPIRIT教務部ページからダウンロードすること。

注4) 上記(2)に該当した場合の医師の診断書において、罹患時と治癒時の受診医療機関が異なった場合は、治癒時の医療機関において「出校停止期間についての証明」が受けられない場合があるので注意が必要である。受診医療機関を変更する場合は、罹患時に受診した医療機関が発行する「罹患日記載がある『診断書』」を必ず取得しておくこと。こうすることにより、罹患時に取得した「診断書」と治癒時に受診した医療機関が発行する「治癒日と登校可能日の記載がある『診断書』」の2種類をもって「出校停止期間についての証明」とすることが可能となる。

注5) 上記(2)に該当した場合の添付するべき証明書類は、治癒後の日程で発行されたものを提出すること。ただし、インフルエンザ（特定鳥インフルエンザを除く）および新型コロナウイルス感染症に限り、初診時に発行された「学校感染症登校可能証明書」または医療機関発行の「診断書」でも申請を受け付けることがある。

注6) 3親等以内の血族または姻族とは次を指す。

血族—父母・子、祖父母・兄弟姉妹・孫、曾祖父母・伯叔父母・甥姪・曾孫

姻族—配偶者の父母・子の配偶者・配偶者の子（配偶者の前婚における子など）、配偶者の祖父母・配偶者の兄弟、姉妹・孫の配偶者・配偶者の孫（配偶者の前婚における孫など）・兄弟姉妹の配偶者、配偶者の曾祖父母・配偶者の伯叔父母・配偶者の甥姪・曾孫の配偶者・配偶者の曾孫（配偶者の前婚における曾孫など）・甥姪の配偶者・伯叔父母の配偶者

注7) 学校・社会教育講座事務室にて発行手続きを行うこと。

注8) 原則として、事前の届出に対して審査を行うので、所属キャンパスの教務窓口にお問い合わせのこと。

7 試験時間重複特別試験

試験時間に重複が生じた場合（池袋・新座キャンパス間の移動時間不足を含む）は、試験時間重複特別試験を実施する。その場合は、原則として、他学部等の科目を定期試験期間内で受験し、自学部科目を特別試験において受験すること。

1. 申請手続

受験希望者は、試験日時発表後から試験実施期間開始の1週間前までに、試験時間重複特別試験受験申請書を履修登録状況画面のコピーを添付の上、所属キャンパスの教務窓口へ提出すること。ただし、試験時間が変更されたことによって試験時間に重複が生じた場合は、試験実施日の翌日から2日以内（締切日が窓口業務を行わない日の場合は次に窓口業務を行う日まで）に試験時間重複特別試験受験申請書を所属キャンパスの教務窓口へ提出すること。

2. 対象者・試験方法・時間割の発表

対象者・試験方法・時間割は、所定の日程で掲示において発表する。対象者・試験方法・時間割の発表はWebによる掲示とし、掲載場所は、教務部掲示板「試験」ページとする。

〈試験時間重複特別試験対象者・試験方法・時間割発表〉

春学期末	秋学期末・学年末
8月下旬	2月中旬

* 掲示による発表は当該科目の開講キャンパスごとに行う。

3. 実施期間

試験時間重複特別試験は、所定の期間に実施する。

〈試験時間重複特別試験 実施期間〉

試験時間重複特別試験 実施方法	春学期末	秋学期末・学年末
筆記試験	実施期間：9月上旬	実施期間：3月上旬
レポート試験	提出期間：9月上旬	提出期間：3月上旬

* 試験時間重複特別試験の実施は当該科目の開講キャンパスごとに行う。

4. 試験時間重複特別試験（筆記試験）受験についての注意事項

実施要領は **3 筆記試験** に準じる。

なお、試験時間重複特別試験を受験できなかった場合の特別措置は一切行わない。

8 不正行為

試験は、学生各自の科目履修の成果を確認する趣旨のものであり、その趣旨に反する行為は不正行為とみなす。

1. 退室命令

試験中に不正行為とみなされる行為が発見された場合、不正行為者は、試験場から直ちに退出を命ぜられる。

2. 受験資格の喪失

- (1) 受験中に不正行為を行った者は、不正行為以降の全学共通科目、他学部科目等を含むその期の全科目の受験資格（レポート提出資格等を含む）を失う。
- (2) 英語単位認定試験を受験中に不正行為を行った者は、同日に行われる試験を含め、当該試験期間（6月実施：春学期末試験終了まで、11月実施：秋学期末・学年末試験終了まで）の筆記試験全科目の受験資格を失い、その成績はすべて不合格となる。

3. 当該試験期間の成績

不正行為者の当該試験期間の成績は以下の通りとする。

- (1) 定期試験期間内筆記試験科目、最終授業時筆記試験科目については、すでに受験した科目を含む全科目の成績を不合格とする。

VI 試験・成績

- (2) 春学期末または秋学期末・学年末試験期間に不正行為を行った場合、6月または11月に受験した英語単位認定試験の受験資格をさかのぼって失い、合格は取り消される。
- (3) レポート試験科目、平常点科目、口頭試問科目等、原則として定期試験期間内筆記試験、最終授業時筆記試験以外の方法のみによって成績評価を実施する科目については、不正行為以前の成績評価は有効とする。

4. 処分の決定

- (1) 不正行為者の処分は、その者の所属する学部教授会がこれを決定する。
- (2) 処分は、訓告・停学・退学の3種類とする。不正行為の処分は、原則として停学とする。
- (3) 処分決定後は、不正行為以降全ての受験資格を喪失する。

9 成績

1. 成績評価

授業科目の成績は以下の基準に従い、S、A、B、Cを合格、D、欠を不合格とする。

⊖単位を修得した科目の評価を取り消すことはできない。

〈成績の評価〉

評価		GP <small>注1)</small>	評価基準	成績証明書の表示
合格	S (100~90点)	4	当該科目の目標をほぼ完全に達成していると認められる	S
	A (89~80点)	3	当該科目の目標を十分に達成していると認められる	A
	B (79~70点)	2	当該科目の目標の基幹部分は達成しているものと認められる	B
	C (69~60点)	1	当該科目の目標のうち最低限は達成していると認められる	C
不合格	D (59~0点)	0	当該科目の目標に及ばない	F
	欠席	0	試験未受験等により評価できないもの <small>注2)</small>	
履修中止 <small>注3)</small>	Q	—	所定の期日までに履修中止の手続きをしたもの <small>注4)</small>	表示 されない

注1) 「4. GPA」の項参照

注2) 筆記試験を欠席した場合、また試験方法発表掲示にレポート試験と発表されているレポート（5 レポートの項を参照）を提出しなかった場合は、シラバスに記載された成績評価の割合にかかわらず、成績評価は「欠席」となる。

注3) 「V 履修登録 6 履修中止制度」の項参照

注4) 成績確定前に、休学したものおよび在学留学したものも含む。

次のように表示される科目もある。(GPA^{注1)}算出対象外)

評価	成績証明書
合格	合
不合格	H
認定	認

注1) 「4. GPA」の項参照

2. 成績の発表

成績は所定の日程で成績参照システムに発表する。電話・メール等による成績の問い合わせには一切応じない。発表時刻等の詳細は成績参照システムで確認すること。

〈成績の発表〉

春学期科目	当該年度在籍者 (特別卒業[9月卒業]申請者を含む)	9月上旬
秋学期科目 通年科目	当該年度卒業合格発表対象者 (在学8学期以上の者)	2月末日
	次年度在籍者	3月中旬
	次年度在籍者 (次年度の新年次での発表)	3月下旬

〈追試験および試験時間重複特別試験結果の発表〉

春学期科目	当該年度在籍者 (特別卒業[9月卒業]申請者を含む)	9月下旬
秋学期科目 通年科目	当該年度卒業合格発表対象者 (在学8学期以上の者)	3月中旬
	次年度在籍者	

3. 成績評価調査
の申請

成績評価調査制度は、成績評価が間違っていると思われる十分な理由がある場合に、科目担当者に成績評価に間違いがないか、の確認を求めるためのものであり、成績の再考を求めるものではない。調査の申請は、「成績評価調査申請書」にその理由を詳しく記入し、所定の申請期間内に申請を行うこと。申請方法については、当該学期の成績発表以降、成績参照システム (<https://r.rikkyo.ac.jp/>) の『成績参照システムについて』にて確認すること。

*変更等がある場合はSPIRIT 教務部ページに発表する。

〈成績評価調査 申請期間〉

春学期科目	特別卒業（9月卒業）申請者	9月上旬
	当該年度在籍者 (特別卒業[9月卒業]申請者を除く)	9月上旬
秋学期科目 通年科目	当該年度卒業合格発表対象者 (在学8学期以上の者)	2月末～3月上旬
	次年度在籍者 (当該年度卒業合格発表対象者を除く)	3月中旬

*申請期間の詳細はR Guideにて確認すること。

申請期限は遵守すること。

4. GPA

(1) GPA (Grade Point Average)

GPAとは、履修した各科目の成績評価に対してそれぞれポイント (GP) を定め、当該期間の成績の平均値を示す成績評価結果の表示方法の一つである。GPAは、不合格科目も含め、学期ごと、学年ごとの値が算出されるので、学生が自分の学修の履歴や到達度を把握することができ、学習の促進に効果的な成績評価方法である。米国をはじめ海外の多くの大学が採用しており、留学や海外の大学院への進学を希望する場合には、提出が求められるものでもある。

(2) GPA算出方法

下記計算式によりGPAを求める。

* 小数点第3位を四捨五入し、小数点第2位までの数値で、表示する。

$$\frac{S\text{の修得単位数} \times 4 + A\text{の修得単位数} \times 3 + B\text{の修得単位数} \times 2 + C\text{の修得単位数} \times 1}{\text{GPA算出対象科目の総履修登録単位数 (D・欠を含む)}}$$

⊙ 個々の学生のGPA値に関する問い合わせには応じない。

(3) GPA算出対象

① GPA算出対象科目

成績評価が、S・A・B・C・D・欠 と表示される科目とする。

② GPA算出対象外科目

- ◇ 履修中止を申請した科目
- ◇ 単位認定科目 (3年次編入や留学等により単位認定され成績評価が「認」と表示される科目)
- ◇ 学校・社会教育講座の科目
- ◇ 成績評価が 合・不 で表示される科目

(4) GPA値の表示形式

- ◇ 成績証明書には、通算のGPAを表示する。
 - ◇ 「2. 成績の発表」の成績参照システムでの成績発表においては、通算のGPAの他、履修年度ごと、学期ごとのGPAを表示する。
- * 通年科目については、秋学期科目に含めてGPAを計算し、表示する。

NEXUSプログラム生は〔 〕内を確認すること。

1 卒業および学位に関する規定

同一学部にて4年以上在学して（3年次編入学または転部・転科・転専修した場合は2年以上、2年次に転部・転科した場合は3年以上）、所定の単位を修得した者には、学士の学位を授与する。それぞれの学部・学科において授与する学士の学位の専攻分野名は次のとおりとする。

なお、本学の卒業年月日は、下記のとおりとする。

（4月入学者）当該年度3月31日付

（9月入学者）当該年度9月19日付

* 休学などによる学修中断の期間は、この在学年数には数えられない。詳細は、「VII 学籍・学費

1 学籍」を参照。

学部	学科	専攻分野名
文学部	キリスト教学科	文学
	史学	
	教育学科	
経済学部	文学科	文学 学術
	経済学科	経済学
	会計ファイナンス学科	
理学部	経済政策学科	理学
	数学科	
	物理学科	
社会学部	生命理学科	社会学
	社会学科	
	現代文化学科	
法学部	メディア社会学科	法学
	法学科	
	政治学科	
観光学部	国際ビジネス法学科	法学
	観光学科	
	政治学	
コミュニティ福祉学部	観光学科	観光学
	交流文化学科	
経営学部	福祉学科	コミュニティ福祉学
	コミュニティ政策学科	
現代心理学部	経営学科	経営学
	国際経営学科	
異文化コミュニケーション学部	心理学科	心理学
	映像身体学科	
スポーツウエルネス学部	異文化コミュニケーション学科	異文化コミュニケーション学
	スポーツウエルネス学科	

* 法学部法学科法曹コースにおいては、3年以上在学して、所定の試験に合格し、所定の単位を優秀な成績をもって修得した者には学士の学位を授与する。

* NEXUSプログラム生においては、4.5年〔9学期〕以上在学して、所定の単位を修得した者には、学士の学位を授与する。卒業年月日は当該年度3月31日付とする。

2 最長在学年数

本学における最長在学年数は8年とする。これを超えて在学することはできない。なお、3年次に編入学または転部・転科・転専修した者は6年、2年次に転部・転科したものは7年とする。

3 卒業合否の発表

卒業合否は下記の日程で成績参照システムにて発表する。在学8学期目以降の4年次生は必ず本人が卒業の合否を確認すること。発表時刻等の詳細は成績参照システムで確認すること。

(4月入学者) 2月末

(9月入学者) 9月上旬

☎電話や電子メールなどでの問い合わせには一切応じない。

*NEXUSプログラム生は以下の通り。

卒業合否は下記の日程で成績参照システムにて発表する。在学9学期目以降の4年次生は必ず本人が卒業の合否を確認すること。発表時刻等の詳細は成績参照システムで確認すること。

(NEXUSプログラム生) 2月末

☎電話や電子メールなどでの問い合わせには一切応じない

4 卒業の延期（希望留年）

1. 希望留年とは

卒業に必要な所定の単位を修得した後も本学に留まり、勉学を継続するため在学（留年）を希望する場合、所定の受付期間に、所定の書式（希望留年願）により、保証人連署をもって願い出で、許可を受けて留年することができる。この場合、卒業は翌年度末（9月入学者は翌年9月19日）まで認められない。この願い出は、原則として取り下げることができないので慎重に行うこと。許可された場合、当該年次に納入すべき所定の学費その他の納入金の全額を納入することになる。なお、特別卒業を申請し、許可された場合、下記の日付で卒業となる。特別卒業に関しては「**5 特別卒業**」を参照。

(4月入学者が特別卒業を申請し合格した場合) 当該年度9月19日付

(9月入学者が特別卒業を申請し合格した場合) 当該年度3月31日付

*NEXUSプログラム生は「4月入学者が特別卒業を申請し合格した場合」に準ずる。

2. 希望留年願の配付、受付、許可者発表

希望留年願の配付期間、配付方法、配付場所、受付期間、受付方法、受付場所、許可者発表日、発表方法については、各学部のR GuideおよびR GuideからリンクしているSPIRIT教務部サイト「各種手続き」ページで確認すること。

5 特別卒業

1. 特別卒業（9月卒業）とは

「特別卒業（9月卒業）（3月卒業）」とは、以下の6つの条件をすべて満たした学生が、所属学部が行う卒業判定で合格した場合、下記の卒業年月日で卒業することができる制度である。

(4月入学者が特別卒業を申請し合格した場合) 当該年度9月19日付

(9月入学者が特別卒業を申請し合格した場合) 当該年度3月31日付

〈特別卒業（9月卒業）（3月卒業）申請条件〉

1. 所定の受付期間に、所定の書式（特別卒業願）によって保証人連署をもって願い出ていること
2. 学部学生であること
3. 申請時において、在学8学期目以降の学生であること^{*1, *2}
4. 申請時において、所属学部等の卒業に必要な単位を、修得または修得見込^{*3}であること
5. 申請学期において、在学中であること^{*4}
6. 申請時において、当該年次に在籍した学期の「学費^{*5}その他の納入金」の全額を納めていること

*NEXUSプログラム生は以下の通りである。

「特別卒業（9月卒業）」とは、以下の6つの条件をすべて満たした学生が、所属学部が行う卒業判定で合格した場合、下記の卒業年月日で卒業することができる制度である。

（NEXUSプログラム生） 当該年度9月19日付

〈特別卒業（9月卒業）申請条件〉

1. 所定の受付期間に、所定の書式（特別卒業願）によって保証人連署をもって願い出ていること
2. 学部学生であること
3. 申請時において、在学9学期目以降の学生であること^{※1、※2}
4. 申請時において、所属学部の卒業に必要な単位を、修得または修得見込^{※3}であること
5. 申請学期において、在学中であること^{※4}
6. 申請時において、当該年次に在籍した学期の「学費^{※5}その他の納入金」の全額を納めていること

この願い出は、原則として取り下げることができないので慎重に行うこと。特別卒業願を提出し特別卒業を許可された場合の「学費^{※5}その他の納入金」は、学費^{※5}その他の納入金の2分の1額^{※6}とする。

※1：休学中の期間は、在学年数ならびに在学学期数に含まれない。

※2：法学部法学科法曹コースにおいては、3年以上在学して、所定の試験に合格し、所定の単位を優秀な成績をもって修得した者には学士の学位を授与する。

※3：特別卒業（9月卒業）の場合は当該年度春学期科目の修得により、特別卒業（3月卒業）の場合は当該年度秋学期科目の修得により、所属学部等の卒業に必要な単位を修得する見込がある学生。

※4：休学中・停学中でないこと。

※5：学費とは、授業料（在籍料を含む）、実験・実習費をいう。

※6：2分の1額とは、1年間に支払う学費その他の納入金の2分の1額（実験・実習費は在学となる学期に定められた金額）を意味する。

*学費の納入額が特別卒業の申請条件として納入すべき金額に不足する場合は、特別卒業願を受理しない。

2. 特別卒業願の
配付、受付、
許可者発表

特別卒業願の配付期間、配付方法、配付場所、受付期間、受付方法、受付場所、許可者発表日、発表方法については、各学部のR GuideおよびR GuideからリンクしているSPIRIT教務部サイト「各種手続き」ページで確認すること。

NEXUSプログラム生は〔 〕内を確認すること。

1 学籍

1. 学籍とは

学籍とは、本学に入学することによって取得されるものであり、本学の学生（在籍者）であることを意味する。本学を卒業・退学・除籍となった場合は学籍を喪失する。

2. 在籍と在籍期間

在籍とは、本学に学籍が存在することをいい、その期間を在籍期間という。休学期間は在学年数に算入されないため、在籍期間は、在学状態の期間（在学期間）に休学状態の期間（休学期間）を加えた期間となる。

3. 修業年限と最長在学年数

本学を卒業するために必要な年数のことを修業年限という。学部学生が本学を卒業するためには、4年以上在学^{**4}して（3年次編入学または転部・転科・転専修した場合は2年以上、2年次に転部・転科した場合は3年以上）、所定の単位を修得しなければならない。ただし、最長在学年数を超えて在学することはできない。修業年限と最長在学年数は次の表のとおりである。

	修業年限	最長在学年数 ^{**1}
学部学生	4年 ^{**2**3**4}	8年 ^{**2}
修士課程・博士課程前期課程の大学院学生	2年	4年
博士課程後期課程の大学院学生	3年	6年

※1：休学期間は最長在学年数には算入されない。休学については「[2 休学・復学](#)」を参照すること。

※2：編入学、学内転部、転科または転専修制度を利用した学生については、教務窓口にて確認すること。

※3：法学部法学科法曹コースの学生については、教務窓口にて確認すること。

※4：NEXUSプログラム生の修業年限は4.5年〔9学期〕、最長在学年数は8年

4. 在学年数と在学学期数

学部学生の修業年限である「4年以上在学して」を学期に置き換えると、「8学期以上在学して」となり、以下の表のとおりである。

年次 学期 ^{**1}	1年次		2年次		3年次		4年次	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
在学学期	1学期	2学期	3学期	4学期	5学期	6学期	7学期	8学期

※1：9月入学者は「春学期」を「秋学期」に、「秋学期」を「春学期」に読み替えること。

*NEXUSプログラム生は学部学生の修業年限である「4.5年以上在学して」を学期に置き換えると、「9学期以上在学して」となり、以下の表のとおりである。

年次 学期	1年次		2年次		3年次		4年次		
	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
在学学期	1学期	2学期	3学期	4学期	5学期	6学期	7学期	8学期	9学期

2 休学・復学

1. 休学とは

病気その他やむを得ない事由により満2ヶ月以上就学することができないときは、所定の受付期間に、所定の書式（休学願）により、保証人連署をもって願い出て、許可を受けて当該学期間休学することができる。休学中の期間は在学年数に算入しない。なお、休学の理由によっては、その事実を証明す

る書面の提出を求める場合があるので指示に従うこと。

兵役のために休学する場合は例外措置が適用になる場合があるので、休学する前に必ず兵役による休学であることを申し出ること。

休学期間は理由の如何を問わず、休学願を提出した時期により定められている。2学期以上にわたって休学するときは、学期ごとに定められた休学願提出期間内に改めて休学願を提出することが必要である。

各学期の休学願提出時期、休学期間の詳細は各学部のR Guideを確認すること。

2. 復学について

休学した者は、休学期間終了後、自動的に復学となる。なお、復学の時期は以下のとおりである。

復学時期

- 春学期を休学した場合の復学日 ⇒ 9月20日
- 秋学期を休学した場合の復学日 ⇒ 4月1日

3. 休学学期と年次の扱いについて

休学中の期間は在学年数に算入しないと同時に、在学学期数にも算入しない。ただし、休学制度を利用した場合、在学学期数にかかわらず年次は学部学生の場合4年次まで自動的に進む。

〈1学期休学した場合〉～3学期目を休学し、2年次秋学期に復学した場合の例～

年次 学期	1年次		2年次		3年次		4年次		4年次 ^{※3}	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
在学学期	1学期	2学期	休学	3学期	4学期	5学期	6学期	7学期	8学期 ※2	9学期 ※1

※1・2：卒業の時期については、「4. 卒業の時期について」を参照すること。

※3：学部学生が4年次に卒業できなかった場合は、再度4年次生として在籍することとなる。

*9月入学者は「春学期」を「秋学期」に、「秋学期」を「春学期」に読み替えること。

*NEXUSプログラム生は以下の表の通りである。

〈1学期休学した場合〉～3学期目を休学し、2年次秋学期に復学した場合の例～

年次 学期	1年次		2年次		3年次		4年次		4年次 ^{※3}		
	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
在学学期	1学期	2学期	休学	3学期	4学期	5学期	6学期	7学期	8学期	9学期 ※2	10学期 ※1

※1・2：卒業の時期については、「4. 卒業の時期について」を参照すること。

※3：学部学生が4年次で卒業できなかった場合は、再度4年次生として在籍することとなる。

4. 卒業の時期について

(1) 4月入学者

休学した学生の卒業も、原則として3月31日付となる。ただし春学期で8学期以上在学となる場合は、特別卒業を申請し許可を受けることにより9月19日付で卒業することができる。詳細は「Ⅶ 卒業に関する事項 5 特別卒業」を参照すること。

なお、休学中に卒業・特別卒業はできないので注意すること。

〈1学期休学した場合〉～3学期目を休学し、2年次秋学期に復学した場合の例～

年次 学期	1年次		2年次		3年次		4年次		4年次	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
在学学期	1学期	2学期	休学	3学期	4学期	5学期	6学期	7学期	8学期 ※2	9学期 ※1

※1：通常の卒業時期は秋学期の終了日である。

※2：特別卒業を申請し許可された場合の卒業時期は春学期の終了日である。

Ⅷ 学籍・学費

(2) 9月入学者

休学した学生の卒業も、原則として9月19日付となる。ただし秋学期で8学期以上在学となる場合は、特別卒業を申請し許可を受けることにより3月31日付で卒業することができる。詳細は「Ⅶ 卒業に関する事項 5 特別卒業」を参照すること。

なお、休学中に卒業・特別卒業はできないので、注意すること。

〈1学期休学した場合〉～3学期目を休学し、2年次春学期に復学した場合の例～

年次 学期	1年次		2年次		3年次		4年次		4年次	
	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期
在学学期	1学期	2学期	休学	3学期	4学期	5学期	6学期	7学期	8学期 ※2	9学期 ※1

※1：通常の卒業時期は春学期の終了日である。

※2：特別卒業を申請し許可された場合の卒業時期は秋学期の終了日である。

(3) NEXUSプログラム生

休学した学生の卒業も、原則として3月31日付となる。ただし春学期で9学期以上在学となる場合は、特別卒業を申請し許可を受けることにより9月19日付で卒業することができる。詳細は「Ⅶ 卒業に関する事項 5 特別卒業」を参照すること。

なお、休学中に卒業・特別卒業はできないので、注意すること。

〈1学期休学した場合〉～3学期目を休学し、2年次春学期に復学した場合の例～

年次 学期	1年次		2年次		3年次		4年次		4年次		
	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	
在学学期	1学期	2学期	休学	3学期	4学期	5学期	6学期	7学期	8学期	9学期 ※2	10学期 ※1

※1：通常の卒業時期は秋学期の終了日である。

※2：特別卒業を申請し許可された場合の卒業時期は春学期の終了日である。

5. 利用回数の上 限について

休学制度の利用回数には上限が設けられている。いかなる理由においても上限回数を超過して休学することはできない。学期の初めから休学した場合でも学期の途中から休学した場合でも、いずれも1回として計算される。なお、上限回数は通算の休学回数である。2学期間連続して休学した場合や、1学期以上の在学期間をはさみ2学期間休学した場合は、休学回数は2回となる。

	休学制度を利用 できる回数
学部学生	8回
修士課程・博士課程前期課程の大学院学生	4回
博士課程後期課程の大学院学生	6回

※学内転部、転科または転専修制度を利用し、学部、学科または専修が変更になった場合、変更前の休学回数は変更後の学部、学科または専修に引き継がれる。

※本学を退学後、再入学した場合、退学前の休学回数は引き継がれる。

※本学を卒業・修了・退学した後、選抜試験に合格し、入学（再入学を除く）した場合は、過去に休学した回数は引き継がれない。

6. 休学願の配付 ・提出先につ いて

休学願の配付期間、配付方法、配付場所、提出期間、提出方法、提出場所については、各学部のR GuideおよびR GuideからリンクしているSPIRIT教務部サイト「各種手続き」ページで確認すること。

7. 休学許可通知
について

休学願を提出し各学部等教授会で許可された場合、本人及び保証人に対して休学許可通知を郵送する。休学の許可についてはこの通知で確認すること。在籍料（「9. 休学中の学費について」参照）等、休学中にかかる諸経費の支払いは、休学許可通知の発送後、別途郵送にて通知するのでその指示に従うこと。

8. 就学の問い合わせ
について

休学している学生に対して、「就学問い合わせ」を郵送する^{※1}。引き続き休学を希望する場合は休学願を、退学を希望する場合は退学願を、必ず締切期日までに提出すること。締切期日は同封の書簡にて指示する。休学願または退学願を提出しない場合は、休学期間終了後、「2. 復学について」に示す日付をもって自動的に復学となるので注意すること。

休学学期	就学問い合わせの 送付時期 ^{※3}	就学問い合わせの 回答締切	回答時の提出書類		
			休学	退学	復学
春学期	7月末 ^{※5}	8月下旬	休学願	退学願	手続不要
秋学期	1月末 ^{※4※6}	2月中旬			

※1：保証人住所宛に郵送する。

※2：兵役のために休学する場合は例外措置が適用になる場合があるので、休学する前に必ず兵役による休学であることを申し出ること。

※3：自己都合で休学した学期の後、間をあげずに派遣留学又は認定校留学に出発する場合は就学問い合わせを送付しない。

※4：4月入学者で1月末時点において当該年次に納入すべき学費及び在籍料の全額または一部が未納の場合、就学問い合わせは当該年次に納入すべき所定の学費及び在籍料の全額を納入した後に発送する。

※5：9月入学者で7月末時点において当該年次に納入すべき学費及び在籍料の全額または一部が未納の場合、就学問い合わせは当該年次に納入すべき所定の学費及び在籍料の全額を納入した後に発送する。

※6：NEXUSプログラム生で1月末時点において当該年次に納入すべき学費及び在籍料の全額または一部が未納の場合、就学問い合わせは当該年次に納入すべき所定の学費及び在籍料の全額を納入した後に発送する。（※5は適用しない）

9. 休学中の学費
について

休学願を提出し休学を許可された場合、当該休学学期間の在籍料およびその他の納入金を除く学費を免除する。在籍料は、在籍保証、在籍管理事務の経費として所属学部（学科・専修）にかかわらず1学期につき60,000円を、休学した学期ごとに徴収する。なお、休学を許可された場合、許可された時点の学費その他の納入金の納入状況により返金を行うことがある。学費その他の納入金の納入額が休学時に納入すべき金額に満たない場合は、これを徴収する。

詳細は、SPIRIT「学費・納入金」サイトの「休学・退学時の学費」ページで確認すること。
(<http://s.rikkyo.ac.jp/kyutaigaku>)

3 退学

1. 退学とは

病気その他の事由により退学しようとする場合は、所定の受付期間に、所定の書式（退学願）により、保証人連署をもって願い出て、許可を受けなければならない（学生証を返却のこと）。なお、退学の理由によっては、その事実を証明する書面の提出を求める場合があるので指示に従うこと。

2. 提出時期と学費の減免について

退学願を提出し退学を許可された場合、退学願を提出した時期により学費その他の納入金の一部を減免する。なお、退学を許可された場合、許可された時点の学費の納入状況により返金を行うことがある。学費の納入額が退学願を提出した時点で退学時に納入すべき金額に不足する場合は、退学願を受理しない。

提出時期、学費減免額の詳細は、SPIRIT「学費・納入金」サイトの「休学・退学時の学費」ページで確認すること。

(<http://s.rikkyo.ac.jp/kyutaigaku>)

Ⅷ 学籍・学費

3. 退学願の配付・提出先について
退学願の配付期間、配付方法、配付場所、提出期間、提出方法、提出場所については、各学部のR GuideおよびR GuideからリンクしているSPIRIT教務部サイト「各種手続き」ページで確認すること。
4. 退学許可通知について
退学願を提出し各学部等教授会で許可された場合、本人及び保証人に対して退学許可通知を郵送する。退学の許可についてはこの通知で確認すること。学費の減免に関する手続きが生じる場合は、退学許可通知の発送後、別途郵送にて通知するのでその指示に従うこと。

4 希望留年（学部4年次生のみ）

希望留年については「Ⅶ 卒業に関する事項 4 卒業の延期（希望留年）」を参照すること。

5 特別卒業

特別卒業については「Ⅶ 卒業に関する事項 5 特別卒業」を参照すること。

6 再入学

1. 再入学とは
病気その他の理由で退学した者が再入学を希望するときは、所定の書式により、保証人連署をもって願い出て、年度の始め（4月1日付）^{*1・3}に再入学を許可されることがある。再入学を申し出る場合は、再入学する前年度の10月初日（初日が窓口閉室日の場合は直後の窓口開室日）から11月下旬の締切日^{*2・4}までに所定の書式を提出すること。再入学に必要な所定の書式及び手続の詳細については下記まで問い合わせること。
- ※1：9月入学者は9月20日付
※2：9月入学者は再入学する年の3月初日（初日が窓口閉室日の場合は直後の窓口開室日）から4月下旬の締切日
※3：NEXUSプログラム生で1学期目に退学した者は9月20日付，2学期目以降に退学した者は4月1日付
※4：NEXUSプログラム生で1学期目に退学した者は再入学する年の3月初日（初日が窓口閉室日の場合は直後の窓口開室日）から4月下旬の締切日
2. 再入学に関する問合せ先
教務窓口（「教務事項の伝達について」参照）

7 学費

1. 学費通知の発送
学費通知の発送についての詳細は、SPIRIT「学費・納入金」サイトの「納入スケジュール」ページで確認すること。（<http://s.rikkyo.ac.jp/schedule>）
2. 延納制度
経済的な事情により、定められた期限までに納入ができない場合、もしくは資金の用意が難しい場合には、事前に本学SPIRIT学費・納入金ページから「学費延納申請」を行うこと。「学費延納申請」を行い認められた場合には、納入期限を一定の範囲で延期することができる。延納申請の提出は、定められた期間のみ認められる。詳細は、各学期に財務部経理課から送付される学費案内、またはSPIRIT「学費・納入金」サイトの「納入スケジュール」ページを参照すること。
3. 滞納した場合
当該年次に学費の未納がある場合は、除籍となる。

1 グローバル教養副専攻（G副専攻）とは

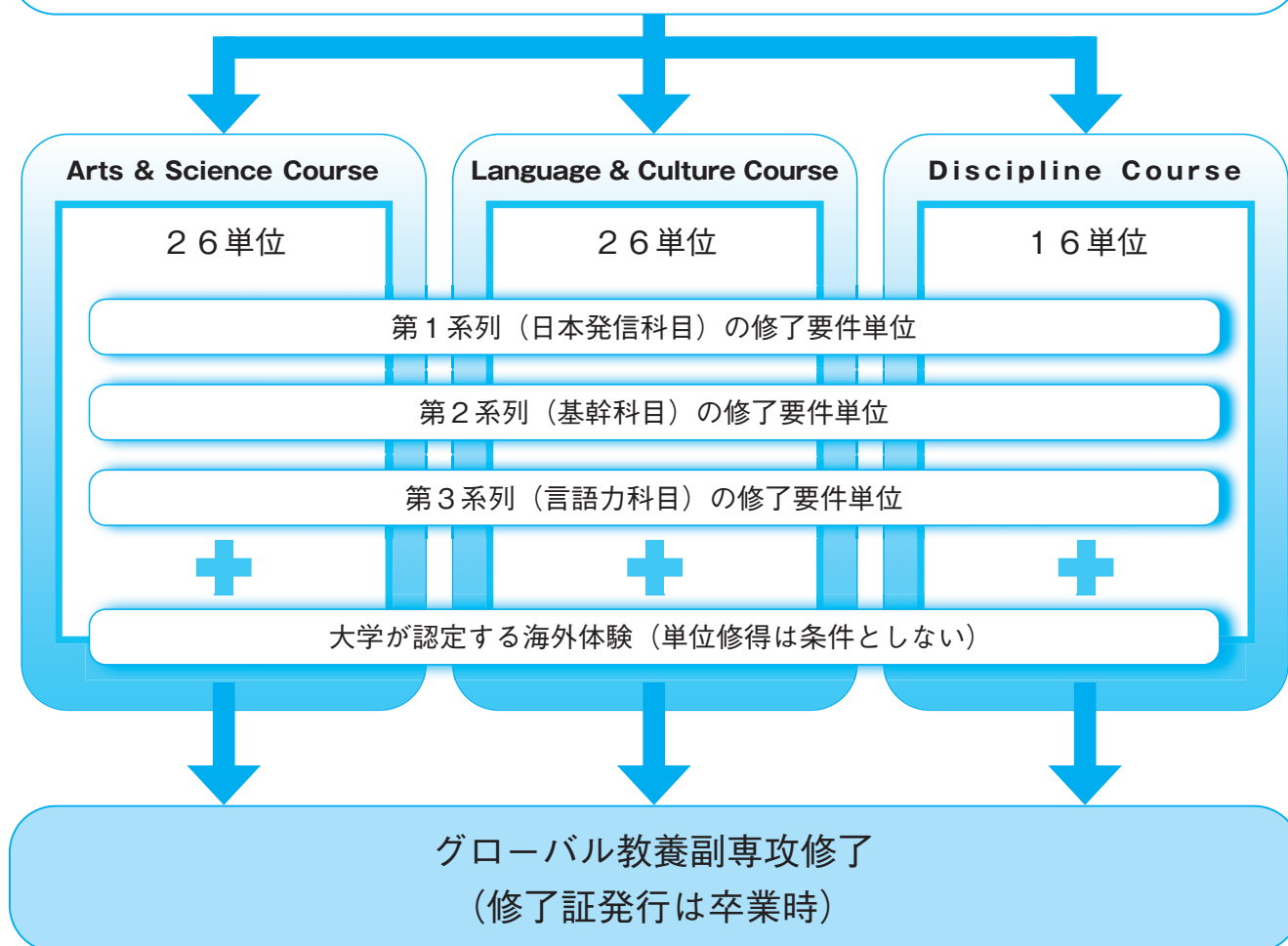
グローバル教養副専攻（以下、「G副専攻」と表記）は、本学の全ての学部学生を対象とし、所属する学部学科や専修の専門性に加えて、複数の分野にわたる知識を一つのテーマに沿って修得し、多面的に物事を捉えて持続的に考え続ける能力を養成するプログラムである。その目標は「専門性に立ち世界に通用する教養人の育成」である。

具体的には、選択したテーマの内容に沿って指定された科目群を体系的に学び、大学が認定する海外体験を行うことが修了要件となっている。所定の修了要件を満たした場合には、大学から修了証が発行される。

詳細はG副専攻Webサイト（<http://s.rikkyo.ac.jp/rmp>）を確認すること。

2 G副専攻の全体像

グローバル教養副専攻のコース選択



3 G副専攻修了のための要件

- | | |
|----------------------|---|
| 1. 修了要件 | <p>G副専攻は、専門の応用につながる多彩な学問領域の中からテーマごとにつながり合う科目を、ルールに従って履修していく。</p> <p>修了には、大学が認定する海外体験を行い、第1系列から第3系列の科目群から、テーマによって定められた単位数を修得することが必要である。</p> <p>なお、修得した単位は、専門教育科目・全学共通科目ともに所属学科・専修等が定める規定により、卒業要件単位として算入することができる。</p> |
| 2. G副専攻の3系列と海外体験について | <p>G副専攻は、「第1系列（日本発信科目）」「第2系列（基幹科目）」「第3系列（言語力科目）」の3系列と海外体験によって構成されている。</p> <p>3つの系列の修了要件単位数および海外体験の認定基準は、各コースやテーマによって異なる。各コースの修了要件の詳細は、G副専攻Webサイトを確認すること。</p> |
| 3. 修了証の発行 | <p>G副専攻の修了要件を満たし、修了が認定されると、卒業時に大学から修了証が発行される。</p> |

4 G副専攻のコース登録

- | | |
|--------------|---|
| 1. コース登録について | <p>G副専攻修了のためには、事前にコース登録が必要である。コース登録は1年次より可能で、登録できるコース数は、一人につき1テーマのみ。ただし、コース変更は可能である。</p> <p>コースの登録方法など詳細については、G副専攻Webサイトを確認すること。</p> |
| 2. 仮登録と本登録 | <p>2019年度以降1年次入学者はコース・テーマが仮登録されている。仮登録されているコース・テーマは学部により異なるため、G副専攻システムから確認し、本登録すること。また、仮登録のコース・テーマからコース・テーマを変更したい場合、もしくは登録を削除したい場合は、G副専攻システムから各自手続きを行うこと。</p> |

5 G副専攻のコース・テーマ

- | | |
|--------------------------|---|
| 1. Arts & Science Course | <p>G副専攻には、以下3つのコースがあり、さらにコースの中に詳細なテーマが用意されている。学修の興味・関心に合わせて、コース・テーマを選択することができる。</p> <p>※同一科目を重複履修した場合には、最初に修得した1科目のみがG副専攻の修了に必要な単位として認められ、<u>2回目以降に修得した単位は、修了に必要な単位には算入されない。</u></p> <p>このコースは、全学共通科目総合系科目「多彩な学び」を中心に構成されており、以下の8テーマが用意されている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Global Humanity
人間としての生き方を見つめ、日本文化・精神性を発信できるようになる。 2. Global Social Experience
グローバルな視点で社会を読み解く知識と技能を身につける。 3. Global Art Experience
世界の芸術に触れてグローバルな感性を磨く。 4. Global Mind
心身を科学的に理解し、日本人としてのメンタリティを発信できるようになる。 5. Global Studies of Nature and Environment
地域の環境問題のグローバルなつながりと広がりを見て問題解決の糸口を求める。 |
|--------------------------|---|

6. Global Citizenship
ボランティア体験などを通して市民としての自覚を深め、行動できるようになる。
7. Global Sports
スポーツ文化のグローバルな理念と現実に触れて異文化理解を深める。
8. Global Studies of Region
世界各地の文化、ことば、社会について理解を深め、高度な異文化コミュニケーション力を培う。

2. Language & Culture Course

このコースは、全学共通科目言語系科目を中心に、海外体験などとともに構成されており、言語A(英語)を中心としたテーマ1~3と、言語Bを中心としたテーマ4~9が用意されている。

1. Academic Studies in English
英語圏の大学へ留学するために必要な英語力とアカデミックスキルを獲得する。
2. World Issues in English
世界中で起こっていることをリアルタイムで理解し、議論できるようになる。
3. Communication in English
世界を相手に英語で自分の意見を堂々と主張し、発信できるようになる。
4. German Language & Culture
選択した言語の技能を磨くとともに、ドイツ語圏の文化や社会への理解を深める。
5. French Language & Culture
選択した言語の技能を磨くとともに、フランス語圏の文化や社会への理解を深める。
6. Spanish Language & Hispanic Culture
選択した言語の技能を磨くとともに、スペイン語圏の文化や社会への理解を深める。
7. Chinese Language & Culture
選択した言語の技能を磨くとともに、中国語圏の文化や社会への理解を深める。
8. Korean Language & Culture
選択した言語の技能を磨くとともに、朝鮮語圏の文化や社会への理解を深める。
9. Russian Language & Culture
選択した言語の技能を磨くとともに、ロシア語圏の文化や社会への理解を深める。

3. Discipline Course

学部や学内諸機関が提供する科目を中心に構成されている。詳細はG副専攻Webサイトを確認すること。

1. Teaching Japanese as a Foreign Language (日本語教育学)
外国語としての日本語教育の世界に触れる。
2. Data Science (データサイエンス)
グローバル人材に求められるデータ活用力を身につける。
3. Experience Opportunities in Japan for International Students (外国人留学生向けキャリアと日本語)
日本社会・文化への理解と日本語力を生かしたキャリア形成
4. International Cooperation (国際協力人材育成)
国際社会が取り組むべき地球規模の課題(グローバル・イシュー)に対応し解決することができる知識や能力、グローバルマインドを身につける。
5. Global Leadership (立教GLP)
権限や立場に関係なく発揮できる、グローバルな環境で求められるリーダーシップスキルを身につける。
6. Japanese Studies in English Program
日本の文化や社会への理解を深め、豊かな語学力・コミュニケーション能力や異文化理解を育み、日本と世界を結ぶ国際性豊かな人材となるための素養を身につける。

6 海外体験の事前審査・認定申請手続き

海外体験の認定基準は、各コースやテーマによって異なる。海外体験後の認定手続きの詳細については、G副専攻Webサイトを確認すること。

7 4年間のスケジュール・モデルケース

年次・学期	1年次		2年次	3年次	4年次	卒業式
	春学期	秋学期				
	導入期	形成期		完成期		
科目群	学びの精神		多彩な学び			学位記
	学びの技法					
	言語必修科目／言語自由科目		言語自由科目			
	専門科目					
スポーツ実習						
G副専攻	仮登録の確認		コース本登録（コース変更は可能）			G副専攻修了証
	本登録したコース・テーマの科目を体系的・計画的に履修					
	海外体験の実施			海外体験の申請		

上記のスケジュールおよびモデルケースは、あくまで一例であり、コース登録や海外体験の実施などの時期は、学生ごとに異なる場合がある。

※ G副専攻説明会の開催日程などは、G副専攻Webサイトを確認すること。

f-Campusとは学習院大学，学習院女子大学，日本女子大学，早稲田大学，本学の5大学間における単位互換制度である。他大学の提供科目一覧，時間割，シラバス（講義内容），学年暦等は，f-Campusホームページ（<https://www.f-campus.org>）にて確認すること。

1 履修登録

1. 履修資格

2年次生以上の学部学生（正規学生のみ）。
※ただし，編入学（転部・転科・転専修を除く）した者については，編入学した年度の履修登録はできない。
2. 登録可能単位

本学を除く他の4大学合計で年間12単位まで。ただし，4月期の科目登録において選外となった科目の単位数は，9月期の科目登録における登録可能単位に含まれない。
3. 科目登録・登録結果発表
 - (1) 科目登録手順

すべてWebサイトにて行う。具体的な科目登録の手順は，f-Campusホームページで確認のこと。
 - (2) 科目登録期間

時期	登録対象科目	登録期間	結果発表
4月期	春学期科目（春クォーター科目，夏クォーター科目含む※）+通年科目+集中講義科目	R Guideで確認すること (R Guide > 履修登録 > f-Campusについて > 申込日程)	
9月期	秋学期科目（秋クォーター科目，冬クォーター科目含む※）+集中講義科目		

※春クォーター科目，夏クォーター科目，秋クォーター科目，冬クォーター科目はf-Campusシステム上の4半期科目の名称であり，本学の春学期1科目，春学期2科目，秋学期1科目，秋学期2科目がそれに相当する。ただし，授業期間については，その科目を提供している大学の学年暦に従う。
 - (3) 登録結果発表

f-Campusホームページ上で行う。
※応募者が定員を超過した場合は抽選を行う。
4. 登録の取消

科目登録後の取り消しはできない。万が一本学の登録科目と時限重複した場合は，原則として他大学の科目が優先され，本学の科目は取り消される。実習費等が必要な科目は，履修を放棄した場合であっても納金する必要がある。
5. 履修中止

f-Campus科目は履修中止申請が認められない。
6. 履修先大学の特別聴講学生番号の通知

f-Campusホームページによって，登録結果とともに履修先大学の特別聴講学生番号を発表する。他大学での授業出席票や試験等では，この番号が必要となるので，自分で番号を控えるなどして管理すること。

2 授業

授業科目の休講・試験等、授業に関する通知は、f-Campusホームページあるいは各大学の掲示板にて確認すること。通知方法は大学によって異なるので注意すること。

交通機関のストライキ・気象警報等にもなう授業の扱いは、履修先大学の基準による。

3 試験・成績・単位認定

他大学履修科目と本学の履修科目の筆記試験時間に重複が生じた場合、原則として他大学履修科目の筆記試験を優先して受験し、本学の履修科目については所定の期間内に試験時間重複特別試験受験申請の手続きを行ったうえで試験時間重複特別試験を受験すること。試験時間重複特別試験受験申請については「VI 試験・成績 7 試験時間重複特別試験」を参照のこと。

ただし、本学の都合により試験時間重複特別試験を受験できない場合は、科目設置大学の追（未済）試験等を受験できるよう配慮する場合がある。

成績結果は、成績参照システムにて本学科目とあわせて発表する。

他大学で修得した単位は、所属学部単位認定方法に従い卒業要件単位として認められる場合があるので、各学科の履修規程で確認すること。

4 学費等

協定に基づき、他大学の提供科目を履修する場合、授業料は免除される。ただし、科目により実習費等が必要な場合は自己負担となり、履修を放棄した場合であっても納金する必要がある。

5 その他

1. f-Campus証

科目登録の結果、他大学の履修許可を受けた学生は、所属キャンパスの教務窓口でf-Campus証を受け取る。f-Campus証が、他大学でf-Campusの学生であることを証明するものとなる。

2. 施設の利用

協定による特別聴講学生は、履修期間中は履修先大学の定める範囲において、図書館、売店、学生食堂を利用することができる。

図書館の施設は利用可能だが、図書の貸し出しはできない。その他利用方法等詳細は、各大学の図書館で確認すること。

パソコン教室やLL自習室、体育施設、保養施設等の施設、および許可された科目の履修に関する事項以外の学生サービス等は利用できない。

また、社会情勢により施設の利用可否が変更になることがあるため、最新の情報はf-Campusホームページで確認すること。

文学部・文学研究科・キリスト教学研究科デュアル・プログラム 「SDGsリサーチプログラム」「人文情報・メディア学プログラム」 大学院特別進学生制度（2023年度以降1年次入学者に適用）

1 文学部・文学研究科・キリスト教学研究科デュアル・プログラム「SDGsリサーチプログラム」「人文情報・メディア学プログラム」とは

学部（文学部）大学院（文学研究科・キリスト教学研究科）一貫の2つのデュアル・プログラム「SDGsリサーチプログラム」「人文情報・メディア学プログラム」を設置し、学部2年次にデュアル・プログラムを選択して候補生になった学生は、それぞれのプログラム対象科目を履修して3年次に学びを深め、4年次からは大学院生と共に学び、博士課程前期課程1年次終了段階に必要な要件を満たせば、各専攻の修士号とデュアル・プログラム修了証を取得できる。各専攻での専門分野に加えて、デュアル・プログラムのいずれかを選択することで、5年間で修士の学位を得るとともに、これからの社会で求められる知識やスキルを幅広く身につけることができる。

- | | |
|----------------|--|
| 1. 本制度の目的 | 現代社会の要請に応じる人文学の高度な社会実装とそれを実現する人物の育成。 |
| 2. プログラム定員 | 各プログラム10名程度 計20名程度
※文学部デュアル・プログラム「SDGsリサーチプログラム」と文学研究科・キリスト教学研究科デュアル・プログラム「SDGsリサーチプログラム」、また文学部デュアル・プログラム「人文情報・メディア学プログラム」と文学研究科・キリスト教学研究科デュアル・プログラム「人文情報・メディア学プログラム」はそれぞれで修了証を授与するものの、制度としては5年一貫の連続性を有している。応募するタイミングは学部2年次生のみであり、定員とは当該年度の募集においてプログラム受講が認められる文学部2年次生の数を示している。 |
| 3. プログラムのコンセプト | <ul style="list-style-type: none"> ① <u>文学部デュアル・プログラム「SDGsリサーチプログラム」</u>
持続可能な発展がいかにあるべきかを考え、その方法を学ぶ。 ② <u>文学部デュアル・プログラム「人文情報・メディア学プログラム」</u>
人文学的な視点からデジタル情報とメディアの活用の仕方を学ぶ。 ③ <u>文学研究科・キリスト教学研究科デュアル・プログラム「SDGsリサーチプログラム」</u>
持続可能な発展がいかにあるべきかを研究し、その社会実装の方法を追求する。 ④ <u>文学研究科・キリスト教学研究科デュアル・プログラム「人文情報・メディア学プログラム」</u>
人文学的な視点からデジタル情報とメディアを研究し、その社会実装の方法を追求する。 |

2 文学部・文学研究科・キリスト教学研究科デュアル・プログラム「SDGsリサーチプログラム」「人文情報・メディア学プログラム」制度概要

- | | |
|-----------------|---|
| 1. 入学時からの流れ（概要） | <p>学部1年次</p> <p>【4月】新入生ガイダンスにて本制度について説明。</p> <p>学部2年次</p> <p>【11月】文学部デュアル・プログラム、および「大学院特別進学制度候補生」として申請（説明会実施、申請書、申請理由書を提出、口頭試問実施）。</p> <p>【1月】文学部デュアル・プログラム、および「大学院特別進学制度候補生」の合格発表。</p> <p>学部3年次</p> <p>【4月～】文学部デュアル・プログラム登録者として所定の科目履修を開始。</p> <p>【1月】文学部デュアル・プログラム登録学生による大学院デュアル・プログラムへの継続、および「大学院特別進学生」制度への申請（研究計画書、志望理由書、成績証明書提出）。</p> <p>【2月】口頭試問実施。</p> <p>【3月】大学院デュアル・プログラムへのプログラム継続、および「大学院特別進学生」の可否発表。</p> <p>学部4年次</p> <p>【4月～】「大学院特別進学生」合格学生は当該年度において、文学研究科・キリスト教学研究科前期課程科目のうち所属専攻科目、大学院デュアル・プログラム科目を12単位以上単位修得。</p> |
|-----------------|---|

【9月】文学研究科・キリスト教学研究科秋季入試を受験（口頭試問のみ，研究計画書等提出）。

【3月】文学部デュアル・プログラムの修了要件確認→満たしていれば修了証の授与。

博士課程前期課程1年次

【4月】学部4年次に単位修得した大学院科目の単位認定（デュアル・プログラム科目は上限12単位），文学研究科・キリスト教学研究科デュアル・プログラム登録者として所定の科目履修を学部4年次に引き続き行う。

【1月】修士論文提出。

【3月（1）】①修士論文「可」，②文学研究科・キリスト教学研究科デュアル・プログラム修了要件単位修得，③博士課程前期課程修了判定「可」の確認→①～③満たしていればプログラム修了証の授与。

【3月（2）】プログラム修了証授与，大学院学位授与。

※詳細については，R Guide，年度初めのガイダンス資料および募集要項を確認のこと。

2. 文学部デュアル・プログラムの修了要件

① 文学部において各プログラムで定めた科目群から，修了要件単位数を履修し総計16単位（プログラム共通科目群：必修4単位，選択6単位，各プログラム科目群：6単位）を修得することで修了可能とする。

② 修得した単位は学生の所属学科専修が定める卒業要件単位として参入することができる。

③ プログラム受講生の卒業判定時においてプログラム修了要件を満たしているかを確認し，満たしている場合には文学部デュアル・プログラム「SDGsリサーチプログラム」修了証，または文学部デュアル・プログラム「人文情報・メディア学プログラム」修了証を授与する。

※詳細については，R Guide，年度初めのガイダンス資料および募集要項を確認のこと。

3. 文学研究科・キリスト教学研究科デュアル・プログラムの修了要件

① 文学研究科・キリスト教学研究科において各プログラムで指定した科目群から，テーマによって定められた単位数を履修し，総計12単位（選択必修4単位，選択8単位）を修得する。

② 修得した単位は，学生の所属専攻が定める修了要件単位数として参入することができる。

③ プログラム受講生の修了判定時において上記のプログラム修了要件を満たしているかを確認し，満たしている場合には文学研究科・キリスト教学研究科デュアル・プログラム「SDGsリサーチプログラム」修了証，または文学研究科・キリスト教学研究科デュアル・プログラム「人文情報・メディア学プログラム」修了証を授与する。

※詳細については，R Guide，年度初めのガイダンス資料および募集要項を確認のこと。

3 大学院特別進学制度について

文学部に所属し，2年次に文学部「SDGsリサーチプログラム」または「人文情報・メディア学プログラム」デュアル・プログラム受講を許可され，3年次に文学研究科・キリスト教学研究科「SDGsリサーチプログラム」または「人文情報・メディア学プログラム」への継続を申請する者を対象とする。

文学部3年次の秋に志願者のなかから選考により選ばれた学生が，学部4年次に文学部学生のみで文学研究科・キリスト教学研究科前期課程の講義を履修し，前期課程進学後1年で研究科が定める所定の単位数を修得し，かつ研究指導を受けた上，修士論文を提出し，修士学位審査最終試験に合格した者に修士の学位を授与する。

通常ならば学部4年と大学院2年の計6年が必要なところを，学部4年と大学院1年の5年間で学士と修士の学位が取得できることとなる。

【注意事項】

- ・学部4年次で履修する大学院科目は「随意科目」として扱う。学部の卒業要件単位に含めない。
- ・学部4年次で履修した大学院科目は，大学院博士課程前期課程1年次に進学した際に単位認定申請を行い，大学院博士課程前期課程の修了要件単位としてカウントする。
- ・学部4年次に履修する大学院科目も学部4年次の履修上限単位数に含まれる。

全学共通 科目について

2016年度以降 1年次入学者に適用

●全学共通科目とは

全学共通科目とは

2016年度以降1年次入学者に適用

立教大学では学生の4年間の学修を支援するためRikkyo Learning Styleという学びのスタイルを提供している。それは、所属する学部・学科・専修での学修が首尾一貫して進められ、立教大学が目標とする「専門性に立つ教養人」へと育成するために設計されている。その中に重要で不可欠な要素として「全学共通科目」がある。

全学共通科目には必修科目として言語系科目、選択科目として総合系科目、自由科目として言語系科目がある。学部の卒業要件単位数を示した表の科目群名称の後に「(全学共通)」と書かれている。それらの全ては、どの学部に所属していても立教大学学生の教養として持ってほしい内容、どんな学問分野にも共通して知識の基礎になる内容、自分の得意分野を社会に出て生かすために必要な道具となる内容、自分の選択した専門分野を補完するための副専攻分野を形成する内容などから成っている。いずれの科目も学生が社会に出た後さまざまな困難を乗り越えて、有為な社会人として生活していける力の源となる大切な内容を含んでいる。全学共通科目の科目群は大まかに以下のように構成されている。

言語系科目：

「言語教育科目A」(必修科目・英語※) 上級英語、英語ディスカッション、英語ディベート、英語リーディング&ライティング、英語プレゼンテーション、英語eラーニング

※一部学生(グローバル・リベラルアーツ・プログラムを除くPEACEプログラム生、法学部国際ビジネス法学科グローバルコースの外国人留学生、NEXUSプログラム生)は日本語

「言語教育科目B」(必修科目・選択言語) ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、朝鮮語、ロシア語(理学部・経営学部・コミュニティ福祉学部福祉学科を除く)、日本語(原則、留学生のみ)

「言語自由科目」(自由科目)(初級から上級に至る言語科目) 英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、朝鮮語、ロシア語、日本語(原則、留学生のみ)、日本手話、ポルトガル語(ブラジル)、インドネシア語、タイ語、タガログ語、ベトナム語

総合系科目：

「学びの精神」(選択科目) 1年次春学期履修が原則。大学生になるための訓練となる科目群。

「多彩な学び」(選択科目) 1年次秋学期から履修可能。専門性に立つ教養形成の核となる科目群。

「スポーツ実習」(選択科目) 1年次春学期から履修可能。健康維持のための運動を体得する科目群。

9月入学者は、4月入学者と履修時期が異なる。本文は以下のように読み替えること。

1年次春学期 → 1年次秋学期

1年次秋学期 → 1年次春学期

*NEXUSプログラム生(異文化コミュニケーション学部を除く)は、上記の読み替えは不要

Rikkyo Learning Styleでは、学生の入学時の目標を4年間で達成するため、あるいは、4年間で明確な目標を持って社会に出るために必要な科目を必要な時期に学べるようにカリキュラムが設計されている。専門分野の知見を確実に身に付け、同時にそれが自分の生きる力になるために、全学共通科目を有効に履修してほしい。そのためのヒントを提示する。

入学した最初の学期(ファースト・ターム)に専門科目「学びの技法」と並行して履修する「学びの精神」は、所属する学科の専門性に近い科目だけでなく、それ以外の分野の科目をも積極的に履修すること。「多彩な学び」は専門科目の履修と並行して、2年次以降も、新たな問題意識、関心が芽生えたときに、目的意識を持って履修すること。「スポーツ実習」では必要ときに健康を維持する力と知見を身に付けてほしい。「言語教育科目A」として英語を履修する学生は必修科目や自由科目を通じて、英語力の増進を図ってほしい。春学期と秋学期に無料で実施される英語力伸長度測定テストは毎年必ず受けること。「言語教育科目B」は新しく触れる言語を理解し活用できる力をつけると同時に、日本語と英語の特質を知るための手掛かりとして、また重要な知的基盤である言語への知見をさらに深める科目としても有効である。学修到達度を測るための検定試験受験料補助制度も用意されている。

2019年度以降入学した全ての学生は、1年次に「グローバル教養副専攻」に仮登録されている。ぜひ本登録に切りかえ、特定のテーマについて体系的に履修をして、「グローバル教養副専攻」を修了してほしい。言語系や総合系の全学共通科目を中心としたコースが数多く用意されている。将来のグローバル社会での活躍に備えて、有意義な学修ができるだろう。

次ページ以降の内容をよく読み、これらのヒントを踏まえて、なりたい自分、なるべき自分を目指して、自分を社会に出て有為に活躍できる「専門性に立つ教養人」に育てていくことが期待される。

全学共通カリキュラム運営センターとは：

「全学共通科目」と「グローバル教養副専攻」は全学共通カリキュラム運営センターによって運営されている。全学共通カリキュラム運営センターは全ての学部が協力し、アイディアも担当教員も出し合い、全学共通のカリキュラムを運営する組織である。全学共通科目は全ての学部が協力して構想し、実施されているので、他学部教員の担当科目がたくさんある。それらは全て、立教大学の全教員が学部の違いを超えて立教大学の全学生に身に付けてほしいと願う内容を持っており、全ての学生一人一人に向けて語りかけられている。

総合系科目

2016年度以降1年次入学者に適用

●総合系科目について

- 1 総合系科目とは
- 2 科目群
- 3 科目表
- 4 履修上の注意

1 総合系科目とは

総合系科目の特色

総合系科目は「学びの精神」、「多彩な学び」、「スポーツ実習」の3つの科目群に分かれ、導入期、形成期、完成期のそれぞれの時期に適した科目を履修することが求められる。総合系科目の全体像について、また科目群ごとの目的や特色を理解したうえで計画的な履修を期待したい。

大学に入って早い時期から専門の勉強に過度に没頭してしまうと、青年期に必須である肉体の鍛錬がおろそかになったり、豊かな情操を育む機会が狭まったり、さらには学問的視野狭窄に陥って専門の勉強そのものが頭打ちになったりする可能性も増してくる。そうしたことにならないよう、できる限り多種多様な科目を学生諸君の前に用意することで、学生生活の中で勉強やさまざまな活動の幅を広げる手伝いをしようというのが、立教大学の全学共通科目総合系科目が担っている役割である。

新入生諸君には、各学部の少人数クラスで専門の導入教育を受ける以前に、いわば知識を詰め込むだけの高校までの勉強と、考える力そのものを身に付ける大学での勉強がいかに違うかということを、理解してもらう必要がある。そのために総合系科目の中に設けられているのが「学びの精神」という科目群である。講義というものを受けて、講義内容をしっかりノートにとり自己の思考能力鍛錬の糧としていくという、高校までとは異なる大学での「主体的な学び」の姿勢を身に付けてもらうことを目標としている。そのため、積極的な授業参加を促すさまざまな仕組みが用意されている。

「学びの精神」と後述の「スポーツ実習」のみが1年次春学期から履修でき、他は「多彩な学び」として一括され、1年次秋学期以降の履修となる。「多彩な学び」は、内容によってカテゴリに分かれ、「人間の探究」、「社会への視点」、「芸術・文化への招待」、「心身への着目」、「自然の理解」、6つ目として「知識の現場」が用意されている。「知識の現場」はボランティア活動や海外でのさまざまな実践活動に学生時代に積極的に関わろうとする学生諸君を大学の側から後押しするために、学内のさまざまな部局が主体となって設けている科目である。「多彩な学び」は多様で、この「知識の現場」の大部分と「立教ゼミナール」は少人数科目、他は基本的に講義科目だが、教員は一人とは限らず、複数の教員が教える後述の「コラボレーション科目」や、外国語で教える「F科目」もある。あまりに多様なので目移りするかもしれないと考え、体系的履修を促すため、「グローバル教養副専攻」の仕組みが作られている。「グローバル教養副専攻」の「Arts & Science Course」の各テーマは総合系科目で構成されている。各テーマに登録されている科目を参考に、体系的な履修につなげていただきたい。

9月入学者は、4月入学者と履修時期が異なる。本文は以下のように読み替えること。

1年次春学期 → 1年次秋学期

1年次秋学期 → 1年次春学期

*NEXUSプログラム生（異文化コミュニケーション学部を除く）は、上記の読み替えは不要

2 科目群

[注意]

入学年度によって、カリキュラムや履修規定が大きく異なる。各自が適用されるカリキュラムや履修規定を確認のうえ、十分に注意しながら履修すること。

1. 学びの精神

「学びの精神」は、1年次春学期に履修することを前提として設けられた科目群である。この科目群は本学で学ぶ意味を追究しながら、立教大学学生としてのアイデンティティを掴み、立教大学での学修に円滑に入るよう促すことを目標としている。立教大学の建学理念に基づき、宗教や大学、人権に関する科目やグローバル化に対応した科目などを置くとともに、総合系科目として文化・思想・社会・文学・芸術・健康・スポーツ・自然などの多くのカテゴリにまたがる科目を用意した。またそのほとんどが講義科目となっており、成績評価には筆記試験が課されることが原則である。

その目的は、講義を受けた上で、学生諸君がその要点を理解して自らの考えを練り、リアクションペーパーや小レポートでそれを表現するという、高校までの勉強とは異なる大学での講義科目受講の包括的スキルを、1年次春学期のうちに体得することにある。そのため、各科目ではリアクションペーパーを添削して指導するなどの双方向的な講義が行われる場合が多い。さらに学期末に筆記試験を受験することで、大学における学修到達度チェックの仕組みを理解し、自ら主体的に学ぶ姿勢を涵養することも目指している。すなわち「学びの精神」は、学生諸君に立教大学での基本的な学びのあり方を経験し、理解してもらうために、設けられた科目群なのである。「学びの精神」を受講することで、全ての学生が立教大学学生の一員としての自覚を持ち、またその大学生生活の順調な滑り出しを果たすことができるものと考えている。

9月入学者は、4月入学者と履修時期が異なる。本文は以下のように読み替えること。

1年次春学期 → 1年次秋学期

1年次秋学期 → 1年次春学期

*NEXUSプログラム生（異文化コミュニケーション学部を除く）は、上記の読み替えは不要

2. 多彩な学び

「学びの精神」において立教大学における基礎的な学修方法を習得したことを前提に、「多彩な学び」では、幅広い学問分野に触れることが期待されている。「多彩な学び」は「1. 人間の探究」「2. 社会への視点」「3. 芸術・文化への招待」「4. 心身への着目」「5. 自然の理解」「6. 知識の現場」からなる。各科目は学部等の科目提供元ごとに異なる特徴を持っており、学生が4年間で自分の専門以外のさまざまな学問分野に触れ、専門とは異なる正に「多彩な」思考様式や問題意識、知識等を習得することを目的としている。

1 人間の探究

このカテゴリでは、思想・文化・言葉という側面から私たち人間の知に迫っていく。過去に書かれたさまざまな文献を読む、あるいは現代社会に広がるさまざまな事象を集め、そこから考えるという方法が、その中心に位置づけられるだろう。

立教大学の建学の精神を支えるキリスト教については、聖書の内容などを学ぶことによって、その人間観や思想に迫る。古くから人間の生について考えてきた哲学や思想についても、古典の読解などを通して考察を深める。また残された史料に基づき構築されてきた歴史学についても、さまざまな文献を通して理解を深めていく。

もちろんこうした過去の文献に主に依拠した学問ばかりでなく、現代のさまざまな地域で個性的に育まれた地域文化を学ぶ科目や教育・人権といった現代的課題について洞察を深める科目も用意するなど、温故知新の精神を養うと同時に、先端的な知への好奇心をも満足させるよう工夫してある。

これらの科目を広く履修することで、現代人に求められる「教養」とは何かを問い、それをしっかりと自分のものにして欲しい。

2 社会への視点

このカテゴリでは、社会という側面から人間の営みに迫っていく。個人と社会、他者との関わり方を、法学・政治学・経済学・経営学・社会学などが築いてきた方法を手がかりにして分析することを、目的とする。近年、政治や経済、そして日常生活さえも、それぞれが複雑な仕組みを抱え、その本質を見極めることが難しくなっている。

このカテゴリで学ぶ「社会への視点」とは、「私たちがどのような歴史を作ってきたのか」という過去に学びながら、さらに「これから私たちがどこへ向かおうとしているのか」という、未来にまで含めた視野のなかで物事を見ていこうとするものである。情報と倫理の問題や平和・人権・環境など、私たちに切実な問題についても、このカテゴリで多くを学ぶことができる。これらの科目を履修することで、社会をひとつの角度から見るだけでなく、さまざまな角度から見つめ直していく視点が身に付くことになるだろう。

3 芸術・文化への招待

このカテゴリでは、人類が生み出してきた文学・美術・音楽・演劇・映像・建築などの作品を対象として、作品の作り手と受け手との緊張をはらんだ関係、あるいは作品を取り巻く社会的諸関係の実相に迫る。文学・芸術の作品に、理性と感性とを総動員して向かい合うことが、その特色である。

このカテゴリに属する科目は、単に作品の創作や実演を目的とするものだけではない。作品が生成される歴史的背景や、それぞれの芸術分野における理論を理解し、一人一人が考察を深めることが求められる。また文学作品などの考察を通じて、作品を生み出した社会に生きる人びとの実態にまで迫ることが必要である。さらには、映画・演劇・美術などの表象文化を多角的に検討することも求められる。こうした多くの要求にかなった科目を配置することで、「多彩な学び」に相応しい科目を用意した。これら科目の受講により、文化・芸術などの創造・鑑賞を志す学生には、幅広いその土台を提供することになるだろう。

4 心身への着目

このカテゴリでは、相互に影響しあっている「心」と「身体」の問題を幅広くとらえ、心理学、メディア学、健康科学、スポーツ科学の分野から理解を深めていく。

現代社会では、さまざまなストレスの中で日常生活を送っており、心身の健康がより良く生きるための重要な要因となっている。健全な身体を有している者でも、心的症状に悩まされることがあるが、規則正しい生活と運動により自律神経のバランスが取れると、その症状が治る場合がある。心と身体は、このように密接な関わりを持っている。

心身に関わるテーマに、心理・メディアの分野では「認知」、「行動」、「発達」、「心の健康」などの側面から、健康・スポーツの分野では「医学」、「社会学」、「運動学」、「栄養学」などの側面から迫るとともに、映像論、身体論の視点も取り上げる。このように、積極的に心身の問題を掘り下げて理解することを目的としている。

5 自然の理解

このカテゴリでは、人類が今までの歴史の中で得てきた科学的な知識とその基盤、およびそれらが現代の私たちにどのように密接に結びついているのかを考える。

人間は、人類としてこの世界に現れるとすぐに自然を認識し、「我々の住む世界はどのようになっているのか」、「世界を作っている基本的なものは何か」、「世界を支配する法則はどのようなものか」、「なぜ、この世界は多様な生命体で満たされているのか」などの素朴な疑問を持ち続けてきた。そして、長い歴史の中で「自然哲学」を発展させ、これらの疑問に「科学」として答えようと現在でも努力し続けている。自然界で起こっている現象の理解は日々進展し、私たちの世界観は大きく変わりつつある。

それを踏まえてこのカテゴリでは「自然の法則を記述する数学」やその「数学自身の語る世界」、世界とは何かという問いに答えて導き出された「宇宙の構造」、「身近な物質の化学構造と反応」やその構造を支配する「物理の基本法則」、「物質変換の基本原理」、生命現象の中核をなす「遺伝子と生命」および「生命の歴史」、さらには「生物の行動メカニズム」や「生命の多様性」、「人間と自然との関わり」、「人の心と体の科学」などについて学ぶ。

現代における「自然の理解」の必要性は、理系の仕事に携わる人だけにとどまるものではない。人類が作り出してきたさまざまな物質や技術は毎日の生活に大きな影響を与えており、私たちはこれらの事柄に対して無知ではいられなくなってきている。その意味で、私たちにとって自然の理解はますます重要になってきているといえる。

6 知識の現場

このカテゴリでは、大学の内外で作業を行う知的活動を通して、問題解決能力を養うとともに、現場経験から知識が構築されるプロセスに立ち会う。立教大学の社会的な使命や課題を強く意識した全学的な取り組み（プロジェクト）のために設けられている科目群で、学外特に海外でさまざまな実践活動に携わろうとする学生がそうした活動を学業の一部に取り込むことが可能となるように、「総合系科目」の伝統的なルールの外で、プロジェクトの各担当部局がほぼ独自に科目を編成している。「多彩な学び」は1年次秋学期以降の全学年で所属学部にかかわらず履修できるのが原則だが、「知識の現場」に限っては、「積み重ね型」のカリキュラムであることが多いため、履修できる学部・学年が特定されていたり、先修規定があったり、語学能力等で事前に参加が制限されたりすることがある。多くは人数制限科目であり、単位認定の仕方も「多彩な学び」の他の科目と異なる場合がある。

3. スポーツ実習

スポーツ実習の目的は、以下の2点に要約される。

- 1) 健康を維持・増進させるための科学的知識を理解し、スポーツの実践を通じて健康づくり、運動不足の解消、体力の向上を目指す。
- 2) スポーツは言語や国境を越えて人類が今日まで築き上げた文化であり、国際人の基礎教養として、あるいは国際交流の手段として、その役割は大きい。スポーツの文化的側面を理解し、同時にその実践を通じて現代人に必要とされるコミュニケーション能力、バランスの取れた理性的確かな判断力を養成する。

スポーツプログラム

「スポーツプログラム」は1単位科目で、スポーツ実践を通して、それぞれの種目の運動技術を高め、その種目を楽しむ素養を身に付ける。実技中心の科目であるが、「運動と栄養」、「トレーニング方法」など、健康の維持増進に関連した講義も併せて行うものとする。加えて、スポーツパーソンシップ、コミュニケーションづくりについても学ぶ。

スポーツスタディ

「スポーツスタディ」は2単位科目で、スポーツプログラムの目的に加えて、授業全体の3分の1程度の時間を使い、それぞれのスポーツについての講義を行う。また、各担当者から課せられるレポートやテストにより、スポーツ文化、スポーツ科学等に対する理解を深め、同時に健康維持・増進のための方法論を学ぶ。


「多彩な学び」は、広い範囲の学問分野の全体像を俯瞰できるように、多様な科目群で構成されている。これにより、専門分野の枠を超えた幅広い知識と教養、総合的な判断力を養うことを目的としている。

また、「多彩な学び」では、各カテゴリの科目紹介にあるような科目が開講されるが、次のような特色のある科目が開講される(R Guideの科目表には、これらの科目名欄に、科目の特色を示す「F、J」などの目印が記されているので、履修計画を立てる際には大いに活用してほしい)。

▶外国語による総合系科目 (F科目)

F科目とは外国語(主に英語)による総合系科目である。授業は、外国語(主に英語)で行われる。世界中の人とコミュニケーションを取るためには、単に言語を学ぶだけでは不十分であり、外国の事情を知ることや日本の事情を外国語で伝えられるようになることが求められる。F科目には3つのレベル(導入、中級、上級)がある。導入は「学びの精神」で開講され、授業中の使用言語は原則として日本語中心だが、英語教材を使用し、英語で学ぶことを体験する。中級・上級は「多彩な学び」で開講され、すべて外国語で実施されるが、英語以外の外国語で開講される科目もある。授業は、英語で開講される場合には、中級はTOEIC®L&R 550点相当、上級は700点相当の英語力を有していることを前提に実施される。その他の外国語の場合は別途定める。

異文化間のコミュニケーションや日本研究に興味を持つ学生はもちろん、留学を計画している学生にとっても、有用な科目である。

▶日本語による日本研究科目 (J科目)

J科目とは、「多彩な学び」として開講する科目の中で、とりわけ日本の歴史、政治、社会、文学、法律などを日本語で深く学ぶことを目標に据える科目である。この科目を通して、日本の文化・社会・自然などについて改めて学び直し、グローバル教養人にふさわしい日本についての知識を身に付けることを目的とする。

▶コラボレーション科目

専攻分野の異なる複数の教員が協力し、特定の主題に個々の学問の枠を超えたさまざまな角度からアプローチし、受講生を巻き込みながら互いに議論を戦わせることで、知的刺激を与えあう場をつくり出そうというのが「コラボレーション科目」の狙いである。現在の大学のカリキュラムは、言語のほかに早い段階から専門の導入教育を徹底的に行う仕組みになっている。専門教育の内容が日々高度化していく状況を考えれば当然のことだが、それゆえに大学生らしい総合的な思考能力を養う機会を逸しがちで、この点を補うために「総合系科目」が作られたわけである。「コラボレーション科目」はこの「総合系科目」の教育目標をそれ自身だけで体現する科目として位置づけられる。元々は、立教大学の伝統ともいえる、分野の異なる大学教員が教員室等で交わす雑談や、さらには海外では盛んな「学際的研究」の試みを、そのまま授業にしてしまおうということで作られた科目である。ゆえに、教壇に立つ教員、ゲスト・スピーカーは特定の分野を背景に持つ研究者であることが原則だが、受講生に身近な主題が選ばれる場合は、経験豊かな社会人や本学の職員、卒業生といった人々も積極的に参加して、議論を

盛り上げるのが常である。ネットで断片的な知識ばかり得ている受講生にとって、専門が異なる生身の人間が本気で議論する現場に参加することは自己形成の大きな糧となろう。コラボレーション科目はテーマに応じて1～5カテゴリに位置づけられている。

▶ 立教ゼミナール

立教ゼミナールは、学生と教員、また学生同士で積極的に議論できるように、少人数で授業が行われる。すべて専任教員が担当し、多彩な学びの1～5カテゴリにまたがるさまざまなテーマが用意されている（「立教ゼミナール発展編」は除く）。

この科目では、異なる学部・学年の履修者たちが、一つのテーマをめぐってさまざまな立場から「議論する」ことが可能である。この特徴を生かし、自らの専門領域にとらわれない広い視野を持ち、立場の異なる相手を尊重しながら、自らの意見を論理的に主張できる能力を高めることを狙いとしている。この科目を通して、あらゆる分野の学生に必須の「聞く」「調べる」「考える」「書く」「発表する」といった基本的能力を涵養するとともに、自らの興味・関心を深く掘り下げて欲しい。

「立教ゼミナール発展編」は、いわゆる超学際的テーマを扱うので、3～4年次生の履修を推奨している。1～2年次生の履修を妨げないものの、大学生活の完成期に学修することが期待される。

▶ GLP科目（グローバル・リーダーシップ・プログラム）

GLP科目は、少人数のプロジェクト型学修等を通じて体系的・段階的にリーダーシップを身に付けるプログラムである。「学びの精神」科目として開講している「GL101」では、受講生は企業等から与えられた課題に少人数のチームで取り組み、自分の持ち味を生かしたリーダーシップのあり方に気付く。「多彩な学び」科目として開講しているGLP科目では、質問力を生かしたリーダーシップ開発、他者のリーダーシップ開発を目的とした科目、留学生などと一緒にリーダーシップスキルを磨く英語開講の科目も用意されている。

▶ RSL科目（立教サービ斯拉ーニング）

RSL科目には、大きく分けて、講義系科目と実践系科目の2種類がある。講義系科目では、「大学での学び方」「シティズンシップ」「公共的な課題解決」などのテーマについて、理論と事例の両面から学ぶ。実践系科目では、実際に国内外のフィールドに出掛けて、各科目のテーマについて「体験」を知識や理論に関連付けながら、学びを深める。人によって意見が異なる社会的課題について、学生が現場で体験し、その事柄を専門的に学び合う環境が用意されている。

3 科目表

[注意]

下記の科目表は入学年度4月時点のものである。担当者、開講学期、配当年次、登録方法を含む最新の科目表はR Guideで確認すること。また次年度以降はR Guideの全学共通科目総合系科目 科目表と過年度に開講されていた総合系科目一覧を確認すること。

科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位
学びの精神					
世界史の中のキリスト教	2	思想を生み出すキリスト教	2	美術の中のキリスト教	2
音楽の中のキリスト教	2	文学を生み出すキリスト教	2	国際社会の中の宗教	2
現代社会の中の宗教1	2	現代社会の中の宗教2	2	人文学からの学び(文学)	2
人文学からの学び(思想・教育)	2	人文学からの学び(史学)	2	芸術への扉	2
グローバル経済社会を考える	2	学びの場としての社会	2	メディアからみる学び	2
社会学からの学び	2	法と政治の世界	2	経営学への招待	2
現代社会と観光	2	現代社会の諸相	2	自然科学の探究	2
身体科学からの学び	2	現代心理学からの学び	2	アジア地域での平和構築	2
グローバル社会での平和構築	2	大学生の学び・社会で学ぶこと	2	人権とジェンダー	2
ライフマネジメントと学生生活	2	立教大学の歴史	2	西欧キリスト教社会における大学の誕生	2
キャリアデザイン	2	キリスト教史に学ぶ多文化共生	2	美と生命について:キリスト教の美学	2
愛について:キリスト教の倫理と哲学	2	GL101	2	University Education in the World	2
教養の扉をひらく	2	多文化共生社会と大学	4	Image Studies	2
Economy and Society	2	英語によるビジネスコミュニケーション入門	2	異文化コミュニケーション学からの学び	2
なぜ外国語を学ぶのか?	2				
多彩な学び					
<1. 人間の探究>					
聖書と人間	2	聖書考古学	2	ジェンダーとキリスト教	2
イスラームの世界	2	仏教の世界	2	日本の宗教	2
「宗教」とは何か	2	現代社会と人間	2	哲学への扉	2
論理的思考法	2	教育と人間	2	歴史への扉	2
地域研究への扉	2	教育学への扉	2	多文化の世界	2
文化を生きる	2	日本文化と精神性	2	人権思想の根源	2
手話と人権を考える	2	点字から考える人権	2	アジアの文化とことば	2
ヨーロッパの文化とことば	2	ラテンアメリカの文化とことば	2	ロシア・東欧の文化とことば	2
中東の文化とことば	2	アフリカの文化とことば	2	イタリアの文化とことば	2
ドイツ語圏の文化	2	フランス語圏の文化	2	スペイン語圏の文化	2
中国語圏の文化	2	朝鮮語圏の文化	2	Japanese Ethnology	2
立教ゼミナール1	2	立教ゼミナール発展編1	2	睡眠文化論	2
ボランティア論	2	World History	4	現代社会における言葉の持つ意味	2
ジェンダー・宗教・社会	2	哲学対話 in Rikkyo	2	Religions in Asia	2
多文化共生社会と日本	4	Peace and Human Rights 1	1	Peace and Human Rights 2	1
International Humanities 1	2	International Humanities 2	2	Introduction to Gender Studies	2
多文化社会と異文化コミュニケーション	2	立教学院とポール・ラッシュ	2	子どもの権利から考える国際協力	2
<2. 社会への視点>					
入門・経済教室	2	世界経済と日本	2	統計情報で社会・経済を診断する	2
景気・格差問題と統計情報	2	日本国憲法	2	法と社会	2
政治と社会	2	グローバル社会における法と政治	2	現代のビジネスを学ぶ	2
企業と社会	2	現代社会と環境	2	情報と倫理	2
近代日本社会と人権	2	メディアと人間	2	文化と社会	2
現代社会の解読	2	いのちの尊厳と福祉を考える	2	コミュニティをデザインする	2
観光学への誘い	2	シティズンシップを考える	2	経験から学ぶ、世界とつながる	2
対話を学ぶ	2	大学と現代社会	2	日本の「多文化」政策を問い直す	2
世界の中のロシア	2	パレスチナ問題の歴史と現在	2	国際情勢を読み解く	2

科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位
ドイツ語圏の社会	2	フランス語圏の社会	2	スペイン語圏の社会	2
中国語圏の社会	2	朝鮮語圏の社会	2	Modern Japanese History 1	2
Modern Japanese History 2	2	Japanese Politics & Economy 1	2	Japanese Politics & Economy 2	2
Japanese Relations in Asia 1	2	Japanese Relations in Asia 2	2	Japanese Society 1	2
Japanese Society 2	2	Tokyo Studies	2	Political Sociology	4
Economic Thought	4	University in Modern Society	2	Career and University Education in the Global World	2
Saitama Studies	2	社会調査入門	2	社会調査の技法	2
データ分析入門	2	データの科学	2	多変量解析入門	2
Introduction to Statistics 1	2	Introduction to Statistics 2	2	データサイエンス入門	2
データサイエンス応用	2	立教ゼミナール2	2	立教ゼミナール発展編2	2
RSLゼミナール	2	SDGsと現代社会の課題と其の関わり方入門	2	SDGs×AI×経済×法	2
異文化コミュニケーションを考えるA	2	異文化コミュニケーションを考えるB	2	異文化コミュニケーションを考えるC	2
Humans and Other Animals	2	The Dignity of Life and Welfare	2	Food Cultures and the Acceptance of Japanese Food in the World	2
Selected Topics in Intercultural Communication A	2	Introduction to the Social Survey	2	Introduction to Multivariate Analysis	2
Introduction to International Cooperation	2	Selected Topics in Intercultural Communication B	2	Introduction to Sociology	2
Business Communication	2	Introduction to Tourism Studies	2	Learning and Teaching Today 1	1
Learning and Teaching Today 2	1	Global and Japanese Political Economy 1	2	Global and Japanese Political Economy 2	2
Knowledge and Society 1	1	Knowledge and Society 2	1	Japanese Society and Culture 1	2
Japanese Society and Culture 2	2	Knowledge, Design, and Innovation	2	持続可能性の理論と実践	2
ファミリービジネスの可能性	2	大衆演劇の世界	2	立教卒業生の「社長の履歴書」	2
世界を動かす変革のチカラ	2	環境学のすすめ	2	福島原発事故と社会の持続性	2
持続可能な公共サービス提供体制の構築	2	グローバルシティ・ソウルを読み解く	2		
< 3. 芸術・文化への招待 >					
文学への扉	2	表象文化	2	美術の歴史	2
美術と社会	2	音楽の歴史	2	音楽と社会	2
美術論演習	2	音楽論演習	2	キリスト教美術	2
キリスト教音楽	2	日本の美術	2	日本の音楽	2
都市と芸術	2	建築と文化	2	舞踊論	2
映像と社会	2	身体表現と哲学	2	日本の演劇	2
ドイツ語圏の文学	2	フランス語圏の文学	2	スペイン語圏の文学	2
中国語圏の文学	2	朝鮮語圏の文学	2	Japanese Culture 1	2
Japanese Culture 2	2	Japanese Arts A	2	Japanese Arts B	2
Literature and Society	4	Culture and Fine Arts	4	立教ゼミナール3	2
立教ゼミナール発展編3	2	The Psychology of Literature 1	1	The Psychology of Literature 2	1
Exploring Children's Literature	2	Techniques for reading and enjoying a picturebook in English	2	International Humanities 3	2
演芸の世界	2	観光と文学	2	Topics in Humanities and Arts	2
< 4. 心身への着目 >					
認知・行動・身体	2	心の科学	2	パーソナリティの心理	2
対人関係の心理	2	心の健康	2	身体パフォーマンス	2
ストレスマネジメント	2	癒しの科学	2	スポーツの科学	2
健康の科学	2	栄養の科学	2	アンチエイジングの科学	2
スポーツとメディア	2	スポーツと社会	2	スポーツと文化	2
レジャー・レクリエーションと現代社会	2	アウトドアの知恵に学ぶ	2	Japanese Mind	2
Health and Wellness	4	立教ゼミナール4	2	立教ゼミナール発展編4	2
Individual Differences in Psychology	2	いのちを健康で彩る智慧	2	Understanding Speech Sounds 1	1
Understanding Speech Sounds 2	1	Applied Data Science with the focus on Sport and Wellness	2	Health Science	2

科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位
<5. 自然の理解>					
数学の世界	2	宇宙の科学	2	生命の科学	2
物質の科学	2	身近な物質の化学	2	化学と自然	2
化学と社会	2	行動の科学	2	生命の歩み	2
地球の理解	2	情報科学A	2	情報科学B	2
自然環境の保全	2	生物の多様性	2	地球環境の未来	2
自然と人間の共生	2	脳と心	2	オーダーメイド医療最前線	2
大学と科学技術	2	Science Studies	2	Nature of the Earth	4
立教ゼミナール5	2	宇宙から地球の未来を考える	2	Understanding of Agricultural Science	2
Importance of Global Plant Health	2	Ecology: Environment and Sustainability 1	1	Ecology: Environment and Sustainability 2	1
カーボンニュートラル人材育成講座	2	Topics in Environment	2	Topics in Natural Science	2
<6. 知識の現場>					
GL102	2	GL103	2	GL104	2
GL111	2	GL201	2	GL202	2
国連ユースボランティア	12	海外ワークエクスぺリエンス1	1	海外ワークエクスぺリエンス2	2
陸前高田プロジェクト	2	グローバルワークエクスぺリエンス (オンライン)	1	RSL-グローバル (フィリピン)	2
RSL-コミュニティ (池袋)	2	RSL-コミュニティ (埼玉)	2	RSL-ローカル (南魚沼)	2
RSL-ローカル (陸前高田)	2	RSL-ローカル (地域共生)	2	RSL-グローバルA	2
RSL-グローバルB	2	国際的協働のためのキャリア実践	2	ACEパートナー大学オンライン (SNU)	2
ACEパートナー大学オンライン (PKU)	2	ACEパートナー大学オンライン (NUS)	2	ACEパートナー大学オンライン (RIK)	2
スポーツ実習					
スポーツプログラム					
スポーツプログラム1	1	スポーツプログラム2	1	スポーツプログラム3	1
スポーツプログラム4	1				
スポーツスタディ					
スポーツスタディ1	2	スポーツスタディ2	2	スポーツスタディ3	2
スポーツスタディ4	2	スポーツスタディe	2		

4 履修上の注意

1. 「多彩な学び」科目群の履修について

「多彩な学び」科目群の履修については、原則1年次秋学期より履修が可能である。9月入学者については、入学した翌春学期より履修が可能である。

2. 履修登録上限単位数

全学年において、「学びの精神」科目群「多彩な学び」科目群「スポーツ実習」科目群を全て合計して春・秋学期それぞれ6単位以内とする（ただし、「国連ユースボランティア」科目を履修する場合は除く）。なお、履修登録上限単位数には、履修登録した科目で、単位を修得できなかった科目も含まれる。また、「海外ワークエクスぺリエンス1・2」科目の登録上限の扱いについては、R Guideを参照すること。

4年次生は、原則秋学期の授業終了日以降に集中して授業を行う科目を履修することはできない。詳細はシラバスやR Guideの全学共通科目表で確認すること。

3. 同一科目の重複履修

「学びの精神」科目群「多彩な学び」科目群「スポーツ実習」科目群の全ての科目に関し、同一科目は、学期を変えれば重複履修することはできる。その場合には最初に修得した1科目のみが卒業要件単位として認められ、2回目以降に修得した単位は随意科目となり、卒業要件単位には算入されない。なお、成績証明書には履修した全ての科目の成績が記載される。

同一科目とは、科目の名称（番号までを含む）、単位数が同一の科目である。したがって、担当者が同じでも科目の名称が一部でも異なる場合には別科目となる。逆に、担当者、タイトルや授業の内容が異なっても、科目の名称が同じであれば、同一科目であり、2度以上履修した場合には、最初に修得した1科目のみが卒業要件単位となる。

（例）「グローバル社会における法と政治」〈現代中国の政治を知る〉（倉田 2単位）	}	同一科目
「グローバル社会における法と政治」〈法の世界を学ぶ〉（高橋 2単位）		
「スポーツスタディ4」〈ネイチャーキャンプ〉（濁川 2単位）	}	同一科目
「スポーツスタディ4」〈スキーA〉（濁川 2単位）		
「現代社会の中の宗教1」〈バイオエシックスとキリスト教と日本社会〉（柳堀 2単位）	}	別科目（数字が異なるため）
「現代社会の中の宗教2」〈古典と文学作品〉（阿部 2単位）		

4. 卒業要件とはならない科目

法学部の学生は、「学びの精神」科目群の「法と政治の世界」と「多彩な学び」科目群『2 社会への視点』の「法と社会」「政治と社会」を履修しても卒業要件単位とはならない。また、「日本国憲法」は履修対象外（履修不可）科目となるので注意すること。

社会学部の学生は、「多彩な学び」科目群『2 社会への視点』の「社会調査の技法」「社会調査入門」は履修対象外（履修不可）科目となるので注意すること。

経営学部の学生は、「多彩な学び」科目群『6 知識の現場』の「GL101」, 「GL104」は履修対象外（履修不可）科目となるので注意すること。

言語系科目

2024年度以降 1 年次入学者に適用

●言語系科目について

- 1 言語系科目とは
- 2 必修科目に関する特別措置
- 3 履修免除（単位認定）者等の自由科目に関する特別措置

●必修科目

- 1 英語
- 2 ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語（理学部・経営学部・コミュニティ福祉学部福祉学科を除く）
- 3-1 日本語（文学部文学科ドイツ文学専修・フランス文学専修・法学部国際ビジネス法学科グローバルコース以外の外国人留学生のみ）
- 3-2 日本語（PEACEプログラム生、法学部国際ビジネス法学科グローバルコースの外国人留学生）
- 3-3 日本語（NEXUSプログラム生）
- 4 指定年次・学期以後の単位修得方法—必修科目が不合格になったら（英語）
- 5-1 指定年次・学期以後の単位修得方法—必修科目が不合格になったら（ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語・日本語）
- 5-2 指定年次・学期以後の単位修得方法—必修科目が未履修となったら（ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語・日本語）

●自由科目

- 1 自由科目 履修上の注意
- 2 英語
- 3 ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語
- 4 日本手話・ポルトガル語（ブラジル）・インドネシア語・タイ語・タガログ語・ベトナム語
- 5 自由科目 科目表

1 言語系科目とは

言語系科目の特色

言語系科目では、主に少人数クラスでの聞く・話す・読む・書くという基本的技能の訓練を通じて当該言語による専門的または日常的なコミュニケーションを可能にし、異文化対応能力を獲得する。

グローバル化が進む現代の社会を生きるには、様々な文化的背景を持つ人々を他者として認め、互いに理解し合う寛容の態度と能力が欠かせない。それを養う基本は言語である。立教大学の学生は、原則英語を含めて2つの言語を必修科目として履修する。2つの言語を学ぶ目的は、国際的なコミュニケーションが日常的に行われるようになった現在の世界で必要不可欠な言語である英語の力を磨くとともに、英語以外のもう1つの言語を学び、英語圏以外の国・地域の人々が築き上げてきた社会や文化、ものの考え方などに言語を通して触れ、世界が多文化であることへの理解を深めることで、多様な視点を獲得するところにある。※PEACEプログラム生（一部除く）、法学部国際ビジネス法学科グローバルコースの外国人留学生、NEXUSプログラム生は日本語1言語のみ必修科目として履修する。

全学共通科目言語系科目は、必修科目と自由科目に分かれる。

英語の必修科目は、大多数の学生がすでに中学校・高等学校で学んできた知識と経験をもとに、基本的技能の運用能力を鍛える科目である。一方、自由科目は、学修をさらに積み重ねることで、英語を通して多文化社会の現状を理解し、英語で議論し発信する能力の獲得をめざす科目である。

英語以外のもう1つの言語は、ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語（理学部・経営学部・コミュニティ福祉学部福祉学科を除く）・日本語（原則、文学部文学科ドイツ文学専修・フランス文学専修以外の外国人留学生のみ）の中から、学生が自らの関心や将来の計画に応じて選択する。多くの学生にとってこれらの言語は大学入学後に初めて学修する言語であるため、必修科目は基礎作りからスタートする。一層の学修を望む学生のために、それぞれの言語に自由科目が用意されている。

グローバル教養副専攻「Language & Culture Course」は、各言語にそれぞれ用意されている（英語には複数のコースがある）。言語と文化の学修をさらに深めたいと希望する学生は、多様な自由科目の中から指定科目を規定単位以上修得し、グローバル教養副専攻「Language & Culture Course」を修了することができる。

1. 必修科目

言語Aと言語B

1年次で履修する言語A「英語」と、言語B「ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語（理学部・経営学部・コミュニティ福祉学部福祉学科を除く）・日本語（原則、文学部文学科ドイツ文学専修・フランス文学専修以外の外国人留学生のみ）」の中から選択した1言語」の計2言語が、必修科目として履修しなければならない科目である（学部・学科・専修により選択できない言語がある場合や、特定の言語が指定されている場合がある）。言語Bについては入学手続き時に希望を提出済みであり、履修登録状況画面にて通知されるので、それに従うこと。なお、入学手続きの手引にもあるとおり、言語Bについては母語を履修してはならない。

ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語（理学部・経営学部・コミュニティ福祉学部福祉学科を除く）については、すでに一定の学習歴がある者（既習者）に対して、本人の希望があれば、検定試験のスコアをもって、必修科目の全ての単位を認定し、履修を免除することができる。

学習歴把握のため、以下の(1)~(3)のいずれかに該当する者は、授業開始前に所属キャンパスの教務窓口まで申し出ること。

- (1) 入試科目を英語以外の外国語科目で受験した者。
- (2) 中学校・高等学校、あるいは海外などで、英語以外の外国語を主として学習してきた者。
- (3) 外国人留学生入学試験により入学した、英語を母語としない者で、かつ英語学習歴がない者。

2. 自由科目

自由科目は必修科目に加えて、さらに学修したいと望む学生のために用意されている。学生がそれぞれの専門分野、関心、将来の目標など、言語を継続学修する多様な目的に対応できるよう各言語で以下の領域に基づいた自由科目を展開する。 **1 自由科目履修上の注意** に従い修得した単位は、各学部の規定の範囲内で卒業要件単位として認められる。

① 英語

グローバル・コミュニケーション領域、グローバル・スタディーズ領域、グローバル・キャリア領域の3領域を設けている。

② 言語B

留学準備領域、プロジェクト領域、キャリア領域、アカデミック領域の4領域を設けている。

2 必修科目に関する特別措置

1. ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語(理学部・経営学部・コミュニティ福祉学部福祉学科を除く)の既習者

ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語(理学部・経営学部・コミュニティ福祉学部福祉学科を除く)を必修科目として履修することになった者で、すでに一定の学習歴がある者は、検定試験のスコアをもって、当該言語必修科目の単位を認定し(評価は「認定」とする)、履修を免除する場合がある。希望者はR Guideで申請手続きの方法・日程・申請基準等を確認の上、審査を受けること。原則として、免除された者は言語自由科目(第3言語を含む)を履修することとする。

なお、ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語(理学部・経営学部・コミュニティ福祉学部福祉学科を除く)学習経験者(初級修了程度)で、入学時の言語選択の際、当該言語の履修を希望し選択していたにもかかわらず、履修が認められなかった者は、言語の変更を認める場合がある。

2. 文学部への転部・転科(専修)者

文学部文学科ドイツ文学専修または文学部文学科フランス文学専修3年次へ学内転部・転科(専修)した者で専修指定の言語Bを4単位修得していない者については、当該言語の言語Bの不足単位数分の単位を認定し、履修を免除する。評価は「認定」とする。

3. 外国人留学生

外国人留学生(外国人留学生入試による入学者)^{*}は、原則として言語Aは英語、言語Bは日本語(文学部文学科ドイツ文学専修・フランス文学専修を除く)を履修する。ただし、日本語プレイACEMENTテストの結果によっては、言語Bで日本語以外の言語「ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語(理学部・経営学部・コミュニティ福祉学部福祉学科を除く)」を選択することができる。言語Bとして日本語以外の言語を選択し、その既習者(母語話者は不可)として必修科目に関する特別措置を希望する学生は、**2 必修科目に関する特別措置** 1項を参照すること。

^{*}法学部国際ビジネス法学科グローバルコースの外国人留学生は言語A、言語Bともに日本語を履修し、日本語以外の言語を選択することはできない。

4. ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語
必修科目履修辞退制度について
- 1年次春学期の必修科目を1単位も修得出来なかった学生については、秋学期の必修科目の学修に困難が生じ、効果があがらないことがある。このような場合、順を追って必修科目を履修する方がより効果的な場合もあるため、本人の願い出に基づき、全学共通カリキュラム運営センターが必要と認めた場合に、1年次秋学期に履修する必修科目の履修辞退を認めることがある。必修科目の辞退が認められた場合は2年次以降に1年次必修科目全科目を再履修クラスにて単位を修得することとなる。また履修辞退が認められた科目の単位は、履修登録上限単位数には含まれない。必修科目の履修辞退を希望する学生は、R Guideを確認の上、所定の期間に手続きすること。
- ただし、文学部文学科ドイツ文学専修および文学部文学科フランス文学専修の学生については本制度は適用されない。

3 履修免除（単位認定）者等の自由科目に関する特別措置

1. 言語B
言語B必修科目履修免除（単位認定）者は、配当年次に達していない場合でも、1年次から言語の自由科目の履修を認める。
2. 自由科目の履修登録受付
上記1. で、配当年次に達していなくても自由科目の履修が認められた場合は、4月、9月上旬に登録申請を行うこと。詳細はR Guideで確認すること。

1 英語

1. カリキュラム
概要

現代社会においては、変化の激しい世界の状況を正しく認識する力と、各自が生まれ育った文化や社会環境を理解し、それらを基にして自らの意見を積極的に発信していく能力が必要とされる。さらに、グローバル化した社会においては、世界に広がる多様な文化を偏見のない視線で分析して受容する力を培うことが大切である。必修英語では、このようなグローバル社会に対応した総合的かつバランスのとれたコミュニケーション能力を育成することを目的としている。

この目的を実現するために、グローバル社会で必要とされる、自らの意見を英語で発信していく能力（話す力、書く力）を積極的に伸ばしつつ、発信する上で必要不可欠な情報収集を英語で的確に行えるよう受信力（読む力、聴く力）の強化を行っていく。発信型授業の一つは、意見交換のスキルの向上を目指す1クラス10名程度の「英語ディスカッション」である。授業は基本的表現の練習から始まり、その日の授業の後半では扱ったトピックについて自分の意見を英語で表現できるように訓練する。二つ目は「英語ディベート」で、さまざまなテーマについて肯定側、否定側に分かれて議論することを通して、論理的思考力・批判的思考力・情報収集力を伸ばすだけでなく、他者と建設的に議論をする力を養っていく。三つ目は「英語プレゼンテーション」で、構成法をはじめとしたプレゼンテーション・スキルの習得を集中的に行い、社会問題や異文化理解等のさまざまなトピックについて自分の意見を口頭で発表する力をつけていく。受信力と発信力を有機的に組み合わせた「英語リーディング&ライティング」では、良質な文章を的確に読む訓練をしながら、アカデミックな文章作成のルールに従って自分の考えを論理的にまとめる発信力を培っていく。そして「英語eラーニング」で、PCを用い各自の関心ならびにペースに合わせた学修で効率的に読む力、聴く力を訓練していくとともに、定期的なグループ学修を通して受信力と発信力の両方を伸ばしていく。

また、一定以上の英語力をもつ学生には上級クラスが用意されている。上級クラスの「英語ディスカッション」では、より抽象度の高いトピックについて効率的に話し合う力を養っていく。「英語ディベート」では、より高度な内容のテーマについて、より深く掘り下げて考え、議論する力を身に付けていく。さらに、英語でアカデミックな論文が書けるよう訓練していく「上級英語1（リーディング&ライティング）」、そして更にアカデミックなテーマで課題に取り組む「上級英語2（プロジェクト英語）」を通して英語で学問領域を学ぶ基礎を築いていく。このように、必修英語のクラスを通して、英語で社会問題やアカデミックな話題に関する情報を調べ、話し合い、考え、発信する方法を学びながらオールラウンドな英語運用能力を身につけると同時に、社会的・学術的テーマを批判的かつ多角的に分析し、理解する能力を身につけることが期待される。入学者が保有する英語スコアをもとに、1・2・3・4の4つのレベルに分かれ、レベル1が上級クラスにあたる。全ての授業は原則として英語で行う。

各科目内容の詳細は『シラバス』を参照すること。

クラスの編成 (2020年度以降1年次入学者のみ)

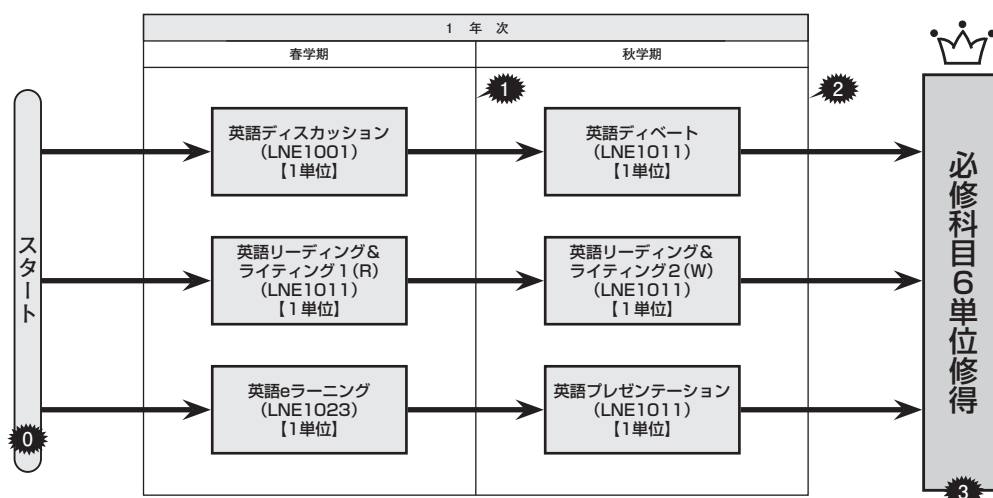
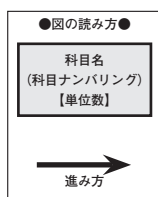
- ①【英語ディスカッション (英語DSC)】(春学期)
1クラス10名程度の学修環境で発言する機会を増やし、スピーキング力を徹底して強化することを目的とするクラス。特に、ディスカッションに必要な基本的表現を習得し、ディスカッションスキルの向上を図る。各授業の後半では、その回で学んだ表現を利用し、ディスカッションの内容を発展させて、自分の考えを適切な英語で述べられるようにする。
- ②【英語ディベート (英語DBT)】(秋学期)
ディベート活動を中心とした1クラス20名程度のクラス。特定のテーマについて肯定側と否定側に分かれて議論することを通して、論理的かつ批判的に考える力、情報を収集し活用する力、他者と建設的に議論する力、合理的な意思決定をする力を伸ばすことを目指す。
- ③【英語リーディング&ライティング (英語R & W 1 (R), 英語R & W 2 (W))】(春学期・秋学期)
リーディングとライティングを統合させながら両方の強化を目的とした1クラス20名程度のクラス。春学期は基礎的な読解スキルのトレーニングを行いつつ、複数のジャンルのエッセイの執筆を行い大学で必要となる基礎的な英語のライティング力を育成する。秋学期は春学期の内容を更に発展させ、より高度な読解スキル及びライティング力を育成する。学生の英語能力に応じた目標の達成を試みる。
- ④【英語eラーニング (英語e)】(春学期)
PCを活用した能力別個別英語学修プログラムによるリーディング力およびリスニング力を強化するおおよそ120-160名程度のクラス。自分のペースで学修を進め、自らの得手や不得手を確認しながら、自主的および継続的な英語学修の習慣を身につけていく。また、定期的にグループ学修を行うことで、主にビジネス場面で求められる受信力と発信力を伸ばしていく。
- ⑤【英語プレゼンテーション (英語P)】(秋学期)
プレゼンテーション活動を中心とした1クラス20名程度のクラス。プレゼンテーションの構成、効果的な図表の使用、コミュニケーションスキル等、効果的なプレゼンテーションを行うために必要とされる様々なスキルを習得しながら、スピーキング力、リスニング力、語彙力、リーディング力の統合的な英語運用能力を伸ばしていく。
- ⑥【上級英語1 (リーディング&ライティング) (上級英1)】(春学期)
週2回の集中クラスで、よりアカデミックな内容を扱いながら、リーディング力とライティング力の両者を伸ばし、本格的なリサーチペーパーの書き方の基礎を学ぶ。各自テーマを設定し、情報収集をし、論文を書く訓練を行う。
- ⑦【上級英語2 (プロジェクト英語) (上級英2)】(秋学期)
週2回の集中クラスで、グループで設定したアカデミックな課題の達成に向けて情報収集、読解、データ収集やグループディスカッションを進め、グループメンバーと協力、協調しながら課題を完成させ、プレゼンテーションを行う。また、春学期に習得したライティングスキルを応用して各個人がリサーチペーパーを書く。

2. 履修チャート

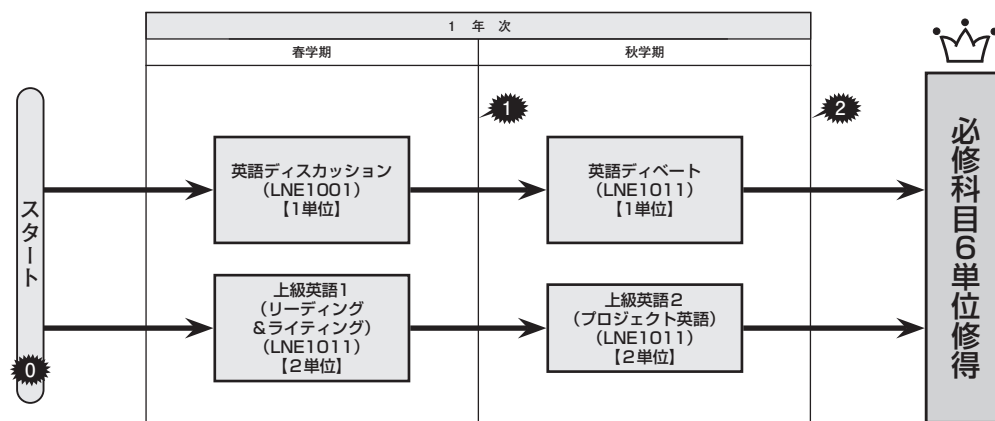
A1

各学期に履修する科目、単位数は以下の通り。

通常クラス



上級クラス



0 <履修クラスの発表について> ※日程等についてはR Guideで確認すること。

- 入学者が保有する英語スコアによって履修するクラスが決定する。クラスは、4月上旬に履修登録状況画面にて発表する。
- クラスを変更することはできない。

1 <1年次秋学期の履修について> ※日程等についてはR Guideで確認すること。

- クラス・曜日・時限は9月上旬に履修登録状況画面にて発表する。
- ※ 英語ディベートについては春学期の英語ディスカッションと曜日・時限が変わる場合があるので注意すること。

<1年次春学期科目が不合格になったら>

- 1年次春学期に履修した科目が不合格であっても、1年次秋学期の科目を履修すること。

2 <1年次科目が不合格になったら>

- 1年次に履修した科目が不合格であった場合は、2年次春学期以降、英語単位認定試験を受験、もしくは英語再履修クラス（「以下、英語R」）を履修すること。英語単位認定試験を受験した、または、「英語R」を履修したにも関わらず、単位を修得できなかった場合は、次学期以降に行われる英語単位認定試験を再度受験または「英語R」を履修し、不足単位がなくなるまでこれを繰り返す。

英語力伸長度
測定テストの受験

各自の英語力とこれまでの学修効果を把握するためのテストとして、英語力伸長度測定テストを受験することができる。1年次生は原則として全員受験すること。

1. カリキュラム

必修科目として履修するドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語で開講される科目は履修段階に応じておおむね以下のようになっている。各言語によって多少の違いがあるので詳細は『シラバス』を参照すること。科目名で「～語」と記載されているところは、各自の履修言語に従い、ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語と読み替えること。

登録方法	科目名 (和文)	サブタイトル	タイプ	単位数	学期	配当 年次	科目ナンバリング
自動登録	～語1	～語表現	アウトプット中心の活動	1	春	1	LNG1013：ドイツ語
	～語A	～語基礎	インプット中心の活動	1	春	1	LNF1013：フランス語 LNS1013：スペイン語
	～語2	～語表現	アウトプット中心の活動	1	秋	1	LNC1013：中国語 LNK1013：朝鮮語
	～語B	～語基礎	インプット中心の活動	1	秋	1	LNR1013：ロシア語

科目概要

科目名 (和文)	科目定義
～語1	1クラス20名程度の学修環境で、一人一人の～語での表現力 (CEFR ^(※) A1 レベル程度) を養うことを目的とする。初歩的な語彙や語句を習得して、日常的なやり取りについて受け答えができるようになる。さらに、自己紹介をするなど、個人的なトピックを表現できるようになることを目指す。
～語A	1クラス40名程度の学修環境で、～語の文法的な知識、初歩的な語彙や語句の習得を目指す。CEFR A1 レベル程度のテキストを読解し、聞き取れるよう、～語の理解力を総合的に養う。
～語2	1クラス20名程度の学修環境で、一人一人の～語での表現力 (CEFR A2 レベル程度) を養うことを目的とする。基礎的な語彙や語句を習得し、かつこれまでに培った知識を用いて、複数の人がかかわる日常的なやり取りについて受け答えができるようになる。さらに、身近な話題について自分の意見を述べるようになることを目指す。
～語B	1クラス40名程度の学修環境で、～語の文法的な知識、基礎的な語彙や語句の習得を目指す。CEFR A2 レベル程度のテキストを読解し、聞き取れるよう、～語の理解力を総合的に養う。

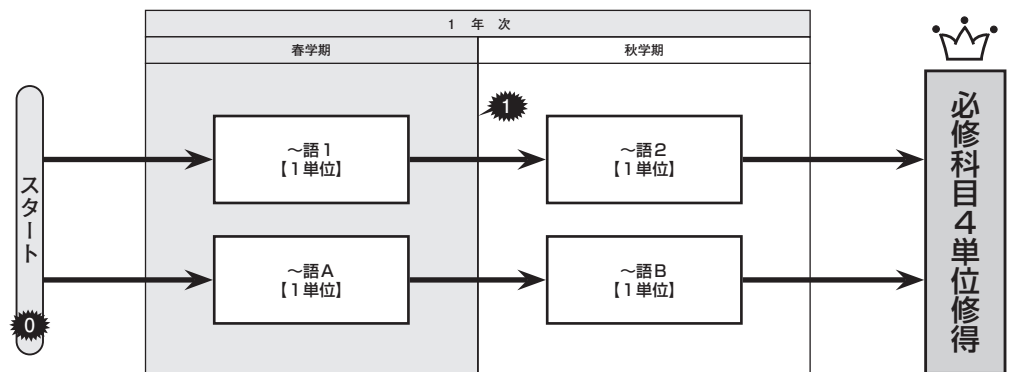
(※)「ヨーロッパ言語共通参照枠 (Common European Framework of Reference for Languages)」

2. 履修チャート

B1

※文学部文学科ドイツ文学専修・フランス文学専修の学生は履修チャートB2を参照のこと。

各学期に履修する科目、単位数は以下の通り。科目名で「～語」と記載されているところは、各自の履修言語に従い、ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語と読み替えること。



不合格になった場合は、「5-1 必修科目が不合格になったら」を参照すること。




<言語の決定・1年次春学期のクラス分けについて>

- 履修する言語およびクラスは、履修登録状況画面で確認すること。
- 言語およびクラスを変更することはできない。

1 <1年次秋学期のクラスについて>

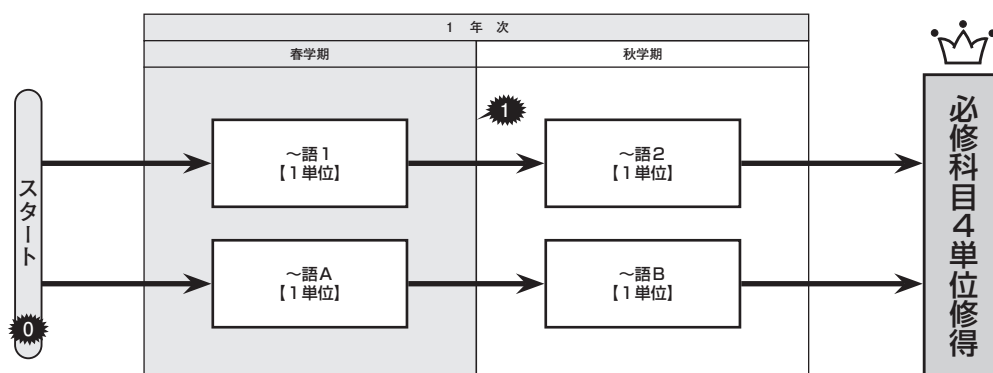
- 秋学期は春学期科目の単位修得に関わらず、春学期と同じクラスで「～語2」, 「～語B」を履修する。
- 言語およびクラスを変更することはできない。

 休学により履修していない1年次必修科目がある場合は、「5-2 必修科目が未履修となったら」を参照すること。

B2

文学部文学科ドイツ文学専修・フランス文学専修の学生

各学期に履修する科目, 単位数は以下の通り。科目名で「～語」と記載されているところは, 各自の履修言語に従い, ドイツ語・フランス語と読み替えること。



 不合格になった場合は、「5-1 必修科目が不合格になったら」を参照すること。

0 <言語の決定・1年次春学期のクラス分けについて>

- 履修する言語およびクラスは, 履修登録状況画面で確認すること。
- 言語およびクラスを変更することはできない。

1 <1年次秋学期のクラスについて>

- 「～語2」は「～語1」に合格しないと履修できない。「～語B」は「～語A」に合格しないと履修できない。
- 「～語1」合格者は, 春学期と同じクラス番号のクラスにて「～語2」を履修する。「～語A」合格者は, 春学期と同じクラス番号のクラスにて「～語B」を履修する。
- 言語およびクラスを変更することはできない。

3-1 日本語 (文学部文学科ドイツ文学専修・フランス文学専修, 法学部国際ビジネス法学科グローバルコース以外の外国人留学生のみ*)

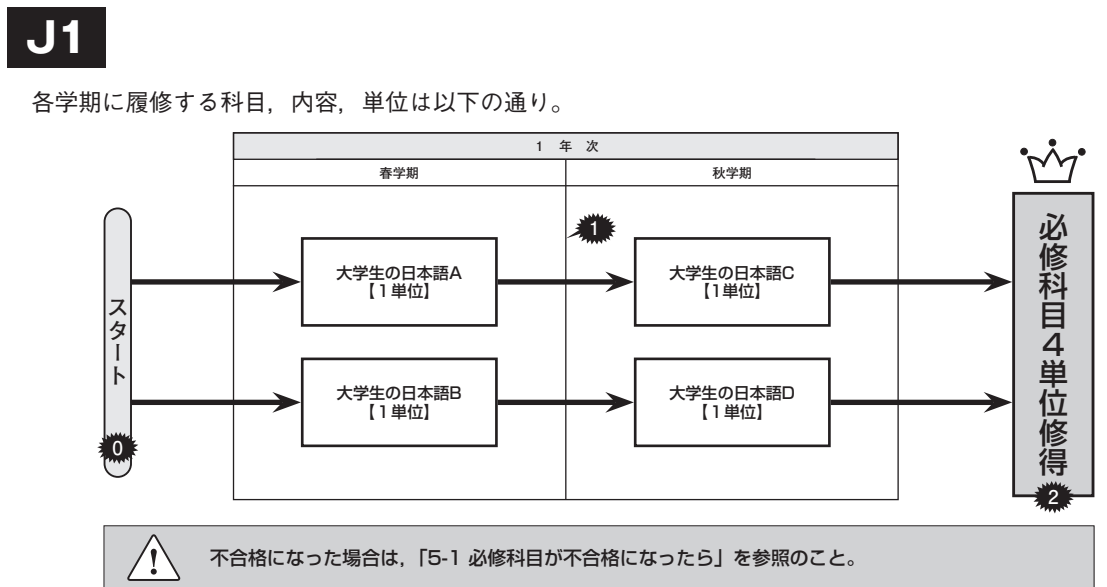
1. カリキュラム

※グローバル・リベラルアーツ・プログラムのPEACEプログラムの学生を含む。また、グローバル・リベラルアーツ・プログラムの学生のうち、申請により認められた者は日本語の履修を許可する。
必修科目として履修する日本語で開講される科目は履修段階に応じておおむね以下のようにになっている。詳細は『シラバス』を参照すること。

登録方法	科目名	科目名 (英文)	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング
自動登録	大学生の日本語A	Academic Japanese A	1	春	1	LNJ1010* ¹
	大学生の日本語B	Academic Japanese B	1	春	1	
	大学生の日本語C	Academic Japanese C	1	秋	1	
	大学生の日本語D	Academic Japanese D	1	秋	1	

* 1 グローバル・リベラルアーツ・プログラムの学生の「大学生の日本語」のナンバリングはLNJ1013とする。

2. 履修チャート



- 0** <言語の決定・1年次春学期のクラス分けについて>
- 入学時に行う日本語プレイスメントテストの結果によって履修するクラスが決定する。クラスは、4月上旬に履修登録状況画面にて発表する。日程等についてはR Guideで確認すること。
 - 言語およびクラスを変更することはできない。
- 1** <1年次秋学期の履修について>
- 1年次秋学期開始時は、日本語プレイスメントテストの結果に従って指定されたクラスで「大学生の日本語C」および「大学生の日本語D」を履修すること。自動登録されたクラスは、履修登録状況画面にて確認すること。
- <1年次春学期科目が不合格になったら>
- 1年次春学期に履修した科目が不合格であっても、1年次秋学期の科目を指定されたクラスで履修すること。
- 2** <自由科目について>
- 必修科目を履修しながら、または必修科目の単位修得後、自由科目を履修することができる。
- ※秋入学の場合は、1年次1学期目に秋学期の科目を履修し、1年次2学期目に春学期の科目を履修すること。

3-2 日本語 (PEACEプログラム生※, 法学部国際ビジネス法学科グローバルコースの外国人留学生)

※法学部国際ビジネス法学科グローバルコース, 異文化コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科のPEACEプログラム学生が対象である。

1. カリキュラム

必修科目として履修する日本語で開講される科目は, 以下のようになっている。詳細は, 『シラバス』を参照すること。

※○: 日本語レベルが入る (例: 1, 2, 3...)

<言語A>

登録方法	科目名 (和文)	科目名 (英文)	単位数	学期	配当年次	科目ナンバリング
自動登録	PEACE日本語○A	PEACE Japanese○ A	1	春・秋	1	LNJ1013
	PEACE日本語○B	PEACE Japanese○ B	1	春・秋	1	
	PEACE日本語○C	PEACE Japanese○ C	1	春・秋	1	

<言語B>

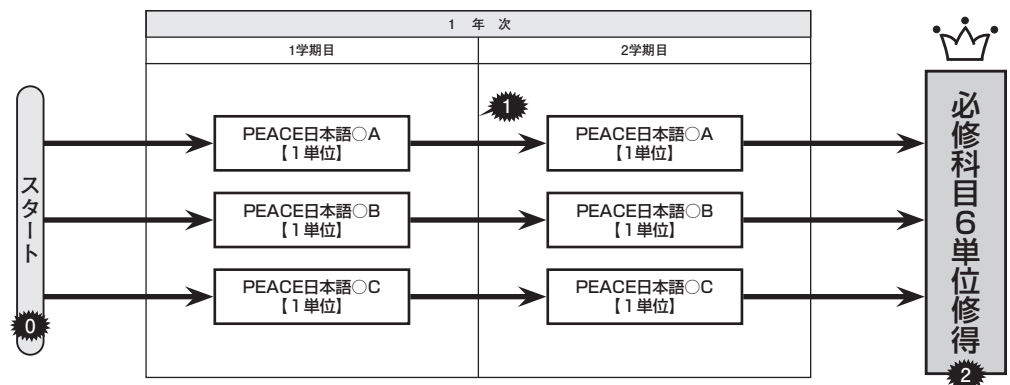
登録方法	科目名 (和文)	科目名 (英文)	単位数	学期	配当年次	科目ナンバリング
自動登録	PEACE日本語○D	PEACE Japanese○ D	1	春・秋	1	LNJ1013
	PEACE日本語○E	PEACE Japanese○ E	1	春・秋	1	

2. 履修チャート

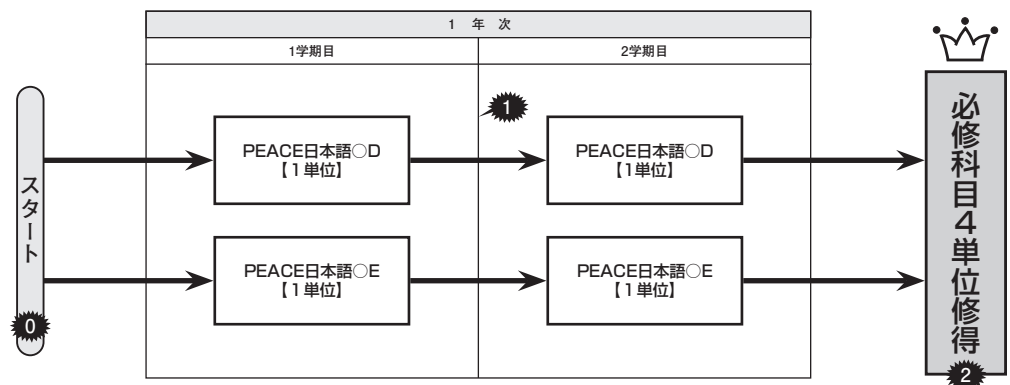
J2

※○: 日本語レベルが入る (例: 1, 2, 3...)

言語A



言語B



⚠ 不合格になった場合は、「5-1 必修科目が不合格になったら」を参照すること。

0 <言語の決定・1年次1学期目（秋入学の学生は秋学期、春入学の学生は春学期）のクラス分けについて>

- 入学時に行う日本語プレイスメントテストの結果によって履修するクラスが決定する。履修するクラスは原則レベル1か2のクラスであるが詳細は履修登録状況画面にて発表する。日程等についてはR Guideで確認すること。
- クラスは変更することはできない。

1 <1年次2学期目（秋入学の学生は秋学期、春入学の学生は春学期）の履修について>

- 1年次2学期目は、1学期目の履修したクラスより1つ上のレベルのクラスの科目を履修する。自動登録されたクラスは、履修登録状況画面にて確認すること。

<1年次1学期目科目が不合格になったら>

- 1年次1学期目に履修した科目が不合格であっても、1年次2学期目は自動的に登録された科目を履修すること。

2 <自由科目について>

- 必修科目の単位修得後、自由科目を履修することができる。
- 対象科目・登録方法については、各学部からの案内を確認すること。

3-3 日本語（NEXUSプログラム生）

J3

NEXUSプログラム生の履修についてはNEXUSプログラム入学時に配付する別冊「NEXUS履修要項」を確認すること。

4 指定年次・学期以後の単位修得方法—必修科目が不合格になったら（英語）

英語

以下のいずれかにより、2年次以降に未修得となった単位を修得すること。

- ①英語単位認定試験を受験し、単位を修得する。→ **1 英語単位認定試験** 参照
- ②英語再履修クラス「英語R」を受講し、単位を修得する。→ **2 英語再履修クラス「英語R」の履修** 参照

履修 参照

英語必修科目不合格者の単位修得にあたっては、英語単位認定試験と英語再履修者クラス「英語R」とでは、受験（もしくは履修）できる回数が異なるため、修得できる単位数が異なることに注意すること。

1 英語単位認定試験

英語単位認定試験は、英語必修科目の不足単位の修得を目的とした試験であり、全学共通カリキュラム運営センターが定めた期日に行う試験である。

対象者は、英語単位認定試験説明会に参加すること。詳細はR Guideで確認すること。

なお、休学等による未履修の必修科目がある場合、試験に合格してもその科目の単位に充当することはできない。

1. 対象者

以下のすべてを満たす者。

- (1) 英語必修科目の修得単位が6単位に満たない者。
- (2) 2年次生以上の者。
- (3) Rikkyo English Online (REO) の指定ユニット（課題Ⅰ，課題Ⅱ）を期日までに終了した者。
- (4) 当該学期の「英語R」を履修登録していない者。

※当該学期に休学した者は、対象には含まれない。試験を受験した場合は無効の扱いとなるので注意すること。

2. 実施概要およびスケジュール

英語単位認定試験は、年2回、6月と11月に実施する。各回につき2種類の試験を実施し、それぞれの試験につき異なる課題が課される。詳細はR Guideを確認すること。

なお、英語単位認定試験の履修登録は不要であり、各学部の定める履修登録上限単位数には含まれない。

行事	6月実施	11月実施
説明会	3月後半	7月後半
試験時間・試験場発表	4月上旬 全学共通科目掲示板	9月上旬 全学共通科目掲示板
事前学修期間 *学修期間は所属学部により異なる	(課題Ⅰ) 4月上旬～5月上旬 (課題Ⅱ) 5月上旬～6月上旬	(課題Ⅰ) 9月上旬～9月下旬 (課題Ⅱ) 10月上旬～10月下旬
受験対象者発表	6月上旬 全学共通科目掲示板	10月下旬 全学共通科目掲示板
試験日	6月上旬 英語単位認定試験A 英語単位認定試験B	11月上旬 英語単位認定試験C 英語単位認定試験D
合格者発表	7月上旬 全学共通科目掲示板	12月上旬 全学共通科目掲示板
成績証明書への記載	[在籍者・特別卒業申請者] 9月上旬	[在籍者] 4月上旬 [卒業合格発表対象者] 卒業式終了後～

*上表のスケジュールは、入学年度の予定を示している。英語単位認定試験のスケジュールの詳細については、必ずR Guideを確認すること。

3. 修得できる単位数および成績

1つの試験の合格につき1単位を修得できる。科目対応はしていない。1回の英語単位認定試験では、不足単位数にかかわらず各学期2試験（各1単位、計2単位）まで受験できる。ただし、試験に合格した場合に認定される単位数は不足単位数分のみとする。合格した場合に成績参照画面ならびに証明書に記載される科目名は、「英語単位認定試験～（1単位）」となる（～にはA, B, C, Dのうち合格した試験が記される）。評価は「C」とする。

4. 英語単位認定試験の受験資格

Rikkyo English Online (REO) にアップロードされている教材のうち、指定のユニット（課題Ⅰ、課題Ⅱ）を期日までに終了させることが、英語単位認定試験の受験資格となっているので注意すること。各学期の各試験につき、2回の事前学修期間を設ける。所定の期日までに全てのユニットを終えることが受験資格を得る要件となる。指定ユニットおよびそれぞれの学修完了指定期日等については、各学期の始めに、REOの画面上で確認すること。

5. 受験手続

受験希望者は、試験当日、学生証を持って試験場に行くこと。
試験時間、試験場はR Guideで、事前に確認しておくこと。

6. 試験問題形式

リーディングとリスニングの総合問題（文法・語彙含む。マークシート形式）。
持ち込みは不可とする。

問題はRikkyo English Online (REO) にアップロードされている「スーパー英語」の教材のうち、事前学修において指定されたユニットをベースに出題される。（詳細は4. 英語単位認定試験の受験資格を参照すること。）

7. 受験上の注意

- (1) 試験当日は、学生証・HBの鉛筆・消しゴム・ペンまたはボールペンを必ず持参すること。
- (2) 遅刻者の入室は許可しない。ただし、試験開始後15分以内の遅刻者は、監督者の許可を得て入室

できるものとする。なお、交通機関の遅延による遅刻の場合は、試験開始後30分まで、入室を許可することもある（交通機関発行の遅延証明書の提出が必要）。

- (3) 試験当日、学生証を忘れた学生には臨時学生証（500円）を発行するので、所属キャンパスの教務窓口へ時間に余裕を持って申し出ること。

8. 追試験

英語単位認定試験は、追試験を行わない。

9. 不正行為

- (1) 試験は学生各自の科目履修の成果を確認する趣旨のものであり、その趣旨に反する行為は不正行為とみなす。
- (2) 受験中不正行為を行った者は、直ちに退場させられる。
- (3) 英語単位認定試験を受験中に不正行為を行った者は、同日に行われる試験を含め、当該試験期間（6月実施：春学期末試験終了まで、11月実施：秋学期末・学年末試験終了まで）の筆記試験全科目の受験資格を失い、その成績は全て不合格となる。
- (4) 不正行為を行った者の当該試験期間の成績は、筆記試験以外の方法のみによって成績評価をする科目（レポート・レポート試験科目、平常点科目、口頭試問科目）について有効とする。ただし、処分決定後は、不正行為以後の全ての受験資格を喪失する。
- (5) 春学期末または秋学期末・学年末試験期間に不正行為を行った場合、6月または11月に受験した英語単位認定試験の受験資格をさかのぼって失い、合格は取り消される。
- (6) 不正行為を行った者の処分は、当該学生の所属学部教授会が決定する。
- (7) 不正行為に対する処分は、訓告、停学、退学の3種類とする。
不正行為の処分は、原則として停学とする。

2 英語再履修クラス「英語R」の履修

英語必修科目不合格者は、再履修クラス「英語R」を履修することができる。このクラスでは、基礎的な英語力を身に付けることを目的とする。このため、1回のみ履修を許可することとし、このクラスを履修したことで修得できる単位は1単位までとする。また、「英語R」を履修した場合、当該学期の英語単位認定試験を受験することはできないため、間違えのないよう手続きをすること。

1. 対象者

以下のすべてを満たす者。

- (1) 英語必修科目の修得単位が6単位に満たない者。
- (2) 2年次生以上の者。
- (3) 説明会に出席した者。

2. 実施概要およびスケジュール

説明会、履修登録、履修許可者発表等についてはR Guideを確認すること。

3. 履修に関する注意事項

- (1) 履修登録および履修許可
履修希望者は、説明会に必ず出席すること。履修登録方法は当該年度のR Guideで確認すること。締切日時を過ぎてからの申請は、一切受け付けない。
- (2) 成績評価方法・基準
『シラバス』を参照のこと。
- (3) 修得できる単位数および評価
「英語R」を履修した場合は、当該学期の英語単位認定試験を受験することはできない。「英語R」は1クラスしか履修できないため、履修した場合の当該学期の英語の修得可能な単位は1単位となる。合格した場合に成績参照画面ならびに証明書に記載される科目名は、「英語R（1単位）」となる。評価は「C」とする。不足単位が2単位以上ある場合は、次学期以降に **1 英語単位認定試験** を受験し、不足単位を修得すること。

- (4) 重複履修
すでに「英語R」にて単位修得している場合は、「英語R」を再度履修することはできない。
- (5) 履修登録上限単位
「英語R」は、「その他登録」となり、履修登録上限単位数に含まれる。
- (6) 履修取消およびクラス変更
いかなる理由があっても「英語R」の履修取消、クラス変更はできない。

5-1 指定年次・学期以後の単位修得方法—必修科目が不合格になったら(ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語・日本語)

ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語・日本語については、不合格になった場合、不合格となった科目の指定されたクラスで再履修することにより、未修得となった単位を修得する。以下に注意すること。

- 授業開始前に各自の再履修するクラス・担当者を履修登録状況画面で発表する。
- 各学期再履修可能な科目は、下表の通り。履修方法の詳細については、再履修チャート記号 **X1**～**X8**を参照すること。
- 1年次春学期科目が不合格となり、1年次秋学期に必修科目履修辞退制度を適用した場合は、**X1**～**X4**のとおり、2年次春学期以降に再履修クラスを順次履修する。必修科目履修辞退制度については、**2 必修科目に関する特別措置** 4. ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語 必修科目履修辞退制度について を参照すること。

言語B ※文学部文学科ドイツ文学専修・フランス文学専修の学生を除く

科目	1年次		2年次		3年次		4年次		不合格になったら (再履修チャート記号)
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	
～語1	◎	×	●	●	●	●	●	●	X1
～語A	◎	×	●	●	●	●	●	●	X2
～語2*	×	◎	●	●	●	●	●	●	X3
～語B*	×	◎	●	●	●	●	●	●	X4

◎：配当年次・学期 ●：再履修クラスが指定され、自動登録される

×：当該学期には開講されていないため履修不可

* 「～語2」に加えて「～語1」も不合格の場合は、再履修クラス「～語1」に合格しないと再履修クラス「～語2」を履修することができない。

* 「～語B」に加えて「～語A」も不合格の場合は、再履修クラス「～語A」に合格しないと再履修クラス「～語B」を履修することができない。

なお、再履修するクラスを合格した場合の評価は「合格」とする。

言語B ※文学部文学科ドイツ文学専修・フランス文学専修の学生

科目	1年次		2年次		3年次		4年次		不合格になったら (再履修チャート記号)
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	
～語1	◎	×	●	×	●	×	●	×	X5
～語A	◎	×	●	×	●	×	●	×	X6
～語2*	×	◎	×	●	×	●	×	●	
～語B*	×	◎	×	●	×	●	×	●	

◎：配当年次・学期 ●：再履修クラスが指定され、自動登録される

×：当該学期には開講されていないため履修不可

* 「～語1」に合格しないと「～語2」を履修することができない。

* 「～語A」に合格しないと「～語B」を履修することができない。

日本語

年次・学期 科目	1年次		2年次		3年次		4年次		不合格になったら (再履修チャート記号)
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	
大学生の日本語A	○	×	●	×	●	×	●	×	X7
大学生の日本語B	○	×	●	×	●	×	●	×	
大学生の日本語C	×	◎	×	●	×	●	×	●	
大学生の日本語D	×	◎	×	●	×	●	×	●	

◎：配当年次・学期 ●：再履修クラスが指定され、自動登録される

×：当該学期には開講されていないため履修不可

*「大学生の日本語A」「大学生日本語B」の合格・不合格に関わらず「大学生の日本語C」「大学生の日本語D」を履修することができる。

PEACE

年次学期 科目	1年次～4年次		不合格になったら (再履修チャート記号)
	秋学期*	春学期*	
PEACE日本語○A	◎	●	X8
PEACE日本語○B	◎	●	
PEACE日本語○C	◎	●	
PEACE日本語○D	◎	●	
PEACE日本語○E	◎	●	

* 4月入学者の場合は秋学期を春学期、春学期を秋学期と読み替える

* ○：日本語レベルが入る（例：1, 2, 3...）

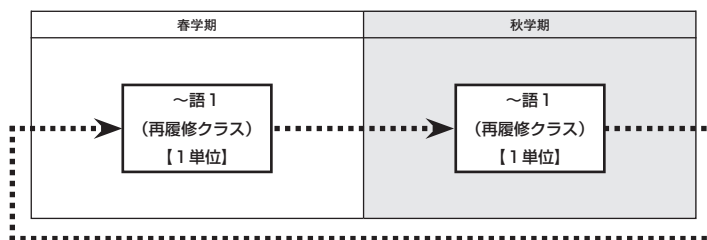
◎……配当年次・学期

●……再履修クラスが指定され、自動登録される

×……当該学期には開講されていないため履修不可

X1 「～語1」が不合格になったら

※文学部文学科ドイツ文学専修・フランス文学専修の学生と全所属の日本語履修者は除く。

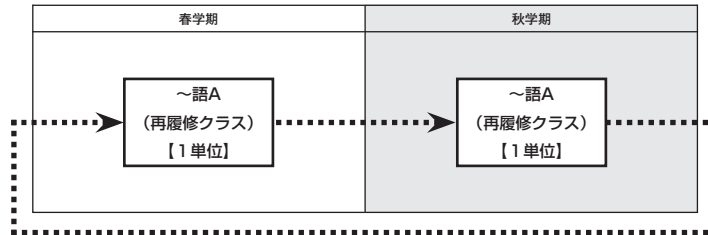


- 「～語1」が不合格になった場合、2年次春学期以降に再履修クラスで「～語1」を再履修する。再度不合格となった場合も同じように翌学期に再履修する。
- 再履修クラスの「～語1」はオンライン形式の授業である。受講方法は授業開始前にシラバスを確認すること。
- 再履修のクラスは、指定され、自動登録される。授業開始前に履修登録状況画面で確認すること。

X2

「～語A」が不合格になったら

※文学部文学科ドイツ文学専修・フランス文学専修の学生と全所属の日本語履修者は除く。

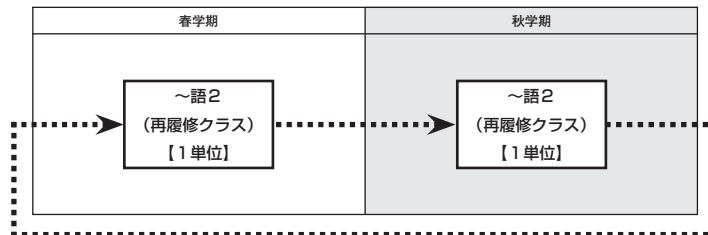


- 「～語A」が不合格になった場合、2年次春学期以降に再履修クラスで「～語A」を再履修する。再度不合格となった場合も同じように翌学期に再履修する。
- 再履修クラスの「～語A」はオンデマンド形式の授業である。受講方法は授業開始前にシラバスを確認すること。
- 再履修のクラスは、指定され、自動登録される。授業開始前に履修登録状況画面で確認すること。

X3

「～語2」が不合格になったら

※文学部文学科ドイツ文学専修・フランス文学専修の学生と全所属の日本語履修者は除く。

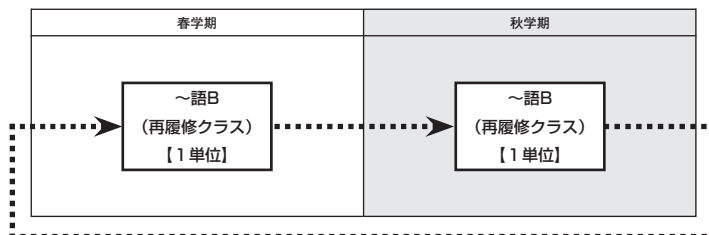


- 「～語2」が不合格になった場合、2年次春学期以降に再履修クラスで「～語2」を再履修する。再度不合格となった場合も同じように翌学期に再履修する。ただし「～語1」も不合格の場合は「～語1」に合格するまでは、「～語2」を履修することができない。
- 再履修クラスの「～語2」はオンライン形式の授業である。受講方法は授業開始前にシラバスを確認すること。
- 再履修のクラスは、指定され、自動登録される。授業開始前に履修登録状況画面で確認すること。

X4

「～語B」が不合格になったら

※文学部文学科ドイツ文学専修・フランス文学専修の学生と全所属の日本語履修者は除く。

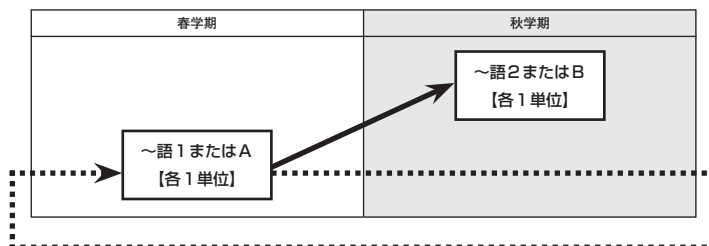
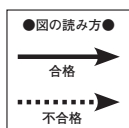


- 「～語B」が不合格になった場合、2年次春学期以降に再履修クラスで「～語B」を再履修する。再度不合格となった場合も同じように翌学期に再履修する。ただし「～語A」も不合格の場合は「～語A」に合格するまでは、「～語B」を履修することができない。
- 再履修クラスの「～語B」はオンデマンド形式の授業である。受講方法は授業開始前にシラバスを確認すること。
- 再履修のクラスは指定され、自動登録される。授業開始前に履修登録状況画面で確認すること。

X5

「～語1」, 「～語A」が不合格になったら

文学部文学科ドイツ文学専修・フランス文学専修の学生

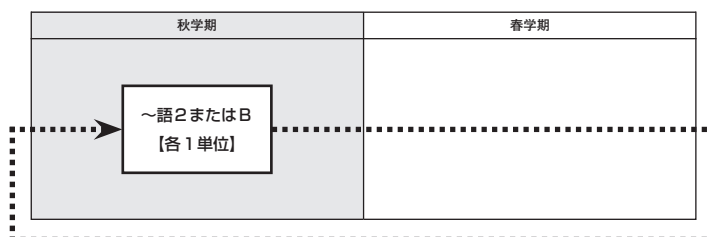
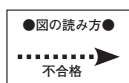


- 「～語1」が不合格になった場合、次年度春学期に1年次のクラスで「～語1」を再履修する。再度不合格となった場合も同じように再履修する。合格するまで、秋学期に開講される「～語2」を履修することはできない。
- 「～語A」が不合格になった場合、次年度春学期に1年次のクラスで「～語A」を再履修する。再度不合格となった場合も同じように再履修する。合格するまで、秋学期に開講される「～語B」を履修することはできない。
- 再履修のクラスは、指定され、自動登録される。授業開始前に履修登録状況画面で確認すること。

X6

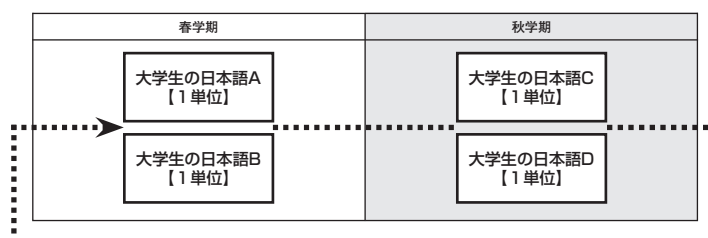
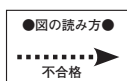
「～語2」, 「～語B」が不合格になったら

文学部文学科ドイツ文学専修・フランス文学専修所属の学生



- 「～語2」が不合格になった場合、次年度秋学期に1年次のクラスで「～語2」を再履修する。再度不合格となった場合も同じように再履修する。
- 「～語B」が不合格になった場合、次年度秋学期に1年次のクラスで「～語B」を再履修する。再度不合格となった場合も同じように再履修する。
- 再履修のクラスは、指定され、自動登録される。授業開始前に履修登録状況画面で確認すること。

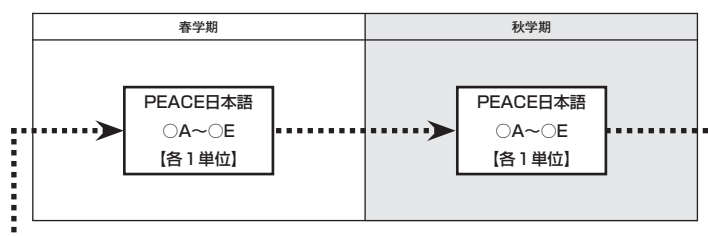
X7 「大学生の日本語」が不合格になったら



- 「大学生の日本語A」が不合格になった場合、次年度春学期に1年次のクラスで「大学生の日本語A」を再履修する。「大学生の日本語B」が不合格になった場合、次年度春学期に1年次のクラスで「大学生の日本語B」を再履修する。再度「大学生の日本語A」もしくは「大学生の日本語B」が不合格となった場合も、同じように再履修する。合格・不合格に関わらず、秋学期に開講される「大学生の日本語C」「大学生の日本語D」を履修できる。
- 「大学生の日本語C」が不合格になった場合、次年度秋学期に1年次のクラスで「大学生の日本語C」を再履修する。「大学生の日本語D」が不合格になった場合、次年度秋学期に1年次のクラスで「大学生の日本語D」を再履修する。再度「大学生の日本語C」もしくは「大学生の日本語D」が不合格となった場合も、同じように再履修する。
- 再履修のクラスは、指定され、自動登録される。授業開始前に履修登録状況画面で確認すること。

X8 「PEACE日本語〇A～〇E」が不合格になったら

※〇：日本語レベルが入る（例：1，2，3...）



- 「PEACE日本語〇A」が不合格になった場合、翌学期に同じレベルの「PEACE日本語〇A」を再履修する。「PEACE日本語〇B」が不合格になった場合、翌学期に同じレベルの「PEACE日本語〇B」を再履修する。「PEACE日本語〇C」が不合格になった場合、翌学期に同じレベルの「PEACE日本語〇C」を再履修する。「PEACE日本語〇D」が不合格になった場合、翌学期に同じレベルの「PEACE日本語〇D」を再履修する。「PEACE日本語〇E」が不合格になった場合、翌学期に同じレベルの「PEACE日本語〇E」を再履修する。いずれの科目も不合格となった場合は翌学期に同じレベルの同科目を繰り返し再履修する。合格するまでは1つ上のレベルのクラスの科目

を履修することができない。

- 再履修のクラスは、指定され、自動登録される。授業開始前に履修登録状況画面で確認すること。

5-2 指定年次・学期以後の単位修得方法—必修科目が未履修^(※)となったら(ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語・日本語)

※未履修：休学により配当年次に必修科目を履修していないことを示す

1. ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語
※文学部文学科ドイツ文学専修・フランス文学専修の学生を除く
 - 1年次春学期に休学し、「～語1」,「～語A」が未履修となった場合は、1年次秋学期の「～語2」,「～語B」は履修登録されない。2年次春学期に1年次生のクラスで「～語1」,「～語A」を履修し、2年次秋学期に1年次生のクラスで「～語2」,「～語B」を履修する。2年次以降も休学し未履修となった場合は、更に翌年次へ繰り越されることになる。2年次以降に未履修者として、春学期に1年次生のクラスで「～語1」,「～語A」を履修し、両科目が不合格となった場合には、必修科目履修辞退制度を申請できる。詳細は **2 必修科目に関する特別措置** 4. ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語 必修科目履修辞退制度について を参照すること。
 - 1年次秋学期のみ休学し、「～語2」,「～語B」が未履修となった場合は、2年次秋学期に1年次生のクラスで「～語2」,「～語B」を履修する。2年次以降も休学し未履修となった場合は、更に翌年次へ繰り越されることになる。
 - 履修するクラスは指定され、自動登録される。授業開始前に履修登録状況画面で確認すること。
2. 文学部文学科ドイツ文学専修、文学部フランス文学専修の学生
 - 1年次春学期に休学し、「～語1」,「～語A」が未履修となった場合は、1年次秋学期の「～語2」,「～語B」も履修登録されない。2年次春学期に1年次生のクラスで「～語1」,「～語A」を履修し、2年次秋学期に1年次生のクラスで「～語2」,「～語B」を履修する。2年次以降も休学し未履修となった場合は、更に翌年次へ繰り越されることになる。
 - 1年次秋学期のみ休学し、「～語2」,「～語B」が未履修となった場合は、2年次秋学期に1年次生のクラスで「～語2」,「～語B」を履修する。2年次以降も休学し未履修となった場合は、更に翌年次へ繰り越されることになる。
 - 履修するクラスは指定され、自動登録される。授業開始前に履修登録状況画面で確認すること。
3. 日本語(大学生の日本語)
 - 1年次春学期に休学し、「大学生の日本語A」,「大学生の日本語B」が未履修となった場合は、2年次春学期に1年次生のクラスで「大学生の日本語A」,「大学生の日本語B」を履修する。2年次以降も休学し未履修となった場合は、更に翌年次へ繰り越されることになる。
 - 1年次秋学期に休学し、「大学生の日本語C」,「大学生の日本語D」が未履修となった場合は、2年次秋学期に1年次生のクラスで「大学生の日本語C」,「大学生の日本語D」を履修する。2年次以降も休学し未履修となった場合は、更に翌年次へ繰り越されることになる。
 - 履修するクラスは指定され、自動登録される。授業開始前に履修登録状況画面で確認すること。
4. 日本語(PEACE日本語)
 - 1年次1学期目に休学し「PEACE日本語A～E」が未履修となった場合は、翌学期に1学期目に履修を予定していたレベルの「PEACE日本語A～E」を履修する。その次の学期に一つ上のレベルの「PEACE日本語A～E」を履修する。
 - 履修するクラスは指定され、自動登録される。授業開始前に履修登録状況画面で確認すること。

1 自由科目 履修上の注意

1. 自由科目の履修について
- 自由科目には、履修資格が定められている科目や履修者決定のための選抜を行う科目もあるので、R Guideの科目表をよく読み履修計画を立てること。自由科目は履修中止ができないため、各科目の履修の目安をしっかりと確認した上で履修計画を立てること。
2. 同一科目の重複履修について
- 同一科目は、1学期に1つしか履修できない。ただし、学期を変えれば2度以上履修することができるが、その場合には最初に単位を修得した1科目のみが所属学部の規定の範囲内で卒業要件単位として認められる。
- 同一科目とは、科目の名称（番号および括弧内の名称を含む）、単位数が同一のものである。したがって、担当者が同じでも科目の名称が一部でも異なる場合には別科目となる。逆に担当者や授業の内容が異なっても、科目の名称が同じであれば、同一科目である。

(例) 「CLIL Seminars: History」(担当教員A)と「CLIL Seminars: Art」(担当教員A)は別科目である。

「ドイツ語総合1」(担当教員A)と「ドイツ語総合2」(担当教員A)は別科目である。

「フランス語演習1」(担当教員A)と「フランス語演習1」(担当教員B)は同一科目である。
3. 自由科目の修得単位の扱いについて
- (1) 言語系科目の自由科目として修得した単位は、言語Aあるいは言語Bの必修科目としては認定されない。
- (2) 重複履修等の規定に従い修得した単位は、所属学部の規定の範囲内で卒業要件単位として認められる。
- (3) 留学認定科目は以下のとおりとし、自由科目に算入する。
- 英語
- ・留学認定英語自●
 - (●は単位数)
- ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語・ポルトガル語(ブラジル)・インドネシア語・タイ語・タガログ語・ベトナム語
- ・留学認定～語自●
 - (～は言語名, ●は単位数)
- (4) グローバル教養副専攻
- 各コース・テーマで指定された言語系科目を履修し、規定の単位数以上を修得すると、本人の申請に基づき、グローバル教養副専攻の修了が認定される。詳細は「IXグローバル教養副専攻」の項を参照のこと。
4. 履修の目安
- R Guideの科目表でそれぞれ科目の履修の目安を確認すること。
5. 先修規定
- 原則、言語系科目の自由科目に先修科目*はない。但し、日本手話については先修科目が設けられているため、履修を希望する場合は必ずR Guideの科目表で詳細を確認すること。
- *先修科目とは、ある科目を履修するための条件として、先立って単位を修得しておくことが必要な科目をいう。

2 英語

1. カリキュラム

自由科目(英語)

* 必修科目名の後にある()内数字は単位数。自由科目はすべて1科目2単位。

履修年次	1年次春学期	1年次秋学期	2年次～4年次
必修科目	英語ディスカッション (1) 英語リーディング&ライティング1 (1) 英語eラーニング (1) または上級英語1 (2)	英語ディベート (1) 英語リーディング&ライティング2 (1) 英語プレゼンテーション (1) または上級英語2 (2)	
自由科目	グローバル・コミュニケーション領域		
	留学準備科目		
	【履修目安/CEFR A2以上】 英語海外文化研修		
	【履修目安/CEFR A2相当】 Study Abroad Preparation: TOEFL 1 (Basic), Study Abroad Preparation: IELTS 1 (Basic), Intercultural Studies		
	【履修目安/CEFR B1相当】 Study Abroad Preparation: TOEFL 2 (Intermediate), Study Abroad Preparation: IELTS 2 (Intermediate)		
	【履修目安/CEFR B2相当】 Study Abroad Preparation: TOEFL 3 (Advanced), Study Abroad Preparation: IELTS 3 (Advanced)		
	スキル科目		
	1年次春学期は履修不可	【履修目安/CEFR A2相当】 Reading for Pleasure, Current News through English Media, Multimodal Communication in English, Self-directed and Reflective Language Learning	
		【履修目安/CEFR B1相当】 Academic Communication	
	グローバル・スタディーズ領域		
教養系科目			
1年次春学期は履修不可	【履修目安/CEFR B1相当】 Introduction to Global Studies A/B/C: ○○		
	【履修目安/CEFR B2相当】 CLIL Seminars: ○○		
グローバル・キャリア領域			
就職準備科目			
1年次は履修不可	【履修目安/CEFR B1相当】 Communication for Global Business, Collaborative Business Projects		

※上記の各CEFRレベルに対応する英語資格・検定試験の基準スコアの目安は以下の通り。

- ・ CEFR A2相当：英検準2級-2級・GTEC 690-959点・TOEFL iBT 42点未満・IELTS 4.0未満
- ・ CEFR B1相当：英検2級-準1級・GTEC 960-1189点・TOEFL iBT 42-71点・IELTS 4.0-5.0
- ・ CEFR B2相当：英検準1級-1級・GTEC 1190-1349点・TOEFL iBT 72-94点・IELTS 5.5-6.5

2. 英語力伸長度測定テストの受験

当該年度に在学する学生は英語力伸長度測定テストを受験することができる。受験の結果は、言語自由科目の履修レベルの確認に利用することができる。詳細はR Guideで発表する。

3 ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語

1. カリキュラム

自由科目(ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語)

* 科目名の後にある()内数字は単位数。○には数字が入る。
～語は、ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語とそれぞれ読み替える。

1年次春学期	1年次秋学期	(2年次～) 春学期*1	(2年次～) 秋学期*1
自由科目			
留学準備領域			
・～語海外言語文化研修(春学期)(2)(集中)			
・～語海外言語文化研修(秋学期)(2)(集中)			
・～語総合○(2)			
言語B必修科目		プロジェクト領域	
・～語1(1) ・～語A(1)	・～語2(1) ・～語B(1)	・～語演習○(2)	
		・入門～語(2)*2	
		キャリア領域	
		・キャリア～語○(2)	
		アカデミック領域	
		・アカデミック～語○(2)	
		・～語CLILO(2)	

*1 必修免除が認められた学生は1年次から履修できる場合がある。教務事務センターの指示に従うこと。

*2 第3・第4の言語の学修を希望する学生を対象とした入門的な科目

自由科目（ロシア語）

*科目名の後にある（ ）内数字は単位数

1年次春学期	1年次秋学期	(2年次～) 春学期*1	(2年次～) 秋学期*1
自由科目			
留学準備領域			
・ロシア語総合○ (2)			
言語B必修科目		プロジェクト領域	
・ロシア語1 (1) ・ロシア語A (1)	・ロシア語2 (1) ・ロシア語B (1)	・ロシア語演習○ (2)	・入門ロシア語 (2)*2

*1 必修免除が認められた学生は1年次から履修できる場合がある。教務事務センターの指示に従うこと。

*2 第3・第4の言語の学修を希望する学生を対象とした入門的な科目

2. 母語の履修について

一部科目*を除き、母語は履修してはならない。母語を履修した場合、単位修得できないため注意すること。母語話者に当たるかどうかは各言語教育研究室で判断する。自身が母語話者であるかどうか不明な場合には、所定の期間内に教務事務センターに相談すること。詳細はR Guideで確認すること。

*「～語CLIL○」については、母語話者の履修を認める。

4 日本手話・ポルトガル語（ブラジル）・インドネシア語・タイ語・タガログ語・ベトナム語

第3・第4の言語の学修を希望する学生を対象として、必修科目として展開している言語以外の入門的な科目も準備している。日本手話・ポルトガル語（ブラジル）は、入門レベル修得後も継続して学修することが可能である。

5 自由科目 科目表

※下記の科目表は入学年度4月時点のものである。担当者、開講学期、配当年次、登録方法を含む最新の科目表はR Guideで確認すること。（廃止年度は予定）

科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位
英語					
Reading for Pleasure	2	CLIL Seminars: International Relations and Politics	2	CLIL Seminars: Language Learning	2
Current News through English Media	2	CLIL Seminars: Globalization and Business	2	Communication for Global Business	2
Multimodal Communication in English	2	CLIL Seminars: Advertising and the Media	2	Collaborative Business Projects	2
Self-directed and Reflective Language Learning	2	CLIL Seminars: History	2	英語海外文化研修	2
Academic Communication	2	CLIL Seminars: Art	2	ビクトリア夏ESL 2	2
Intercultural Studies	2	CLIL Seminars: Movies	2	ビクトリア春ESL 2	2
Study Abroad Preparation: TOEFL 1 (Basic)	2	CLIL Seminars: SDGS	2	ハワイ夏ESL 1	1
Study Abroad Preparation: TOEFL 2 (Intermediate)	2	CLIL Seminars: Ecology	2	ハワイ春ESL 1	1
Study Abroad Preparation: TOEFL 3 (Advanced)	2	CLIL Seminars: Intercultural Communication	2	ダブリン夏ESL 3	3
Study Abroad Preparation: IELTS 1 (Basic)	2	CLIL Seminars: Tourism	2	ダブリン春ESL 3	3
Study Abroad Preparation: IELTS 2 (Intermediate)	2	CLIL Seminars: Health and Wellness	2	グリフィス春ESL 3	3
Study Abroad Preparation: IELTS 3 (Advanced)	2	CLIL Seminars: Gender Issues	2	短期語学研修科目（英語）	1
Introduction to Global Studies A: Humanities	2	CLIL Seminars: Japanology	2	オンライン海外語学研修科目（英語）（2026年度に廃止）	1
Introduction to Global Studies B: Social Science	2	CLIL Seminars: Psychology	2		
Introduction to Global Studies C: Natural Science	2	CLIL Seminars: Literature	2		
ドイツ語					
ドイツ語総合1	2	ドイツ語演習4	2	ドイツ語トレーニング3	2
ドイツ語総合2	2	ドイツ語演習5	2	ドイツ語トレーニング4	2
ドイツ語総合3	2	ドイツ語演習6	2	アカデミックドイツ語1	2
ドイツ語総合4	2	入門ドイツ語	2	アカデミックドイツ語2	2
ドイツ語総合5	2	キャリアドイツ語1	2	アカデミックドイツ語3	2
ドイツ語総合6	2	キャリアドイツ語2	2	アカデミックドイツ語4	2
ドイツ語総合7	2	キャリアドイツ語3	2	ドイツ語CLIL 1	2

科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位
ドイツ語演習1	2	キャリアドイツ語4	2	ドイツ語CLIL 2	2
ドイツ語演習2	2	ドイツ語トレーニング1	2	ドイツ語海外言語文化研修 (春学期)	2
ドイツ語演習3	2	ドイツ語トレーニング2	2	ドイツ語海外言語文化研修 (秋学期)	2
フランス語					
フランス語総合1	2	フランス語総合11	2	キャリアフランス語3	2
フランス語総合2	2	フランス語演習1	2	フランス語トレーニング1	2
フランス語総合3	2	フランス語演習2	2	アカデミックフランス語1	2
フランス語総合4	2	フランス語演習3	2	フランス語CLIL 1	2
フランス語総合5	2	フランス語演習4	2	フランス語CLIL 2	2
フランス語総合6	2	フランス語演習5	2	上級フランス語ライティング1 (2027年度に廃止)	2
フランス語総合7	2	フランス語演習6	2	上級フランス語ライティング2 (2027年度に廃止)	2
フランス語総合8	2	入門フランス語	2	フランス語海外言語文化研修 (秋学期)	2
フランス語総合9	2	キャリアフランス語1	2		
フランス語総合10	2	キャリアフランス語2	2		
スペイン語					
スペイン語総合1	2	スペイン語演習4	2	スペイン語トレーニング3	2
スペイン語総合2	2	スペイン語演習5	2	アカデミックスペイン語1	2
スペイン語総合3	2	スペイン語演習6	2	アカデミックスペイン語2	2
スペイン語総合4	2	スペイン語演習7	2	スペイン語CLIL	2
スペイン語総合5	2	入門スペイン語	2	上級スペイン語演習1 (2026年度に廃止)	2
スペイン語総合6	2	キャリアスペイン語1	2	上級スペイン語演習2 (2026年度に廃止)	2
スペイン語演習1	2	キャリアスペイン語2	2	スペイン語海外言語文化研修 (秋学期)	2
スペイン語演習2	2	スペイン語トレーニング1	2		
スペイン語演習3	2	スペイン語トレーニング2	2		
中国語					
中国語総合1	2	キャリア中国語3	2	上級中国語ライティング1 (2027年度に廃止)	2
中国語総合2	2	中国語トレーニング1	2	上級中国語ライティング2 (2027年度に廃止)	2
中国語総合3	2	中国語トレーニング2	2	上級中国語リスニング・リーディング1 (2027年度に廃止)	2
中国語演習1	2	中国語トレーニング3	2	上級中国語リスニング・リーディング2 (2027年度に廃止)	2
中国語演習2	2	アカデミック中国語1	2	上級中国語演習1 (2026年度に廃止)	2
中国語演習3	2	アカデミック中国語2	2	上級中国語演習2 (2026年度に廃止)	2
中国語演習4	2	中国語CLIL 1	2	中国語海外言語文化研修 (春学期)	2
入門中国語	2	中国語CLIL 2	2	中国語海外言語文化研修 (秋学期)	2
キャリア中国語1	2	上級中国語コミュニケーション1 (2027年度に廃止)	2		
キャリア中国語2	2	上級中国語コミュニケーション2 (2027年度に廃止)	2		
朝鮮語					
朝鮮語総合1	2	入門朝鮮語	2	朝鮮語CLIL 2	2
朝鮮語総合2	2	キャリア朝鮮語1	2	上級朝鮮語コミュニケーション1 (2026年度に廃止)	2
朝鮮語総合3	2	キャリア朝鮮語2	2	上級朝鮮語コミュニケーション2 (2026年度に廃止)	2
朝鮮語総合4	2	キャリア朝鮮語3	2	上級朝鮮語ライティング1 (2026年度に廃止)	2
朝鮮語演習1	2	キャリア朝鮮語4	2	上級朝鮮語ライティング2 (2026年度に廃止)	2
朝鮮語演習2	2	アカデミック朝鮮語1	2	上級朝鮮語演習1 (2027年度に廃止)	2
朝鮮語演習3	2	アカデミック朝鮮語2	2	上級朝鮮語演習2 (2027年度に廃止)	2
朝鮮語演習4	2	朝鮮語CLIL 1	2	朝鮮語海外言語文化研修 (春学期)	2
ロシア語					
ロシア語総合1	2	ロシア語総合4	2	ロシア語演習1	2
ロシア語総合2	2	ロシア語総合5	2	ロシア語演習2	2
ロシア語総合3	2	入門ロシア語	2	ロシア語演習3	2
日本語					
日本の社会と文化A	2	社会の中の日本語B	2	キャリアの日本語B	2
日本の社会と文化B	2	論文読解の方法	2	ビジネスのための口頭運用力A	2
日本の社会と文化C	2	論文作成の技法	2	ビジネスのための口頭運用力B	2
社会の中の日本語A	2	キャリアの日本語A	2	ビジネスメールと文書	2

科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位
日本手話					
日本手話初級1	2	日本手話中級1	2		
日本手話初級2	2	日本手話中級2	2		
ポルトガル語（ブラジル）					
ポルトガル語（ブラジル）1	2	ポルトガル語（ブラジル）2	2		
インドネシア語					
入門インドネシア語	2				
タイ語					
入門タイ語	2				
タガログ語					
入門タガログ語	2				
ベトナム語					
入門ベトナム語	2				

学科・専修
ごとの
履修規定
カリキュラム

2016年度以降 1年次入学者に適用

文学部専門教育課程について

文学部基幹科目

キリスト教学科

文学科

史学科

教育学科

1 文学部専門教育科目の構成について

文学部の専門教育課程は、次の2つからなっている。

文学部基幹科目：学部共通の導入的・基礎的科目

文学部指定科目：「文学部基幹科目」の履修を基礎とし、学科・専修がその専門性に基づいて設置している科目

2 各履修区分および科目の種類について

〈履修区分〉

履修区分	科目の種類	
	基幹科目	指定科目
必修科目	基幹科目A	指定科目A (教育学科初等教育専攻課程はA1・A2)
選択科目	基幹科目B	指定科目B1・B2
	基幹科目C	指定科目C
	基幹科目D	(教育学科初等教育専攻課程はC1・C2)

上記のほか「自由科目」がある。次頁からの説明を参照すること。

必修科目	「基幹科目A」	文学部での勉学の意味を問い直し、キャリア形成に関する意識を高めることを目的とする。2年次秋学期に、必ず履修しなければならない。
	「指定科目A」	文学部の学生が4年間の課程で科目履修を進めるうえで、必ず修得しておかなければならない、基礎的かつ重要な科目群である。
選択科目	「基幹科目B」	文学部基礎教養を滋養する実践的な科目群である。 ※以下の科目は、1学期に1科目しか履修できない。また、単位修得後、同一科目を履修することはできない。 ・「情報処理3 a～d」の4科目 ・「情報処理4 a～d」の4科目
	「指定科目B1・B2」	文学部各学科・専修の専門的教育の根幹をなす科目群である。
	「基幹科目C」	文学部学生に必要な、導入的・基礎的講義科目群である。
	「指定科目C」	バリエーションに富んだ専門講義群で、学科・専修の枠を越えて自由に選択することができる。履修にあたっては、学科・専修が示す科目内容も参照のこと。「卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習」については、「Ⅲ-2 履修規定 2 卒業論文(制作)各種規定」を参照のこと。
	「基幹科目D」	古典語の初歩や既習外国語の文献講読など、言語学習を基軸として文学部基礎教養を深化させる科目群である。 「ドイツ語文献講読1・2」を履修するためには、全学共通言語B(ドイツ語)必修科目もしくは全学共通言語自由科目のドイツ語科目から4単位修得済みであること。

「フランス語文献講読1・2」を履修するためには、全学共通言語B（フランス語）必修科目もしくは全学共通言語自由科目のフランス語科目から4単位修得済みであること。

「英語文献講読1」は、比較的平易な英語で書かれた概説書・入門書・エッセイ等を講読する。全学共通言語A（英語）必修科目単位修得者のみ履修が認められる。

GLAP併置科目は、すべて英語で行われ、履修にあたってはIELTS6.0程度の英語力が求められる。各科目、抽選登録（定員10名）。

自由科目 学生の自発的な学習計画に従って自身の学習を進めるために設定されている科目の区分として「自由科目」がある。

具体的には指定科目について卒業要件単位数を超えて修得した分や全学共通科目・文学部基幹科目の超過履修分、および文学部他学科・他専修科目、専門関連科目、他学部科目、5大学単位互換制度利用による他大学科目（「X 5大学間単位互換制度」参照）がこれに相当する。履修の方法については、「Ⅲ-2 履修規定」ならびに各学科・専修における「履修上の注意」を参照すること。

また、4年次生に限り大学院文学研究科およびキリスト教学研究科の科目を自由科目として履修することができる。手続きの詳細については、「Ⅲ-2 履修規定 **3-4** 大学院科目の履修（学部4年次生のみ）」を参照すること。

随意科目 随意科目として指定される科目は、卒業要件単位数に含めることはできない。

3 基幹科目に関する注意

基幹科目のうち以下の科目は、集中して授業を実施する、あるいは所定の活動の活動内容の報告書をもとに単位を認定する科目であり、履修登録方法などが他の科目と異なるので注意すること。

基幹科目B「海外フィールドスタディ」

「海外フィールドスタディ」は、文学部の認める海外の大学、もしくはそれに準じる機関でのプログラムを受講し、修了書を受け、後日レポートや報告書の提出、発表を行い、単位を修得するものである。

単位修得にあたっては、事前準備段階での取り組み、海外での活動内容への取り組み、およびその報告会の発表や報告書の内容を評価する。

尚、海外フィールドスタディ〈2. 海外ASD〉を1年次で履修する場合は、ドイツ語既習者に限る。海外フィールドスタディ〈3. 海外SLV〉を1年次で履修する場合は、フランス語既習者に限る。

本年度の開講科目の詳細はシラバスを参照すること。

基幹科目B「インターンシップ」

就業体験を通して社会・企業の実情を知り、仕事や職業に対する興味・関心を高め、また大学における勉学の意味を自ら問い直し学習意欲の向上にも結びつけることを目的とする。インターンシップは「基幹科目A」（人文学とキャリア形成）の単位修得者を対象とし、単位認定にあたっては、活動報告書のほかに所定の課題についてレポートを提出し、報告会で発表することが求められる。

詳細は、本年度のシラバスで確認すること。

基幹科目B「書道1・2」

「書道1・2」は国語の教職免許取得者のための必修科目であり、文学部日本文学専修および文芸・思想専修の学生のみ履修が認められる。履修登録は4月初旬に受付を行い、人数制限を行う。

当該学科・専修の学生であっても教職課程に登録していない者、および他学科、他専修の学生は履修することができない。

文学部指定科目Cは、それぞれの学科や専修にとらわれずに各自の関心や興味のあり方に応じて、幅広く履修することが可能である。

シラバスをよく読んで自らテーマを設定し、各学科・専修の講義を横断して履修計画を立てることが望ましい。このような履修のしかたは、各学科・専修の専門領域の学習・研究にも大きく寄与するであろう。

履修計画を立てるときは、隔年開講科目もあるので、配当年次・学期に注意すること。また、同一科目を単位修得後に重複して履修することはできない。

最新の科目情報はR Guideを参照すること。

指定科目C「卒業論文（制作）・卒業論文（制作）指導演習」について

「卒業論文（制作）・卒業論文（制作）指導演習」を履修する場合、所属学科・専修で卒業論文（制作）を執筆・作成できるが、所属学科・専修以外で卒業論文（制作）を執筆・作成することも可能である。すなわち、自らのテーマに最もふさわしい学科・専修のもとで、卒業論文（制作）の執筆・作成に取り組むことができる。

詳細については、「Ⅲ-2 履修規定 2 卒業論文（制作）各種規定」を確認すること。

基幹科目 科目表

2016年度以降1年次入学者に適用

※下記の科目表は入学年度4月時点のものである。担当者、開講学期、配当年次、登録方法を含む最新の科目表はR Guideで確認すること。

科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位
必修科目（基幹科目A）					
人文学とキャリア形成a	2	人文学とキャリア形成b	2		
選択科目（基幹科目B）					
インターンシップ	2	海外フィールドスタディ (1. 海外EAP)	4	海外フィールドスタディ (2. 海外ASD)	4
海外フィールドスタディ (3. 海外SLV)	4	書道1	1	書道2	1
情報処理 (PCプレゼンテーション) 3a	2	情報処理 (PCプレゼンテーション) 3b	2	情報処理 (PCプレゼンテーション) 3c	2
情報処理 (PCプレゼンテーション) 3d	2	情報処理 (PCプレゼンテーション) 4a	2	情報処理 (PCプレゼンテーション) 4b	2
情報処理 (PCプレゼンテーション) 4c	2	情報処理 (PCプレゼンテーション) 4d	2	SDGsフィールドワーク <グローバル>	2
SDGsフィールドワーク <ローカル>	2	Humanities Study1 (History)	2	Humanities Study2 (Education)	2
Humanities Study3 (Religion)	2	Humanities Study4 (History)	2	Humanities Study5 (Literature)	2
Humanities Study6 (Literature)	2	SDGs演習1 [環境思想]	2	SDGs演習2 [対話スキルと合意形成法]	2
SDGs特論1 [環境の文学]	2	SDGs特論2 [緑の政治・経済]	2	SDGs特論3 [コミュニティ・地域づくり]	2
SDGs特論4 [人権と平等]	2	人文情報・メディア学演習1 [人文情報メディア基礎論(文献 講読)]	2	人文情報・メディア学演習2 [人文情報メディア応用論(報告 と対話)]	2
人文情報・メディア学特論1 [人文情報とメディア]	2	人文情報・メディア学特論2 [人文情報と社会]	2	人文情報・メディア学特論3 [電子メディア基礎論]	2
人文情報・メディア学特論4 [電子メディア応用論]	2				
選択科目（基幹科目C）					
心理学1	2	心理学2	2	情報処理1	2
情報処理2	2	宗教思想1 (キリスト教と「知」)	2	宗教思想2 (欧米のキリスト教)	2
倫理思想	2	英米文学概論	2	フランス文学・文化概論	2
日本語学概論1	2	日本語学概論2	2	漢文学概論	2
日本文学概論	2	文芸・思想概論	2	世界史概論1 (海域・海洋世界)	2
世界史概論2 (大陸世界)	2	日本史概論1	2	日本史概論2	2
超域文化学概論	2	教育制度・政策論	2	家庭教育論	2
教育と福祉	2	教育と宗教	2	ドイツ語圏文化概論1	2
ドイツ語圏文化概論2	2	日本文学概論	2	音楽と感性	2
言葉と感性	2	デジタルアーカイブ論	2	テキストマイニング論	2
SDGs入門	2	人文情報・メディア学入門	2	Humanities Lecture1 (History)	2
Humanities Lecture2 (Literature)	2				
選択科目（基幹科目D）					
ヘブライ語1	2	ヘブライ語2	2	ギリシア語1	2
ギリシア語2	2	ラテン語1	2	ラテン語2	2
ドイツ語文献講読1	2	ドイツ語文献講読2	2	フランス語文献講読1	2
フランス語文献講読2	2	英語文献講読1	2	Japan in Asian Context	2
Traditional Arts in Japan	2	Postmodern Turn in Japanese Arts	2	Development of Gender Studies	2
Intellectual History of Japan	2	Christianity in Japan	2	Japanese Literature in the World	2
Rethinking European Literatures	2				

専門教育科目の特色

文学部キリスト教学科では、キリスト教の歴史と文化について広く深い理解を持ち、キリスト教と社会の関連性を洞察する能力を身につけた人を育成する。そのためにまず、入門的科目群等を通して、広く複合的学問体験を持たせ、各自の学問的関心を喚起し、その知的主体性を涵養する。並行して、外国語文献の読解及び現場での体験を反省的に言語化する訓練を積む。更に、聖書・歴史、神学・思想、アジアにおけるキリスト教、芸術・文化各領域に関する専門的科目群を通して、包括的かつ具体的・個別的観点から、キリスト教関連事象を分析し理解することを学ぶ。

1年次	2年次	3年次	4年次
全学共通科目			
	必修科目(基幹科目A) ●人文学とキャリア形成		
選択科目(基幹科目B) ●海外フィールドスタディ ●インターンシップなど			
選択科目(基幹科目C) ●宗教思想1・2 ●倫理思想など			
選択科目(基幹科目D) ●ヘブライ語 ●ギリシア語 ●ラテン語 ●ドイツ語文献講読 ●フランス語文献講読 ●英語文献講読など			
必修科目(指定科目A) ●入門演習 ●キリスト教学基礎演習		選択科目(指定科目B1) ●演習	
		選択科目(指定科目B2) ●フィールドワーク ●原典講読など	
選択科目(指定科目C) ●キリスト教学入門講義(聖書, キリスト教史, 宗教と文化)			
		選択科目(指定科目C) ●キリスト教学講義(聖書学, キリスト教思想史, 比較宗教学, キリスト教倫理学, キリスト教美術史, キリスト教音楽学)	
*文学部指定科目Cは原則としてすべての科目を選択履修できます。			●卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習
自由科目			

学科での学習生活は卒業論文（制作）の提出を目指し、講義・演習科目を中心に進められる。

1年次の履修について

1年次には、「入門演習」（必修・自動登録）で、学問上のルールや基礎的な技術的知識を学びます。また、1～4年次配当の指定科目C「キリスト教学入門講義1～6」は1年次生が専門教育科目の入り口に立ち、基本的な事項を身につけるために開講される科目で、4科目中1年次生のうちに2科目以上修得することを推奨します。基幹科目の「宗教思想1・2」「倫理思想」等と合わせて学んでください。

キリスト教学科におけるカリキュラムについて

講義系科目群（キリスト教学講義等）は基本的に、キリスト教学の諸分野（聖書・歴史分野、神学思想分野、アジアにおけるキリスト教分野、芸術・文化分野）を顧慮して配置されています。そこでは、キリスト教の諸相を広く一般的に探求することによって、キリスト教に関する基礎的知識を獲得することを、そしてそれに基づき、より深化された専門的知識へと導かれていくことを狙いとしています。また、フィールドワークでは、机上の知識をさまざまな現場で問い直すことを目指します。さらに、指定科目B2では、キリスト教学を学んでいく上で不可欠の、原典・外国語のテキストを綿密に読解する能力を身につけていきます。

演習および卒業論文の選択について

演習の履修については、次頁を参照してください。

4年次に卒業論文の作成に辿り着けるように、予め4年間の履修計画を立て、3年次秋学期には、卒業論文の方向性を決めておくようにしてください。

教職免許について

宗教、社会、地歴、公民の教員免許の取得を目標にする者は、学校・社会教育講座の履修要項を参照してください。

2 履修上の注意 (「Ⅲ-2 履修規定」も合わせて確認のこと)

特に定める場合を除き、同一名称の科目を重複履修することはできない。

1. 基幹科目の履修について

基幹科目は卒業までに必修科目2単位(基幹科目A「人文学とキャリア形成」2年次履修)のほか10単位修得することが必要である。ただし、基幹科目B「書道1・2」は履修できない。卒業要件単位数を超えて修得した場合は、自由科目の単位となる。

2. キリスト教学科の科目の履修について

特に指示のない科目については、R Guideやシラバスの記載に従って履修すること。

(1) 指定科目A

全科目とも配当年次・学期にクラスを指定して自動登録される。再履修となった場合も各学期に自動登録される。

(2) 指定科目B1

原則的に3年次春学期より1学期に1科目ずつ履修すること。

単位修得後に同一科目を重複履修することを認める。卒業要件単位数を超えて修得した場合は、自由科目の単位となる。

なお、前年度秋学期中に次年度の希望を受けつけ、履修科目を指定する。各学期に大学が登録を行う。

(3) 指定科目B2

指定科目Cとあわせて40単位修得することが必要である。単位修得後に、重複して履修することを認める。

卒業要件単位数を超えて修得した場合は、自由科目の単位となる。

(4) 指定科目C

キリスト教学科の学科課程に掲載されている科目のほか、文学部他学科の指定科目Cも各自の履修計画に従って履修を認める。ただし、同一科目を単位修得後に重複して履修することはできない。卒業要件単位数を超えて修得した場合は、自由科目の単位となる。

☞ 文学部専門教育課程について [4 文学部指定科目Cの履修計画について](#) 参照

(5) 専門関連科目について

教育職員免許状取得のための科目である。教職課程登録者のみ履修が認められる。単位を修得した場合、自由科目の単位となる。

(6) 随意科目について

① 随意科目として指定される科目は、卒業要件単位数に含めることはできない。

② 〈各教科の指導法〉の科目(*)は、随意科目である。

③ 〈各教科の指導法〉の科目(*)については、成績参照画面上は「講座課程科目」区分に記載・算入される。

*社会・地理歴史科教育法1, 社会・地理歴史科教育法演習1, 社会・地理歴史科教育法2, 社会・地理歴史科教育法演習2, 社会・公民科教育法1, 社会・公民科教育法演習1, 社会・公民科教育法2, 社会・公民科教育法演習2, 宗教科教育法1, 宗教科教育法演習1, 宗教科教育法2, 宗教科教育法演習2

キリスト教学科2016年度以降1年次入学者 卒業要件単位表

必修/選択/自由	科目区分		卒業要件単位数		
必修科目	言語教育科目 言語A【全学共通】		6	20	
	言語教育科目 言語B【全学共通】		4		
	基幹科目A	人文学とキャリア形成	2		
	指定科目A	入門演習（「学びの技法」）	4		
		キリスト教学基礎演習	4		
選択科目	学びの精神【全学共通】		4	76	124以上
	多彩な学び【全学共通】		14		
	スポーツ実習【全学共通】				
	基幹科目B, C, D		10		
	指定科目B	指定科目B1（演習）	8		
		指定科目B2（フィールドワーク, 原典講読など）	40		
	指定科目C	講義, 卒業論文（制作）・卒業論文（制作）指導演習			
自由科目	専門関連科目		4以上	28以上	
	選択科目（卒業要件単位数を超えて修得した単位）				
	言語自由科目【全学共通】				
	文学部他学科科目				
	他学部, 5大学間単位互換制度科目		0~16		
	大学院開講科目（4年次生のみ）		0~8		

◆全学共通科目の履修については、全学共通科目の項を参照すること。

◆「随意科目」は、卒業要件単位に含めることはできない。

社会・地理歴史科教育法1, 社会・地理歴史科教育法演習1, 社会・地理歴史科教育法2, 社会・地理歴史科教育法演習2, 社会・公民科教育法1, 社会・公民科教育法演習1, 社会・公民科教育法2, 社会・公民科教育法演習2, 宗教科教育法1, 宗教科教育法演習1, 宗教科教育法2, 宗教科教育法演習2は、随意科目である。

◆全授業回の半数を超える授業回を遠隔により実施する科目で修得した単位は、60単位まで卒業要件単位に含めることができる。60単位を超えた単位は随意科目となり、卒業要件単位には算入されない。

授業形態については、「Ⅱ 授業（学修生活） 4 授業形態」を参照すること。

キリスト教学科 科目表

2016年度以降1年次入学者に適用

※下記の科目表は入学年度4月時点のものである。担当者、開講学期、配当年次、登録方法を含む最新の科目表はR Guideで確認すること。

科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位
必修科目（基幹科目A）					
基幹科目 科目表 を参照					
必修科目（指定科目A）					
入門演習A1a	2	入門演習A1b	2	入門演習A2a	2
入門演習A2b	2	キリスト教学基礎演習A1a	2	キリスト教学基礎演習A1b	2
キリスト教学基礎演習A2a	2	キリスト教学基礎演習A2b	2		
選択科目（基幹科目B）					
基幹科目 科目表 を参照					
選択科目（基幹科目C）					
基幹科目 科目表 を参照					
選択科目（基幹科目D）					
基幹科目 科目表 を参照					
選択科目（指定科目B1）					
演習A1	2	演習A2	2	演習A3	2
演習A4	2	演習A5	2	演習A6	2
演習A7	2	演習A8	2	演習A9	2
演習A10	2	演習A11	2	演習A12	2
演習A13	2	演習A14	2	演習A15	2
演習A16	2	演習A17	2	演習A18	2
選択科目（指定科目B2）					
フィールドワークA1	2	キリスト教学特論	2	ヘブライ語講読2	2
ギリシア語講読2	2	ラテン語講読2	2	ヘブライ語講読1	2
ギリシア語講読1	2	ラテン語講読1	2		
選択科目（指定科目C）					
キリスト教学入門講義1 (聖書1)	2	キリスト教学入門講義2 (聖書2)	2	キリスト教学入門講義3 (キリスト教史1)	2
キリスト教学入門講義4 (キリスト教史2)	2	キリスト教学入門講義5 (宗教と文化1)	2	キリスト教学入門講義6 (宗教と文化2)	2
キリスト教学講義1 (旧約聖書学1)	2	キリスト教学講義2 (旧約聖書学2)	2	キリスト教学講義3 (新約聖書学1)	2
キリスト教学講義4 (新約聖書学2)	2	キリスト教学講義5 (キリスト教思想史1)	2	キリスト教学講義6 (キリスト教思想史2)	2
キリスト教学講義7 (比較宗教学1)	2	キリスト教学講義8 (比較宗教学2)	2	キリスト教学講義9 (神学思想1)	2
キリスト教学講義10 (神学思想2)	2	キリスト教学講義11 (キリスト教倫理学1)	2	キリスト教学講義12 (キリスト教倫理学2)	2
キリスト教学講義13 (宗教社会学)	2	キリスト教学講義14 (宗教心理学)	2	キリスト教学講義15 (キリスト教と教育1)	2
キリスト教学講義16 (キリスト教と教育2)	2	キリスト教学講義17 (アジアのキリスト教1)	2	キリスト教学講義18 (アジアのキリスト教2)	2
キリスト教学講義19 (アジアの宗教1)	2	キリスト教学講義20 (アジアの宗教2)	2	キリスト教学講義21 (キリスト教と美術1)	2
キリスト教学講義22 (キリスト教と美術2)	2	キリスト教学講義23 (キリスト教と音楽1)	2	キリスト教学講義24 (キリスト教と音楽2)	2
キリスト教学講義25 (キリスト教美術史1)	2	キリスト教学講義26 (キリスト教美術史2)	2	キリスト教学講義27 (キリスト教音楽学1)	2
キリスト教学講義28 (キリスト教音楽学2)	2	キリスト教学講義33 (キリスト教の礼拝1)	2	キリスト教学講義34 (キリスト教の礼拝2)	2
キリスト教学講義35 (キリスト教と現代社会1)	2	キリスト教学講義36 (キリスト教と現代社会2)	2	キリスト教学講義37 (日本キリスト教史)	2

科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位
キリスト教学講義38 (日本宗教史)	2	卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習	10		
自由科目(専門関連科目)					
世界史	2	日本史	2	社会学	2
経済学	2	法律学	2	政治学	2
随意科目					
社会・地理歴史科教育法1	2	社会・地理歴史科教育法演習1	2	社会・地理歴史科教育法2	2
社会・地理歴史科教育法演習2	2	社会・公民科教育法1	2	社会・公民科教育法演習1	2
社会・公民科教育法2	2	社会・公民科教育法演習2	2	宗教科教育法1	2
宗教科教育法演習1	2	宗教科教育法2	2	宗教科教育法演習2	2

文学科（英米文学専修）履修規定

2016年度以降1年次入学者に適用
(2018年度以降3年次編入学者に適用)

専門教育科目の特色

本専修では、まず初年次において、英語学・英米文学研究の基礎を習得・実践する。さらに、卒業年次まで配した演習科目によって、これを発展させる。また、外国人教員による英語の演習により、英語運用能力の涵養にも備える。これに併行して、文学部基幹科目や学科専修を横断する講義科目において、英語学・英米文学の専門的知見を核とした該博な人文学的学識を構築する。

1年次	2年次	3年次	4年次
全学共通科目			
必修科目(基幹科目A) ●人文学とキャリア形成			
選択科目(基幹科目B) ●海外フィールドスタディ●インターンシップなど			
選択科目(基幹科目C) ●英米文学概論●ドイツ語圏文化概論●フランス文学・文化概論 ●日本語学概論●漢文学概論●日本文学概論●文芸・思想概論など			
選択科目(基幹科目D) ●ヘブライ語●ギリシア語●ラテン語●ドイツ語文献講読●フランス語文献講読 ●英語文献講読など			
必修科目(指定科目A) ●入門講義●入門演習●基礎演習●英語基礎演習			
		選択科目(指定科目B1) ●演習	
		選択科目(指定科目B2) ●英語表現演習	
選択科目(指定科目C) ●文学講義（英語学概説、イギリス文学概説、アメリカ文学概説、イギリス散文、アメリカ散文、英米詩、シェイクスピア、文学批評・理論、英米演劇、中世英文学、児童文学、比較文学、英語圏文学、表象芸術、英語発達史、英語構造論、音声学、英米事情、イギリス文化、アメリカ文化、英語圏文化、比較文化）など			
*文学部指定科目Cは、原則として全ての科目を選択履修できます。			
卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習			
自由科目			

1 英米文学専修の4年間の学習の進め方についての案内

1年次

春学期は「入門演習B1」(指定科目A)を1科目履修し、英語で英米文学を読み、演習形式で作品について議論する方法を学ぶとともに、「入門講義1」(指定科目A)を履修し、英語という言語の学問的基礎を固める。原則として入門演習B1クラスの担当教員は、1年次のアカデミックアドバイザーを兼ねる。秋学期は「入門演習B2」(指定科目A)を1科目履修し、英語で英米文学を正確に読む方法を学びつつ、「入門講義2」(指定科目A)を履修し、英米文学の学問的基礎を押さえる。

全学共通言語教育科目は必修。そのほか、全学共通総合系科目、文学部基幹科目から選択して履修する。基幹科目C「英米文学概論」は1年次で履修するのが望ましい。

2年次

「基礎演習1」「基礎演習2」(指定科目A)をそれぞれ春学期と秋学期に1科目履修し、1年次「入門演習」の成果を踏まえて、原語による英米文学作品の読解をさらに深め、クラスでの議論を通して自己表現方法に磨きをかける。さらに、ネイティブ教員による「英語基礎演習1」「英語基礎演習2」(指定科目A)をそれぞれ春学期と秋学期に1科目履修し、文献、資料などを英語で理解するだけでなく、英語で自己表現する方法の基礎を学ぶ。

全学共通総合系科目、文学部基幹科目から選択して履修できるのは1年次と同じ。ただし、「人文学とキャリア形成」(基幹科目)は2年次全員必修。それに加えて全学共通言語自由科目、文学部指定科目Cの履修が可能になる。指定科目Cはすべて選択科目だが、「文学講義1」から「文学講義6」は、英語学、英文学、米文学について、その後の発展の基礎をしっかりと身につける重要科目なので、この6科目については2年次にできるだけたくさん履修することが望ましい。それによって3,4年次の学習の充実度が大きく向上する。

3年次

演習科目の総仕上げとなる学生生活後半の最重要科目「演習B」(指定科目B1)を原則として春学期と秋学期に1科目ずつ履修し、さらに英語作品や英語文献に接することで、高度な鑑賞・批評、分析方法を学ぶ。春学期秋学期続けて同じ教員の演習に参加することが望ましい。

2年次の「英語基礎演習」よりもさらに自由で多様な題材を扱うネイティブ教員による「英語表現演習」(指定科目B2)を卒業までの2年間に、各学期1科目、全体で2科目を選んで4単位履修する。ただし、超過履修として4単位以上を履修することもできる。

そのほか、全学共通言語自由科目及び総合系科目、文学部基幹科目、文学部指定科目Cのなかから選択して履修する。なお、4年次に卒業論文執筆を希望する学生は、3年次の秋に「卒業論文指導申請」を行なって、指導教員の助言を受けることができる。

4年次

3年次に引き続いて「演習B」を原則として春学期と秋学期に1科目ずつ履修する。「英語表現演習」は、3年次での履修単位数に応じて、必要な数の科目を選んで各学期1科目履修する。ただし、超過履修として合計4単位を超えて履修することもできる。

そのほかの科目の履修は3年次と同じだが、指定科目Cから「卒業論文(制作)」の選択を希望する学生は、3年次に既に「卒業論文指導申請」を行なっても、4年次4月にあらためて「卒業論文履修登録票(4年次生)」を提出する。それによって窓口となる指導教員が確定し、論文執筆上の様々な問題を解決し論文を完成させるのに役立つような助言・指導を受けられるようになる。論文は必修ではないが、4年間の学習の総仕上げとして「卒業論文(制作)」の執筆を強く推奨する。

2 履修上の注意 (Ⅲ-2 履修規定) も合わせて確認のこと)

特に定める場合を除き、同一名称の科目を重複履修することはできない。

1. 基幹科目の履修について

基幹科目は卒業までに必修科目2単位(基幹科目A「人文学とキャリア形成」2年次履修)のほか、10単位修得すること。

ただし、基幹科目B「書道1・2」は履修できない。

卒業要件単位数を超えて修得した場合は、自由科目の単位となる。

2. 英米文学専修の科目の履修について

特に指示のない科目については、R Guideやシラバスの記載に従って履修すること。

(1) 指定科目A

全科目とも配当年次に自動登録される。「入門演習B1・2」、「基礎演習1・2」、「英語基礎演習1・2」は履修するクラスを指定される。

(2) 指定科目B1

3年次以後に履修する。3月中の指定する期日に履修希望を提出し、調整の結果、原則として各学期に1科目ずつ履修科目が振り分けられる。発表された結果はすべて大学が登録を行う。

前年度修得した科目を重複して履修することもできる。卒業要件単位数を超えて修得した場合は、自由科目の単位となる。

(3) 指定科目B2

3年次以後に履修する。3月中の指定する期日に履修希望を提出し、調整の結果、原則として各学期に1科目ずつ履修科目が振り分けられる。発表された結果はすべて大学が登録を行う。

前年度修得した科目を重複して履修することもできる。また、合計で4単位を超えて履修することもできる。卒業要件単位数を超えて修得した場合は、自由科目の単位となる。

(4) 指定科目C

指定科目Cは「文学講義1~42」のほか、文学部他学科・他専修の指定科目Cも各自の履修計画に従って履修できる。ただし、同一科目を単位修得後に重複して履修することはできない。また、卒業要件単位数を超えて修得した場合は、自由科目の単位となる。

㊦ 文学部専門教育課程について [4 文学部指定科目Cの履修計画について](#) 参照

また、「卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習」については、下記のとおり登録すること。

履修登録について

(1) 卒業論文は、まず履修前年度の10月に卒業論文指導を申請することによって、指導を受けはじめることができる。「卒業論文指導申請票(3年次生)」を指定された期日に専修の指示に従い提出すること。

(2) 上記(1)の指導申請票を提出しなかった場合でも、履修年度の4月にあらたに下記(3)の履修登録票を提出することによって、指導を受けはじめることができる。また、上記(1)の指導申請票を提出した場合でも、履修年度の4月には、あらためて下記(3)の履修登録票を提出しなければならないので注意すること。

(3) 履修年度の登録については、「卒業論文履修登録票(4年次生)」を、専修の指示に従い提出すること。登録結果は指定の方法で発表され、大学が履修登録を行う。登録内容は履修登録状況画面で必ず確かめること。

㊦ 「Ⅲ-2 履修規定 [2 卒業論文\(制作\)各種規定](#)」参照

(5) 随意科目

- ① 随意科目として指定される科目は、卒業要件単位数に含めることはできない。
- ② 〈各教科の指導法〉の科目(*)は、随意科目である。
- ③ 〈各教科の指導法〉の科目(*)については、成績参照画面上は「講座課程科目」区分に記載・算入される。

* 英語科教育法 1, 英語科教育法演習 1, 英語科教育法 2, 英語科教育法演習 2

文学科（英米文学専修）2016年度以降1年次入学者 卒業要件単位表

必修/選択/自由	科目区分		卒業要件単位数		
必修科目	言語教育科目 言語A【全学共通】		6	28	
	言語教育科目 言語B【全学共通】		4		
	基幹科目A	人文学とキャリア形成	2		
	指定科目A	入門講義	4		
		入門演習（「学びの技法」）	4		
		基礎演習	4		
英語基礎演習		4			
選択科目	学びの精神【全学共通】		4	68	124以上
	多彩な学び【全学共通】		14		
	スポーツ実習【全学共通】				
	基幹科目B, C, D		10		
	指定科目B	指定科目B 1（演習）	8		
		指定科目B 2（英語表現演習）	4		
	指定科目C	講義，卒業論文（制作）・卒業論文（制作）指導演習	28		
自由科目	選択科目（卒業要件単位数を超えて修得した単位）		4以上	28以上	
	言語自由科目【全学共通】				
	文学部他学科・他専修科目				
	他学部，5大学間単位互換制度科目		0～16		
	大学院開講科目（4年次生のみ）		0～8		

◆全学共通科目の履修については，全学共通科目の項を参照すること。

◆「随意科目」は，卒業要件単位に含めることはできない。

英語科教育法1，英語科教育法演習1，英語科教育法2，英語科教育法演習2は，随意科目である。

◆全授業回の半数を超える授業回を遠隔により実施する科目で修得した単位は，60単位まで卒業要件単位に含めることができる。60単位を超えた単位は随意科目となり，卒業要件単位には算入されない。

授業形態については，「Ⅱ 授業（学修生活） 4 授業形態」を参照すること。

文学科 英米文学専修 科目表

2016年度以降1年次入学者に適用

※下記の科目表は入学年度4月時点のものである。担当者、開講学期、配当年次、登録方法を含む最新の科目表はR Guideで確認すること。

科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位
必修科目 (基幹科目A)					
基幹科目 科目表 を参照					
必修科目 (指定科目A)					
入門講義1	2	入門講義2	2	入門演習B1a	2
入門演習B1b	2	入門演習B1c	2	入門演習B1d	2
入門演習B1e	2	入門演習B1f	2	入門演習B1g	2
入門演習B2a	2	入門演習B2b	2	入門演習B2c	2
入門演習B2d	2	入門演習B2e	2	入門演習B2f	2
入門演習B2g	2	基礎演習1a	2	基礎演習1b	2
基礎演習1c	2	基礎演習1d	2	基礎演習1e	2
基礎演習1f	2	基礎演習1g	2	基礎演習2a	2
基礎演習2b	2	基礎演習2c	2	基礎演習2d	2
基礎演習2e	2	基礎演習2f	2	基礎演習2g	2
英語基礎演習1a	2	英語基礎演習1b	2	英語基礎演習1c	2
英語基礎演習1d	2	英語基礎演習1e	2	英語基礎演習1f	2
英語基礎演習1g	2	英語基礎演習2a	2	英語基礎演習2b	2
英語基礎演習2c	2	英語基礎演習2d	2	英語基礎演習2e	2
英語基礎演習2f	2	英語基礎演習2g	2		
選択科目 (基幹科目B)					
基幹科目 科目表 を参照					
選択科目 (基幹科目C)					
基幹科目 科目表 を参照					
選択科目 (基幹科目D)					
基幹科目 科目表 を参照					
選択科目 (指定科目B1)					
演習B1 (英語文学)	2	演習B2 (英語文学)	2	演習B3 (英語文学)	2
演習B4 (英語文学)	2	演習B5 (英語文学)	2	演習B6 (英語文学)	2
演習B7 (英語文学)	2	演習B8 (英語文学)	2	演習B9 (英語文学)	2
演習B10 (英語文学)	2	演習B11 (英語文学)	2	演習B12 (英語文学)	2
演習B13 (英語文学)	2	演習B14 (英語文学)	2	演習B15 (英語文学)	2
演習B16 (英語文学)	2	演習B17 (英語学)	2	演習B18 (英語学)	2
演習B19 (英語学)	2	演習B20 (英語学)	2	演習B21 (英語文学)	2
演習B22 (英語文学)	2	演習B23 (英語文学)	2	演習B24 (英語文学)	2
演習B25 (英語文学)	2	演習B26 (英語文学)	2	演習B27 (英語学)	2
演習B28 (英語学)	2	演習B29	2	演習B30	2
選択科目 (指定科目B2)					
英語表現演習1	2	英語表現演習2	2	英語表現演習3	2
英語表現演習4	2	英語表現演習5	2	英語表現演習6	2
英語表現演習7	2	英語表現演習8	2	英語表現演習9	2
英語表現演習10	2	英語表現演習11	2	英語表現演習12	2
英語表現演習13	2	英語表現演習14	2	英語表現演習15	2
英語表現演習16	2	英語表現演習17	2	英語表現演習18	2
英語表現演習19	2	英語表現演習20	2		
選択科目 (指定科目C)					
文学講義1 (英語学概説1)	2	文学講義2 (英語学概説2)	2	文学講義3 (イギリス文学概説1)	2
文学講義4 (イギリス文学概説2)	2	文学講義5 (アメリカ文学概説1)	2	文学講義6 (アメリカ文学概説2)	2
文学講義7 (イギリス散文1)	2	文学講義8 (イギリス散文2)	2	文学講義9 (アメリカ散文1)	2

科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位
文学講義10 (アメリカ散文2)	2	文学講義11 (英米詩1)	2	文学講義12 (英米詩2)	2
文学講義13 (シェイクスピア1)	2	文学講義14 (シェイクスピア2)	2	文学講義15 (文学批評・理論1)	2
文学講義16 (文学批評・理論2)	2	文学講義17 (英米演劇1)	2	文学講義18 (英米演劇2)	2
文学講義19 (中世英文学)	2	文学講義20 (児童文学)	2	文学講義21 (比較文学1)	2
文学講義22 (比較文学2)	2	文学講義23 (英語圏文学1)	2	文学講義24 (英語圏文学2)	2
文学講義25 (表象芸術1)	2	文学講義26 (表象芸術2)	2	文学講義27 (英語発達史1)	2
文学講義28 (英語発達史2)	2	文学講義29 (英語構造論1)	2	文学講義30 (英語構造論2)	2
文学講義31 (音声学1)	2	文学講義32 (音声学2)	2	文学講義33 (英米事情1)	2
文学講義34 (英米事情2)	2	文学講義35 (イギリス文化1)	2	文学講義36 (イギリス文化2)	2
文学講義37 (アメリカ文化1)	2	文学講義38 (アメリカ文化2)	2	文学講義39 (英語圏文化1)	2
文学講義40 (英語圏文化2)	2	文学講義41 (比較文化1)	2	文学講義42 (比較文化2)	2
卒業論文 (制作)・卒業論文 (制作) 指導演習	10				
随意科目					
英語科教育法1	2	英語科教育法演習1	2	英語科教育法2	2
英語科教育法演習2	2				

文学科（ドイツ文学専修）履修規定

2016年度以降1年次入学者に適用
(2018年度以降3年次編入学者に適用)

専門教育科目の特色

ドイツ文学専修では、必修科目において読み書き・聞く話すためのドイツ語の基礎知識とスキルを養うことから始め、ジャーナリズム、文学、科学のドイツ語文献資料を扱えることを目標とする。同時に演習において、情報収集、分析、提示、情報発信の基礎的なスキルを身につけ実践的に訓練する。文学講義において、ドイツ語圏の言語、文学、思想、社会と文化の諸問題や日独文化の比較について学び、異文化に対する理解や関心、そして異文化対応力を涵養する。

1年次	2年次	3年次	4年次
全学共通科目			
必修科目(基幹科目A) ●人文学とキャリア形成			
選択科目(基幹科目B) ●海外フィールドスタディ●インターンシップなど			
選択科目(基幹科目C) ●ドイツ語圏文化概論●英米文学概論●フランス文学・文化概論 ●日本語学概論●漢文学概論●日本文学概論●文芸・思想概論など			
選択科目(基幹科目D) ●ヘブライ語●ギリシア語●ラテン語●ドイツ語文献講読●フランス語文献講読 ●英語文献講読など			
必修科目(指定科目A) ●入門演習●ドイツ語入門●ドイツ語基礎演習			
選択科目(指定科目B1) ●演習			
選択科目(指定科目B2) ●ドイツ語表現演習 ●ドイツ文学・文化演習			
選択科目(指定科目C)* ●文学講義（ドイツの言語、東ドイツの文化、ドイツ文学にみるジェンダー文化、現代の言語論、言語研究の諸相、ドイツのメディア論、ドイツの学術文化、日独文化交流、日独比較文化、ドイツのメルヘン、ドイツの児童文学、ゲーテの時代、バロックの文化、ドイツの近代社会と思想、ドイツの表象文化、ドイツの都市文化、ドイツの音楽・舞台芸術・ドイツの映像文化、ドイツの生活文化、ドイツのユダヤ系文化、ドイツと異文化、ドイツ中世の文学・文化、ドイツ近世の文学・文化）			
*文学部指定科目Cは、原則として全ての科目を選択履修できます。			●卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習
自由科目			

1 ドイツ文学専修における4年間の学習の進め方についての案内

1年次

指定科目Aでは、「入門演習」でドイツ語圏の文学、文化、言語の歴史に関する基礎知識を学ぶことを通じて関心を持とう。同時に、情報収集、口頭発表、レポート作成の方法も実践的に学ぼう。そのためには文学部基幹科目C「ドイツ語圏文化概論」は必ず履修しよう。「ドイツ語入門」では全学共通科目で必修のドイツ語科目とあわせてドイツ語能力のいっそうの向上をめざそう。

2年次

指定科目Aの「ドイツ語基礎演習」においてドイツ語の基礎的なスキルの継続的な向上を図る一方、2年次からは新たに指定科目Bにおいて、B1の「演習C」で、各分野の具体的研究テーマに取り組み、専門的知識の情報収集、口頭発表、論文作成の練習をしよう。また、B2の「ドイツ語表現演習」では、ドイツ語の運用能力やドイツ語情報の収集能力の向上をめざそう。2年次まではドイツ語の語学スキルを身につけることが中心となるが、3・4年次においてドイツ語を駆使して興味追求ができるよう、指定科目Cの「文学講義101～118, 157, 160～162, 164, 168」においてさまざま専門領域の知識を学び始めよう。

3年次

指定科目B2の「ドイツ語表現演習」では、2年次に引き続きドイツ語の運用能力やドイツ語情報の収集能力の向上をめざそう。「ドイツ文学・文化演習」では各ジャンルのドイツ語文献講読を中心に研究対象に関する学習を深め、ドイツ語読解能力の向上をめざそう。その一方で、卒業論文も視野にいれながら、自分の関心や研究課題を見極めるためにも、指定科目Cの「文学講義101～118, 157, 160～162, 164, 168」でドイツの文学、文化、言語の各分野に関する専門的知識の拡大と深化に取り組もう。

4年次

指定科目B2の「ドイツ文学・文化演習」と指定科目Cの「文学講義101～118, 157, 160～162, 164, 168」を学ぶことで語学スキルと専門知識をさらに深めよう。「卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習」は、4年間の学習の総仕上げとして是非とも挑戦したい。4年次では、大学院の科目の履修も可能(許可制)であるため、より一層語学スキルや知識を向上させたい人には勧めたい。

2 履修上の注意 (「Ⅲ-2 履修規定」も合わせて確認のこと)

特に定める場合を除き、同一名称の科目を重複履修することはできない。

1. 基幹科目の履修について

基幹科目は、卒業までに必修科目2単位(基幹科目A「人文学とキャリア形成」2年次履修)のほか、10単位修得すること。

ただし、基幹科目B「書道1・2」は履修できない。

卒業要件単位数を超えて修得した場合は、自由科目の単位となる。

2. ドイツ文学専修の科目の履修について

特に指示のない科目については、R Guideやシラバスの記載に従って履修すること。

いずれの授業に関しても、合計3回の無断欠席をもって成績評価の対象とならない。

(1) 指定科目A

全科目とも配当年次にクラスを指定して自動登録される。再履修となった場合も各開講学期に自動登録される。

(2) 指定科目B1・B2

「ドイツ語表現演習1A・1B」「同2A・2B」以外の科目は、単位修得後に同一科目を重複履修することを認める。卒業要件単位数を超えて修得した場合は、自由科目の単位となる。

指定科目B1

指定科目B1は1学期に1科目ずつ選択できる。原則として春・秋学期同一教員のもとで継続して履修する。11月～12月中に次年度の履修希望調査を行い、あらかじめ指定された科目を大学が登録する。

指定科目B2

指定科目B2のうち以下の科目は、6月中に履修希望調査を行い、A・Bの2科目を同時に履修するよう指定する。指定された科目は大学が登録する。履修辞退および履修クラスの変更は認められない。また、以下の科目は同一科目であるため、「ドイツ語表現演習1A・1B」の単位を既に修得した者は、「ドイツ語表現演習2A・2B」を、「ドイツ語表現演習2A・2B」の単位を既に修得した者は、「ドイツ語表現演習1A・1B」を履修することはできない。

ドイツ語表現演習1A	ドイツ語表現演習2A
ドイツ語表現演習1B	ドイツ語表現演習2B

「ドイツ文学・文化演習4(日独比較文化タンデム)」の履修については、7月中に説明会を開催するので、その説明会に参加すること。

指定科目B2のその他の科目は、11月下旬～12月中に次年度の履修希望調査を行い、あらかじめ指定された科目を大学が登録する。

<2年次生への注意>

指定科目B2のうち、「ドイツ語表現演習(小論文)6」と「ドイツ文学・文化演習8(検定ドイツ語)」を2年次生が履修する場合は、最初にプレースメントテストを受けて合格することが必要である。プレースメントテストの実施日・場所についてはR Guideに掲載する。

(3) 指定科目C

指定科目Cは、「文学講義101～118, 157, 160～162, 164, 168」のほか、文学部他学科・他専修の指定科目Cも各自の履修計画に従って履修できる。ただし、同一科目を単位修得後に重複して履修することはできない。また、卒業要件単位数を超えて修得した場合は、自由科目の単位となる。

☞ 文学部専門教育課程について [4 文学部指定科目Cの履修計画について](#) 参照

「卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習」は「Ⅲ-2 履修規定 [2 卒業論文\(制作\)各種規定](#)」を参照。

(4) 随意科目

- ① 随意科目として指定される科目は、卒業要件単位数に含めることはできない。
- ② 〈各教科の指導演法〉の科目(*)は、随意科目である。
- ③ 〈各教科の指導演法〉の科目(*)については、成績参照画面上は「講座課程科目」区分に記載・算入される。

*ドイツ語科教育法1, ドイツ語科教育法演習1, ドイツ語科教育法2, ドイツ語科教育法演習2

3. 繰上履修

- (1) ドイツ語において一定以上の段階を達成した者には、本人の希望により、指定された履修年次に達していなくても繰上履修を認めることがあるので、4月のガイダンス時に申し出ること。
- (2) 全学共通科目「初習言語必修科目履修特別免除制度」により、全学共通科目のドイツ語の全必修科目を履修免除される学生のうち、全学共通科目の「ドイツ語中級1・2」修了程度の能力があると全カリセンタードイツ語教育研究室により判定された者は、指定科目A, 指定科目B2の中から許可された科目を1年次より履修できることとする。
- (3) 2年次以降も、繰上履修を希望する学生は、必ず4月のガイダンス時に申し出ること。

4. 教育職員免許
状の取得につ
いて

教育職員免許状を取得しようとする者は、学校・社会教育講座の履修要項を参照すること。

文学科（ドイツ文学専修）2016年度以降1年次入学者 卒業要件単位表

必修/選択/自由	科目区分		卒業要件単位数		
必修科目	言語教育科目 言語A【全学共通】		6	34	
	言語教育科目 言語B【全学共通】		4		
	基幹科目A	人文学とキャリア形成	2		
	指定科目A	入門演習（「学びの技法」）	4		
		ドイツ語入門	8		
ドイツ語基礎演習		10			
選択科目	学びの精神【全学共通】		4	62	124以上
	多彩な学び【全学共通】		14		
	スポーツ実習【全学共通】				
	基幹科目B, C, D		10		
	指定科目B	指定科目B 1（演習）	14		
		指定科目B 2（ドイツ語表現演習, ドイツ文学・文化演習）			
指定科目C	講義, 卒業論文（制作）・卒業論文（制作）指導演習	20			
自由科目	選択科目（卒業要件単位数を超えて修得した単位）		4以上	28以上	
	言語自由科目【全学共通】				
	文学部他学科・他専修科目				
	他学部, 5大学間単位互換制度科目		0~16		
	大学院開講科目（4年次生のみ）		0~8		

◆全学共通科目の履修については、全学共通科目の項を参照すること。

◆「随意科目」は、卒業要件単位に含めることはできない。

ドイツ語科教育法1, ドイツ語科教育法演習1, ドイツ語科教育法2, ドイツ語科教育法演習2は、随意科目である。

◆全授業回の半数を超える授業回を遠隔により実施する科目で修得した単位は、60単位まで卒業要件単位に含めることができる。60単位を超えた単位は随意科目となり、卒業要件単位には算入されない。

授業形態については、「II 授業（学修生活） 4 授業形態」を参照すること。

文学科 ドイツ文学専修 科目表

2016年度以降1年次入学者に適用

※下記の科目表は入学年度4月時点のものである。担当者、開講学期、配当年次、登録方法を含む最新の科目表はR Guideで確認すること。

科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位
必修科目 (基幹科目A)					
基幹科目 科目表 を参照					
必修科目 (指定科目A)					
入門演習C1a	2	入門演習C1b	2	入門演習C1c	2
入門演習C2a	2	入門演習C2b	2	入門演習C2c	2
ドイツ語入門1a	2	ドイツ語入門1b	2	ドイツ語入門1c	2
ドイツ語入門2a	2	ドイツ語入門2b	2	ドイツ語入門2c	2
ドイツ語入門3a	2	ドイツ語入門3b	2	ドイツ語入門3c	2
ドイツ語入門4a	2	ドイツ語入門4b	2	ドイツ語入門4c	2
ドイツ語基礎演習1a	2	ドイツ語基礎演習1b	2	ドイツ語基礎演習1c	2
ドイツ語基礎演習2a	2	ドイツ語基礎演習2b	2	ドイツ語基礎演習2c	2
ドイツ語基礎演習3a	2	ドイツ語基礎演習3b	2	ドイツ語基礎演習3c	2
ドイツ語基礎演習3d	2	ドイツ語基礎演習4a	2	ドイツ語基礎演習4b	2
ドイツ語基礎演習4c	2	ドイツ語基礎演習5a	2	ドイツ語基礎演習5b	2
ドイツ語基礎演習5c	2	ドイツ語基礎演習5d	2		
選択科目 (基幹科目B)					
基幹科目 科目表 を参照					
選択科目 (基幹科目C)					
基幹科目 科目表 を参照					
選択科目 (基幹科目D)					
基幹科目 科目表 を参照					
選択科目 (指定科目B1)					
演習C1 (現代ドイツ語圏文化・ジェンダー文化)	2	演習C2 (現代ドイツ語圏文化・ジェンダー文化)	2	演習C3 (メディア文化・表象文化)	2
演習C4 (メディア文化・表象文化)	2	演習C5 (日独における越境の文化)	2	演習C6 (日独における越境の文化)	2
演習C7 (言語文化)	2	演習C8 (言語文化)	2	演習C9 (伝承・物語)	2
演習C10 (伝承・物語)	2	演習C11 (比較文化)	2	演習C12 (比較文化)	2
選択科目 (指定科目B2)					
ドイツ語表現演習1A (討論1)	2	ドイツ語表現演習1B (討論1)	2	ドイツ語表現演習2A (討論1)	2
ドイツ語表現演習2B (討論1)	2	ドイツ語表現演習3A (討論2)	2	ドイツ語表現演習3B (討論2)	2
ドイツ語表現演習4A (討論3)	2	ドイツ語表現演習4B (討論3)	2	ドイツ語表現演習5 (小論文)	2
ドイツ語表現演習6 (小論文)	2	ドイツ文学・文化演習1 (韻文)	2	ドイツ文学・文化演習2 (思想・評論)	2
ドイツ文学・文化演習3 (児童文学)	2	ドイツ文学・文化演習4 (日独比較文化タンデム)	4	ドイツ文学・文化演習5 (ドイツ文化論)	2
ドイツ文学・文化演習6 (中・近世ドイツ語研究)	2	ドイツ文学・文化演習7 (メディアのドイツ語)	2	ドイツ文学・文化演習8 (検定ドイツ語)	2
ドイツ文学・文化演習101 (日独比較文化)	2	ドイツ文学・文化演習103 (メディア文化・表象文化)	2	ドイツ文学・文化演習105 (ドイツと異文化)	2
ドイツ文学・文化演習107 (言語文化)	2	ドイツ文学・文化演習109 (伝承・物語)	2	ドイツ文学・文化演習111 (比較文化)	2
選択科目 (指定科目C)					
文学講義101 (ドイツの言語)	2	文学講義103 (東ドイツの文化)	2	文学講義104 (現代の言語論)	2
文学講義105 (言語研究の諸相)	2	文学講義106 (ドイツ文学にみるジェンダー文化)	2	文学講義107 (ドイツのメディア論)	2
文学講義108 (日独文化交流)	2	文学講義109 (日独比較文化)	2	文学講義110 (ドイツのメルヘン)	2

科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位
文学講義111 (ゲーテの時代)	2	文学講義112 (ドイツの近代社会と思想)	2	文学講義113 (ドイツの都市文化)	2
文学講義114 (ドイツの音楽・舞台芸術)	2	文学講義115 (ドイツの生活文化)	2	文学講義116 (ドイツのユダヤ系文化)	2
文学講義117 (ドイツと異文化)	2	文学講義118 (ドイツ中世の文学・文化)	2	文学講義157 (ドイツの学術文化)	2
文学講義160 (ドイツの児童文学)	2	文学講義161 (バロックの文化)	2	文学講義162 (ドイツの表象文化)	2
文学講義164 (ドイツの映像文化)	2	文学講義168 (ドイツ近世の文学・文化)	2	卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習	10
随意科目					
ドイツ語科教育法1	2	ドイツ語科教育法演習1	2	ドイツ語科教育法2	2
ドイツ語科教育法演習2	2				

文学科（フランス文学専修）履修規定

2016年度以降1年次入学者に適用
(2018年度以降3年次編入学者に適用)

専門教育科目の特色

本専修の目的は、フランス語という新しい窓から世界を見ることにある。語学の基礎訓練と多様な演習科目を通じて、読解力（フィクション、エッセー、時事、映像文化）と表現力（会話、作文、パフォーマンス）の向上を目指す。さらに文学・思想・文化・歴史・社会に関する専門的知識を修得させた上で、留学の機会も提供する。

1年次	2年次	3年次	4年次
全学共通科目			
必修科目（基幹科目A） ●人文学とキャリア形成			
選択科目（基幹科目B） ●海外フィールドスタディ ●インターンシップなど			
選択科目（基幹科目C） ●フランス文学・文化概論 ●英米文学概論 ●ドイツ語圏文化概論 ●日本語学概論 ●漢文学概論 ●日本文学概論 ●文芸・思想概論など			
選択科目（基幹科目D） ●ヘブライ語 ●ギリシア語 ●ラテン語 ●ドイツ語文献講読 ●フランス語文献講読 ●英語文献講読など			
必修科目（指定科目A） ●フランス語入門 ●入門演習 ●フランス語基礎演習			
		選択科目（指定科目B1） ●演習	
		選択科目（指定科目B2） ●フランス語表現演習 ●フランス文学・文化演習	
		選択科目（指定科目C） ●文学講義（仏中世・ルネサンス文学・思想、仏古典主義文学、仏近代社会、仏近・現代小説、フランス語圏文学、フランス哲学・思想、フランス美術、表象文化論、日仏比較、ヨーロッパとフランス、仏詩・戯曲、フランス文化史、仏現代社会、フランス語学概説）	
* 文学部指定科目Cは、原則として全ての科目を選択履修できます。			
		●卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習	
自由科目			

1 フランス文学専修における4年間の学習の進め方についての案内

専修での学習生活はフランス語を修得し、フランス語という窓から世界を見ることを第一の目的にしている。

1年次

「フランス語入門1～4」（指定科目A：クラス指定必修科目）と全学共通言語教育科目を通し、フランス語を集中的に学習する。このフランス語科目は2年次以降の科目を履修するうえで極めて重要である。原則的に「フランス語入門1・3」を担当する専任教員が、その学期のアカデミックアドバイザーとなる。

さらに「入門演習D1」「入門演習D2」（指定科目A：クラス指定必修科目）を春・秋学期履修する。この科目ではフランス文学・文化研究の基礎形成を目的とした訓練を行う。これらに加え、総合系科目、文学部基幹科目を履修する。

2年次

「フランス語基礎演習1～5」（指定科目A）を履修する。この科目は、1年次で身に付けたフランス語能力をさらに多角的に（会話力・読解力・作文力へと）発展させることを目的とした科目である。読解力については、秋学期から履修が可能になる「フランス文学・文化演習1～10」によって、さらに強化することが望まれる。それは後に履修することになる「演習D」「卒業論文（制作）・卒業論文（制作）指導演習」において不可欠である。

全学共通言語教育科目と総合系科目、文学部基幹科目に加えて文学部フランス文学専修専門科目（指定科目Cの講義科目）や文学部他専修専門科目の履修が始まる。フランス文学・文化についての全般的な知識を得るために、「文学講義201～218」を広く履修することが望ましい。「海外フィールドスタディ〈3. 海外SLV〉」（基幹科目B）参加による短期のフランス留学も望ましい。

3年次

「演習D」（指定科目B1）の履修が望ましい。この科目では卒業までの学習の基軸となる専門性を磨くための訓練を行う。自分の関心にもっとも近いクラスを選び、そこでフランス文学・文化研究の方法を学ぶ。原則的に春・秋学期続けて同じ教員の演習を履修することになる。

また、「フランス語表現演習1～10」（指定科目B2）では、より高度なフランス語運用能力を身に付ける。フランス語で自らの思考を表現できるようになることを目的としている。フランス文学専修の専門科目の履修が本格化する。

3年次から派遣留学生としてフランス・カナダで学習することが可能になる。留学を希望する学生は、1年次からそれに必要なフランス語運用能力を養っておく必要がある。

4年次

「卒業論文（制作）・卒業論文（制作）指導演習」（指定科目C）を履修することが望ましい。この科目は卒業論文（制作）作成を支援する指導を行う。卒業論文（制作）は必修ではないが、執筆を強く推奨する。そのためには、はやくから卒業論文（制作）のイメージをある程度まで明確しておく必要がある。

引き続き、「演習D」（指定科目B1）「フランス文学・文化演習1～10」「フランス語表現演習1～10」（ともに指定科目B2）を履修する。特に「演習D」については、積極的な参加が求められる。

須山奨励賞について

須山奨励賞は文学科フランス文学専修の学生に対して、本学校友である故須山岳彦氏から寄贈された資金をもとに、2018年度から年度ごとに最も優秀な成績の卒業論文執筆者を表彰し、奨学を意図し、奨学金を贈呈するものである。

受賞資格：本専修の在学生の中で、当該年度最も優秀な成績の卒業論文を執筆した者。

選考：本専修の専任教員で構成される須山奨励賞選考委員会が行う。

奨学金の金額：3万円

授与方法：卒業式当日、文学科フランス文学専修学位記等配布会場で表彰並びに奨学金の授与を行う。

2 履修上の注意 (「Ⅲ-2 履修規定」も合わせて確認のこと)

特に定める場合を除き、同一名称の科目を重複履修することはできない。

1. 基幹科目の履修について

基幹科目は卒業までに必修科目(基幹科目A「人文学とキャリア形成」(2単位)2年次履修)のほか、10単位修得すること。

ただし、基幹科目B「書道1・2」は履修できない。

卒業要件単位数を超えて修得した場合は、自由科目の単位となる。

2. フランス文学専修の科目の履修について

特に指示のない科目については、R Guideやシラバスの記載に従って履修すること。

指定科目A、B1、B2において配当年次が2年次以上の科目については、全学共通言語B必修科目およびフランス語入門1～4の単位修得者のみ履修が認められる。

(1) 指定科目A

全科目とも配当年次にクラスを指定して自動登録される。再履修となった場合も各開講学期に自動登録される。

(2) 指定科目B1

1学期に1科目ずつ選択できる。春・秋学期同一の担当者を継続して履修することになる。前年度中に希望を受け付け、あらかじめ指定された科目を大学が登録する。

単位修得後に同一科目を重複履修することを認める。指定科目B2と合わせて、卒業要件単位数を超えて修得した場合は、自由科目の単位となる。

(3) 指定科目B2

単位修得後に同一科目を重複履修することを認める。指定科目B1と合わせて、卒業要件単位数を超えて修得した場合は、自由科目の単位となる。

(4) 指定科目C

指定科目Cは「文学講義201～218」のほか、文学部他学科・他専修の指定科目Cも各自の履修計画に従って履修できる。ただし、同一科目を単位修得後に重複して履修することはできない。また、卒業要件単位数を超えて修得した場合は、自由科目の単位となる。

㊦ 文学部専門教育課程について [4 文学部指定科目Cの履修計画について](#) 参照

(5) 随意科目

① 随意科目として指定される科目は、卒業要件単位数に含めることはできない。

② 〈各教科の指導法〉の科目(*)は、随意科目である。

③ 〈各教科の指導法〉の科目(*)については、成績参照画面上は「講座課程科目」区分に記載・算入される。

* フランス語科教育法1, フランス語科教育法演習1, フランス語科教育法2, フランス語科教育法演習2

3. 必修科目に関する特別措置

以下の(1)あるいは(2)に該当する者は、必ずガイダンス時に申し出ること。なお、全学共通言語必修科目の単位認定・履修免除については、別途手続きが必要である。「言語系科目 [2 必修科目に関する特別措置](#)」を参照のこと。

(1) すでにフランス語の一定の学習歴があり、かつ、入学(または3年次編入学、学内転部・転科・転専修)前に以下のいずれかの認定試験における所定の等級またはスコアを取得している者(既習者)。

- ㊦ その等級またはスコアおよびガイダンス時の面談をもって、「フランス語入門」の単位を認定し（評価はSとする）、履修を免除する場合がある。フランス文学専修のガイダンスに際して、等級またはスコアを認定する証明書（コピー不可）を必ず持参すること。なお、申請基準は以下の通りとする。

实用フランス語技能検定試験準2級以上

DELF/DALF A2以上

TCF250点以上

- (2) 所定の等級もしくはスコアを取得していない場合

入学（または3年次編入学、学内転部・転科・転専修）前に上記(1)で指定された認定試験における所定の等級またはスコアを取得していない学生でも、フランス語圏における長期の学習経験があることが認められた場合は、指定された期日までに等級またはスコアを取得することを条件に、当該科目の単位認定を行うことがある。フランス文学専修のガイダンス時に、担当教員の指示に従うこと。

4. 繰上履修

- (1) 全学共通科目「初習言語必修科目履修特別免除制度」により、フランス語の全必修科目を履修免除される学生は、繰上履修を申請できる。個別に面接をしたうえで、指定科目A、指定科目B2の中から許可された科目を1年次より履修できることとする。
- (2) 2年次以降も、繰上履修を希望する学生は、必ず4月のガイダンス時に申し出ること。

文学科（フランス文学専修）2016年度以降1年次入学者 卒業要件単位表

必修/選択/自由	科目区分		卒業要件単位数		
必修科目	言語教育科目 言語A【全学共通】		6	34	
	言語教育科目 言語B【全学共通】		4		
	基幹科目A	人文学とキャリア形成	2		
	指定科目A	入門演習（「学びの技法」）	4		
		フランス語入門	8		
フランス語基礎演習		10			
選択科目	学びの精神【全学共通】		4	62	124以上
	多彩な学び【全学共通】		14		
	スポーツ実習【全学共通】				
	基幹科目B, C, D		10		
	指定科目B	指定科目B 1（演習）	14		
		指定科目B 2（フランス文学・文化演習, フランス語表現演習）			
指定科目C	講義, 卒業論文（制作）・卒業論文（制作）指導演習	20			
自由科目	選択科目（卒業要件単位数を超えて修得した単位）		4以上	28以上	
	言語自由科目【全学共通】				
	文学部他学科・他専修科目				
	他学部, 5大学間単位互換制度科目		0~16		
	大学院開講科目（4年次生のみ）		0~8		

◆全学共通科目の履修については、全学共通科目の項を参照すること。

◆「随意科目」は、卒業要件単位に含めることはできない。

フランス語科教育法1, フランス語科教育法演習1, フランス語科教育法2, フランス語科教育法演習2は、随意科目である。

◆全授業回の半数を超える授業回を遠隔により実施する科目で修得した単位は、60単位まで卒業要件単位に含めることができる。60単位を超えた単位は随意科目となり、卒業要件単位には算入されない。

授業形態については、「II 授業（学修生活）4 授業形態」を参照すること。

文学科 フランス文学専修 科目表

2016年度以降1年次入学者に適用

※下記の科目表は入学年度4月時点のものである。担当者、開講学期、配当年次、登録方法を含む最新の科目表はR Guideで確認すること。

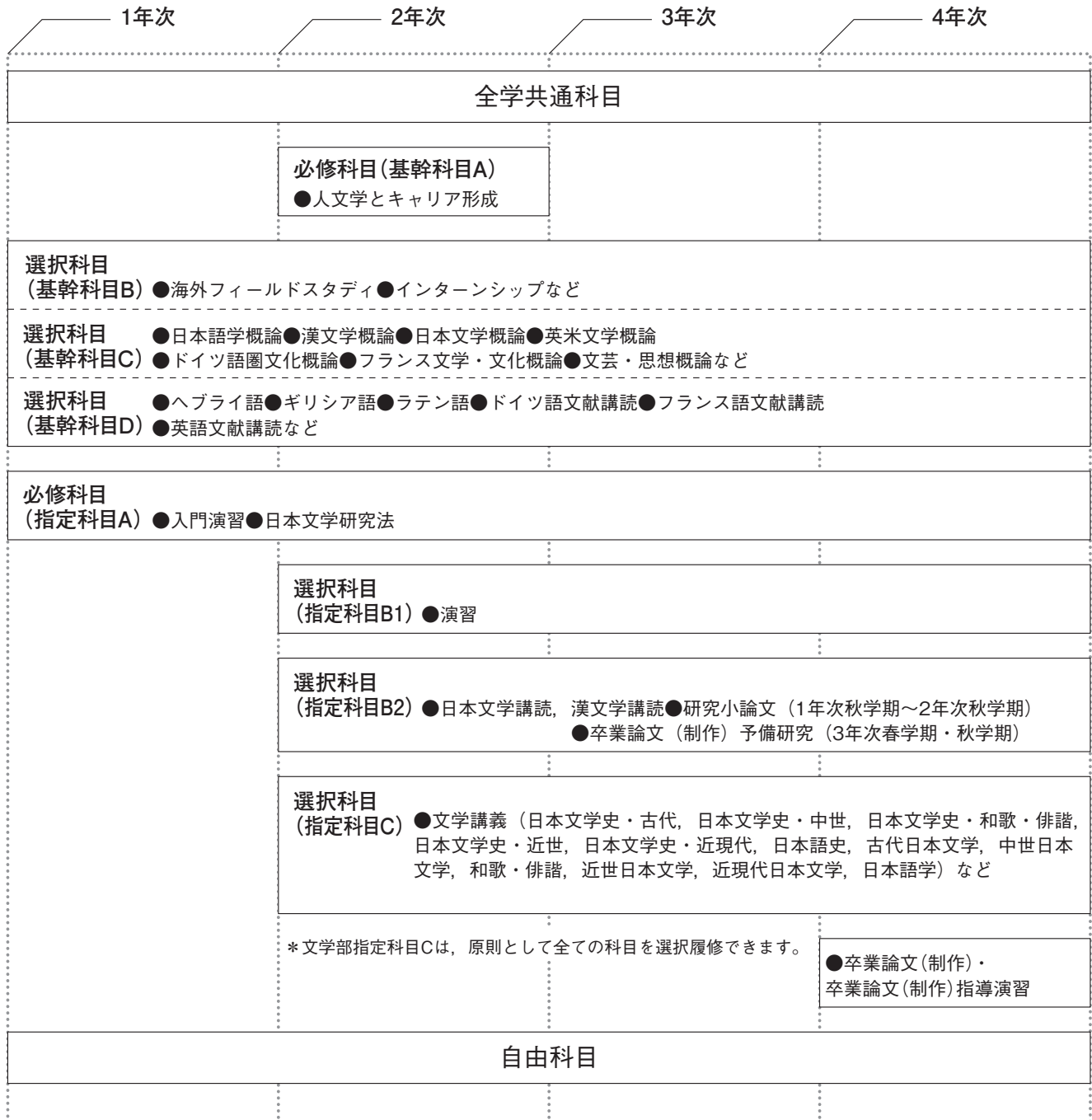
科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位
必修科目 (基幹科目A)					
基幹科目 科目表 を参照					
必修科目 (指定科目A)					
入門演習D1a	2	入門演習D1b	2	入門演習D1c	2
入門演習D2a	2	入門演習D2b	2	入門演習D2c	2
フランス語入門1a	2	フランス語入門1b	2	フランス語入門1c	2
フランス語入門2a	2	フランス語入門2b	2	フランス語入門2c	2
フランス語入門3a	2	フランス語入門3b	2	フランス語入門3c	2
フランス語入門4a	2	フランス語入門4b	2	フランス語入門4c	2
フランス語基礎演習1a	2	フランス語基礎演習1b	2	フランス語基礎演習1c	2
フランス語基礎演習2a	2	フランス語基礎演習2b	2	フランス語基礎演習2c	2
フランス語基礎演習3a	2	フランス語基礎演習3b	2	フランス語基礎演習3c	2
フランス語基礎演習4a	2	フランス語基礎演習4b	2	フランス語基礎演習4c	2
フランス語基礎演習5a	2	フランス語基礎演習5b	2	フランス語基礎演習5c	2
選択科目 (基幹科目B)					
基幹科目 科目表 を参照					
選択科目 (基幹科目C)					
基幹科目 科目表 を参照					
選択科目 (基幹科目D)					
基幹科目 科目表 を参照					
選択科目 (指定科目B1)					
演習D1	2	演習D2	2	演習D3	2
演習D4	2	演習D5	2	演習D6	2
演習D7	2	演習D8	2	演習D9	2
演習D10	2	演習D11	2	演習D12	2
選択科目 (指定科目B2)					
フランス語表現演習1 (資格のためのフランス語1)	2	フランス語表現演習2 (資格のためのフランス語2)	2	フランス語表現演習3 (コミュニケーション1)	2
フランス語表現演習4 (コミュニケーション2)	2	フランス語表現演習5 (コミュニケーション3)	2	フランス語表現演習6 (コミュニケーション4)	2
フランス語表現演習7 (ライティング1)	2	フランス語表現演習8 (ライティング2)	2	フランス語表現演習9 (パフォーマンス1)	2
フランス語表現演習10 (パフォーマンス2)	2	フランス文学・文化演習1 (フィクション1)	2	フランス文学・文化演習2 (フィクション2)	2
フランス文学・文化演習3 (エッセー1)	2	フランス文学・文化演習4 (エッセー2)	2	フランス文学・文化演習5 (時事フランス語1)	2
フランス文学・文化演習6 (時事フランス語2)	2	フランス文学・文化演習7 (映像文化1)	2	フランス文学・文化演習8 (映像文化2)	2
フランス文学・文化演習9 (フィクション3)	2	フランス文学・文化演習10 (フィクション4)	2		
選択科目 (指定科目C)					
文学講義201(仏中世・ルネサンス文学)	2	文学講義202(仏中世・ルネサンス思想)	2	文学講義203(仏古典主義文学)	2
文学講義204(仏近代社会)	2	文学講義205(仏近・現代小説1)	2	文学講義206(仏近・現代小説2)	2
文学講義207(フランス語圏文学)	2	文学講義208(フランス哲学)	2	文学講義209(フランス思想)	2
文学講義210(表象文化論)	2	文学講義211(フランス美術)	2	文学講義212(日仏比較)	2
文学講義213(ヨーロッパとフランス)	2	文学講義214(仏詩・戯曲)	2	文学講義215(フランス文化史)	2
文学講義216(仏現代社会)	2	文学講義217(フランス語学概説1)	2	文学講義218(フランス語学概説2)	2
卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習	10				
随意科目					
フランス語科教育法1	2	フランス語科教育法演習1	2	フランス語科教育法2	2
フランス語科教育法演習2	2				

文学科（日本文学専修）履修規定

2016年度以降1年次入学者に適用
(2018年度以降3年次編入学者に適用)

専門教育科目の特色

1年次は入門演習・研究法を学ぶほかに、概説・文学史など基礎的な知識や調査・研究法を学び、2年次からはそれらに加えて専門的な講義・演習を履修し、特に3・4年次には卒業論文の執筆へと導く論文演習が設定されている。



1 日本文学専修における4年間の学習の進め方について

専修での学習は卒業論文（制作）の提出を目指し、演習科目を中心に進められる。

1年次の履修について

1年次には、「入門演習」「日本文学研究法」（ともに必修・自動登録）で、学び方、調べ方などの基礎的な技術的知識を学ぶ。また、基幹科目の「日本文学概論」「漢文学概論」「日本語学概論1・2」は、1・2年次に履修することを勧める。

研究小論文の履修について

1年次秋学期より2年次秋学期まで各学期に「研究小論文」を執筆する機会があたえられているので、各自の問題意識に従って積極的に取り組んでほしい。学期ごとに窓口となる教員が設定されており、各自のテーマに沿った教員のアドバイスを受けることができる。

2年次以降の履修について

2年次以降は、「演習」「講読」「講義」を中心に学んでいく。専門内容を深めるために、同一年度には同じ教員の「演習E」を春学期・秋学期継続して履修することを勧める。講読、講義科目を含め、古典・近代文学、日本語学、漢文学など幅広く履修することが望ましい。

「国語」の教職をとる者は教職課程の履修要項を参照すること。

卒業論文について

4年次において卒業論文を作成するつもりで各年度の履修計画をたてることが望ましい。3年次の「卒業論文（制作）予備研究1・2」はそのテーマを決める準備を行う科目として設定されている。

ただし、3年次に上記科目を履修しない学生にも卒業論文（制作）作成への道は開かれている。

2 履修上の注意 (Ⅲ-2 履修規定) も合わせて確認のこと)

特に定める場合を除き、同一名称の科目を重複履修することはできない。

1. 基幹科目の履修について

基幹科目は、卒業までに必修科目2単位(基幹科目A「人文学とキャリア形成」2年次履修)のほか、10単位修得すること。

① 基幹科目B「書道1・2」について

「書道1・2」は「国語」の教育職員免許状取得のために設置された教科に関する専門科目である。従って、教職課程登録者以外は履修を認めない。

「書道1・2」の履修登録

夏季休業期間中に集中して行うが、4月の指定日に希望を受け付け、履修クラスの指定を行う。希望者が多い場合は学年が上である者を優先するため履修できない場合もある。指定されたクラスの変更は認めない。重複履修はできない。

② 上記以外の科目の履修

配当年次その他の規定に従い、各自の履修計画に沿って必要な単位を修得すること。卒業要件単位数を超えて修得した場合は、自由科目の単位となる。

2. 日本文学専修の科目の履修について

特に指示のない科目については、R Guideやシラバスの記載に従って履修すること。

(1) 指定科目A(必修)

「入門演習E1・E2」はクラスを指定して、「日本文学研究法」は全員が1年次に自動登録される。「入門演習E1・E2」は再履修となった場合もクラスを指定して各学期に自動登録される。

(2) 指定科目B1

2年次以降1学期に1科目ずつ履修する。単位修得後、同一科目を重複履修できる。卒業要件単位数を超えて修得した場合は、自由科目の単位となる。4年次生に限り、各学期3科目まで履修を認める。

(3) 指定科目B2

「日本文学講読」「漢文学講読」は各学期に希望する科目を履修登録すること。

「研究小論文」「卒業論文(制作)予備研究」の履修を考えている者は、4月に専修からの案内を確認し、所定の手続きを行うこと。尚、「卒業論文(制作)予備研究」については、7月にもガイダンスを行うので、秋学期からの履修を希望する者は必ず出席すること。7月のガイダンスの日時・教室は追って掲示する。

履修希望届の提出期間はR Guideに掲載する。履修希望届が期間内に提出された場合、履修登録は各学期に大学が行う。個別指導や論文の提出に関する詳細は、指導教員の指示に従うこと。

(4) 指定科目C

指定科目Cは「文学講義301~346」のほか、文学部他学科・他専修の指定科目Cも各自の履修計画に従って履修できる。同一科目を単位修得後に重複して履修することはできない。卒業要件単位数を超えて修得した場合は、自由科目の単位となる。

☞ 文学部専門教育課程について [4 文学部指定科目Cの履修計画について](#) 参照

(5) 随意科目

① 随意科目として指定される科目は、卒業要件単位数に含めることはできない。

② 〈各教科の指導法〉の科目(*)は、随意科目である。

③ 〈各教科の指導法〉の科目(*)については、成績参照画面上は「講座課程科目」区分に記載・算入される。

* 国語科教育法1, 国語科教育法演習1, 国語科教育法2, 国語科教育法演習2

文学科（日本文学専修）2016年度以降1年次入学者 卒業要件単位表

必修/選択/自由	科目区分		卒業要件単位数		
必修科目	言語教育科目 言語A【全学共通】		6	18	
	言語教育科目 言語B【全学共通】		4		
	基幹科目 A	人文学とキャリア形成	2		
	指定科目 A	入門演習（「学びの技法」）	4		
		日本文学研究法	2		
選択科目	学びの精神【全学共通】		4	78	124以上
	多彩な学び【全学共通】		14		
	スポーツ実習【全学共通】				
	基幹科目 B, C, D		10		
	指定科目 B	指定科目 B 1（演習）	12		
		指定科目 B 2（講読, 研究小論文, 卒業論文（制作）予備研究）	8		
	指定科目 C	講義, 卒業論文（制作）・卒業論文（制作）指導演習	30		
自由科目	選択科目（卒業要件単位数を超えて修得した単位）		4以上	28以上	
	言語自由科目【全学共通】				
	文学部他学科・他専修科目				
	他学部, 5大学間単位互換制度科目		0~16		
	大学院開講科目（4年次生のみ）		0~8		

◆全学共通科目の履修については、全学共通科目の項を参照すること。

◆「随意科目」は、卒業要件単位に含めることはできない。

国語科教育法1, 国語科教育法演習1, 国語科教育法2, 国語科教育法演習2は、随意科目である。

◆全授業回の半数を超える授業回を遠隔により実施する科目で修得した単位は、60単位まで卒業要件単位に含めることができる。60単位を超えた単位は随意科目となり、卒業要件単位には算入されない。

授業形態については、「Ⅱ 授業（学修生活） 4 授業形態」を参照すること。

文 学 科 日 本 文 学 専 修 科 目 表

2016年度以降1年次入学者に適用

※下記の科目表は入学年度4月時点のものである。担当者、開講学期、配当年次、登録方法を含む最新の科目表はR Guideで確認すること。

科 目 名	単 位	科 目 名	単 位	科 目 名	単 位
必修科目（基幹科目A）					
基幹科目 科目表 を参照					
必修科目（指定科目A）					
入門演習E1a	2	入門演習E1b	2	入門演習E1c	2
入門演習E1d	2	入門演習E1e	2	入門演習E2a	2
入門演習E2b	2	入門演習E2c	2	入門演習E2d	2
入門演習E2e	2	日本文学研究法	2		
選択科目（基幹科目B）					
基幹科目 科目表 を参照					
選択科目（基幹科目C）					
基幹科目 科目表 を参照					
選択科目（基幹科目D）					
基幹科目 科目表 を参照					
選択科目（指定科目B1）					
演習E1	2	演習E2	2	演習E3	2
演習E4	2	演習E5	2	演習E6	2
演習E7	2	演習E8	2	演習E9	2
演習E10	2	演習E11	2	演習E12	2
演習E13	2	演習E14	2	演習E15	2
演習E16	2	演習E17	2	演習E18	2
演習E19	2	演習E20	2	演習E21	2
演習E22	2	演習E23	2	演習E24	2
演習E25	2	演習E26	2	演習E27	2
演習E28	2	演習E29	2	演習E30	2
演習E31	2	演習E32	2	演習E33	2
演習E34	2	演習E35	2	演習E36	2
選択科目（指定科目B2）					
日本文学講読1（古代）	2	日本文学講読2（古代）	2	日本文学講読3（中世）	2
日本文学講読4（中世）	2	日本文学講読5（近世）	2	日本文学講読6（近世）	2
日本文学講読7（和歌・俳諧）	2	日本文学講読8（和歌・俳諧）	2	漢文学講読1（漢文）	2
漢文学講読2（漢文）	2	漢文学講読3（漢文）	2	漢文学講読4（漢文）	2
卒業論文（制作）予備研究1	2	卒業論文（制作）予備研究2	2	研究小論文1b	2
研究小論文2a	2	研究小論文2b	2		
選択科目（指定科目C）					
文学講義301 （日本文学史・古代1）	2	文学講義302 （日本文学史・古代2）	2	文学講義303 （日本文学史・古代3）	2
文学講義304 （日本文学史・古代4）	2	文学講義305 （日本文学史・中世1）	2	文学講義306 （日本文学史・中世2）	2
文学講義307 （日本文学史・和歌・俳諧1）	2	文学講義308 （日本文学史・和歌・俳諧2）	2	文学講義309 （日本文学史・和歌・俳諧3）	2
文学講義310 （日本文学史・和歌・俳諧4）	2	文学講義311 （日本文学史・近世1）	2	文学講義312 （日本文学史・近世2）	2
文学講義313 （日本文学史・近現代1）	2	文学講義314 （日本文学史・近現代2）	2	文学講義315 （日本語史1）	2
文学講義316 （日本語史2）	2	文学講義317 （古代日本文学1）	2	文学講義318 （古代日本文学2）	2
文学講義319 （古代日本文学3）	2	文学講義320 （古代日本文学4）	2	文学講義321 （中世日本文学1）	2

科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位
文学講義322 (中世日本文学2)	2	文学講義323 (中世日本文学3)	2	文学講義324 (中世日本文学4)	2
文学講義325 (和歌・俳諧1)	2	文学講義326 (和歌・俳諧2)	2	文学講義327 (和歌・俳諧3)	2
文学講義328 (和歌・俳諧4)	2	文学講義329 (近世日本文学1)	2	文学講義330 (近世日本文学2)	2
文学講義331 (近現代日本文学1)	2	文学講義332 (近現代日本文学2)	2	文学講義333 (近現代日本文学3)	2
文学講義334 (近現代日本文学4)	2	文学講義335 (近現代日本文学5)	2	文学講義336 (近現代日本文学6)	2
文学講義337 (日本語学1)	2	文学講義338 (日本語学2)	2	文学講義339 (日本語学3)	2
文学講義340 (日本語学4)	2	文学講義341 (日本語学5)	2	文学講義342 (日本語学6)	2
文学講義343 (書誌学1)	2	文学講義344 (書誌学2)	2	文学講義345 (文献解読1)	2
文学講義346 (文献解読2)	2	卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習	10		
随意科目					
国語科教育法1	2	国語科教育法演習1	2	国語科教育法2	2
国語科教育法演習2	2				

専門教育科目の特色

本専修では、学生各自が思索力ある表現者として成長することを目標とする。そのために、さまざまなジャンルの読書機会を提供することから始める。その後、分析力を深めたり表現力を磨いたりするための各種演習、文学部の多彩な講義科目により、深さと広さを兼ね備えた専門性を鍛える。卒業論文（制作）への取り組みが強く推奨される。

1年次	2年次	3年次	4年次
全学共通科目			
必修科目（基幹科目A） ●人文学とキャリア形成			
選択科目（基幹科目B） ●海外フィールドスタディ●インターンシップなど			
選択科目（基幹科目C） ●文芸・思想概論●英米文学概論●ドイツ語圏文化概論 ●フランス文学・文化概論●日本語学概論●漢文学概論●日本文学概論など			
選択科目（基幹科目D） ●ヘブライ語●ギリシア語●ラテン語●ドイツ語文献講読●フランス語文献講読 ●英語文献講読など			
必修科目（指定科目A） ●入門演習 ●卒業論文（制作）予備演習			
選択科目（指定科目B1） ●演習			
選択科目（指定科目B2） ●文芸・思想文献講読			
選択科目（指定科目C） ●文学講義（文明批評論，文芸評論，文化翻訳論，マンガ／アニメ表現論，小説創作論，詩創作論，ジェンダー論，広告文芸論，文芸編集論，演劇，現代歌謡論，世界文学論） ●哲学講義（西洋哲学，東洋哲学，芸術論，現代思想の諸問題，死生論） ●哲学概論●現代倫理など			
*文学部指定科目Cは，原則として全ての科目を選択履修できます。			
卒業論文（制作）・卒業論文（制作）指導演習			
自由科目			

1 文芸・思想専修における4年間の学習の進め方についての案内

専修での学習生活は卒業論文（制作）の提出を目指し、演習科目を中心に進められる。

★1年次

「入門演習F1」「入門演習F2」（指定科目A・クラス指定必修科目）を春・秋学期履修する。この科目は文芸・思想専修学習の基礎形成を目的とした訓練を行う。多くの作品を読み、考え、書くことが、真に自分らしい文芸・思想の表現につながることを学習する。入門演習クラスの担当教員はその学期のアカデミックアドバイザーとなる。

全学共通言語教育科目と総合系科目、文学部基幹科目を履修する。

★2年次

「演習F1～12」（指定科目B1）を履修する。この科目は文芸・思想の表現内容をより豊かにするため厳選された基礎的な文献をじっくりと分析するかたちでの本格的な「読む」訓練を行う。

「文芸・思想文献講読」（指定科目B2）の履修が可能になる。この科目は中国語・スペイン語等の外国語で書かれた文献を読みながら、文芸・思想への多角的な理解力を養う。3年次、4年次でも履修できる。

全学共通言語教育科目と総合系科目、文学部基幹科目に加えて文学部指定科目Cの講義科目の履修が始まる。「文学講義401～419」、「哲学講義1～7」等を広く履修してほしい。

★3年次

「演習F17～32」（指定科目B1）の履修が始まる。この科目は卒業までの学習の基軸となる専門性を磨くための訓練を行う文芸・思想専修の中核をなすものである。各自が表現することを目指す内容とその手法を本格的に学ぶ。4年次にも引き続き履修することができる。

「卒業論文（制作）予備演習」（指定科目A・クラス指定必修科目）を秋学期に履修する。この科目は4年次の卒業論文（制作）を準備するための指導を行う。卒業論文あるいは卒業制作補助論文に必要な論理的な説明文の訓練を行いながら、卒業論文（制作）のイメージを、ある程度まで明確に形成することを目指す。

文芸・思想専修を初めとする文学部専門科目の履修が本格化する。

★4年次

「卒業論文（制作）・卒業論文（制作）指導演習」（指定科目C）を履修する。この科目は卒業論文（制作）作成を支援する指導を行う。「卒業論文（制作）予備演習」でのイメージ形成を引き継ぎ、本格的に完成形態としての表現に至る彫琢を行う。文芸・思想専修における学習の総仕上げの作業である。

2 履修上の注意 (Ⅲ-2 履修規定) も合わせて確認のこと)

特に定める場合を除き、同一名称の科目を重複履修することはできない。

1. 基幹科目の履修について

基幹科目は必修科目2単位(基幹科目A「人文学とキャリア形成」2年次生履修)のほか、10単位修得すること。

① 基幹科目B「書道1・2」について

「書道1・2」は「国語」の教育職員免許状取得のために設置された教科に関する専門科目である。従って、教職課程登録者以外は履修を認めない。

「書道1・2」の履修登録

夏季休業期間中に集中して行うが、4月の指定期日に希望を受け付け、履修クラスの指定を行う。希望者が多い場合は学年が上である者を優先するため履修できない場合もある。指定されたクラスの変更は認めない。重複履修できない。

② 上記以外の科目の履修

配当年次その他の規定に従い、各自の履修計画に沿って必要な単位を修得すること。卒業要件単位数を超えて修得した場合は、自由科目の単位となる。

2. 文芸・思想専修の科目の履修について

特に指示のない科目については、R Guideやシラバスの記載事項に従って履修すること。

(1) 指定科目A

「入門演習F1・F2」はクラスを指定して自動登録される。再履修となった場合もクラスを指定して各学期に自動登録される。

「卒業論文(制作)予備演習」はクラスを指定して自動登録される。再履修となった場合もクラスを指定して各学期に自動登録される。

(2) 指定科目B1

2年次より4年次までに8単位修得すること。

2年次配当の科目(「演習F1～F12」)と3・4年次配当の科目(「演習F17～F32」)がある。それぞれ最低2単位を修得すること。2年次春学期より配当年次に従って1学期に1科目ずつ履修すること(ただし、3年次以上については2年次演習修得単位数が4単位未満の者に限り、2年次演習と3・4年次演習の1学期2科目の同時履修を認める)。単位修得後に同一科目を重複履修することを認める。卒業要件単位数を超えて修得した場合は、自由科目の単位となる。

2年次配当科目、3・4年次配当科目ともそれぞれ前学期に希望を受け付け、専修より履修科目を指定される(「その他」登録)。

(3) 指定科目B2

単位修得後に同一科目を重複履修することを認める。指定科目Cと合わせて卒業要件単位数を超えて修得した場合は、自由科目の単位となる。

(4) 指定科目C

指定科目Cは、「文学講義401～419」,「哲学講義1～7」,「哲学概論1・2」,「現代倫理」のほか、文学部他学科・他専修の指定科目Cも各自の履修計画にしたがって履修できる。ただし、同一科目を単位修得後に重複して履修することはできない。指定科目B2と合わせて卒業要件単位数を超えて修得した場合は、自由科目の単位となる。

☞ 文学部専門教育課程について [4 文学部指定科目Cの履修計画について](#) 参照

(5) 随意科目

① 随意科目として指定される科目は、卒業要件単位数に含めることはできない。

② 〈各教科の指導法〉の科目(*)は、随意科目である。

③ 〈各教科の指導法〉の科目(*)については、成績参照画面上は「講座課程科目」区分に記載・算入される。

* 国語科教育法1, 国語科教育法演習1, 国語科教育法2, 国語科教育法演習2

卒業論文（制作）・卒業論文（制作）指導演習

「卒業論文（制作）・卒業論文（制作）指導演習」は、論文提出の前年度1月に予備論文と履修希望届を提出し、それにもとづいて履修登録される（「その他」登録）。派遣留学生でこの科目の履修を希望する者については、その都度指示するので申し出ること。

文芸・思想専修以外で卒業論文（制作）を希望する者は、そのための所定の申請を行う以外に、文芸・思想専修でも上記の手続きにより卒業論文（制作）の履修を申請してよい。その場合、所属学科・専修以外での卒業論文（制作）の履修が認められなくても、文芸・思想専修での履修登録が有効となる。ただし、両方を履修することはできない。

卒業論文（制作）履修に関する詳細は3年次のガイダンス時に指示する。

☞ 「Ⅲ-2 履修規定 2 卒業論文（制作）各種規定」参照

文学科（文芸・思想専修）2016年度以降1年次入学者 卒業要件単位表

必修/選択/自由	科目区分		卒業要件単位数		
必修科目	言語教育科目 言語A【全学共通】		6	18	124以上
	言語教育科目 言語B【全学共通】		4		
	基幹科目A	人文学とキャリア形成	2		
	指定科目A	入門演習（「学びの技法」）	4		
卒業論文（制作）予備演習		2			
選択科目	学びの精神【全学共通】		4	78	
	多彩な学び【全学共通】		14		
	スポーツ実習【全学共通】				
	基幹科目B, C, D		10		
	指定科目B	指定科目B 1（演習）	8		
		指定科目B 2（文芸・思想文献講読）	42		
指定科目C	講義, 卒業論文（制作）・卒業論文（制作）指導演習				
自由科目	選択科目（卒業要件単位数を超えて修得した単位）		4以上	28以上	
	言語自由科目【全学共通】				
	文学部他学科・他専修科目				
	他学部, 5大学間単位互換制度科目		0~16		
	大学院開講科目（4年次生のみ）		0~8		

◆全学共通科目の履修については、全学共通科目の項を参照すること。

◆「随意科目」は、卒業要件単位に含めることはできない。

国語科教育法1, 国語科教育法演習1, 国語科教育法2, 国語科教育法演習2は、随意科目である。

◆全授業回の半数を超える授業回を遠隔により実施する科目で修得した単位は、60単位まで卒業要件単位に含めることができる。60単位を超えた単位は随意科目となり、卒業要件単位には算入されない。

授業形態については、「Ⅱ 授業（学修生活） 4 授業形態」を参照すること。

文学科 文芸・思想専修 科目表

2016年度以降1年次入学者に適用

※下記の科目表は入学年度4月時点のものである。担当者，開講学期，配当年次，登録方法を含む最新の科目表はR Guideで確認すること。

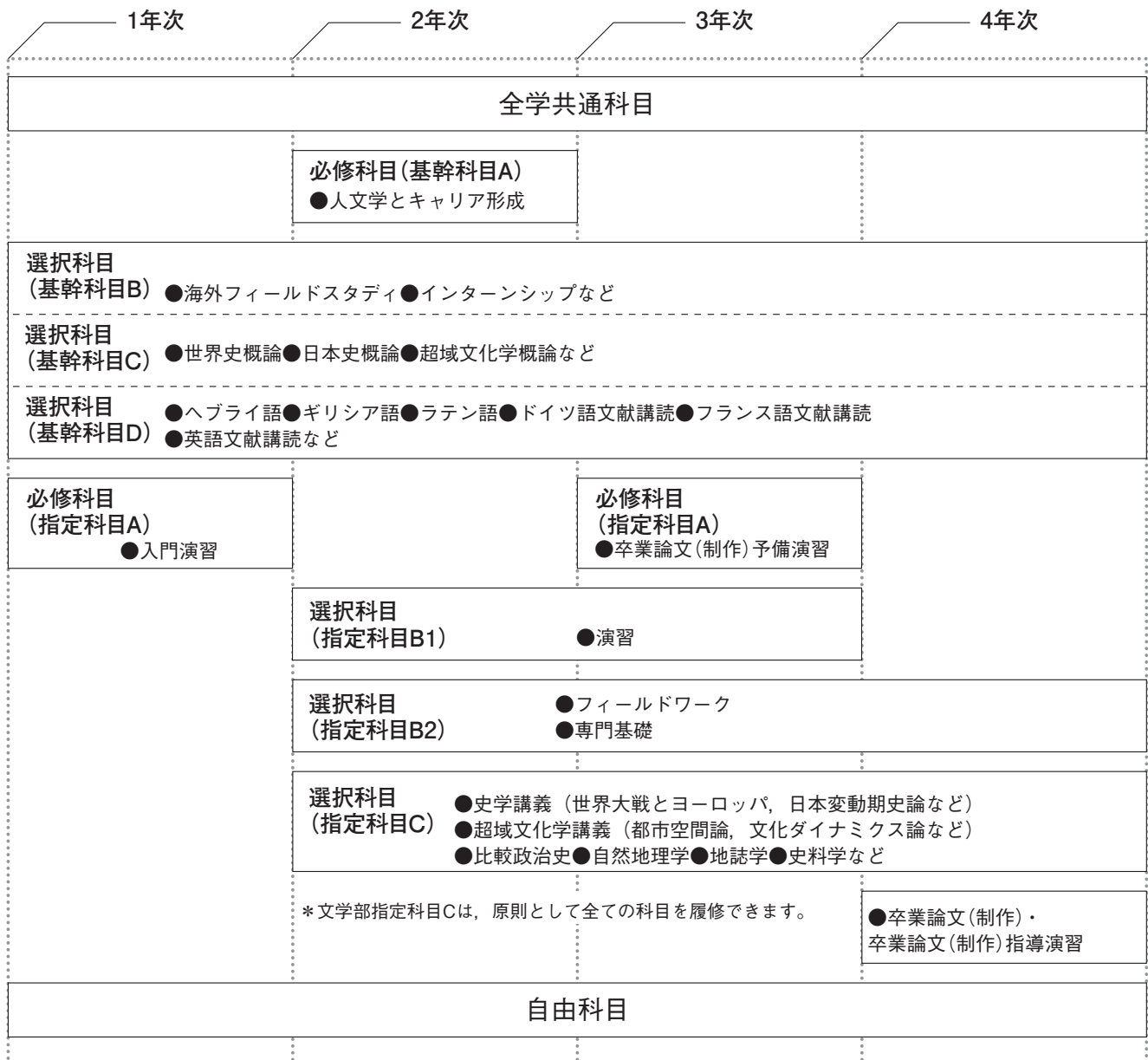
科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位
必修科目（基幹科目A）					
基幹科目 科目表 を参照					
必修科目（指定科目A）					
入門演習F1a	2	入門演習F1b	2	入門演習F1c	2
入門演習F1d	2	入門演習F2a	2	入門演習F2b	2
入門演習F2c	2	入門演習F2d	2	卒業論文（制作）予備演習	2
選択科目（基幹科目B）					
基幹科目 科目表 を参照					
選択科目（基幹科目C）					
基幹科目 科目表 を参照					
選択科目（基幹科目D）					
基幹科目 科目表 を参照					
選択科目（指定科目B1）					
演習F1	2	演習F2	2	演習F3	2
演習F4	2	演習F5	2	演習F6	2
演習F7	2	演習F8	2	演習F9	2
演習F10	2	演習F11	2	演習F12	2
演習F17	2	演習F18	2	演習F19	2
演習F20	2	演習F21	2	演習F22	2
演習F23	2	演習F24	2	演習F25	2
演習F26	2	演習F27	2	演習F28	2
演習F29	2	演習F30	2	演習F31	2
演習F32	2				
選択科目（指定科目B2）					
文芸・思想文献講読1	2	文芸・思想文献講読2	2	文芸・思想文献講読3	2
文芸・思想文献講読4	2				
選択科目（指定科目C）					
文学講義401 (文明批評論1)	2	文学講義402 (文明批評論2)	2	文学講義403 (文芸評論1)	2
文学講義404 (文芸評論2)	2	文学講義405 (文化翻訳論1)	2	文学講義406 (文化翻訳論2)	2
文学講義407 (マンガ/アニメ表現論1)	2	文学講義408 (マンガ/アニメ表現論2)	2	文学講義409 (小説創作論1)	2
文学講義410 (小説創作論2)	2	文学講義411 (詩創作論1)	2	文学講義412 (詩創作論2)	2
文学講義413 (ジェンダー論)	2	文学講義414 (広告文芸論)	2	文学講義415 (文芸編集論)	2
文学講義416 (演劇)	2	文学講義417 (現代歌謡論)	2	文学講義418 (世界文学論1)	2
文学講義419 (世界文学論2)	2	哲学講義1 (西洋哲学)	2	哲学講義2 (東洋哲学)	2
哲学講義3 (芸術論1)	2	哲学講義4 (芸術論2)	2	哲学講義5 (現代思想の諸問題1)	2
哲学講義6 (現代思想の諸問題2)	2	哲学講義7 (死生論)	2	哲学概論1	2
哲学概論2	2	現代倫理	2	卒業論文 (制作)・卒業論文 (制作) 指導演習	10
随意科目					
国語科教育法1	2	国語科教育法演習1	2	国語科教育法2	2
国語科教育法演習2	2				

史学科 { (世界史学専修)
(日本史学専修) 履修規定
(超域文化学専修)

2016年度以降1年次入学者に適用
(2018年度以降3年次編入学者に適用)

専門教育科目の特色

史学科は、私たち自身の歴史的・文化的背景を理解することによって、現代社会やその中にいる自らの位置づけをより良く認識することに努める。本学科は、世界史学専修・日本史学専修・超域文化学専修の3つの専修よりなる。専門研究は、1年次の入門演習から始まる。この基礎演習では、3専修の学問的基礎を学ぶ。2年次から、演習を履修して専修に所属し、教員の指導のもとで、各自の関心にしたがって研究計画を立てる。それにのっとり、史学講義や超域文化学講義、フィールドワークさらには専門基礎などの専門科目群を履修する。



1 史学科における4年間の学習の進め方について

専修での学習生活は卒業論文（制作）の提出を目指し、演習科目を中心に進められる。

1年次の履修について

1年次には、「入門演習」（必修・自動登録）で、学問上のルールや基礎的な技術的知識を学ぶ。また、基幹科目の「世界史概論」、「日本史概論」、「超域文化学概論」は、1年次で履修することを勧める。

2年次以降の履修について

2年次以降は、「演習」が教育の中心となる。専門内容を深めるために、同一教員の「演習」を継続して履修することを原則とする。これに加えて、「史学講義」、「超域文化学講義」、さらに文学部各学科・専修が提供する専門科目を、各人の興味と実力に応じて履修することができる。学科では別紙のような履修計画例を設定している。教員とも相談しつつ、アレンジしてほしい。

専修の選択について

2年次に進級する際に、「演習」科目を登録することで3専修（世界史学専修、日本史学専修、超域文化学専修）に分かれる。各専修の選択は、原則として学生個人の希望による。2年次「演習」科目は、1年次「入門演習」秋学期の後半時に、学生個人の関心について各担当教員が確認し、登録する。

卒業論文（制作）について

学科では卒業論文（制作）の作成を強く勧める。3年次の「卒業論文（制作）予備演習」は必修科目であり、卒業論文（制作）を作成するための準備となる科目である。この科目では、卒論を書くための基礎的作業を進めることが要求され、これを通じて、個別の専門研究への関心を深め、卒論作成に結びつけることが期待される。

履修計画例

テーマ1：古代の文化と歴史	テーマ2：ヨーロッパ文化の歴史	テーマ3：東アジア世界論
史学講義1・2（地中海世界） 史学講義9・10（前近代東アジア・ユーラシア） 史学講義23（人間と都市） 史学講義27・28（古代日本とアジア） 史学講義54（史料学） 超域文化学講義18（考古学） 専門基礎17・18・19（古文書） フィールドワーク	史学講義5・6（近代ヨーロッパ） 史学講義17（世界大戦とヨーロッパ） 史学講義19（近現代における法と社会）	史学講義9・10（前近代東アジア・ユーラシア） 史学講義11（前近代における法と国家） 史学講義13・14（近代東アジア・ユーラシア） 史学講義15・16（アジア海域） 史学講義29・30（律令制国家論） 史学講義35（近世日本史論） 史学講義37（近世日本と世界） 史学講義44（現代日本と世界） 史学講義50（日本の思想・文化） フィールドワーク
文学講義301～304（日本文学史・古代） 文学講義317～320（古代日本文学）	文学講義35・36（イギリス文化） 文学講義113（ドイツの都市文化） 文学講義117（ハプスブルク帝国の文化） 文学講義201（仏中世・ルネサンス文学） 文学講義203（仏古典主義文学） 文学講義213（ヨーロッパとフランス） 文学講義413（ジェンダー論）	文学講義315・316（日本語史）
哲学講義7（死生論）	哲学講義1（西洋哲学）	哲学講義2（東洋哲学）
キリスト教学講義1・2（旧約聖書学） キリスト教学講義21・22（キリスト教と美術）	キリスト教学講義23・24（キリスト教と音楽）	キリスト教学講義17・18（アジアのキリスト教） キリスト教学講義37（日本キリスト教史）
		教育史2

テーマ4：歴史と現代世界	テーマ5：多文化の世界	テーマ6：中世という世界
史学講義18（世界大戦とアジア） 史学講義43（現代日本史論） 比較政治史2 超域文化学講義7・8・9（アメリカ社会史） 超域文化学講義13・14（イスラーム複合社会論） 超域文化学講義19（都市空間論） フィールドワーク	史学講義19（近現代における法と社会） 史学講義21（社会史の方法） 史学講義22（マイノリティと境界） 史学講義45（伝統社会史論2） 超域文化学講義3・4・5（地域研究論） 超域文化学講義11・12（イスラーム複合社会史） 超域文化学講義15・16（文化環境学） 超域文化学講義20（文化ダイナミクス論） フィールドワーク 専門基礎1・13 （アジア・アフリカ系言語）	史学講義3・4（前近代ヨーロッパ） 史学講義11（前近代における法と国家） 史学講義21（社会史の方法） 史学講義31・32（中世日本史論） 史学講義34（中世国家と民衆） 史学講義45（伝統社会史論2） 史学講義54（史料学） 専門基礎17・18・19（古文書） フィールドワーク
文学講義33・34（英米事情） 文学講義39・40（英語圏文化） 文学講義107（ドイツのメディア論） 文学講義213（ヨーロッパとフランス） 文学講義331～336（近現代日本文学） 文学講義417（現代歌謡論）	文学講義39・40（英語圏文化） 文学講義207（フランス語圏文学） 文学講義405・406（文化翻訳論）	文学講義19（中世英文学） 文学講義118（ドイツ中世の文学・文化） 文学講義201（仏中世・ルネサンス文学） 文学講義305・306（日本文学史・中世） 文学講義321～324（中世日本文学）
キリスト教学講義9・10（神学思想） キリスト教学講義19・20（アジアの宗教） キリスト教学講義35・36（キリスト教と現代社会）	キリスト教学入門講義1・2（聖書） キリスト教学入門講義3・4（キリスト教史） キリスト教学講義25・26（キリスト教美術史）	キリスト教学入門講義3・4（キリスト教史） キリスト教学講義5・6（キリスト教思想史）
教育社会学2 社会教育・生涯学習論 国際教育論	比較教育学1・2 環境教育論 哲学的人間学	

※最新の科目情報は、R Guideの「科目表」を参照すること。

2 履修上の注意 (Ⅲ-2 履修規定) も合わせて確認のこと)

特に定める場合を除き、同一名称の科目を重複履修することはできない。

1. 基幹科目の履修について

基幹科目は必修科目2単位(基幹科目A「人文学とキャリア形成」2年次履修)のほか、10単位修得すること。

ただし、基幹科目B「書道1・2」は履修できない。
卒業要件単位数を超えて修得した場合は、自由科目の単位となる。

2. 史学科の科目の履修について

特に指示のない科目については、R Guideやシラバスの記載事項に従って履修すること。

(1) 指定科目A

「入門演習G1・G2」はクラスを指定して自動登録される。再履修となった場合もクラスを指定して各学期に自動登録される。再履修者は、自らのクラス指定を授業開始前にWebサイトの履修登録状況画面で確認すること。

「卒業論文(制作)予備演習」については登録している3年次配当演習秋学期が専任教員担当である場合、その教員が担当者に含まれている授業に登録となる(自動登録)。登録している3年次配当演習秋学期が兼任教員担当である場合、登録は、専修の専任教員間で相談し、これを定める(自動登録)。春学期中に掲示するので、掲示板に注意すること。

また、「入門演習G1・G2」未修得者は、「卒業論文(制作)予備演習」を登録できない。

(2) 指定科目B1

2年次配当演習は、1年次秋学期に「入門演習G2」を通じて各自が「演習カルテ」を提出して申し込んだ科目を履修すること(自動登録)。各年次において履修した科目が不合格となった場合は、翌年度に同一科目を履修する(自動登録)。3年次配当演習は、2年次配当演習と同じ演習分野の科目を履修する(自動登録)。

なお、演習の変更を希望する者は、その旨を教務委員の教員に申し出、その指示に従うこと。学科で審査のうえ、変更を認めることがある。

同一科目を単位修得後に重複して履修することはできない。また、卒業要件単位数を超えて履修することもできない。

(3) 指定科目B2

単位修得後に同一科目を重複履修することを認める。卒業要件単位数を超えて修得した場合は、自由科目の単位となる。

以下の科目は、1学期に1科目しか履修できない。

{ 「フィールドワークH1 a」	{ 「フィールドワークH2 a」
{ 「フィールドワークH1 b」	{ 「フィールドワークH2 b」

(4) 指定科目C

指定科目Cは「史学講義1~54」,「超域文化学講義1~24」などのほか、文学部他学科の指定科目Cも各自の履修計画に従って履修できる。ただし、同一科目を単位修得後に重複して履修することはできない。卒業要件単位数を超えて修得した場合は、自由科目の単位となる。

㊦ 文学部専門教育課程について 4 文学部指定科目Cの履修計画について 参照

「卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習」については以下のとおりとする。

「卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習」の履修を希望する者は、「卒業論文(制作)予備演習」の担当教員と相談の上、秋学期末試験のレポート提出期間に「卒業論文登録届」を所定の用紙にて、学部事務1課へ提出すること。留学などの理由で提出できない者は指導教員に相談すること。なお、「卒業論文登録届」を提出するためには、原則として、秋学期末試験のレポート提出期間に「卒業論文(制作)予備演習」のレポートを提出していなければならない。詳細については、初回の授業で説明するので、必ず出席すること。

㊦ 「Ⅲ-2 履修規定 2 卒業論文(制作)各種規定」参照

(5) 専門関連科目

教育職員免許状取得のための科目である。教職課程登録者のみ履修が認められる。「専門関連科目」として開講されている科目を修得した場合、自由科目の単位として認める。

(6) 随意科目について

- ① 随意科目として指定される科目は、卒業要件単位数に含めることはできない。
 - ② 〈各教科の指導法〉の科目（*）は、随意科目である。
 - ③ 〈各教科の指導法〉の科目（*）については、成績参照画面上は「講座課程科目」区分に記載・算入される。
- * 社会・地理歴史科教育法 1，社会・地理歴史科教育法演習 1，社会・地理歴史科教育法 2，社会・地理歴史科教育法演習 2，社会・公民科教育法 1，社会・公民科教育法演習 1，社会・公民科教育法 2，社会・公民科教育法演習 2

履修相談について

「IV 学修計画の立て方・アドバイザー」を参照すること。

史学科（世界史学・日本史学・超域文化学専修共通）2016年度以降1年次入学者 卒業要件単位表

必修/選択/自由	科目区分		卒業要件単位数		
必修科目	言語教育科目 言語A【全学共通】		6	18	
	言語教育科目 言語B【全学共通】		4		
	基幹科目 A	人文学とキャリア形成	2		
	指定科目 A	入門演習（「学びの技法」）	4		
		卒業論文（制作）予備演習	2		
選択科目	学びの精神【全学共通】		4	78	124以上
	多彩な学び【全学共通】		14		
	スポーツ実習【全学共通】				
	基幹科目 B, C, D		10		
	指定科目 B	指定科目 B 1（演習）	8		
		指定科目 B 2（専門基礎, フィールドワークほか）	2		
	指定科目 C	講義, 卒業論文（制作）・卒業論文（制作）指導演習	40		
自由科目	専門関連科目		4以上	28以上	
	選択科目（卒業要件単位数を超えて修得した単位）				
	言語自由科目【全学共通】				
	文学部他学科科目				
	他学部, 5大学間単位互換制度科目		0~16		
	大学院開講科目（4年次生のみ）		0~8		

◆全学共通科目の履修については、全学共通科目の項を参照すること。

◆「随意科目」は、卒業要件単位に含めることはできない。

社会・地理歴史科教育法1, 社会・地理歴史科教育法演習1, 社会・地理歴史科教育法2, 社会・地理歴史科教育法演習2, 社会・公民科教育法1, 社会・公民科教育法演習1, 社会・公民科教育法2, 社会・公民科教育法演習2は、随意科目である。

◆全授業回の半数を超える授業回を遠隔により実施する科目で修得した単位は、60単位まで卒業要件単位に含めることができる。60単位を超えた単位は随意科目となり、卒業要件単位には算入されない。

授業形態については、「II 授業（学修生活） 4 授業形態」を参照すること。

史学科 世界史学専修 科目表

2016年度以降1年次入学者に適用

※下記の科目表は入学年度4月時点のものである。担当者、開講学期、配当年次、登録方法を含む最新の科目表はR Guideで確認すること。

科 目 名	単 位	科 目 名	単 位	科 目 名	単 位
必修科目 (基幹科目A)					
基幹科目 科目表 を参照					
必修科目 (指定科目A)					
入門演習G1a	2	入門演習G1b	2	入門演習G1c	2
入門演習G2a	2	入門演習G2b	2	入門演習G2c	2
卒業論文 (制作) 予備演習	2				
選択科目 (基幹科目B)					
基幹科目 科目表 を参照					
選択科目 (基幹科目C)					
基幹科目 科目表 を参照					
選択科目 (基幹科目D)					
基幹科目 科目表 を参照					
選択科目 (指定科目B1)					
演習G1	2	演習G2	2	演習G3	2
演習G4	2	演習G5	2	演習G6	2
演習G7	2	演習G8	2	演習G9	2
演習G10	2	演習G11	2	演習G12	2
演習G13	2	演習G14	2	演習G15	2
演習G16	2	演習G17	2	演習G18	2
演習G19	2	演習G20	2	演習G21	2
演習G22	2	演習G23	2	演習G24	2
選択科目 (指定科目B2)					
専門基礎1 (アジア・アフリカ系言語1)	2	専門基礎2 (アジア・アフリカ系言語2)	2	専門基礎3 (ヨーロッパ系言語1)	2
専門基礎4 (イングリッシュ・コンプレヘンション)	2	専門基礎5 (アカデミックライティング)	2	専門基礎6 (ヨーロッパ系言語2)	2
専門基礎7 (ヨーロッパ系言語3)	2				
選択科目 (指定科目C)					
史学講義1 (地中海世界1)	2	史学講義2 (地中海世界2)	2	史学講義3 (前近代ヨーロッパ1)	2
史学講義4 (前近代ヨーロッパ2)	2	史学講義5 (近代ヨーロッパ1)	2	史学講義6 (近代ヨーロッパ2)	2
史学講義7 (グローバルヒストリー)	2	史学講義8 (地域からの歴史)	2	史学講義9 (前近代東アジア・ユーラシア1)	2
史学講義10 (前近代東アジア・ユーラシア2)	2	史学講義11 (前近代における法と国家)	2	史学講義13 (近代東アジア・ユーラシア1)	2
史学講義14 (近代東アジア・ユーラシア2)	2	史学講義15 (アジア海域1)	2	史学講義16 (アジア海域2)	2
史学講義17 (世界大戦とヨーロッパ)	2	史学講義18 (世界大戦とアジア)	2	史学講義19 (近現代における法と社会)	2
史学講義21 (社会史の方法)	2	史学講義22 (マイノリティと境界)	2	史学講義23 (人間と都市)	2
史学講義24 (人間と環境)	2	史学講義25 (信仰と知の歴史1)	2	史学講義26 (信仰と知の歴史2)	2
自然地理学1	2	比較政治史1	2	卒業論文 (制作)・卒業論文 (制作) 指導演習	10
自由科目 (専門関連科目)					
社会学	2	経済学	2	法律学	2
政治学	2				
随意科目					
社会・地理歴史科教育法1	2	社会・地理歴史科教育法演習1	2	社会・地理歴史科教育法2	2
社会・地理歴史科教育法演習2	2	社会・公民科教育法1	2	社会・公民科教育法演習1	2
社会・公民科教育法2	2	社会・公民科教育法演習2	2		

史学科 日本史学専修 科目表

2016年度以降1年次入学者に適用

※下記の科目表は入学年度4月時点のものである。担当者、開講学期、配当年次、登録方法を含む最新の科目表はR Guideで確認すること。

科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位
必修科目（基幹科目A）					
基幹科目 科目表 を参照					
必修科目（指定科目A）					
入門演習G1d	2	入門演習G1e	2	入門演習G1f	2
入門演習G2d	2	入門演習G2e	2	入門演習G2f	2
卒業論文（制作）予備演習	2				
選択科目（基幹科目B）					
基幹科目 科目表 を参照					
選択科目（基幹科目C）					
基幹科目 科目表 を参照					
選択科目（基幹科目D）					
基幹科目 科目表 を参照					
選択科目（指定科目B1）					
演習H1	2	演習H2	2	演習H3	2
演習H4	2	演習H5	2	演習H6	2
演習H7	2	演習H8	2	演習H9	2
演習H10	2	演習H11	2	演習H12	2
演習H13	2	演習H14	2	演習H15	2
演習H16	2	演習H17	2	演習H18	2
演習H19	2	演習H20	2	演習H21	2
演習H22	2	演習H23	2	演習H24	2
選択科目（指定科目B2）					
フィールドワークH1a	2	フィールドワークH1b	2	フィールドワークH2a	2
フィールドワークH2b	2	専門基礎9（近代史料論）	2	専門基礎10（現代史料論）	2
専門基礎17（古文書・古代）	2	専門基礎18（古文書・中世）	2	専門基礎19（古文書・近世）	2
選択科目（指定科目C）					
史学講義27 （古代日本とアジア1）	2	史学講義28 （古代日本とアジア2）	2	史学講義29 （律令制国家論1）	2
史学講義30 （律令制国家論2）	2	史学講義31 （中世日本史論1）	2	史学講義32 （中世日本史論2）	2
史学講義33 （中世日本と世界）	2	史学講義34 （中世国家と民衆）	2	史学講義35 （近世日本史論）	2
史学講義36 （伝統社会史論1）	2	史学講義37 （近世日本と世界）	2	史学講義38 （日本社会史論1）	2
史学講義39 （近代日本史論1）	2	史学講義40 （近代日本史論2）	2	史学講義41 （近代日本と世界）	2
史学講義42 （日本女性史）	2	史学講義43 （現代日本史論）	2	史学講義44 （現代日本と世界）	2
史学講義45 （伝統社会史論2）	2	史学講義46 （日本社会史論2）	2	史学講義47 （戦争と平和の歴史1）	2
史学講義48 （戦争と平和の歴史2）	2	史学講義49 （都市と村落）	2	史学講義50 （日本の思想・文化）	2
史学講義51 （日本変動期史論1）		史学講義54 （史科学）	2	自然地理学2	2
比較政治史2	2	卒業論文（制作）・卒業論文（制作）指導演習	10		
自由科目（専門関連科目）					
社会学	2	経済学	2	法律学	2
政治学	2				

科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位
随意科目					
社会・地理歴史科教育法1	2	社会・地理歴史科教育法演習1	2	社会・地理歴史科教育法2	2
社会・地理歴史科教育法演習2	2	社会・公民科教育法1	2	社会・公民科教育法演習1	2
社会・公民科教育法2	2	社会・公民科教育法演習2	2		

史学科 超域文化学専修 科目表

2016年度以降1年次入学者に適用

※下記の科目表は入学年度4月時点のものである。担当者、開講学期、配当年次、登録方法を含む最新の科目表はR Guideで確認すること。

科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位
必修科目（基幹科目A）					
基幹科目 科目表 を参照					
必修科目（指定科目A）					
入門演習G1g	2	入門演習G1h	2	入門演習G1i	2
入門演習G2g	2	入門演習G2h	2	入門演習G2i	2
卒業論文（制作）予備演習	2				
選択科目（基幹科目B）					
基幹科目 科目表 を参照					
選択科目（基幹科目C）					
基幹科目 科目表 を参照					
選択科目（基幹科目D）					
基幹科目 科目表 を参照					
選択科目（指定科目B1）					
演習I1	2	演習I2	2	演習I3	2
演習I4	2	演習I5	2	演習I6	2
演習I7	2	演習I8	2	演習I9	2
演習I10	2	演習I11	2	演習I12	2
演習I13	2	演習I14	2	演習I15	2
演習I16	2	演習I17	2	演習I18	2
演習I19	2	演習I20	2	演習I21	2
演習I22	2	演習I23	2	演習I24	2
選択科目（指定科目B2）					
フィールドワークI1	2	フィールドワークI2	2	専門基礎13（アジア・アフリカ系言語3）	2
専門基礎15（カルトグラフィ）	2	専門基礎16（フィールドワーク方法論）	2	宗教の多様性と社会	2
選択科目（指定科目C）					
超域文化学講義1 （文化人類学1）	2	超域文化学講義2 （文化人類学2）	2	超域文化学講義3 （地域研究論1）	2
超域文化学講義4 （地域研究論2）	2	超域文化学講義5 （地域研究論3）	2	超域文化学講義7 （アメリカ社会史1）	2
超域文化学講義8 （アメリカ社会史2）	2	超域文化学講義9 （アメリカ社会史3）	2	超域文化学講義11 （イスラーム複合社会史1）	2
超域文化学講義12 （イスラーム複合社会史2）	2	超域文化学講義13 （イスラーム複合社会論1）	2	超域文化学講義14 （イスラーム複合社会論2）	2
超域文化学講義15 （文化環境学1）	2	超域文化学講義16 （文化環境学2）	2	超域文化学講義17 （農耕牧畜論）	2
超域文化学講義18 （考古学）	2	超域文化学講義19 （都市空間論）	2	超域文化学講義20 （文化ダイナミクス論）	2
超域文化学講義21 （フォークロア1）	2	超域文化学講義22 （フォークロア2）	2	超域文化学講義23 （比較技術論）	2
超域文化学講義24 （人類生態学）	2	地理学概説1	2	地理学概説2	2
地誌学1	2	地誌学2	2	卒業論文（制作）・卒業論文（制作）指導演習	10
自由科目（専門関連科目）					
社会学	2	経済学	2	法律学	2
政治学	2				
随意科目					
社会・地理歴史科教育法1	2	社会・地理歴史科教育法演習1	2	社会・地理歴史科教育法2	2
社会・地理歴史科教育法演習2	2	社会・公民科教育法1	2	社会・公民科教育法演習1	2
社会・公民科教育法2	2	社会・公民科教育法演習2	2		

専門教育科目の特色

本学科では、多様な教育現象を考えるための幅広い学問領域を総合的に学習することを目指す。3年次に教育学専攻と初等教育専攻のどちらかの課程を選択する。教育心理学、教育社会学、教育史、教育哲学、比較教育学、教育方法学、社会教育など多彩な科目が用意され、生きた教育の場に目を向けるよう、実習や実践研究など、フィールドへ出かけていく機会も重視している。

1年次	2年次	3年次	4年次
全学共通科目			
必修科目(基幹科目A) ●人文学とキャリア形成			
選択科目(基幹科目B) ●海外フィールドスタディ ●インターンシップなど			
選択科目(基幹科目C) ●教育制度・政策論●家庭教育論●教育と福祉●教育と宗教など			
選択科目(基幹科目D) ●ヘブライ語●ギリシア語●ラテン語●ドイツ語文献講読●フランス語文献講読●英語文献講読など			
必修科目(指定科目A) ●入門演習 ●教育学	●教育心理学1 ●教育史1 ●教育哲学1 ●教育社会学1	選択科目(指定科目B1) ●演習	選択科目(指定C) ●卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習
	選択科目(指定科目B2) ●教育実践研究	●教育調査実習	
	選択科目(指定科目C) ●比較教育学●社会教育・生涯学習論●国際教育論●教育臨床論 ●教育臨床心理学●現代教育の諸問題●子ども文化論など		
	必修科目(指定科目A2)(初等) ●生徒指導・進路指導 ●各教科教育法 ●初等教育実習 ●道徳教育の理論と方法 ●教職論 ●音楽実技 ●教職実践演習 ●特別支援教育の理論と方法 ●造形表現 ●体育実技 ●総合的な学習の時間の理論と方法など		
自由科目			

1 教育学における4年間の学び方

教育学の学科課程は、学生の自主的学習を尊重し、教育学の研究方法を中心に理論と実践の統合をめざした構成をとっている。学生はその趣旨を生かしながら、以下に述べる学科課程の構成や各科目の講義内容をよく理解したうえで、計画的に履修してほしい。

本学科の学生は、3年次*から教育学専攻課程と初等教育専攻課程の二つに分かれる。

1年次では、教育学の基礎について学ぶ「入門演習」と「教育学」とが必修である。基幹科目として、教育学関連では「教育制度・政策論」「家庭教育論」「教育と福祉」「教育と宗教」を履修することができる。

2年次では教育学の方法を学ぶための「教育心理学1」「教育社会学1」「教育史1」「教育哲学1」が必修になっている。

指定科目B2、Cの科目の履修が可能となる。教育の専門科目について2年次で積極的に履修することが望ましい。

2年次には課程選択ガイダンスが行われる。このガイダンスで示された所定の手続に従って学生は希望する専攻を決定し、届け出る。

3年次*からは教育学専攻課程と初等教育専攻課程に分かれる。

両課程とも共通して指定科目B1の「演習J」が必修となる。演習では指導教員のもとで個別のテーマについて深く追究する。教育学専攻課程では、「教育調査実習」が必修である。卒業論文を除くすべての科目が履修可能となる。初等教育専攻課程では、指定科目A2と指定科目C1の科目については、3年次までにできるだけ多く履修することが望ましい。なお、初等教育専攻課程を選択した場合は、中・高教員免許状は取得できない。よって、学校・社会教育講座教職課程設置科目の履修はできない。

4年次には「卒業論文（制作）・卒業論文（制作）指導演習」が開講される。4年間の学修成果の集大成として卒業論文に積極的に取り組んでほしい。「卒業論文（制作）・卒業論文（制作）指導演習」を履修しない学生は「教育実践研究」を4年次で履修することが望ましい。

★ 初等教育専攻課程では4年次に初等教育実習を行う。

*在学5学期目以降の4月

1 履修上の注意（「Ⅲ-2 履修規定」も合わせて確認のこと）

特に定める場合を除き、同一名称の科目を重複履修することはできない。

1. 基幹科目の履修について

基幹科目は必修科目2単位（基幹科目A「人文学とキャリア形成」2年次履修）のほか、10単位修得すること。

ただし、基幹科目B「書道1・2」は履修できない。

卒業要件単位数を超えて修得した場合は、自由科目の単位となる。

2. 教育学科の科目の履修について

特に指定のない科目についてはR Guideやシラバスの記載事項に従って履修すること。

(1) 指定科目A

「入門演習J1・J2」はクラスが指定されて自動登録される。再履修となった場合もクラスが指定されて各学期に自動登録される。その他の科目も配当年次と開講学期に従って自動登録される。

(2) 指定科目B1

3年次以後配当年次に従って1学期に1科目ずつ指定された科目を履修すること。履修登録の詳細については、2年次に開かれる「3年次演習選択ガイダンス」で指示する。

4年次で履修する場合には、当該年度の授業開始前の学科ガイダンスまたはR Guideを参照の上、必ず学科に申し出て、学科の指示に従って履修登録をすること。

単位修得後に同一科目を重複履修することを認める。卒業要件単位数を超えて修得した場合は、自由科目の単位となる。

(3) 指定科目B2

単位修得後に同一科目を重複履修することを認める。卒業要件単位数を超えて修得した場合は、自由科目の単位となる。

「教育実践研究」は、学生が個人または共同で、以下の2つの内のひとつのテーマについて、指導教員の指導・助言を受けつつ自発的に取り組む科目である。期日までに報告書を提出することが求められる。

- ① 大学内外での地域活動、福祉・文化・教育施設や団体での活動
- ② 学生が受講した授業や演習のテーマをより深く追究する活動

希望者は、秋学期に他の科目と同様に履修登録し、担当教員に連絡すること。

(4) 指定科目C

指定科目Cは学科課程に記載してある科目のほか、文学部他学科の指定科目Cも各自の履修計画に従って履修できる。ただし、同一科目を単位修得後に重複して履修することはできない。卒業要件単位数を超えて修得した場合は、自由科目の単位となる。

☞ 文学部専門教育課程について [4 文学部指定科目Cの履修計画について](#) 参照

① 基幹科目「倫理思想」と指定科目C「哲学的人間学」は、中学校「社会」・高等学校「公民」1種免許状取得の際、教科専門科目の一部として認められる。

② 「卒業論文（制作）・卒業論文（制作）指導演習」

「卒業論文（制作）」は「卒業論文（制作）指導演習」を通して書くため、両方をあわせて10単位と考えること。「卒業論文（制作）」を提出し、合格と認められた場合のみ単位を修得できる。「卒業論文（制作）指導演習」は「卒業論文（制作）」を未提出あるいは提出しても不合格となった場合は、単位修得できないので、注意すること。

③ 初等教育専攻課程の指定科目A2の科目の履修は2年次配当科目のみ履修することが認められ、指定科目Cとして履修することになる。

- (5) 専門関連科目について
教育職員免許状取得のための科目である。教職課程登録者のみ履修が認められる。「専門関連科目」として開講されている科目を修得した場合、自由科目の単位として認める。

(6) 随意科目について

- ① 随意科目として指定される科目は、卒業要件単位数に含めることはできない。
② 〈各教科の指導法〉の科目(*)は、随意科目である。
③ 〈各教科の指導法〉の科目(*)については、成績参照画面上は「講座課程科目」区分に記載・算入される。
*社会・公民科教育法1, 社会・公民科教育法演習1, 社会・公民科教育法2, 社会・公民科教育法演習2

3. 教育職員免許
以外の諸資格
について

- (1) 社会教育主事課程に必要な科目は、教育学科設置の科目を履修することによって充当される場合があるので、学校・社会教育講座履修要項の記述によく注意して履修すること。
(2) 講座設置科目を履修して修得した単位は、たとえそれが「教育心理学」など、教育学科の同一科目名、同一担当者によるものであっても、教育学科卒業に必要な単位としては認められない。

教育学科（教育学専攻課程）2022年度以降1年次入学者 卒業要件単位表

必修/選択/自由	科目区分		卒業要件単位数		
必修科目	言語教育科目 言語A【全学共通】		6	26	
	言語教育科目 言語B【全学共通】		4		
	基幹科目A	人文学とキャリア形成	2		
	指定科目A	入門演習（「学びの技法」），教育学， 教育心理学1， 教育社会学1， 教育史1，教育哲学1	14		
選択科目	学びの精神【全学共通】		4	70	124以上
	多彩な学び【全学共通】		14		
	スポーツ実習【全学共通】				
	基幹科目B, C, D		10		
	指定科目B	指定科目B1（演習）	4		
		指定科目B2（教育調査実習1-4， 教育実践研究）	4		
	指定科目C	講義，卒業論文（制作）・卒業論文（制作） 指導演習	34		
自由科目	専門関連科目		4以上	28以上	
	選択科目（卒業要件単位数を超えて修得した単位）				
	言語自由科目【全学共通】				
	文学部他学科科目				
	他学部，5大学間単位互換制度科目		0~16		
	大学院開講科目（4年次生のみ）		0~8		

◆全学共通科目の履修については，全学共通科目の項を参照すること。

◆「随意科目」は，卒業要件単位に含めることはできない。

社会・公民科教育法1，社会・公民科教育法演習1，社会・公民科教育法2，社会・公民科教育法演習2は，随意科目である。

◆全授業回の半数を超える授業回を遠隔により実施する科目で修得した単位は，60単位まで卒業要件単位に含めることができる。60単位を超えた単位は随意科目となり，卒業要件単位には算入されない。

授業形態については，「Ⅱ 授業（学修生活） 4 授業形態」を参照すること。

◆科目表の「学科関連科目」は，教育職員免許状取得に関わる開講科目群である。修得した単位は，規定の範囲内で卒業要件に算入される。

教育学科 教育学専攻課程 科目表

2022年度以降1年次入学者に適用

※下記の科目表は入学年度4月時点のものである。担当者、開講学期、配当年次、登録方法を含む最新の科目表はR Guideで確認すること。

科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位
必修科目（基幹科目A）					
基幹科目 科目表 を参照					
必修科目（指定科目A）					
入門演習J1a	2	入門演習J1b	2	入門演習J1c	2
入門演習J1d	2	入門演習J2a	2	入門演習J2b	2
入門演習J2c	2	入門演習J2d	2	教育学	2
教育心理学1	2	教育社会学1	2	教育史1	2
教育哲学1	2				
選択科目（基幹科目B）					
基幹科目 科目表 を参照					
選択科目（基幹科目C）					
基幹科目 科目表 を参照					
選択科目（基幹科目D）					
基幹科目 科目表 を参照					
選択科目（指定科目B1）					
演習J1	2	演習J2	2	演習J3	2
演習J4	2	演習J5	2	演習J6	2
演習J7	2	演習J8	2	演習J9	2
演習J10	2	演習J11	2	演習J12	2
演習J13	2	演習J14	2	演習J15	2
演習J16	2	演習J17	2	演習J18	2
選択科目（指定科目B2）					
教育調査実習1	2	教育調査実習2	2	教育調査実習3a	2
教育調査実習3b	2	教育調査実習4a	2	教育調査実習4b	2
教育実践研究	2				
選択科目（指定科目C）					
教育方法学	2	教育とメディア	2	特別活動の理論と方法	2
生徒指導・進路指導	2	教育相談	2	カウンセリング	2
道徳教育の理論と方法	2	特別支援教育の理論と方法	2	総合的な学習の時間の理論と方法	2
幼児教育学	2	比較教育学1	2	比較教育学2	2
キリスト教と教育1	2	キリスト教と教育2	2	教育心理学2	2
教育社会学2	2	教育史2	2	教育哲学2	2
社会教育・生涯学習論	2	教育課程論	2	国際教育論	2
環境教育論	2	教育と表現	2	教育臨床論	2
教育臨床心理学	2	発達心理学	2	現代教育の諸問題1	2
現代教育の諸問題2	2	人間と哲学1	2	人間と哲学2	2
子ども文化論	2	哲学的人間学	2	国語科教育論	2
社会科教育論	2	算数科教育論	2	理科教育論	2
生活科教育論	2	家庭科教育論	2	英語科教育論	1
卒業論文（制作）・卒業論文（制作）指導演習	10	ICT活用の理論と方法（小学校）	2		
自由科目（専門関連科目）					
世界史	2	日本史	2	社会学	2
経済学	2	法律学	2	政治学	2
随意科目					
社会・公民科教育法1	2	社会・公民科教育法演習1	2	社会・公民科教育法2	2
社会・公民科教育法演習2	2				
学科関連科目					
開発経済学	2	アジア経済論	2	セクシュアリティの社会学	2
都市生活誌	2	若者とメディア	2	現代政治論	4
日本政治論	4				

教育学科・教育学専攻（2022年度以降1年次入学者に適用）

1 履修上の注意（「Ⅲ-2 履修規定」も合わせて確認のこと）

特に定める場合を除き、同一名称の科目を重複履修することはできない。

1. 基幹科目の履修について

- (1) 基幹科目は必修科目2単位（基幹科目A「人文学とキャリア形成」2年次履修）のほか、10単位修得すること。
- (2) その他の基幹科目の履修について
基幹科目B「書道1・2」は履修できない。
卒業要件単位数を超えて修得した場合は、自由科目の単位となる。

2. 教育学科の科目の履修について

特に指示のない科目については、R Guideやシラバスの記載事項に従って履修すること。

初等教育専攻課程に進むことを希望している者は、2年次からの履修科目に注意すること。

- (1) 指定科目A1（必修）
「入門演習J1・J2」はクラスが指定されて自動登録される。再履修となった場合もクラスが指定されて各学期に自動登録される。その他の科目も配当年次と開講学期に従って自動登録される。
- (2) 指定科目A2（必修）
 - ① 全科目が必修科目である。3年次以上の配当科目は初等教育専攻課程以外の学生の履修を認めない。
 - ② 「音楽実技」, 「造形表現」, 「体育実技」を履修するためには、以下の5科目中4科目以上の単位を修得していなければならない。
「教育学」, 「教育哲学1」, 「教育史1」, 「教育社会学1」, 「教育心理学1」
 - ③ 「音楽実技1・2」, 「造形表現1・2」各「教育法」の授業は履修クラスが指定される。（自動登録）
 - ④ 「初等教育実習」, 「教職実践演習（小学校）」を履修するためには、以下の単位を修得していなければならない。
「教育学」, 「教育哲学1」, 「教育史1」, 「教育社会学1」, 「教育心理学1」, 教育法7科目以上（「教職論」を含む）
 - ⑤ 「教職実践演習（小学校）」は、「初等教育実習」を履修中もしくは単位修得済みの者のみ履修可とする。
- (3) 指定科目B1
3年次以後配当年次に従って1学期に1科目ずつ指定された科目を履修すること。履修登録の詳細については、2年次に開かれる「3年次演習選択ガイダンス」で指示する。
4年次で履修する場合には、当該年度の授業開始前の学科ガイダンスまたはR Guideを参照の上、必ず学科に申し出て、学科の指示に従って履修登録をすること。
単位修得後に同一科目を重複履修することを認める。卒業要件単位数を超えて修得した場合は、自由科目の単位となる。
- (4) 指定科目B2
単位修得後に同一科目を重複履修することを認める。所定の単位数を超えて修得した場合は、自由科目の単位として算入する。
「教育実践研究」は、学生が個人または共同で、以下の2つの内のひとつのテーマについて、指導教員の指導・助言を受けつつ自発的に取り組む科目である。期日までに報告書を提出することが求められる。
 - ① 大学内外での地域活動、福祉・文化・教育施設や団体での活動

② 学生が受講した授業や演習のテーマをより深く追究する活動

希望者は、秋学期に他の科目と同様に履修登録し、担当教員に連絡すること。

(5) 指定科目C

指定科目CはC1とC2に分かれており、C1より5単位、C1として修得した科目以外の科目とC2を合わせて指定された科目より6単位以上修得しなければならない。指定科目C2として、学科課程に記載の開講科目のほか、文学部他学科の指定科目Cも各自の履修計画に従って履修できる。ただし、同一科目を単位修得後に重複して履修することはできない。卒業要件単位数を超えて修得した場合は、自由科目の単位となる。

☞ 文学部専門教育課程について 4 文学部指定科目Cの履修計画について 参照

① 指定科目C2「卒業論文（制作）・卒業論文（制作）指導演習」について

「卒業論文（制作）」は「卒業論文（制作）指導演習」を通して書くため、両方をあわせて10単位と考えること。「卒業論文（制作）指導演習」は「卒業論文（制作）」を提出し、合格と認められた場合のみ単位を修得できる。「卒業論文（制作）」を未提出あるいは提出しても不合格となった場合は、単位修得できないので、注意すること。

3. 小学校教育職員免許状取得について

(1) 初等教育専攻課程に在籍し、所定の単位を修得することによって、小学校教諭1種免許状を取得することができる。

(2) 以下に該当する者は、「初等教育実習」への参加および(1)の免許状の取得をすることができない。

① 伝染のおそれのある疾病、若しくは教育実習を行ううえで妨げとなる精神障害等のある者

② 公立学校の正常な教育活動を妨げる恐れのある者

(3) 教育学科の専門教育科目とは別に、「教育職員免許法施行規則第66条の6」に定める科目として、以下の単位を修得しておく必要がある。

日本国憲法 2単位（全学共通科目）、スポーツ実習 2単位（全学共通科目）
情報処理（*） 2単位（文学部基幹科目）

（*）情報処理について

文学部基幹科目の「情報処理1・2・3a～d・4a～d」のみが対象となる。

(4) 「教職実践演習（小学校）」は事前の準備として、各人が「履修カルテ」に1年次から履修などについて記入する必要がある。教育学科Webサイトおよび2年次の「課程選択ガイダンス」の指示に従うこと。

(5) 「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教員職員免許法の特例等に関する法律」（通称、介護等体験に関する特例法）（1998年4月1日施行）により、以下の証明書を提出しなければならない。なお、介護等体験については 2 介護等体験 を参照すること。体験の内容、施設の説明、施設への申し込みなどに関して、2年次に介護等体験ガイダンス（登録）を行う。

① 証明書の内容

法に定められた施設において7日以上介護等体験を行った旨が記載された証明書

② 提出の時期

小学校教諭一種免許状の申請時

4. 「初等教育実習」の履修にあたって

「初等教育実習」は、2年次、3年次、4年次の事前・事後指導と小学校での教育実習により計5単位で構成される。履修登録は、4年次生の4月期のみ登録する。

5. 「初等教育実習」の履修日程について	<p>2年次生（実習前々年度）</p> <p>教育実習を希望する者は実習前々年度に次の手続きをしなければならない。これらを満たしていない者は教育実習に参加できない。</p> <p>(1) 初等教育実習事前指導への出席 第1回目実施日：12月予定</p> <p>3年次、4年次での事前指導に関しては、数回の講話、参観などを行うが、具体的な日程、内容についてはロイドホール5階教育学科研究資料準備室掲示板およびCanvas LMS等に発表する。</p> <p>(2) 教育実習生健康診断 実習では児童・生徒に接するため、教育実習生は事前に健康診断を受けなければならない。健康診断は学内で実施する。</p>
	<p>4年次生（実習年度）</p> <p>実習年度には、次のような手順に従って実習を行う。以下は概要であるため、履修時のガイダンスで指示する詳細に従うこと。</p> <p>(1) 履修登録 自動登録により、実習年度春学期に登録する。</p> <p>(2) 直前指導 原則として4月土曜日に実施する（掲示に注意）。</p> <p>(3) 教育実習 実習校における実習の期間は、4週間とする。実習は全期間出席しなければならない。（なお特例として、彩の国かがやき教師塾の学校体験実習を終えた場合は、通常の教育実習を行ったものとして読み替える。）</p> <p>(4) 事後指導 7月と12月に、計2回行う。詳細は掲示する。</p> <p>(5) 「教育実習の記録」の提出 所定の期日にロイドホール5階教育学科研究資料準備室に提出すること。</p>
6. 教育職員免許以外の諸資格について	<p>(1) 社会教育主事課程に必要な科目は、教育学科設置の科目を履修することによって充当される場合があるので、学校・社会教育講座履修要項の記述によく注意して履修すること。</p> <p>(2) 講座設置科目を履修して修得した単位は、たとえそれが「教育心理学」など、教育学科の同一科目名、同一担当者によるものであっても、教育学科卒業に必要な単位としては認められない。</p>

2 介護等体験

1. 介護等体験の義務づけ	<p>「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」（通称：介護等体験に関する特例法）（1998年4月1日施行）により、小・中学校免許取得希望者は、都道府県教育委員会への免許申請時に、介護等体験を行った旨の証明書を添付することが義務づけられた。</p>
2. 体験の趣旨	<p>法律では体験の趣旨について次のように規定している。</p> <p>「個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深めるために、小学校又は中学校の教諭の普通免許状の授与を受けようとする者に、障害者、高齢者等に対する介護、介助、これらの者との交流等の体験を行わせる。（要旨）」</p>
3. 体験の施設と期間	<p>体験を行う施設の種別は、法律で細かく規定されており、期間は7日以上とされている。一般的には、<u>老人ホームなどの社会福祉施設で5日間、特別支援学校で2日間の計7日間</u>である。</p>

4. 対象学生
 下記(1)～(3)を除く、学部学生。
 (1) 既に介護等体験を行った者で、『介護等体験証明書』原本（写しは不可）を本学に提出可能な者。
 (2) 以下の免許・資格既取得者
 小学校または中学校の教育職員免許状（1種・2種・専修）、保健師、助産師、看護師、准看護師、理学療法士、作業療法士、義肢装具士、社会福祉士、介護福祉士、特別支援学校教員
 (3) 身体障害者手帳1級から6級所持者
5. 体験の失格
 定められた事務手続きを所定の期限内に行わない等、手続き上不備があった場合には、当該年度の介護等体験は失格となる。
6. 体験予定の学生
 前年度に「介護等体験ガイダンス（登録）」に出席し、必要な手続きを完了している者は、以下の指示に従って手続きを進めること。
 (1) 書類提出・費用納入
 すでに対象者に告知済みの日程（3月下旬）において、書類提出および社会福祉施設体験費用の納入を受け付ける。
 (2) 「介護等体験ガイダンス（事前指導）」への出席
 ＊日時（6月中旬の予定）・場所の詳細については、決定次第、研究資料準備室掲示板およびR Guideに発表する。
 無断欠席・遅刻・早退は認めない。この場合は、当該年度の介護等体験への参加を放棄したものと見なす。
 このガイダンスでは、体験先、期間の発表や実際の体験に際して必要な指導等を行う。
 (3) 介護等体験証明書の提出
介護等体験終了後に提出するが、提出先・提出期間については上記「介護等体験ガイダンス（事前指導）」で指示する。
7. 次年度体験予定の学生
 一主に2年次生
 (1) 希望者は、「介護等体験ガイダンス（登録）」に必ず出席すること。
 ＊日時（11月の予定）・場所の詳細については、決定次第、研究資料準備室掲示板およびR Guideに発表する。
 無断欠席・遅刻・早退は認めない。この場合は次年度の介護等体験への参加を放棄したものと見なす。
 (2) 申込手続
 介護等体験に伴う手続きは、研究資料準備室を窓口として学校・社会教育講座事務室が行う。
 学生がとらなくてはならない手続きについては、「介護等体験ガイダンス（登録）」にて詳細を説明する。
8. 3年次編入学生への注意
 入学年度の介護等体験に参加することはできない。ただし、前年度に参加申込手続きをし、所定の手続きを完了している場合はこの限りではない。
 次年度の介護等体験については前項7. を参照し、ガイダンスの出席、申込手続きをとること。

教育学科（初等教育専攻課程）2022年度以降1年次入学者 卒業要件単位表

必修/選択/自由	科目区分		卒業要件単位数			
必修科目	言語教育科目 言語A【全学共通】		6	79		
	言語教育科目 言語B【全学共通】		4			
	基幹科目A	人文学とキャリア形成	2			
	指定科目A1	入門演習（「学びの技法」），教育学， 教育心理学1，教育社会学1， 教育史1，教育哲学1	14			
	指定科目A2	初等必修科目	53			
選択科目	学びの精神【全学共通】		4	49	134以上	
	多彩な学び【全学共通】		14			
	スポーツ実習【全学共通】					
	基幹科目B, C, D		10			
	指定科目B	指定科目B1（演習）	4			
	指定科目C	指定科目C1（講義）				5
		※指定科目C1（5単位を超えて修得した分）				6
		※指定科目C2（「現代教育の諸問題1・2」 「環境教育論」「哲学的人間学」「キリスト教と教育1・2」 「人間と哲学1・2」「卒業論文（制作）・卒業論文（制作）指導演習」 「文学部他学科指定科目C」を除く）				
指定科目B, C	指定科目B2（教育調査実習1-4, 教育実践研究）		6			
	指定科目C1・C2（※を超えて修得した分）					
	その他の指定科目C2（「現代教育の諸問題1・2」 「環境教育論」「哲学的人間学」「キリスト教と教育1・2」 「人間と哲学1・2」 「卒業論文（制作）・卒業論文（制作）指導演習」 「文学部他学科指定科目C」）					
自由科目	専門関連科目		制限なし	6以上		
	選択科目（卒業要件単位数を超えて修得した単位）					
	言語自由科目【全学共通】					
	文学部他学科科目					
	他学部科目，5大学間単位互換制度科目		0～16			
	大学院開講科目（4年次生のみ）		0～8			

◆全学共通科目の履修については，全学共通科目の項を参照すること。

◆「随意科目」は，卒業要件単位に含めることはできない。

◆全授業回の半数を超える授業回を遠隔により実施する科目で修得した単位は，60単位まで卒業要件単位に含めることができる。60単位を超えた単位は随意科目となり，卒業要件単位には算入されない。

授業形態については，「Ⅱ 授業（学修生活） 4 授業形態」を参照すること。

教育学科 初等教育専攻課程 科目表

2022年度以降1年次入学者に適用

※下記の科目表は入学年度4月時点のものである。担当者，開講学期，配当年次，登録方法を含む最新の科目表はR Guideで確認すること。

科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位
必修科目（基幹科目A）					
基幹科目 科目表 を参照					
必修科目（指定科目A1）					
入門演習J1a	2	入門演習J1b	2	入門演習J1c	2
入門演習J1d	2	入門演習J2a	2	入門演習J2b	2
入門演習J2c	2	入門演習J2d	2	教育学	2
教育心理学1	2	教育社会学1	2	教育史1	2
教育哲学1	2				
必修科目（指定科目A2）					
国語科教育法	2	社会科教育法	2	算数科教育法	2
理科教育法	2	生活科教育法	2	家庭科教育法	2
音楽科教育法	2	図画工作科教育法	2	英語科教育法	2
体育科教育法	2	教職実践演習（小学校）	2	教職論	2
初等教育実習	5	音楽実技1	1	音楽実技2	1
造形表現1	1	造形表現2	1	体育実技	2
教育方法学	2	特別活動の理論と方法	2	生徒指導・進路指導	2
教育相談	2	道徳教育の理論と方法	2	教育課程論	2
特別支援教育の理論と方法	2	総合的な学習の時間の理論と方法	2	ICT活用の理論と方法（小学校）	2
選択科目（基幹科目B）					
基幹科目 科目表 を参照					
選択科目（基幹科目C）					
基幹科目 科目表 を参照					
選択科目（基幹科目D）					
基幹科目 科目表 を参照					
選択科目（指定科目B1）					
演習J1	2	演習J2	2	演習J3	2
演習J4	2	演習J5	2	演習J6	2
演習J7	2	演習J8	2	演習J9	2
演習J10	2	演習J11	2	演習J12	2
演習J13	2	演習J14	2	演習J15	2
演習J16	2	演習J17	2	演習J18	2
選択科目（指定科目B2）					
教育調査実習1	2	教育調査実習2	2	教育調査実習3a	2
教育調査実習3b	2	教育調査実習4a	2	教育調査実習4b	2
教育実践研究	2				
選択科目（指定科目C1）					
国語科教育論	2	社会科教育論	2	算数科教育論	2
理科教育論	2	生活科教育論	2	家庭科教育論	2
英語科教育論	1				
選択科目（指定科目C2）					
教育とメディア	2	カウンセリング	2	幼児教育学	2
比較教育学1	2	比較教育学2	2	キリスト教と教育1	2
キリスト教と教育2	2	教育心理学2	2	教育社会学2	2
教育史2	2	教育哲学2	2	社会教育・生涯学習論	2
国際教育論	2	環境教育論	2	教育と表現	2
教育臨床論	2	教育臨床心理学	2	発達心理学	2
子ども文化論	2	哲学的人間学	2	現代教育の諸問題1	2

教育学科・初等教育専攻（2022年度以降1年次入学者に適用）

科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位
現代教育の諸問題2	2	人間と哲学1	2	人間と哲学2	2
卒業論文（制作）・卒業論文（制作）指導演習	10	指定科目C1 超過履修分			
自由科目（専門関連科目）					
世界史	2	日本史	2	社会学	2
経済学	2	法律学	2	政治学	2

文学研究科に かかわる事項

大学院文学研究科における学び

文学研究科委員長 加藤 磨珠 枝

大学院文学研究科は、日本文学、英米文学、ドイツ文学、フランス文学、史学、超域文化学、教育学、比較文明学の8専攻によって、「人文学」の広範な領域を探求し、高度な専門家と幅広い教養人の養成を旨としています。この学問の核となるのは、人間性の深い理解であり、各分野を通じて、人間の生み出してきた言語、歴史、哲学、文化などを探求し、その本質や価値を多角的、総合的に考察し、分析する営みです。

大学院での学びは、学部での学びとは大きく異なります。それは、既存の知識を受け取る受動的な出会いによって始められた学びから、今度は、自ら問いを立てて探究する能動的な学びへの転換を意味します。では、こうした「学問的な問い」は、どこから生まれるのでしょうか。まず、第一に、皆さんの知的好奇心が重要な役目を果たします。さまざまな分野に対する興味や関心が、研究をより豊かなものにしてくれることでしょうか。文学研究科では、多様なバックグラウンドを持つ院生や教員が集まっています。この多様性は、皆さんの研究を相互に豊かにする貴重なインスピレーションの源です。他者の意見やアプローチに耳を傾けることで、自らの視点を拡張する、これを繰り返しながら、まずは、研究生活を楽しんでほしいと思います。

次に、この「学問的な問い」が学術的な意味を持ち、探究に値するものであるかを見極めることも重要です。このプロセスでは、自分自身の好奇心を大切にしながらも、先行研究を読み解き、批判的分析を行う姿勢が求められます。大学院は、他者の研究に敬意を払いながら、過去の理論を批判的に検討する力を養う場でもあります。「批判的」とは単に否定することではなく、論理的な整合性や論証の妥当性を吟味し、新しい視点を提供することを意味します。時に厳しい議論を交わし、自身に向けられた批判も受けとめながら、自分自身の研究の基盤を構築し、新しい知を創造する主体となることが皆さんには求められます。

最後に、心にとどめておいてほしいことは、私たちの研究は、決して学術の世界だけに留まるものではない点です。大学院での学びは、自らの専門性を深化させるだけではなく、社会全体の発展に寄与する視点も必要です。科学技術が進歩し、グローバル化やAIの発展が急速に進む現代社会においても、「人文学」は人間の本質に立ちかえり、現代社会の諸問題、社会構造を問い直す重要な視座を与えてくれます。研究成果は教育や文化活動を通じて、広く社会に還元されることもあるでしょう。皆さんの研究が、社会へとつながるイメージを持つことによって、その可能性が学問の枠を超えてさらに開かれ、広く社会に貢献できるものとなることを願っています。こうした研究者の社会的責任を果たすためには、研究倫理を守り、公正であることも大切な要素です。皆さん自身が人格的にも成長することを助け、社会への発信力も兼ね備える、そんな刺激に満ちた学問の場を共同で創り上げていきましょう。

2025年4月1日

学位授与方針

博士課程前期課程

修士（文学）

博士課程前期課程を修了する者が身につけるべき知識、能力等を下記の通り定める。本課程に2年（4学期）以上在学して所定の単位を修得し、かつ研究指導を受けた上、修士論文を提出して、その審査および最終試験に合格した者は、これらの知識、能力等を身につけていると認め、修士の学位を授与する。

1. 人文学の高度に専門的な日本語および外国語の文献を読み解き、その領域における知的蓄積を分析総合する能力、あるいはフィールドワークを通して的確で客観的な調査を行う技能および、学的世界の中で自らの位置を知る能力。
2. 自らの知見を他者に客観的かつ説得的に伝達するための論理構築能力および表現技法。
3. 自らの学問的営為や成果を踏まえながら、現代社会において出会うであろう多様な事態に対して臨機応変に対応できる柔軟な発想力。

修士（教育学）

博士課程前期課程を修了する者が身につけるべき知識、能力等を下記の通り定める。本課程に2年（4学期）以上在学して所定の単位を修得し、かつ研究指導を受けた上、修士論文を提出して、その審査および最終試験に合格した者は、これらの知識、能力等を身につけていると認め、修士の学位を授与する。

1. 教育学の高度に専門的な日本語および外国語の文献を読み解き、その領域における知的蓄積を分析総合する能力、あるいはフィールドワークを通して的確で客観的な調査を行う技能および、学的世界の中で自らの位置を知る能力。
2. 自らの知見を他者に客観的かつ説得的に伝達するための論理構築能力および表現技法。
3. 自らの学問的営為や成果を踏まえながら、現代社会において出会うであろう多様な事態に対して臨機応変に対応できる柔軟な発想力。

修士（比較文学）

博士課程前期課程を修了する者が身につけるべき知識、能力等を下記の通り定める。本課程に2年（4学期）以上在学して所定の単位を修得し、かつ研究指導を受けた上、修士論文を提出して、その審査および最終試験に合格した者は、これらの知識、能力等を身につけていると認め、修士の学位を授与する。

1. 比較文学の高度に専門的な日本語および外国語の文献を読み解き、その領域における知的蓄積を分析総合する能力、あるいはフィールドワークを通して的確で客観的な調査を行う技能および、学的世界の中で自らの位置を知る能力。
2. 自らの知見を他者に客観的かつ説得的に伝達するための論理構築能力および表現技法。
3. 自らの学問的営為や成果を踏まえながら、現代社会において出会うであろう多様な事態に対して臨機応変に対応できる柔軟な発想力。

博士課程後期課程

博士（文学）

博士課程後期課程を修了する者が身につけるべき知識、能力等を下記の通り定める。本課程に3年（6学期）以上在学して所定の単位を修得し、かつ研究指導を受けた上、博士の学位申請論文を提出して、その審査および最終試験に合格した者は、これらの知識、能力等を身につけていると認め、博士の学位を授与する。ただし、優れた研究業績をあげた者については1年（2学期）以上在学すれば足りるものとする。

1. 博士課程前期課程で培った、人文学の研究、調査、思考の方法を十分に使いこなしつつ、高度な知的蓄積についての理解を深め、未知の問題の発掘や、既知の問題に対する新しい接近法・解決法の発見を行い、その結果として、新しい問題群や学問領域を開拓できる高度な研究能力。
2. 自ら切り開いた知見を、それにふさわしい表現スタイルによって、説得的に表現できる能力。

3. 人文学を基盤としつつ、関連する学問領域に対して、広く深く理解しかつ発信できる能力。

博士（教育学）

博士課程後期課程を修了する者が身につけるべき知識、能力等を下記の通り定める。本課程に3年（6学期）以上在学して所定の単位を修得し、かつ研究指導を受けた上、博士の学位申請論文を提出して、その審査および最終試験に合格した者は、これらの知識、能力等を身につけていると認め、博士の学位を授与する。ただし、優れた研究業績をあげた者については1年（2学期）以上在学すれば足りるものとする。

1. 博士課程前期課程で培った、教育学の研究、調査、思考の方法を十分に使いこなしつつ、高度な知的蓄積についての理解を深め、未知の問題の発掘や、既知の問題に対する新しい接近法・解決法の発見を行い、その結果として、新しい問題群や学問領域を開拓できる高度な研究能力。
2. 自ら切り開いた知見を、それにふさわしい表現スタイルによって、説得的に表現できる能力。
3. 教育学を基盤としつつ、関連する学問領域に対して、広く深く理解しかつ発信できる能力。

博士（比較文明学）

博士課程後期課程を修了する者が身につけるべき知識、能力等を下記の通り定める。本課程に3年（6学期）以上在学して所定の単位を修得し、かつ研究指導を受けた上、博士の学位申請論文を提出して、その審査および最終試験に合格した者は、これらの知識、能力等を身につけていると認め、博士の学位を授与する。ただし、優れた研究業績をあげた者については1年（2学期）以上在学すれば足りるものとする。

1. 博士課程前期課程で培った、比較文明学の研究、調査、思考の方法を十分に使いこなしつつ、高度な知的蓄積についての理解を深め、未知の問題の発掘や、既知の問題に対する新しい接近法・解決法の発見を行い、その結果として、新しい問題群や学問領域を開拓できる高度な研究能力。
2. 自ら切り開いた知見を、それにふさわしい表現スタイルによって、説得的に表現できる能力。
3. 比較文明学を基盤としつつ、関連する学問領域に対して、広く深く理解しかつ発信できる能力。

教育課程の編成・実施方針

博士課程前期課程

修士（文学）

本課程では、学位授与の方針に沿って、以下のとおり「研究」「演習」および「研究指導」を組み合わせ教育課程を編成している。本課程の修了要件単位数は30単位である（内訳は、履修規程に定める）。なお、これらの教育課程を通じて得られる学修成果は、試験・レポートあるいは平常点によって評価する。修士論文は所定の論文審査基準に基づいて審査を行い、論文最終面接を受け、審査に合格することが修了の要件となる。

1. 「研究」では、各専攻の研究領域における知的蓄積を理解するため、「日本文学研究」「日本語学研究」「中国文学研究」「英文学特殊研究」「米文学特殊研究」「英語学特殊研究」「ドイツ文学特殊研究」「ドイツ語学特殊研究」「ドイツ語教育特殊研究」「ドイツ学特殊研究」「ドイツ文化史特殊研究」「フランス文学特殊研究」「フランス語学特殊研究」「日本史特殊研究」「東洋史特殊研究」「西洋史特殊研究」「地域社会研究方法論」「地理学特殊研究」「文化人類学特殊研究」「地理学調査演習」「地域社会調査演習」等の授業科目を開講する。これらの科目を受講することにより、人文学の領域における知的蓄積を分析総合する能力および、学的世界の中で自らの位置を知る能力を身につける。
2. 「演習」では、各専攻の研究領域の中で、調査を行う技能や論理構築能力および表現技法を獲得するため、「日本文学演習」「日本語学演習」「英米文学研究方法論」「ドイツ文学特殊研究」「ドイツ語学特殊研究」「ドイツ語教育特殊研究」「ドイツ学特殊研究」「ドイツ文化史特殊研究」「フランス文学演習」「フランス語学演習」「日本史演習」「東洋史演習」「西洋史演習」「地理学演習」「文化人類学演習」「超域文化学演習」等の授業科目を開講する。これらの科目を受講することによって、的確で客観的な調査を行う技能、自らの知見を他者に客観的かつ説得的に伝達するための論理構築能力および表現技法を身につけるとともに、現代社会において出会うであろう多様な事態に対して臨機応変に対応できる柔軟な発想力を身につける。
3. 各専攻で開講する授業科目の領域を越えた人文知を獲得するため、一定の条件のもとに文学研究科所属専攻以外の専攻、他研究科、平和・コミュニティ研究機構の科目を履修することができる。これらの科目を受講することにより、

現代社会において出会うであろう多様な事態に対して臨機応変に対応できる柔軟な発想力を深める。詳細は履修規程に定める。

4. 「研究指導」では、担当の指導教員による修士論文作成のための個別指導により、人文学の領域における知的蓄積を分析総合する能力、的確で客観的な調査を行う技能に基づいて、自らの知見を他者に客観的かつ説得的に伝達するための論理構築能力および表現技法を身につける。

修士（教育学）

本課程では、学位授与の方針に沿って、以下のとおり「研究」「演習」および「研究指導」を組み合わせ教育課程を編成している。本課程の修了要件単位数は30単位である（内訳は、履修規程に定める）。なお、これらの教育課程を通じて得られる学修成果は、試験・レポートあるいは平常点によって評価する。修士論文は所定の論文審査基準に基づいて審査を行い、論文最終面接を受け、審査に合格することが修了の要件となる。

1. 「研究」では、本専攻の研究領域における知的蓄積を理解するため、「教育哲学研究」「日本教育史研究」「外国教育史研究」「教育社会学研究」「教育心理学研究」「教育方法学研究」「社会教育研究」「比較教育学研究」「教育思想史研究」「教育学特殊研究」等の授業科目を開講する。これらの科目を受講することにより、教育学の領域における知的蓄積を分析総合する能力および、学的世界の中で自らの位置を知る能力を身につける。
2. 「演習」では、本専攻の研究領域の中で、調査を行う技能や論理構築能力および表現技法を獲得するため、「教育学演習」等の授業科目を開講する。これらの科目を受講することによって、的確で客観的な調査を行う技能、自らの知見を他者に客観的かつ説得的に伝達するための論理構築能力および表現技法を身につけるとともに、現代社会において出会うであろう多様な事態に対して臨機応変に対応できる柔軟な発想力を身につける。
3. 本専攻で開講する授業科目の領域を越えた「知」を獲得するため、一定の条件のもとに文学研究科所属専攻以外の専攻、他研究科、平和・コミュニティ研究機構の科目を履修することができる。これらの科目を受講することにより、現代社会において出会うであろう多様な事態に対して臨機応変に対応できる柔軟な発想力を深める。詳細は履修規程に定める。
4. 「研究指導」では、担当の指導教員による修士論文作成のための個別指導により、教育学の領域における知的蓄積を分析総合する能力、的確で客観的な調査を行う技能に基づいて、自らの知見を他者に客観的かつ説得的に伝達するための論理構築能力および表現技法を身につける。

修士（比較文学）

本課程では、学位授与の方針に沿って、以下のとおり「研究」「演習」および「研究指導」を組み合わせ教育課程を編成している。本課程の修了要件単位数は30単位である（内訳は、履修規程に定める）。なお、これらの教育課程を通じて得られる学修成果は、試験・レポートあるいは平常点によって評価する。修士論文は所定の論文審査基準に基づいて審査を行い、論文最終面接を受け、審査に合格することが修了の要件となる。

1. 「研究」では、本専攻の研究領域における知的蓄積を理解するため、「現代文学特殊研究」「文明工学特殊研究」「言語多文化特殊研究」等の授業科目を開講する。これらの科目を受講することにより、比較文学の領域における知的蓄積を分析総合する能力および、学的世界の中で自らの位置を知る能力を身につける。
2. 「演習」では、本専攻の研究領域の中で、調査を行う技能や論理構築能力および表現技法を獲得するため、「現代文学演習」「文明工学演習」「言語多文化演習」等の授業科目を開講する。これらの科目を受講することによって、的確で客観的な調査を行う技能、自らの知見を他者に客観的かつ説得的に伝達するための論理構築能力および表現技法を身につけるとともに、現代社会において出会うであろう多様な事態に対して臨機応変に対応できる柔軟な発想力を身につける。
3. 本専攻で開講する授業科目の領域を越えた人文知を獲得するため、一定の条件のもとに文学研究科所属専攻以外の専攻、他研究科、平和・コミュニティ研究機構の科目を履修することができる。これらの科目を受講することにより、現代社会において出会うであろう多様な事態に対して臨機応変に対応できる柔軟な発想力を深める。詳細は履修規程に定める。
4. 「研究指導」では、担当の指導教員による修士論文作成のための個別指導により、比較文学の領域における知的蓄積を分析総合する能力、的確で客観的な調査を行う技能に基づいて、自らの知見を他者に客観的かつ説得的に伝達す

るための論理構築能力および表現技法を身につける。

博士課程後期課程

博士（文学）

本課程では、学位授与の方針に沿って、以下のとおり「研究」および「研究指導」を組み合わせ教育課程を編成している。本課程の修了要件単位数は6単位である。なお、これらの教育課程を通じて得られる学修成果は、試験・レポートあるいは平常点によって評価する。博士の学位申請論文は、所定の論文審査基準に基づいて審査を行い、審査ならびに最終試験に合格することが修了の要件となる。

1. 「研究」では、各専攻の研究領域における高度な知的蓄積についての理解を深めるため、「日本文学特殊研究」「日本語学特殊研究」「中国文学特殊研究」「英文学特論1A」「米文学特論1A」「英語学特論1A」「ドイツ文学特殊研究」「ドイツ語教育特殊研究」「ドイツ文化史特殊研究」「フランス文学特殊研究」「フランス語学特殊研究」「史学研究方法論」「日本史特論」「東洋史特論」「西洋史特論」「史学史研究」「地域社会調査特殊研究」「地域社会調査実習」等の授業科目を開講する。これらの科目を受講することにより、人文学の領域での高度な知的蓄積についての理解を深め、未知の問題の発掘や、既知の問題に対する新しい接近法・解決法の発見を行い、新しい問題群や学問領域を開拓できる高度な研究能力を身につける。
2. 「研究指導」では、担当の指導教員による博士論文作成のための個別指導により、人文学の領域での知的蓄積に対する広く深い理解を前提にして、自ら切り開いた知見を、それにふさわしい表現スタイルによって、説得的に表現できる能力および、関連する学問領域に対して、広く深く理解しかつ発信できる能力を身につける。なお、原則として各学期の終わりに研究報告書を提出し、博士学位申請論文を提出する場合には、それに先だって博士論文中間報告書を提出し、博士学位申請論文執筆のための指導を受ける。

博士（教育学）

本課程では、学位授与の方針に沿って、以下のとおり「研究」および「研究指導」を組み合わせ教育課程を編成している。本課程の修了要件単位数は6単位である。なお、これらの教育課程を通じて得られる学修成果は、試験・レポートあるいは平常点によって評価する。博士の学位申請論文は、所定の論文審査基準に基づいて審査を行い、審査ならびに最終試験に合格することが修了の要件となる。

1. 「研究」では、本専攻の研究領域における高度な知的蓄積についての理解を深めるため、「教育哲学基礎研究」「日本教育史基礎研究」「外国教育史基礎研究」「教育社会学基礎研究」「教育心理学基礎研究」「教育方法学基礎研究」「社会教育学基礎研究」「比較教育学基礎研究」「教育思想史基礎研究」等の授業科目を開講する。これらの科目を受講することにより、教育学の領域での高度な知的蓄積についての理解を深め、未知の問題の発掘や、既知の問題に対する新しい接近法・解決法の発見を行い、新しい問題群や学問領域を開拓できる高度な研究能力を身につける。
2. 「研究指導」では、担当の指導教員による博士論文作成のための個別指導により、教育学の領域での知的蓄積に対する広く深い理解を前提にして、自ら切り開いた知見を、それにふさわしい表現スタイルによって、説得的に表現できる能力および、関連する学問領域に対して、広く深く理解しかつ発信できる能力を身につける。なお、原則として各学期の終わりに研究報告書を提出し、博士学位申請論文を提出する場合には、それに先だって博士論文中間報告書を提出し、博士学位申請論文執筆のための指導を受ける。

博士（比較文明学）

本課程では、学位授与の方針に沿って、以下のとおり「研究」および「研究指導」を組み合わせ教育課程を編成している。本課程の修了要件単位数は6単位である。なお、これらの教育課程を通じて得られる学修成果は、試験・レポートあるいは平常点によって評価する。博士の学位申請論文は、所定の論文審査基準に基づいて審査を行い、審査ならびに最終試験に合格することが修了の要件となる。

1. 「研究」では、本専攻の研究領域における高度な知的蓄積についての理解を深めるため、「比較文明学特殊研究」等の授業科目を開講する。これらの科目を受講することにより、比較文明学の領域での高度な知的蓄積についての理解を深め、未知の問題の発掘や、既知の問題に対する新しい接近法・解決法の発見を行い、新しい問題群や学問領域を開拓できる高度な研究能力を身につける。

2. 「研究指導」では、担当の指導教員による博士論文作成のための個別指導により、比較文明学の領域での知的蓄積に対する広く深い理解を前提にして、自ら切り開いた知見を、それにふさわしい表現スタイルによって、説得的に表現できる能力および、関連する学問領域に対して、広く深く理解しかつ発信できる能力を身につける。なお、原則として各学期の終わりに研究報告書を提出し、博士学位申請論文を提出する場合には、それに先だって博士論文中間報告書を提出し、博士学位申請論文執筆のための指導を受ける。

科目ナンバリングについて

立教大学では、2016年度より全学部・研究科で科目ナンバリング制度を導入している。科目ナンバリングとは、授業科目に適切な番号を付与し分類することで学修の段階や順序等を表し、カリキュラムの体系的性を明示する仕組みである。科目ナンバリングを用いて検索をすることで、学びたい分野を探し体系的に履修するための一つのツールとすることができる。また、成績証明書（2016年度以降入学者のみ対象）には修得科目ごとに科目ナンバリングが記載され、体系的に学修した結果を対外的に証明することが可能である。

1 科目ナンバリング構成について

本学の科目ナンバリングはアルファベット3文字と数字4文字の構成となっている。

- ・アルファベット3桁⇒科目の設置学部学科（専修）・研究科を示す。
- ・数字4桁⇒レベル・科目分野分類等を示す。

アルファベット部分	1000番台	100番台	10番台	1番台
A B C	1	2	3	0
↓	↓	↓	↓	↓
学科・専攻等	レベル	分野	学部・研究科自由領域	言語

例として、「日本文学演習1A」であれば「JAL6310」のように示される。

他研究科科目等のナンバリングについては、当該の履修要項を参照すること。

2 アルファベット・数字部分の説明

① 科目の設置学部学科（専修）・研究科を示すアルファベット3桁は以下のとおりである。

専攻	コード	専攻	コード	専攻	コード
文学研究科共通	ART	ドイツ文学専攻	GRL	超域文化学専攻	ICS
日本文学専攻	JAL	フランス文学専攻	FRL	教育学専攻	EDU
英米文学専攻	EAL	史学専攻	HIS	比較文明学専攻	COC

② レベル・科目分野分類等を示す数字4桁は以下のとおりとなる。

◆1000番台(レベルコード)

番号	専門科目
5000	大学院博士課程前期課程・修士課程基礎科目
6000	大学院博士課程前期課程・修士課程発展科目・研究指導
7000	大学院博士課程後期課程科目(研究指導を含む)
9000	その他

◆100番台(分野を示す)

番号	分野
000	哲学
100	宗教学
200	芸術学
300	文学
400	言語学
500	史学
600	超域文化学
700	教育学
800	その他

◆10番台(授業種別を示す)

番号	授業種別
00	講義系
10	演習系
20	実技系
30	フィールドワーク系
40	その他

◆1番台(使用言語を示す)

番号	言語
0	日本語で行う授業
1	英語で行う授業
2	日本語・英語以外の言語で行う授業
3	その他(バイリンガル授業など)

3 カリキュラムと変更時のお知らせ

1. カリキュラム | 研究科のカリキュラムについては、「履修規定その他注意事項」のページもあわせてよく確認すること。各年度の科目担当者や開講学期については、R Guideの「科目表」を参照すること。
2. カリキュラムの改定・変更 | カリキュラムの一部が改定または変更される場合は、R Guideに詳細を掲載する。必ず各年度初めに各自で確認すること。

授業（学修生活・履修計画の立て方・オフィスアワー）

1 学生証

1. 学生証
学生証は、立教大学の学生であることを証明するものである。学生証は、プラスチックカードと通学定期乗車券発行控がセットになっている。請求があった場合にはいつでも提示できるよう、常に携帯すること。
2. 学生番号について
学生番号は固有の番号で、在籍中および卒業後も変わることはない。各種手続きの際に必要なので正確に覚えること。
- | | | | | | | | |
|------|----------------------------|------|--|-------|--|--|---|
| 2 5 | | A A | | 1 2 3 | | | Z |
| 入学年度 | 入学時の
学部・学科等
(研究科・専攻) | 個人番号 | | | | | |
3. 有効期間
学生証の有効期限は在籍期間中である。ただし次の場合は学生証（プラスチックカードと通学定期乗車券発行控）を返却しなければならない。
(1) 卒業・修了・退学・除籍などで学籍を失ったとき。
(2) 紛失等により再交付を受けたのち、前の学生証が見つかったとき（前の学生証を返却すること）。
4. 貸与・譲渡の禁止
学生証は学生本人を証明する大変重要なものである。学生証を他人に貸与、または譲渡することは固く禁止されており、違反した学生は本学では懲戒の対象となる。なお、複写物の貸与・譲渡についても同様の扱いとなる。
5. 紛失・破損したとき
学生証を紛失・破損した場合や劣化により顔写真が不鮮明な場合は、直ちに教務窓口（巻頭参照）へ届け出ること。
再交付（再交付手数料2,000円*）は2日後（窓口閉室日を除く）になる。
*劣化により顔写真が不鮮明な場合は、現在の学生証と交換（再交付手数料は不要）。

2 学期・授業

学期 本学の授業は1年を2学期に分けて行われ、それぞれを春学期、秋学期と呼ぶ。
さらに各学期を前半と後半に分けた4半期（春学期1、春学期2、秋学期1、秋学期2）がある。

授業 授業には以下の種類がある。

通年科目	
通年開講科目	春学期・秋学期通して行われるもの
通年他科目	研究科・専攻で期間を定めて行われるもの
春学期科目	
春学期開講科目	春学期で完結するもの
春学期1開講科目	春学期前半で完結するもの
春学期2開講科目	春学期後半で完結するもの
春学期他科目	春学期に研究科・専攻で期間を定めて行われるもの
春学期期間外科目	春学期期間外に研究科・専攻で期間を定めて行われるもの (履修登録時期が通常より遅れる科目)
秋学期科目	
秋学期開講科目	秋学期で完結するもの
秋学期1開講科目	秋学期前半で完結するもの
秋学期2開講科目	秋学期後半で完結するもの
秋学期他科目	秋学期に研究科・専攻で期間を定めて行われるもの
秋学期期間外科目	秋学期期間外に研究科・専攻で期間を定めて行われるもの (履修登録時期が通常より遅れる科目)

3 授業時間

本学における授業時間は次のとおりである。

〈時限・授業時間〉

時限	1	2	3	4	5	6
授業時間	8:50 }	10:45 }	13:25 }	15:20 }	17:10 }	18:55 }
	10:30	12:25	15:05	17:00	18:50	20:35

一部の研究科で設定しているG5, G6時限の授業時間は次のとおりである。

G5時限	18:30~20:10	G6時限	20:15~21:55
------	-------------	------	-------------

4 授業形態

科目ごとの授業形態は、大学方針に基づき科目設置学部等が決定する。授業形態はシラバスに記載しているため授業計画の際に確認すること。また、遠隔授業による修得単位数は、学部卒業要件単位に60単位を超えて算入することはできない。「遠隔授業60単位上限」に含めるか否かは、授業形態ごとに明示しているので下記の一覧を確認すること。分類や注記に変更がある場合があるため、最新の情報はR Guide「授業について」を参照すること。

授業形態分類一覧（2025年度現在）

種別	授業形態	備考				
		授業回数 (対面：オンライン)	曜日時限 指定	教室配当	遠隔授業 60単位上限	
対面科目	①対面（全回対面）	14回：0回	あり	あり	含まない	
	②対面（一部オンライン）	7回以上：7回以下				
オンライン 科目	③オンライン（全回オンライン）	0回：14回		なし	原則なし	含む
	④オンライン（一部対面）	6回以下：8回以上			あり	
オンデマンド 科目	⑤オンデマンド (全回オンデマンド)	0回：14回（オン デマンド)	あり	あり		
ハイフレックス 科目	⑥ハイフレックス (対面・オンライン同時開講)	学生自身が授業回ご との授業形態を選択	あり	あり		
ミックス型	①対面（全回対面）	14回：0回	あり	あり	含まない	
	③オンライン（全回オンライン）	0回：14回		原則なし	含む	

(1) 4半期科目について

4半期科目の場合は、①は全7回対面、②は対面4回以上・オンライン3回以下、③は全7回オンライン、④は対面3回以下・オンライン4回以上、⑤は全7回オンデマンドとする。

(2) 教室配当について

教室配当「あり」の授業形態は、対面授業回の授業実施、オンライン授業回の学内受講場所として教室を配当する。科目に配当された教室はシラバス、履修登録状況画面を確認すること。

教室配当「なし」「原則なし」の授業形態は科目ごとに教室を配当しないため、学内で受講する場合は各キャンパスのオンライン受講用教室を利用すること。当該年度のオンライン受講用教室は、R Guide「授業について」を参照すること。

(3) 遠隔授業60単位上限について

上限の対象となるのは学部卒業要件単位である。学部卒業要件単位に含まれない学校・社会教育講座科目（G****で始まる科目）および大学院修了要件単位は「遠隔授業60単位上限」の対象外となる。

なお、学部学生が大学院科目を履修し、その単位が学部卒業要件に含まれる場合は、学部科目と同様に授業形態により「遠隔授業60単位上限」の対象となるため注意すること。

(4) その他注意事項

- ハイフレックス科目（対面・オンライン同時開講）は、学校・社会教育講座科目（G****で始まる科目）および大学院科目のみを対象とする。
- ミックス型は、授業形態のバリエーションとして、①対面（全回対面）と③オンライン（全回オンライン）を同時（併置）開講するものを指し、全学共通科目総合系科目、同言語系科目自由科目のみを対象とする。学生は、あらかじめいずれかの科目（授業形態）を選択して履修登録したうえで、学期を通じて選択した授業形態により履修する。
- オンライン科目を受講する場合は、十分な通信環境を確保し、静穏な環境で受講すること。詳細はR Guide「授業について」を参照すること。

5 休 講

休講とは、通常開講している曜日時限に授業が提供されないことを指す。大学または各授業科目の担当者にやむを得ない事情が発生した場合には、授業を休講することがある。

休講掲示

休講は、大学としての決定または科目担当者からの届出があり次第、掲示板（インフォメーションボード）に表示する。

〈掲示板（インフォメーションボード）設置場所〉

池袋キャンパス：5号館1階、8号館1階、14号館1階

新座キャンパス：1号館1階、4号館2階

休講情報

休講情報は、RIKKYO MobileおよびSPIRIT 教務部ページからも確認することが可能である。

*休講の掲示がないにもかかわらず、始業時刻後30分以上経過しても担当教員が入室しない場合は、教務事務センター（池袋：タッカーホール1階／新座：7号館1階）に連絡し、その指示に従うこと。

*大規模地震の警戒宣言が発令された場合、および台風の接近が予想される場合等、緊急時の休講の措置については、巻頭および巻末の各種案内を参照すること。

6 補 講

休講等により講義の進行が予定より遅れた際に、臨時の授業を行うことがあり、これを補講という。

補講は、①予め決められた補講日（特定の土曜日3時限以降の時間）に行う場合と、②授業実施期間中の①以外の土曜日3時限以降・月～金曜日の5時限以降に科目担当者が設定して行う場合がある。

①の日程については、R Guideの「年間スケジュール」にて詳細を確認すること。

②については教員の指示に従うこと。

補講が行われる場所は、補講実施日の約1週間前に教務部掲示板で発表する。

7 授業の欠席について

本学では、学校感染症により出校停止となった場合、裁判員選任手続期日または裁判員に選任された公判のため裁判所へ出頭する場合以外の事由による欠席は認めていない（いわゆる公欠制度は設けていない）。

学校感染症に罹患した場合は、出校を停止する。速やかに各教務窓口へ連絡し、指示を受けること。
※最新の情報はR Guideで必ず確認すること。

1. 対象となる 学校感染症

疾患名	
第1種	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎（ポリオ）、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群（SARSコロナウィルス）、中東呼吸器症候群（MERSコロナウィルス）、特定鳥インフルエンザ *上記の他、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第6条第7項から第9項までに規定する新型インフルエンザ等感染症、指定感染症及び新感染症
第2種	インフルエンザ（特定鳥インフルエンザを除く）、百日咳、麻疹（はしか）、流行性耳下腺炎（おたふく）、風しん、水痘（水ぼうそう）、咽頭結膜熱（プール熱）、結核、髄膜炎菌性髄膜炎、新型コロナウイルス感染症
第3種	コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎、その他の感染症（医師より登校を控えるよう指示され、かつ学内で重大な流行が起こった場合に感染拡大を予防する観点などから、学校医が第三種の感染症として措置が必要と判断した場合のみ） *学校医による判断は、提出された「学校感染症登校可能証明書（本学書式）」または診断書によって行います。

2. 授業欠席の 扱い

学校保健安全法によって定められた学校感染症に罹患した場合の授業欠席については、以下のとおりとする。

- (1) 学校感染症に罹患したことにより、授業を欠席した学生が、所定の申請手続きを行った場合は、欠席扱いとはならない。
- (2) 申請手続きは以下のとおりである。所定の申請手続きを行うためには、医療機関による診断が必要となるため、必ず医療機関を受診すること。市販の検査キット等による判定結果では、出校停止期間が証明されないため申請できない。
 - ① 医療機関により学校感染症に罹患したと診断された学生は、登校可能となった日を含む7日以内（締切日が窓口業務を行わない日の場合はその翌日まで）に、医療機関が記載し証明した本学所定の書式である「学校感染症登校可能証明書（本学書式）」*^{1, 3}または医療機関の発行する出校停止期間と登校可能日が記載された「診断書」*^{2, 3}を、各教務窓口へ提出すること。

*1 「学校感染症登校可能証明書」の書式はSPIRIT 教務部ページからダウンロードできる。医療機関を受診する際は、「学校感染症登校可能証明書（本学書式）」の注意書きをよく読み、指示に従うこと。

*2 罹患開始時と治癒時の診療医療機関が異なった場合は、治癒時の医療機関において「出校停止期間についての証明」が受けられない場合がある。その場合は、罹患開始時の医療機関が発行する「罹患日記載がある『診断書』」と、治癒時の医療機関が発行する「治癒日と登校可能日の記載がある『診断書』」の2種類をもって「出校停止期間事項についての証明」とすることができる。

*3 「学校感染症登校可能証明書」および「診断書」は、治癒後の日程で発行されたものを提出すること。ただし、インフルエンザ（特定鳥インフルエンザを除く）および新型コロナウイルス感染症に限り、初診時に発行された「学校感染症登校可能証明書」または医療機関発行の「診断書」でも申請を受け付けることがある。

- ② 申請者は、各教務窓口にて科目担当者宛文書を受け取り、各授業時間に科目担当者に提出すること。

3. 試験欠席の扱い

定期試験に関する事項は博士課程前期課程 [Ⅳ 試験・成績](#)、博士課程後期課程 [Ⅳ 試験・成績](#)を確認すること。

9 裁判員制度に伴う場合の措置について

1. 授業欠席の扱い

裁判員選任手続き日または裁判員に選任された公判のため裁判所へ出頭し、授業を欠席した学生の扱いについては、以下のとおりとする。

(1) 裁判員選任手続き日または裁判員に選任された公判のため裁判所へ出頭し、授業を欠席した学生が所定の申請手続きを行った場合は、欠席扱いとはならない。

(2) 申請手続きは以下のとおりである。

① 裁判員に選任された場合

公判終了日の翌日から7日以内（締切日が窓口業務を行わない日の場合はその翌日まで）に、裁判員の職務従事期間についての「証明書*」を持参し、「裁判員制度による学生の欠席について」（各教務窓口で交付）に必要な事項を記入し、履修登録状況画面のコピーとともに各教務窓口へ提出する。

*「証明書」は出頭先の裁判所に申し込み、発行を受けること。

② 裁判員に選任されなかった場合

選任手続き日の翌日から7日以内（締切日が窓口業務を行わない日の場合はその翌日まで）に、裁判所出頭日の証明*を受けた「選任手続き日のお知らせ（呼出状）」を持参し、「裁判員制度による学生の欠席について」（各教務窓口で交付）に必要な事項を記入し、履修登録状況画面のコピーとともに各教務窓口へ提出する。

*裁判所出頭日の証明は出頭先の裁判所で受けることができる。

③ 申請者は、各教務窓口にて受付印を押印された申請書類を受け取り、各授業時間に担当教員へ提出する。

2. 試験欠席の扱い

定期試験に関する事項は博士課程前期課程 [IV](#) 試験・成績、博士課程後期課程 [IV](#) 試験・成績を確認すること。

10 履修計画の立て方

履修計画は、よく考えたうえで無理のないように立て、間違いのないよう履修登録をすること。履修計画を立てるにあたっては、研究科ガイダンスに出席し、また、必要に応じて履修相談を受けること。

ガイダンス

ガイダンスでは、授業科目や単位修得、履修登録などの説明が行われるので、履修要項を持参のうえ、必ず出席すること。

研究科ガイダンス日程については、R Guideを確認すること。

11 全学共通科目の履修について

「全学共通科目」は学部学生を対象としたカリキュラムであるため、大学院学生の履修については以下のとおりの制限がある。

総合系科目：科目コード登録の科目のみ履修可能

（科目コード登録科目には、抽選科目のうち定員を満たさなかった科目も含む）

言語系科目：大学院学生の履修不可

12 オフィスアワー

オフィスアワーは、それぞれの専任教員[※]が、主として担当する授業に関する質問や勉学の相談等に
応じることを目的として、授業期間中の毎週決まった時間帯に待機する制度である。授業内容等に関す
る質問がある場合には、オフィスアワーの時間帯に担当教員との面談等を受けることができる。

オフィスアワーの一覧は、R Guideにて発表する。

※ 兼任講師の担当する授業に関する質問は、授業終了後の時間等を利用し質問すること。

博士課程 前期課程

博士課程前期課程 全専攻にかかわる履修規定その他注意事項

博士課程前期課程 専攻ごとの履修規定カリキュラム

I 学位授与について

- | | |
|------------|---|
| 1. 学位授与の要件 | 前期課程に2年以上在学して授業を受け、30単位以上を修得し、かつ学位論文の作成等に対する指導を受けた上、修士論文を提出し、その審査および最終試験に合格した者に修士の学位を授与する。
* 休学などによる学修中断の期間は、この在学期間には数えられない。 |
| 2. 学位の名称 | 立教大学大学院学則第5条参照のこと。 |

II 履修規定

1 単位制度

- | | |
|-----------|---|
| 1. 単位制度 | 大学院博士課程前期課程での学修は、すべて単位制になっている。すべての科目には一定の単位が定められており、その科目の履修登録をし、授業を受け、かつ、試験に合格した場合、当該科目の単位が与えられる。 |
| 2. 単位の考え方 | 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。
(1) 講義及び演習については、15時間から30時間の授業をもって1単位とする。
(2) 輪講、実験、実習及び実技については、30時間から45時間の授業をもって1単位とする。
(3) 前述の(1)(2)にかかわらず、研究指導等については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定める。 |

2 修了要件単位

- | | |
|-----|--|
| (1) | 文学研究科博士課程前期課程の修了に必要な単位数（修了要件単位数）は、 <u>各専攻の定めるところによる。各専攻の履修規定を確認すること。</u>
☞ VI 修了に関する事項 参照 |
| (2) | 「随意科目」として指定される科目は、修了要件単位に含めることはできない。
☞ 随意科目には、①随意科目として設定している科目と、②科目自体が随意科目というわけではなく、重複履修や教職のために設置している科目等を履修した結果、履修規定により修了に必要な単位数に算入されない科目の2種類がある。 |

3 履修についての注意事項

- | | |
|-----------|---|
| 1. 履修登録上限 | 前期課程においては2年間に30単位以上を履修しなければならないが、各専攻とも20単位以上を1年次に、10単位以上を2年次に修得することが望ましい。 |
| | 文学研究科では、履修登録上限を定めていない。 |

- 2. 重複履修 原則として、重複履修は可とする。
- 3. 同時履修 同一科目が同一学期内に複数開講されている場合は、同時履修は認められない。
- 4. 同一時限の履修 各科目は、同一時限に2科目以上を履修することはできない（日時の重なる集中講義科目も含む）。
- 5. 新座キャンパス開講科目 同一日の池袋キャンパスと新座キャンパスの授業については、移動の必要上連続した時限の履修は不可能であるから、その場合の履修登録は認めない。ただし、昼休みをはさむ場合を除く。

4 他大学の大学院／本学文学研究科他専攻／本学他研究科／本学「平和・コミュニティ研究機構」提供科目について

1. 修得単位の扱い 前期課程においては、所定の手続きを経た場合に限り、所属専攻以外の大学院科目の単位を修了要件とすることが認められている。手続きについては4. 本学の開講科目の手続き、5 派遣留学生・認定校留学生の履修 およびⅣ 平和・コミュニティ研究機構提供科目の指示にしたがうこと。ただし、予め修了要件とすることが認められていない科目があるので、注意すること。

2. 上限単位数 修了要件として認められる単位数の上限は専攻ごとに定められている。上限単位数には他大学の大学院（外国の大学院含む）の単位と他専攻／他研究科科目および本学「平和・コミュニティ研究機構」の単位が含まれる。

外国の大学院の単位はⅡ 履修規定 6 派遣留学制度・認定校留学制度による単位認定 に定める規定にもとづいて認定された単位が対象となる。

このほか科目の種類により上限が定められている場合もあるので、所属する専攻の記載を確認すること。

認定単位数上限

※カッコ内は他専攻／他研究科科目および本学「平和・コミュニティ研究機構」での認定単位数上限

日本文学	英米文学	ドイツ文学	フランス文学	史学	比較文学	教育学	超域文化学
13(8)単位	13(10)単位	13(8)単位	13(8)単位	13(8)単位	13(8)単位	10(10)単位	15(8)単位

3. 他大学の大学院科目（単位互換協定大学院科目）の手続き 単位互換協定大学院科目の履修を希望する者は、池袋キャンパス教務事務センター窓口において以下のとおり必要な手続きを行うこと。

〈本学学生の他大学の大学院科目履修について〉

池袋キャンパス教務事務センターで配付する所定の「委託特別聴講生願」を受け取り、所定の手続きを行うこと。受入大学手続き終了後、速やかに池袋キャンパス教務事務センターに「委託特別聴講生願」の所属校保管用紙を提出すること。

※受入大学の申請締切日は各校で異なる。本学での申請手続きを済ませた後、受入大学で申請手続きをする必要があるため、余裕をもって手続きすること。

※他大学の締切日等については、委託聴講先大学の資料を参照すること。

〈他大学の大学院学生の本学科履修について〉

聴講手数料：1科目2単位1,000円、1科目4単位2,000円

申請期限：R Guideの「履修登録・科目表」にて確認すること。

提出場所：池袋キャンパス教務事務センター窓口

※本学での聴講を希望する他大学の学生は、所属大学で必要な手続きを済ませた後、所定の期限に間に合うよう本学で手続きを行うこと。

4. 本学の開講科目の手続き(平和・コミュニティ研究機構提供科目含む)

所属専攻以外の大学院科目を本学の修了要件単位とする手続きについては、平和・コミュニティ研究機構科目を含めて以下のとおりとする。

他専攻・他研究科科目として修得した単位は、「2. 上限単位数」で定める上限の範囲内で、自動的に修了要件単位に算入される。

履修登録に関する注意事項

- (1) 他研究科科目のシラバスは、シラバス・時間割検索システムを参照すること。
- (2) あらかじめ定められている「他研究科学生履修不許可科目」を、履修登録システムで確認しておくこと(配当年次が合っても、履修できない)。
- (3) 他研究科科目の履修を届け出る場合も、春学期開講科目と通年開講科目については4月期履修登録時に、秋学期開講科目については9月期履修登録時に届け出るものとする。
- (4) 届け出た他研究科科目は、履修登録の完了を以って、履修許可となる。

5 派遣留学生・認定校留学生の履修

派遣留学・認定校留学^{*}が決定した者は、ただちに所属キャンパスの教務窓口で、出国年度・帰国年度の履修について説明を受けること。

※「派遣留学」とは、1. 大学間協定に基づく「派遣留学制度」、2. 大学間協定に基づく「学費非免除留学プログラム」、3. 学部間協定等に基づく海外研修・留学プログラムによる留学をさす。また、「認定校留学」とは4. 認定校留学制度による留学をさす。なお、1～3の制度により留学する学生を「派遣留学生」、4の制度による留学生を「認定校留学生」という。

派遣留学生および認定校留学生は本学の履修科目において、下記の特別措置の対象となる。派遣留学生および認定校留学生以外は、下記の特別措置の対象とはならない。

1. 出国年度の履修と単位修得

「在学留学」・「休学留学」中は、本学の科目(オンライン科目・オンデマンド科目を含む)を履修し、単位修得することはできないが、留学開始前の学期に開講されている科目の履修は以下の通り認められている。留学開始日より履修、単位修得が認められる科目が異なるため注意すること。

- (1) 留学開始日が本学の定める春学期(または秋学期)の試験期間終了後の場合:
「在学留学」・「休学留学」のどちらを選択しても、出国年度の春学期1・2(または秋学期1・2)開講科目および春学期(または秋学期)開講科目を履修し、単位を修得することができる。通年科目の履修については、「2. 通年科目の接続」を確認すること。
- (2) 留学開始日が本学の定める春学期1(または秋学期1)の試験期間終了日の翌日から春学期(または秋学期)の試験期間終了日までの場合:
「在学留学」の場合に限り、出国年度の春学期1(または秋学期1)開講科目を履修し、単位を修得することができる(春学期2および春学期(または秋学期2および秋学期)開講科目の履修は認められない)。春学期1(または秋学期1)開講科目の履修を希望する学生は、留学決定後速やかに所属キャンパスの教務窓口で、手続き方法などについて説明を受けること。

※試験期間はR Guideで確認すること。

※科目の開講学期は、R Guide科目表およびシラバスで確認すること

㊦ その他、詳細については国際センターが発行する派遣留学生の募集要項を参照すること。

2. 通年科目の接続

派遣留学生および認定校留学生については、本学における通年科目の履修に関し学年暦の国際的差異による支障がある場合、教授会または研究科委員会の議により、教授会または研究科委員会が認めた科目については、同一の通年科目の出国年度の春学期における履修と帰国年度の秋学期における履修を接続し、通年で履修したものとすることができる。ただし、「通年科目の接続」が適用されるのは、秋学期に留学に出発し、留学期間の終了時期が翌年度の6月以降で、かつ帰国届を6月以降に提出した場合

に限る。派遣留学・認定校留学が決定し、上記の通年科目の接続を希望する学生は、所属キャンパスの教務窓口で、手続き方法などについて説明を受けること。

注意点

- (1) 「通年科目の接続」は、原則として翌年度の履修に限るものとし、翌々年度に亘ることはできない。
- (2) 個人都合による休学を挟むと「通年科目の接続」は適用されない。

☎ その他、詳細については国際センターが発行する派遣留学生の募集要項を参照すること。

3. 帰国年度の履修登録

- (1) 5月末日（秋学期は10月末日）まで（末日が窓口業務を行わない日の場合はその前日まで）に帰国届の提出および履修登録をした場合、帰国年度の春学期科目および通年科目（秋学期は秋学期科目）を履修することができる（春学期1開講科目，秋学期1開講科目は，対象外）。ただし，抽選登録科目等，履修登録できない科目もあるので，必ず所属キャンパスの教務窓口を確認すること。

※帰国年度の履修登録は帰国届を提出していることが前提となる。

※全学共通科目の抽選登録科目は，科目コード登録対象科目に移行した科目のみ履修することができる。

- (2) 「在学留学」を選択した学生は留学期間の終了時期が6月以降の場合でも，秋学期授業開始前までに留学期間を終了して帰国届を提出し，研究科の許可を得た場合，通年科目（通年科目扱いの「修士論文」含む）については特別に履修を認めることがある。

☎ その他、詳細については国際センターが発行する派遣留学生の募集要項を参照すること。

6 派遣留学制度・認定校留学制度による単位認定

- (1) 本研究科の学生が，本学の派遣留学制度・認定校留学制度により在学留学中に外国の大学院で修得した単位は，修了要件単位として認定される場合がある。手続きは学部生の単位認定に準じて扱う。留学期間終了後1ヶ月以内に「学部Ⅲ-3 履修規定単位認定」を参照のうえ，必要書類を池袋教務事務センターに提出すること。なお，認定の上限や，修得した単位の扱いについては各専攻の履修規定を参照すること。

※派遣留学・認定校留学制度による単位認定を希望する場合は，留学出発前に必ず池袋キャンパス教務事務センターに申し出ること。

- (2) 認定を受けた科目の単位は，留学先大学の授業時間数を考慮して決定する。
- (3) 留学単位認定科目の成績評価は「認定」とする。

7 入学前に修得した単位の認定

- (1) 本研究科に入学する前に他大学の大学院前期課程において修得した単位，および科目等履修生・特別外国人学生として本学文学研究科において修得した単位については，入学年度に願い出ることにより，修了要件単位として認定される場合がある。手続きは学部生の単位認定に準じて扱うので，申請期日等は「学部Ⅲ-3 履修規定-単位認定 5 入学前に修得した単位の認定」および新入生オリエンテーションWebサイトを参照のうえ，池袋キャンパス教務事務センターに相談すること。

- (2) 認定の上限は専攻ごとに定められており，以下の表のとおりである。

日本文学	英米文学	ドイツ文学	フランス文学	史学	比較文明学	教育学	超域文化学
13単位	13単位	13単位	13単位	13単位	13単位	4単位	15単位

- (3) 認定科目名
認定の申請をした科目の内容にもとづき，本研究科開講の科目名に振り替えて認定する。
- (4) 認定科目の成績表示
成績評価は「認定」とする。

Ⅲ

履修登録

1 履修登録とは

履修登録は、学生がその年度・学期に自分が履修しようとする科目を届け出る手続きであり、履修計画の出発点となるものである。

学生は自己の責任において履修する科目を決定し、所定の期間内に登録の手続きを完了しなければならない。履修登録をしていない科目は、授業に出席し、また試験を受けても、当該科目の単位を修得することはできない。

履修登録は、年2回、4月に春学期科目と通年科目、9月に秋学期科目を届け出る。登録のあとには、履修登録状況画面が更新されるので、必ず内容を確認すること。登録科目に修正の必要がなければ履修登録は完了する。

履修登録時期

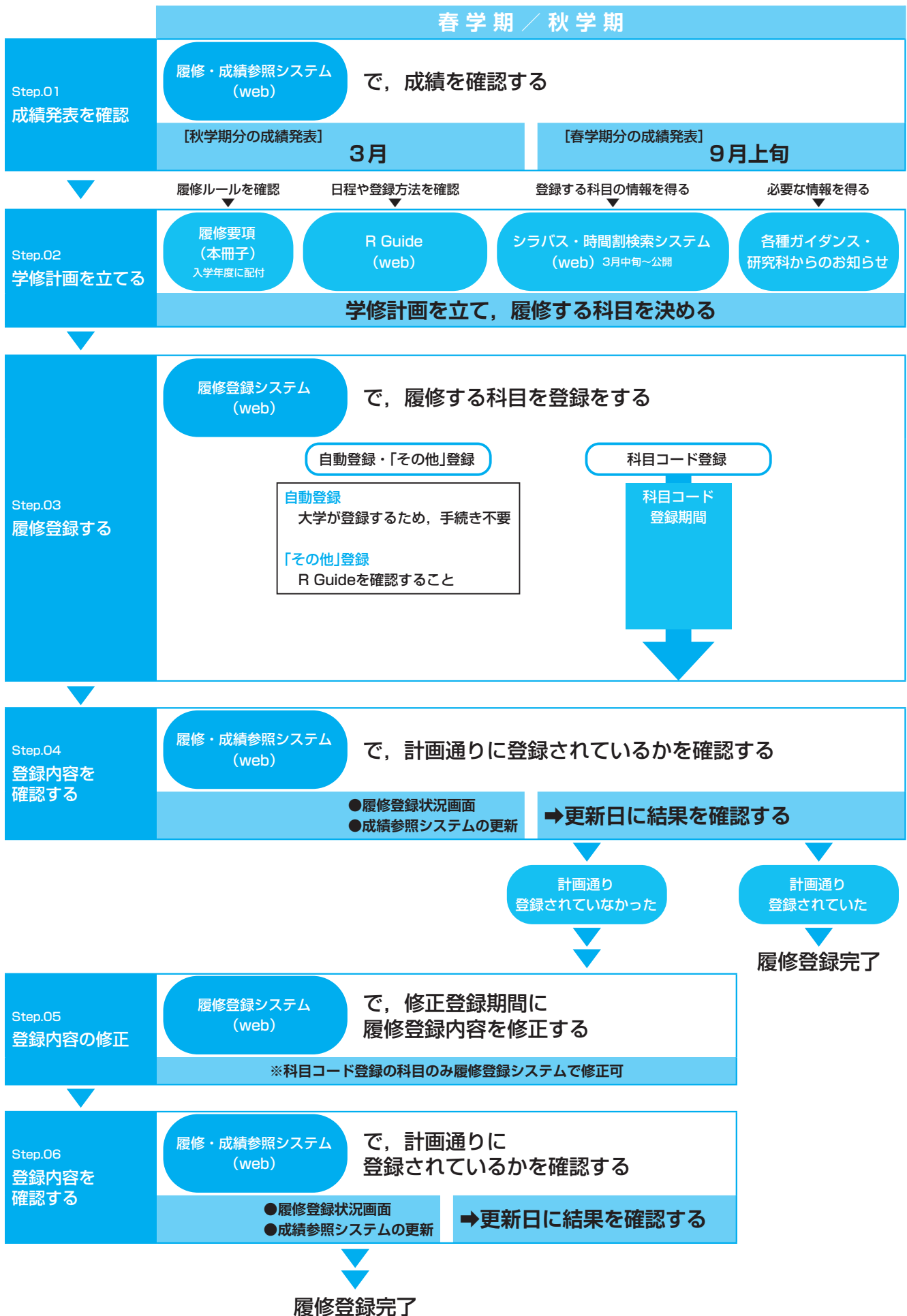
- 春学期科目，通年科目 ⇒ 4月
- 秋学期科目 ⇒ 9月

※各登録日程や、登録システムの稼働時間は、R Guideで確認すること。

※春学期期間外科目，秋学期期間外科目については履修登録時期が異なるので、別途確認すること。

2 履修登録の流れ

※各登録日程や、システム稼働時間はR Guideで確認すること。



3 履修届出方法

履修登録には科目の性格によって、自動登録、「その他」登録、科目コード登録の方法がある。届出方法がそれぞれ異なるので、指示に従うこと。科目コード登録の届出は履修登録システム (<https://r.rikkyo.ac.jp/>) により行うこと。このシステムは大学内のコンピューター教室の他、自宅等からもアクセス可能だが、ブラウザの種類、バージョン等により一部使用できない場合もある。

1. 自動登録

(1) 対象科目

R Guideの科目表の登録方法欄に「自動登録」と記載されている科目。

(2) 履修登録・注意事項

- ① 大学であらかじめ登録しているため、履修登録に関する手続きは一切不要である。
- ② 配当年次に自動登録される必修科目を修得できずに再履修する場合は、次の年度も自動登録される。
- ③ 自動登録科目の取り消しは原則として認めない。
- ④ 同一科目が複数の担当教員に分かれる場合、授業開始日前に履修登録状況画面で担当教員を確認すること。

2. 「その他」登録

(1) 対象科目

R Guideの科目表の登録方法欄に「その他登録」と記載されている科目。

(2) 履修登録・注意事項

- ① 履修を許可された場合は、大学が登録する。
- ② 履修を許可された科目は、原則として履修の取消はできない。
- ③ 選考・選抜のための提出書類の届出方法、届出期間、選考の有無、結果の発表は科目により異なるので、R Guideの「その他登録一覧」を参照すること。

3. 科目コード登録

(1) 対象科目

R Guideの科目表の登録方法欄に「科目コード登録」と記載されている科目。

(2) 履修登録・注意事項

- ① 入院その他やむを得ない事由により、期日に手続きできない場合は、必ず期日前に所属キャンパスの教務窓口連絡し、指示を受けること。また、疑問がある場合は、事前に所属キャンパスの教務窓口で相談してから手続きすること。
- ② 届出科目が確定したら、「登録内容送信」ボタンを必ずクリックし、届出内容およびエラー状況を確認すること。
- ③ 科目コード登録期間内に、「エラー」の無い状態で完了すること。エラーが表示された際は【エラーメッセージと対処法】を参照すること。
- ④ 科目コード登録期間中に、登録が正常に行われたことを確認するために、「履修登録」画面に再度ログインし、登録内容を確認すること。
- ⑤ 「履修登録」画面は、科目コード登録期間あるいは履修登録修正期間以外は使用できない。
- ⑥ 履修登録修正期間後、「履修照会」画面に申請内容が反映されるので、申請内容を必ず確認すること。
- ⑦ 科目コード登録で届け出る科目が1科目もない場合も、科目コード登録期間内にアクセスして、大学に届け出ている連絡先が正しいかを確認すること。

科目コード登録期間内は、何度でも科目コード登録科目の確認、修正ができる。

4 登録科目の確認について

1. 登録科目の確認方法について

履修登録の内容は、履修登録状況画面により確認できる。これらが正規の登録科目となるため記載事項の誤りの有無を確認すること。更新日程は履修登録システムで確認すること。

また、履修登録の内容と併せて、成績参照画面の更新結果（履修登録後に単位計算した結果）も確認すること。更新日程等詳細は、成績参照システムで確認すること。

履修登録状況画面以外の時間割は正式な登録科目の確認には使用できないので注意すること。

〈履修登録状況画面の表示内容と更新日〉

履修登録状況画面は、教務窓口に提示する際の資料として使用できる。

履修登録状況画面の確認

履修登録状況画面は、履修登録された科目が曜日・時限順に表示されている。下部に「エラー科目」として記載されているものは無効となり、登録されていない（ただし「～上限オーバー」エラーを除く）。

記載事項に誤りがある場合、「～上限オーバー」などのエラー表示がある場合は、5 科目コード登録における履修登録の修正と修正内容の確認を参照し、所定の期間内に手続きをとること。

【表示方法】

- 履修登録システムにアクセスする。
- メニューから『履修登録状況画面』をクリックする (Aの①)。
- 『⇒「WEB履修・成績参照サイト」ログイン』をクリックする (Aの②)。
- ログイン画面が表示されるので、V-CampusID（学生番号）とパスワード（V-Campusと同じ。新入生については、学生証等交付の際に配付される）でログインする。
- 履修登録状況画面が表示される。(B)

A

メニュー
履修登録 (抽選登録・科目コード登録)
履修登録状況画面
履修中止
成績参照

⇒「WEB履修・成績参照サイト」ログイン
② ↑ここをクリック

B

必ず一番下までスクロールして、エラー表示が出ていないかチェック

予定している科目がすべて正しく登録されているかをチェック

更新日	更新時間
9月6日(火)	11:00(予定)
9月17日(土)	11:00(予定)
9月19日(月)	21:00(予定)
9月22日(木)	18:00(予定)
9月28日(水)	21:00(予定)

全学共通	2(4)	専門	7(14)	講義	0(0)	その他	0(0)	選修科目	5(10)
表示科目:	すべて ○ 履修済 ○ 秋学期								
曜日	教番	科目(バリエ)	科目コード	科目名	単位	担当教員	学期	教室	備考
月	2-2	HIS3600	AC36P	超域文化学講座_1.1.1	2	橋本 裕美	秋学期	S501	
月	3-3	EAL2600	AM340	文字講座_4.0.0	2	内藤 敏子	秋学期	H33	
火	2-2	AR12800	AL001	人文系上・モテリア形成	2	杉本 隆樹	秋学期	99大	
水	3-3	HIS3600	AC374	超域文化学講座_2.0.0	2	西川 華	秋学期	S405	6976
木	2-2	TRC2400	HB107	観文文学S_(思想)	2	原 一樹	秋学期	N321	6976
水	3-3	CMR2140	IB215	高野哲哉先生選集	2	森倉 真寿美	秋学期	N833	6976
金	3-3	CMR1100	PH117	現代社会の中の言語L	2	熊澤 弓子	秋学期	H302	対面
土	4-4	EAL2600	AM338	文字講座_3.0.0	2	志津 啓之	秋学期	MB01	対面
土		CMR2100	FA137	アジアの文化L	2	宮内 洋平	秋学期	6976	

! **重要** 履修登録状況画面・成績参照画面の記載事項について誤りの有無を必ず確認すること。

注意 履修登録の誤りや、エラー表示への対処は、履修登録修正期間に履修登録システムで行うこと。

2. 登録の完了
履修登録状況画面を確認した結果、修正する必要がない（自分が履修する予定の科目がすべて間違いなく記載されている）場合、登録は完了となる。
3. 登録の無効について
履修登録状況画面でエラー表示された科目に対して所定の期間内に履修登録修正の手続きをしなかった場合、その届出科目は無効となり、本年度の履修はできない。したがって授業に出て試験を受けても無効となる。
なお、「～上限オーバー」エラーに対して所定の期間内に手続きを行わなかった場合には大学が無作為にオーバー単位数分の科目を削除する。
ⓧ 履修登録期間および履修登録修正期間以外の修正は原則として認めない。

5 科目コード登録における履修登録の修正と修正内容の確認

1. 履修登録の修正
修正対象となる科目は「科目コード登録」で登録した科目に限られる。また、科目コード登録の科目であれば、新たな科目の追加も可能である。
履修登録状況画面の表示内容を確認し、登録内容の修正が必要な場合は、履修登録修正期間に履修登録システムで手続きを行うこと。
なお、エラー表示された科目は、登録無効となっている（ただし、「～上限オーバー」エラーを除く）。
2. 修正についての注意点
(1) 履修登録状況画面上に記載され、登録無効となった科目については、エラーになった理由を調べ、エラーへの対処を行うこと。履修登録システムに掲載している「履修登録」マニュアルの【エラーメッセージと対処法】を参照すること。
(2) 履修登録修正期間内に、エラーの無い状態で完了すること。
履修登録修正期間内は、何度でも科目コード登録科目の確認、修正ができる。
(3) 履修登録修正期間後の修正は原則として認めない。入院その他やむを得ない事由により期日に手続きできない場合は、必ず期日前に所属キャンパスの教務窓口連絡し、指示を受けること。
3. 履修登録修正結果の確認
(1) 履修登録修正期間に届出科目の修正を行った者は、履修登録状況画面で履修登録内容の修正手続きが正しく行われたかを確認すること。履修登録状況画面に記載されている科目が正規登録科目となる。したがって、必ず記載事項の誤りの有無を確認すること。
(2) 履修登録システムや履修登録状況画面上でエラー表示のまま修正しなかった科目は登録無効となり、削除されている。また、「～上限オーバーエラー」が発生したまま修正しなかった場合は、大学が無作為にオーバー単位数分の科目を削除している。各自が行った修正手続き終了時点の申請状況は申し出期限までに履修登録システムの履修照会画面で確認すること。
4. 申し出期限
履修登録の内容に関する疑問がある場合は、申し出期限までに所属キャンパスの教務窓口へ申し出ること。ただし、新たに科目を追加ならびに取消すことはできない。申し出期限はR Guide年間スケジュールを確認すること。
申し出の際には次の2点を提示すること。

- ① 履修登録状況画面のコピー
- ② 履修登録システムの履修照会画面のコピー

「履修照会画面」には、履修登録システムで、各自が行った手続き終了時点の申請状況が、各学期の申し出期限まで表示される。

5. 登録の無効について

履修登録状況画面の確認を怠り、届け出たつもりの科目が正しく履修登録されていなかった場合、その科目は無効であり、本学期または本年度の履修はできない。したがって授業に出ても試験を受けても無効となる。

IV 試験・成績

1 試験に関する規定

立教大学では、学位授与方針に基づきカリキュラムが定められ、各科目において成績評価が行われる。試験は、学修の成果を成績に反映させる点で重要な取り組みの一環である。学生間の公平性を確保し、厳正な成績評価を行うために、本学の試験制度については関連する規程に則り行われる。

試験制度に関しては、履修要項（本冊子）・R Guide（「授業・学籍・試験」）・試験方法発表掲示（「**2** 試験方法 2. 試験方法発表」の項を参照）で確認すること。それらの確認をしなかったために生じる不利益は学生本人の責任となるので、必ずそれらを確認する習慣をつけること。履修要項（本冊子）・R Guide・試験方法発表掲示で示した事項については、すべての学生に伝達したものとみなす。なお、R Guide掲載の「立教大学試験実施全学共通規程」もあわせてよく読んでおくこと。

他研究科・他学部および学校・社会教育講座科目の試験に関しては、その科目が設置されている研究科・学部等の履修要項・R Guideおよび掲示に従うこと。

1. 試験の種類と実施時期

(1) 定期試験

講義終了後に期間を定めて行う試験。

- ① 春学期末試験——春学期科目に対する試験
※春学期1開講科目は筆記試験を実施しない。
- ② 秋学期末・学年末試験——秋学期科目および通年科目に対する試験
※秋学期1開講科目は筆記試験を実施しない。
*通年科目の試験を、最終授業時試験（中間テスト）として春学期末に実施する場合がある。

◎全学の定期試験期間は、以下のとおり定められている。

- 研究科科目、学部科目、学校・社会教育講座科目とも、同一の定期試験期間で行う。
- 1日5時限の試験を実施し、各時限とも、全科目同一時刻に試験を開始する（各時限の試験終了時刻は、科目の設置学部等により、また科目により異なる）。
- ☞試験は授業と同じ曜日・時限に実施されるとは限らない。
試験方法発表（「**2** 試験方法 2. 試験方法発表」の項を参照）をよく確認すること。

〈定期試験期間（全学）〉

春学期末	秋学期末・学年末
7月中旬～下旬	1月下旬～2月上旬

(2) 最終授業時試験

春学期末、秋学期末・学年末の最終授業時に行う試験。

※春学期1開講科目、秋学期1開講科目は筆記試験を実施しない。

(3) 追試験

大学が定める「入院その他やむを得ない事由」によって、最終授業時試験および定期試験を受験できなかった場合に実施する試験（いずれも試験方法発表時（「**2** 試験方法 2. 試験方法発表」の項を参照）に、筆記試験として発表され、追試験対象科目に指定された場合に限る）。

☞ **6** 追試験 の項を参照のこと。

(4) 試験時間重複特別試験

試験時間に重複が生じた場合（池袋・新座キャンパス間の移動時間不足を含む）に実施する試験。

☞ **7** 試験時間重複特別試験 の項を参照のこと。

2. 受験資格・受験資格の喪失・出校停止

- (1) 受験資格
 在学中の者であって、かつ当該科目について履修登録を完了している者のみ、受験資格（レポート提出資格等を含む）がある。
- (2) 受験資格の喪失
 次のいずれかに該当する者は、受験資格（レポート提出資格等を含む）を喪失し、受験した場合はその答案、レポート等は無効となる。
- ① 学生証または臨時学生証のいずれも不携帯の者*¹
 - ② 当該試験期間中に休学中・停学中の者
 - ③ 出席その他、当該科目の担当者があらかじめ指示した受験資格要件を欠く者
 - ④ 派遣留学・認定校留学中の者*²
- *¹ 試験方法発表時（「**2** 試験方法 2. 試験方法発表」の項を参照）に、筆記試験と発表された受験に関してのみ適用される。
- *² 当該学期が派遣留学または認定校留学となっている学生は、帰国時期にかかわらず、当該学期に開講されているすべての科目の受験資格がない。
- (3) 出校停止による受験不可
 次に該当する者は、出校停止となるため、試験方法発表時（「**2** 試験方法 2. 試験方法発表」の項を参照）に、筆記試験と発表された試験の受験はできない。追試験の受験を希望する場合は、追試験の受験申請をすること。出校停止期間中に受験した場合、その試験は無効となる。
- 試験方法発表時（「**2** 試験方法 2. 試験方法発表」の項を参照）に、レポート試験と発表された試験については「**5** レポート 2 提出方法」の項を参照すること。

インフルエンザ、麻しん等、学校保健安全法の定める学校感染症（学校において予防すべき感染症）に罹患中の者（対象となる学校感染症の詳細は、R Guideを参照すること）。

2 試験方法

1. 試験方法

- (1) 試験は、筆記またはレポートによって実施する。ただし科目によっては、試験によらず平常点によって成績評価する場合もある。
- △各科目の成績評価方法・基準は、シラバスの記載内容によるが、履修者数、教室などの条件により、やむを得ず変更する場合もある。シラバスの変更については、変更内容を各研究科等掲示板およびホームページ上のシラバスにも示すので、確認すること。
- △試験（筆記・レポート）についての詳細は、「2. 試験方法発表」における発表内容が最終的な試験方法の指示となるので、必ず確認すること。
- △試験方法発表（「2. 試験方法発表」の項を参照）において発表された、筆記試験を欠席した場合、または「レポート試験」と発表されているレポート（**5** レポート の項を参照）を提出しなかった場合は、シラバスに記載された成績評価の割合にかかわらず、成績評価は「欠席」となる。
- (2) 試験によらず平常点によって成績評価する科目は試験方法発表掲示を行わない。各科目の成績評価方法は、ホームページ上のシラバスにて確認すること。
- (3) 次のテスト等は、平常点として扱う。
- ① 学期中に随時実施される、筆記・口頭による小テスト・中間テスト、学期末の最終テスト（学期末に実施されるが、試験方法発表（「2. 試験方法発表」の項を参照）においては筆記試験とは発表されないもの）
 - ② 学期中に随時課されるレポート、学期末に課されるレポート（学期末に課されるが、試験方法発表（「2. 試験方法発表」の項を参照）においてはレポート試験とは発表されないもの）
 - ③ 学期中に随時実施される口頭試問
 - ④ 全学共通科目言語系科目において実施される筆記によるテスト、口頭試問等は全て平常点として扱う。

2. 試験方法発表

試験方法は、所定の日程で試験方法発表掲示において発表する。試験方法発表はWebによる掲示とし、掲載場所は、教務部掲示板「試験」ページとする。

〈試験方法発表〉

春学期1末	5月中旬
春学期末・春学期2末	7月上旬
秋学期1末	11月上旬
秋学期末・秋学期2末・学年末	12月中旬

3 筆記試験

筆記試験には、定期試験期間内に行われるもの、および最終授業時に行われるものがある。

1. 試験の時間割

・試験時間

(1) 文学研究科目の定期試験時間は、通常の授業とは異なり70分である。

〈定期試験期間内筆記試験 試験時間〉

時限	1	2	3	4	5
試験時間	9:10 } 10:20	11:00 } 12:10	13:20 } 14:30	15:10 } 16:20	17:00 } 18:10

* 科目によっては、試験時間が変更される場合がある。

* 他研究科・他学部科目、全学共通科目、学校・社会教育講座科目の試験時間は、当該研究科等の履修要項、試験方法発表掲示を確認すること。

〈最終授業時筆記試験 試験時間〉

通常授業時間内（授業 **3** 授業時間 の項を参照）で行われる。

* 科目によっては、試験時間が変更される場合がある。

* 他研究科・他学部科目、全学共通科目、学校・社会教育講座科目の試験時間は、当該研究科等の履修要項、試験方法発表掲示を確認すること。

㊦ 交通機関の遅れなどにより、試験の開始・終了時刻が遅くなる可能性があるため、試験当日の行動予定を立てるに際して、そのことを考慮しておくこと。

(2) 試験方法等

① 試験方法・試験日程・時間割・試験場は、試験方法発表掲示において発表する（「**2** 試験方法 2. 試験方法発表」の項を参照）。

② 試験日程には、予備日が設けられている。予備日とは、定期試験期間内筆記試験および最終授業時筆記試験において、災害等、突発的な事情により試験を実施することができなくなった場合の代替日を示す。予備日に代替された科目、予備日の試験日程については、随時試験方法発表掲示およびSPIRIT 教務部ページ上で発表するので、必ず確認すること。

③ 受験者は、必ず指定された教室で受験すること。

④ 試験は、授業時の教室と異なる教室で行うことがあるので注意すること。

2. 筆記試験受験時の学生証携帯義務

(1) 学生証（または臨時学生証）を携帯しない場合は、いかなる理由があっても受験できない。

(2) 受験中は、学生証（または臨時学生証）を机上の試験監督者の見やすい位置に明示しておかなければならない。

(3) 学生証を紛失・破損した場合や、劣化により顔写真が不鮮明となった場合は、直ちに所属キャンパスの教務窓口で再交付を受けること。

(4) 試験当日、学生証を忘れた者は所属キャンパスの教務窓口で「臨時学生証」の発行を受けること。

臨時学生証 発行手数料500円・2日間有効・写真不要

* 試験当日に入金できない場合は、所属キャンパスの教務窓口にお問い合わせすること。

3. 試験場への入退室
- (1) 定期試験期間内筆記試験の受験者は試験時間開始の15分前までに試験場前の廊下に集合し、試験場入口で指定された場所に着席すること。
 - (2) 最終授業時筆記試験の受験者は授業開始時刻までに試験場に入室すること。
 - (3) 試験開始後15分までの遅刻については、試験監督者が許可した場合に受験を認める。
 - (4) 交通機関等の遅延による遅刻者であって、交通機関発行の遅延証明書を持参した者は、試験開始後15～30分までの遅刻については試験監督者が許可した場合に限り、受験を認める。
 - (5) 上記(4)において、やむを得ず「遅延証明書」を持参しなかった者については、試験場で「交通機関遅延受験許可申請書」に必要事項を記入した上で、試験監督者の許可を得て受験することができる(監督者から指定された期日までに、交通機関発行の遅延証明書の提出が必要となる)。
 - (6) 試験開始後30分を経過しなければ退室することができない。また、原則として試験終了前10分間は、退室することができない。
 - (7) 交通機関の大幅な遅延、事件、事故などのため試験時間に遅れそうな場合は、速やかに所属キャンパスの教務窓口にお問い合わせ、指示を受けること。
4. その他
- (1) 解答用紙および試験出席票に記入する所属、学年、学生番号、氏名は、特に指示のないかぎりペンまたはボールペンで記入すること。
 - (2) 学生番号・氏名が未記入の答案は無効とする。
 - (3) 当該科目の履修登録を完了していない者は、受験資格を持たない。万一受験した場合は、その答案は無効となる。
 - (4) 受験した科目の解答用紙および試験出席票、試験問題は、氏名等を記入して、必ず提出すること。
 - (5) 携帯電話等の電子機器類は、試験場での使用を認めない(試験方法に「すべて持込可」とされた科目の場合も使用不可)。また、同機器類の時計・電卓としての使用も認めない。
 - (6) 筆記用具は筆入れから出すこと。筆記用具・消しゴム・メガネ・時計・学生証(臨時学生証)以外のものは、当該科目について特に許可されているものを除き、かばん等に入れて、指定された場所に、試験開始前におくこと。
 - (7) 受験中は、学生同士の会話、物の貸借を一切禁ずる。

4 口頭試問

口頭試問には下記の2種類がある。

- ① 卒業論文・修士論文等で実施される口頭試問
卒業論文・修士論文等の該当頁およびR Guideを確認すること。
- ② 最終授業時等、学期中随時行われる口頭試問(上記①以外)
科目担当者の指示に従うこと。
本研究科は実施しない。

5 レポート

レポートを作成する場合の注意事項は後述の「レポート・論文作成時のルールについて」も参照すること。

1. レポート

- (1) レポートには下記の2種類がある。
 - ① 試験方法発表（「**2 試験方法** 2. 試験方法発表」の項を参照）において「レポート試験」と発表され、レポート提出期間に提出するレポート
 - ② 最終授業時など、①以外の方法・時期に提出するレポート
- (2) 上記(1)-①におけるレポートの提出日時、提出場所（Webシステム）、題目の発表
提出日時、提出場所（Webシステム）、題目の発表方法は、試験方法と同時に、試験方法発表掲示
において発表する。
- (3) 上記(1)-②におけるレポートの提出日時、提出場所、その他については科目担当者の指示に従うこと。

2. 提出方法

- (1) レポート試験
試験方法発表（「**2 試験方法** 2. 試験方法発表」の項を参照）で指定された期日・場所（Webシステム）に提出すること。試験方法発表掲示において詳細を発表するので必ず確認すること。
 - ① 指定期日後は、理由の如何にかかわらず一切受け付けないので十分注意すること（後述「レポート・論文等の提出に際しての注意」も参照）。
 *通信上のトラブル（インターネットに接続できない等）や電子機器上のトラブル（処理速度が遅くなった等）、文字化け、ファイルの破損を理由とした提出期間後の提出も一切認められない。
 - ② 当該科目の履修登録を完了していない者はレポート提出資格を持たない。
 - ③ 指定された提出方法以外では一切受け付けないので十分注意すること。

レポート・論文等の提出に際しての注意

■Web提出

レポート・論文等は、指定された提出期限後は受理しないので時間厳守のこと。通信上のトラブル（インターネットに接続できない等）や電子機器上のトラブル（処理速度が遅くなった等）を理由とした提出期間後の提出は一切認められないので、十分余裕をもって臨み、提出すること。ただし、締切日当日、不測の事態により、本人が提出期限までにレポート・論文等を提出できない場合は、当日の締め切り時刻以前にその対応について所属キャンパスの教務窓口にお問い合わせ、指示を受けること。不測の事態とは、事件・事故などの場合を言う。

*機器（パソコン等）の故障、通信上のトラブル、データの紛失などは、不測の事態に含まれないので注意すること。

学校感染症のため出校停止となった学生のレポート・論文等の提出について

出校停止となった場合でも自宅等からWeb提出が可能であるため、いかなる代替措置も認めない。必ず提出期間内に提出すること。

■現物（紙）提出

論文等は、指定された提出期限後は受理しないので時間厳守のこと。交通機関等の遅延も予測されるので、提出にあたっては十分余裕をもって臨み、本人が提出できない場合は、信頼できる代理人に依頼する等の措置を講ずること。ただし、締切日当日、不測の事態により、本人または代理人が提出期限までに論文等の提出に來られない場合は、当日の締め切り時刻以前にその対応について所属キャンパスの教務窓口にお問い合わせ、指示を受けること。不測の事態とは、事件・事故や交通機関等の大幅な遅延などの場合を言う。

*プリンター等、機器の故障は不測の事態に含まれないので注意すること。

学校感染症のため出校停止となった学生の卒業論文・修士論文の提出について

上記に該当した場合は、以下の指示に従うこと。

1. 上記の提出物の提出期間において本人が出校停止中である場合は、代理人を立て、当該の期間内に提出することを原則とする。

代理人による不備は、依頼した本人の責任となる。

2. 1. において代理人を立てることができない場合は、締め切り時刻以前に所属キャンパスの教務窓口連絡し、指示を受けること。

〈以下のすべてに該当する場合、後日の提出を認めることがある〉

- ① 上記2. に該当する学生であること。
- ② 医療機関が記載し証明した大学所定の書式である「学校感染症登校可能証明書」、または医療機関の発行する出校停止期間と登校可能日が記載された「診断書」の提出によって、締切日当日に学校感染症に罹患して出校停止中であった事実が証明できること。
- ③ 「出校可能となった日またはその翌日（窓口対応可能日）」に提出すること。

(2) レポート試験以外のレポート

- ① 紙媒体での提出による場合は各自で表紙をつけ、表紙には、必要事項（科目名・科目担当者名・所属研究科・専攻・年次・学生番号・氏名）を必ず記入すること。
- ② 紙媒体以外の提出方法による場合も、上記必要事項を必ず明記すること。
- ③ その他の提出方法については、科目担当者の指示に従うこと。

レポート・論文作成時のルールについて

皆さんは、さまざまな授業でレポートや論文を書く機会があると思います。授業の中で指示されて書くレポートや期末試験の代わりに書くレポート、討論会のために作成する論文や卒業論文など、その性質はさまざまですが、どのレポートや論文にも共通なルールがいくつかあります。その一つが、他人が書いたものを写して、あたかも自分が書いたかのように装ってはいけない、というルールです。

これは、元の文章や図表が書物のものであっても、Web上のデータのものであっても、友人のレポートであっても同じです。たとえその文章が著作権を放棄したもので、リンクフリーのサイトに載っているものでも同じです。問題は、元の文章の性格ではなく、他の人の成果を自分の成果であるかのように装ってはいけない、ということなのです。このような他人の成果を盗む行為は「盗用」や「剽窃（ひょうせつ）」と呼ばれます。

もちろん、他の人がこれまで積み重ねてきた研究の業績を自分のレポートや論文に全く利用してはいけないということではありません。独りよがりにならないためには、従来の研究の成果に大いに学ばなければなりません。他人の業績のアイデアを利用することもあるでしょうし、他人の作った文章や図表などを引用して説明を行う場合もあるでしょう。

ただし、こうした利用や引用にはルールがあります。他の人のアイデアや文章、図表などを用いるときには、それがもとど誰の成果なのかを明記するというルールです。このルールをないがしろにすれば、悪気のあるなしにかかわらず「盗用」や「剽窃」になってしまうのです。

具体的な表記の仕方については授業で学びますが、一般的には次の通りです。

- ・引用対象が文章なら、その文章を「 」で囲み、他の部分と区別する。
- ・その対象の出典を明記する。

【例】【図書の場合】 著者名、『書名』、出版社、発行年、ページ

【雑誌論文、記事の場合】 筆者名、「論文名」、『雑誌名』、巻、号、発行年月、ページ

【ホームページの場合】 URL、取得年月日

【新聞記事の場合】 新聞紙名、朝夕刊の区別、号数、第何面か

これ以外にも表記の仕方にはいろいろなバリエーションがあります。そうした表記の方法や、そもそも論文やレポートでどのくらいの引用をすべきなのかといった点については教員の指導に従ってください。

盗用や剽窃は文章を書く場合にはもっとも恥ずべき行為のひとつであり、研究者がこうしたことを行えば研究者生命を失いかねない程の大問題になります。皆さんのレポートや論文についてもこうした盗用・剽窃がなされないように適切に指導することと、こうした行為が行われたときには厳しく対処することが全学の教員で合意されています。

レポートや論文は他の人の成果を調べて書き写したり、コピー&ペーストのみで作ったりするものではありません。さまざまな研究成果やデータをルールに則って利用しつつ、最終的に自分の考えや主張を論じることで完成するものです。他者の成果には十分に敬意を払い、ルールを守って論文やレポートを作成するようにしましょう。

6 追試験

大学が定める「入院その他やむを得ない事由（別表参照）」によって春学期末試験または秋学期末・学年末試験を受験できなかった者で、本学が定める客観的な証明書類によって当該事実を証明することができ、追試験受験申請書を提出した者に対しては、審査の上追試験の受験を許可することがある。

学生間の公平性を確保し、厳正な成績評価を行うとの観点から、追試験受験を希望する者に対しては、厳正なる追試験受験申請手続きを自らの責任の下、遺漏なく適切に行うことが求められる。これらを遺漏なく適切に行うことができなかった者は、如何なる場合であっても追試験の受験は許可されない。

申請手続きにおいて不備、不足、誤りがあった場合、理由の如何にかかわらず申請者の責任となるため、申請が不受理とならないよう十分に注意すること。申請が不受理となり追試験の受験が許可されなかったことに対する大学への問合せには、一切応じない。

☞ R Guideの「立教大学試験実施全学共通規程」を参照のこと。

1. 対象科目

追試験の対象となる科目は、試験方法発表時（「2 試験方法 2. 試験方法発表」の項を参照）に、筆記試験として発表され、追試験対象科目に指定された、最終授業時試験科目および定期試験科目である。

- * 試験方法発表時（「2 試験方法 2. 試験方法発表」の項を参照）に、追試験対象科目として指定されなかった科目は、追試験の対象とはならない。
- * その他授業時間内に科目担当者が任意に実施する小テスト・中間テスト・最終テストは、追試験の対象とはならない。それらが実施された授業日に欠席した場合は、科目担当者の指示に従うこと。

2. 申請手続

追試験受験申請書を、履修登録状況画面のコピーと別表の証明書類を添付の上、試験実施日の翌日から1週間以内（翌週の同じ曜日を含む。なお、締切日が窓口業務を行わない日の場合は次に窓口業務を行う日まで）に所属キャンパスの教務窓口へ提出すること。

追試験受験申請書は、所属キャンパスの教務窓口で交付する（SPIRIT 教務部ページからもダウンロード可能）。

- * 入院等により所定の提出期間内に追試験受験申請書を提出できない場合は、必ず提出期間内に所属キャンパスの教務窓口へ連絡し、指示に従うこと。特に、学校感染症に罹患した場合は、速やかに連絡し、指示を受けること。
- * 所属キャンパスとは異なるキャンパスで履修した科目の追試験受験申請書は、当該科目の開講キャンパス窓口へ提出すること。ただし、所属キャンパスで履修した科目を同時に申請する場合はその限りではないので、事前に所属キャンパスの教務窓口へ相談すること。

3. 対象者・試験方法・時間割の発表

対象者・試験方法・時間割は、所定の日程で掲示において発表する。対象者・試験方法・時間割の発表はWebによる掲示とし、掲載場所は、教務部掲示板「試験」ページとする。

〈追試験対象者・試験方法・時間割発表〉

春学期末	秋学期末・学年末
8月下旬	2月中旬

- * 掲示による発表は当該科目の開講キャンパスごとに行う。

4. 追試験実施期間

追試験は、所定の期間に実施する。

〈追試験 実施期間〉

追試験実施方法	春学期末	秋学期末・学年末
筆記試験	実施期間：9月上旬	実施期間：3月上旬
レポート試験	提出期間：9月上旬	提出期間：3月上旬

- * 追試験の実施は当該科目の開講キャンパスごとに行う。

5. 追試験（筆記試験）受験についての注意事項

実施要領は **3 筆記試験** に準じる。

なお、追試験を受験できなかった場合の特別措置は一切行わない。また、虚偽の申請や証明書類の改ざん等、不正な行為を行ったことが判明した場合は、追試験の受験を認めない。また、不正行為とみなされ、懲戒の対象となる場合がある。

〈別表：追試験受験申請書添付書類〉

	試験欠席事由	添付するべき証明書類 事由によっては、立教大学が記入用紙を作成する場合がある
(1)	入院またはそれに準ずる登校不能（風邪・下痢等の一時的な疾病は含まない）ただし、必修科目については欄外*を参照	入院先機関の発行する入院証明書 ^{注1)}
(2)	インフルエンザ、麻しん等、学校保健安全法の定める学校感染症（学校において予防すべき感染症）の罹患による登校不能 ^{注2)}	医療機関が記載し証明した大学所定の書式である「学校感染症登校可能証明書」 ^{注3, 5)} 、または医療機関の発行する出校停止期間と登校可能日が記載された「診断書」 ^{注4, 5)}
(3)	忌引（保証人、配偶者および3親等以内の血族または姻族に限る）（法事は含まない） ^{注6)}	本人と保証人の署名・捺印のある書類（様式は自由、本人との続柄を明記）およびその事実を明らかにするもの（死亡に関する公的証明書もしくは会葬礼状等）
(4)	交通機関の30分以上の遅延	交通機関発行の遅延証明書
(5)	重大な災害による登校不能	官公庁発行の被災証明書
(6)	学校・社会教育講座の各種実習・体験等	実習・体験期間証明書 ^{注7)}
(7)	就職試験（就職試験の日程が変更できない場合に限る。セミナー、複数企業の合同説明会、OB・OG訪問等は含まない）	本人が受験したことを証明する受験先機関発行の証明書（就職試験の場所、日時を明記、社印が押印されていること）
(8)	他大学大学院入学試験	受験票のコピー
(9)	日本代表としてのスポーツ公式競技への参加	派遣元団体が大学に宛てた公文書
(10)	裁判員選任手続期日における裁判所への出頭、または裁判員に選任された公判のための裁判所への出頭	裁判員選任手続期日における裁判所への出頭の場合、出頭した裁判所で出頭日の証明を受けた「選任手続期日のお知らせ（呼出状）」、裁判員に選任された場合、裁判員職務従事期間についての「証明書」
(11)	上記各事項に準ずる事由 ^{注8)}	

* 必修科目については、医師の診断書がある病気・けがによる登校不能についても欠席事由とする。この場合は、試験を欠席した日に受診し発行され、その病気・けがを証明する内容の診断書が必要となる。

注1) 上記(1)の場合の入院証明書・医師の診断書は、試験を欠席した日の入院・病気・けがを証明する内容であること。

注2) 上記(2)に該当した場合には、速やかに所属キャンパスの教務窓口に関連し指示を受けること。なお、罹患中に試験を受験した場合には、その試験は無効となる。

注3) 上記(2)に該当した場合の「学校感染症登校可能証明書」の書式は、SPIRIT教務部ページからダウンロードすること。

注4) 上記(2)に該当した場合の医師の診断書において、罹患時と治癒時の受診医療機関が異なった場合は、治癒時の医療機関において「出校停止期間についての証明」が受けられない場合があるので注意が必要である。受診医療機関を変更する場合は、罹患時に受診した医療機関が発行する「罹患日記載がある『診断書』」を必ず取得しておくこと。こうすることにより、罹患時に取得した「診断書」と治癒時に受診した医療機関が発行する「治癒日と登校可能日の記載がある『診断書』」の2種類をもって「出校停止期間についての証明」とすることが可能となる。

注5) 上記(2)に該当した場合の添付するべき証明書類は、治癒後の日程で発行されたものを提出すること。ただし、インフルエンザ（特定鳥インフルエンザを除く）および新型コロナウイルス感染症に限り、初診時に発行された「学校感染症登校可能証明書」または医療機関発行の「診断書」でも申請を受け付けることがある。

注6) 3親等以内の血族または姻族とは次を指す。

血族—父母・子、祖父母・兄弟姉妹・孫、曾祖父母・伯叔父母・甥姪・曾孫

姻族—配偶者の父母・子の配偶者・配偶者の子（配偶者の前婚における子など）、配偶者の祖父母・配偶者の兄弟、姉妹・孫の配偶者・配偶者の孫（配偶者の前婚における孫など）・兄弟姉妹の配偶者、配偶者の曾祖父母・配偶者の伯叔父母・配偶者の甥姪・曾孫の配偶者・配偶者の曾孫（配偶者の前婚における曾孫など）・甥姪の配偶者・伯叔父母の配偶者

注7) 学校・社会教育講座事務室にて発行手続きを行うこと。

注8) 原則として、事前の届出に対して審査を行うので、所属キャンパスの教務窓口にお問い合わせのこと。

7 試験時間重複特別試験

試験時間に重複が生じた場合（池袋・新座キャンパス間の移動時間不足を含む）は、試験時間重複特別試験を実施する。その場合は、原則として、他研究科・学部等の科目を定期試験期間内で受験し、自研究科科目を特別試験において受験すること。

1. 申請手続

受験希望者は、試験日時発表後から試験実施期間開始の1週間前までに、試験時間重複特別試験受験申請書を履修登録状況画面のコピーを添付の上、所属キャンパスの教務窓口に提出すること。ただし、試験時間が変更されたことによって試験時間に重複が生じた場合は、試験実施日の翌日から2日以内（締切日が窓口業務を行わない日の場合は次に窓口業務を行う日まで）に試験時間重複特別試験受験申請書を所属キャンパスの教務窓口に提出すること。

2. 対象者・試験方法・時間割の発表

対象者・試験方法・時間割は、所定の日程で掲示において発表する。対象者・試験方法・時間割の発表はWebによる掲示とし、掲載場所は、教務部掲示板「試験」ページとする。

〈試験時間重複特別試験対象者・試験方法・時間割発表〉

春学期末	秋学期末・学年末
8月下旬	2月中旬

* 掲示による発表は当該科目の開講キャンパスごとに行う。

3. 実施期間

試験時間重複特別試験は、所定の期間に実施する。

〈試験時間重複特別試験 実施期間〉

試験時間重複特別試験実施方法	春学期末	秋学期末・学年末
筆記試験	実施期間：9月上旬	実施期間：3月上旬
レポート試験	提出期間：9月上旬	提出期間：3月上旬

* 試験時間重複特別試験の実施は当該科目の開講キャンパスごとに行う。

4. 試験時間重複特別試験（筆記試験）受験についての注意事項

実施要領は **3 筆記試験** に準じる。

なお、試験時間重複特別試験を受験できなかった場合の特別措置は一切行わない。

8 不正行為

試験は、学生各自の科目履修の成果を確認する趣旨のものであり、その趣旨に反する行為は不正行為とみなす。

1. 退室命令

試験中に不正行為とみなされる行為が発見された場合、不正行為者は、試験場から直ちに退出を命ぜられる。

2. 受験資格の喪失

受験中に不正行為を行った者は、不正行為以降の他研究科科目、全学共通科目、学部科目等を含むその期の全科目の受験資格（レポート提出資格等を含む）を失う。

3. 当該試験期間の成績

不正行為者の当該試験期間の成績は以下の通りとする。

- (1) 定期試験期間内筆記試験科目、最終授業時筆記試験科目については、すでに受験した科目を含む全科目の成績を不合格とする。
- (2) レポート試験科目、平常点科目、口頭試問科目等、原則として定期試験期間内筆記試験、最終授業時筆記試験以外の方法のみによって成績評価を実施する科目については、不正行為以前の成績評価は有効とする。

4. 処分の決定

- (1) 不正行為者の処分は、その者の所属する研究科委員会がこれを決定する。
- (2) 処分は、訓告・停学・退学の3種類とする。不正行為の処分は、原則として停学とする。
- (3) 処分決定後は、不正行為以降全ての受験資格を喪失する。

9 成績

1. 成績評価

- (1) 授業科目の成績は以下の基準に従い、S、A、B、Cを合格、D、欠を不合格とする。
 ⊗ 単位を修得した科目の評価を取り消すことはできない。
- (2) 修士論文については、70点以上を合格とし、合格・不合格で表す。

〈成績の評価〉

評価		評価基準	成績証明書の表示
合格	S (100~90点)	当該科目の目標をほぼ完全に達成していると認められる	S
	A (89~80点)	当該科目の目標を十分に達成していると認められる	A
	B (79~70点)	当該科目の目標の基幹部分は達成しているものと認められる	B
	C (69~60点)	当該科目の目標のうち最低限は達成していると認められる	C
不合格	D (59~0点)	当該科目の目標に及ばない	表示 されない
	欠席	試験未受験等により評価できないもの ^{注1)}	

注1) 筆記試験を欠席した場合、また試験方法発表掲示にレポート試験と発表されているレポート(6 レポート)の項を参照)を提出しなかった場合は、シラバスに記載された成績評価の割合にかかわらず、成績評価は「欠席」となる。

次のように表示される科目もある。

評価	成績証明書
合格	合
不合格	表示されない
認定	認
Q ^{注1)}	表示されない

注1) 成績確定前に、休学したものおよび在学留学したものの

2. 成績の発表

成績は所定の日程で成績参照システムに発表する。電話・メール等による成績の問い合わせには一切応じない。発表時刻等の詳細は成績参照システムで確認すること。

〈成績の発表〉

春学期科目	当該年度在籍者 (特別修了〔9月修了〕申請者を含む)	9月上旬
秋学期科目 通年科目	当該年度修了発表対象者 (在学4学期以上の者 ^{*1})	2月末日
	次年度在籍者	3月中旬
	次年度在籍者 (次年度の新年次での発表)	3月下旬

※大学院単位互換の春学期科目は、成績の発表が遅れる場合がある。

※1 特別進学生は在学2学期以上の者

〈追試験および試験時間重複特別試験結果の発表〉

春学期科目	当該年度在籍者 (特別修了〔9月修了〕申請者を含む)	9月下旬
秋学期科目 通年科目	当該年度修了発表対象者 (在学4学期以上の者 ^{*1})	3月中旬
	次年度在籍者	

※1 特別進学生は在学2学期以上の者

3. 成績評価調査の申請

成績評価調査制度は、成績評価が間違っていると思われる十分な理由がある場合に、科目担当者に成績評価に間違いがないか、の確認を求めるためのものであり、成績の再考を求めるものではない。調査の申請は、「成績評価調査申請書」にその理由を詳しく記入し、所定の申請期間内に申請を行うこと。申請方法については、当該学期の成績発表以降、成績参照システム (<https://r.rikkyo.ac.jp/>) の『成績参照システムについて』にて確認すること。

*変更等がある場合はSPIRIT 教務部ページに発表する。

〈成績評価調査 申請期間〉

春学期科目	特別修了〔9月修了〕申請者	9月上旬
	当該年度在籍者 (特別修了〔9月修了〕申請者を除く)	9月上旬
秋学期科目 通年科目	当該年度修了発表対象者 (在学4学期以上の者 ^{*1})	2月末～3月上旬
	次年度在籍者 (当該年度修了発表対象者を除く)	3月中旬

*申請期間の詳細はR Guideにて確認すること。

※1 特別進学生は在学2学期以上の者

申請期限は遵守すること。

V 修士論文

1. 登録について
- (1) 修士論文は、原則として2学期（1年）以上在学した者が、3学期目以降の4月期に履修登録することができる。通年科目として登録されるため、当該年度に半期休学をした場合は、その年度に修了することはできない。
 - (2) 履修登録方法は「その他登録」とする。登録期間・手続き方法はR Guideを参照のこと。
 - (3) 例外として、3学期以上在学した者が「修士論文提出までのロードマップ」に掲載される2年次春学期までの研究指導を終了している場合、申請により、在学4学期目以降の4月期、あるいは9月期に修士論文を履修登録し、当該学期に修士論文を提出することを研究科が認める場合がある。この場合は半期科目として登録される。

2. 提出について
- (1) 提出期間、提出場所および提出に関する最新の情報については、R Guideの「履修登録・科目表」で詳細を確認すること。
 - (2) 論文審査手数料
 所定の単位を修得した者が、在学4学期を超えて引き続き在学し修士論文を提出する場合は、論文審査手数料を納入する必要がある。具体的な納入金額・方法については、提出する年度のR Guideを確認すること。
 - (3) 修士論文の体裁は、次の基準による。

修士論文の体裁について

用紙	各専攻の定めるものを使用すること
表紙に記載する事項	以下を明記すること 提出年度・題目・指導教員名 研究科・専攻・課程・学年・学生番号・氏名
その他	仮製本*可、細部の規定については、各専攻の定めるところによる

*ここでいう仮製本とは、本文に表紙を付し、紐やホチキスまたは2穴以上の綴じ具を用いたフラットファイル等で散逸しない状態に綴じられた状態のことを指す。

修士論文提出部数など

提出物	要旨	専攻	日	英	ド	フ	史	超	教	比
		提出部数	3							
	部数	不要	3	3	3	3	3	3	不要*	3
	論文に含む		○	○	○	○	○	○		○

*教育学専攻の要旨提出日は別途定める。

- (4) 修士論文は複数提出することはできない。万一、複数提出された場合は、最初の1件のみを評価の対象とする。また、一度提出された修士論文の返却はしないので、不備がないか十分確認のうえ提出すること。

修士論文提出に際しての注意

修士論文は、指定された提出期限後は受理しないので時間厳守のこと。交通機関などの遅延も予想されるので、提出にあたっては十分余裕を持って臨み、本人が提出できない場合は、信頼できる代理人に依頼するなどの措置を講ずること。ただし、締切日当日、不測の事態により、本人または代理人が提出期限までに修士論文の提出に来られない場合は、当日の締め切り時刻以前にその対応について池袋キャンパス教務事務センターに問い合わせ、指示を受けること。不測の事態とは、事件・事故や交通機関等の大幅な遅延などの場合をいう。

※プリンター等、機器の故障は不測の事態には含まれないので注意すること。

㊦ 学校感染症のため出校停止となった場合、不測の事態が発生した場合の提出については、[IV 試験・成績](#) [5 レポート](#) 「2. 提出方法」の項を参照すること。

3. 論文最終面接

修士論文を提出した者は、論文最終面接を受けなければならない。日程は、1月中旬に文学研究科掲示板に発表する。

4. 論文審査基準

論文審査は次の基準にもとづいて行う。

- 1 研究テーマが明確で独創性があること
- 2 研究内容と方法が適切であること
- 3 論文構成が適切で、論旨展開が論理的で明晰であること
- 4 使用する文献・史資料の引証が明確で適切であること
- 5 研究に対して倫理的配慮がなされていること
- 6 学位授与の方針に定めた知識、能力等を有すると認められること

VI 修了に関する事項

1. 修了年月日
 本学の修了年月日は、下記のとおりとする。
 (4月入学者) 当該年度3月31日付
 (9月入学者) 当該年度9月19日付
2. 修了合否の発表
 修了合否は下記の日程で成績参照システムにて発表する。必ず本人が修了の合否を確認すること。発表時刻等の詳細は成績参照システムで確認すること。
 (4月入学者) 2月末
 (9月入学者) 9月上旬
 ㊟電話や電子メールなどでの問い合わせには一切応じない。
3. 特別修了
 「特別修了(9月修了)(3月修了)」とは以下の6つの条件をすべて満たした学生が、所属研究科が行う修了判定で合格した場合、以下の修了年月日付で修了することができる制度である。
 (4月入学者が特別修了を申請し合格した場合) 当該年度9月19日付
 (9月入学者が特別修了を申請し合格した場合) 当該年度3月31日付
〈特別修了(9月修了)(3月修了) 申請条件〉
1. 所定の受付期間に、所定の書式(特別修了願)によって保証人連署をもって願い出ていること
 2. 大学院修士課程または大学院博士課程前期課程であること
 3. 申請時において、在学4学期目以降の学生であること^{*1}
 ただし、在学学期数に関しては、経済学研究科・法学研究科・観光学研究科・コミュニティ福祉学研究科・現代心理学研究科・スポーツウエルネス学研究科大学院特別進学生制度の対象学生、経営学研究科5年間一貫プログラム・IDDプログラム、異文化コミュニケーション研究科5年間一貫プログラムの対象学生またはキリスト教学研究科ウィリアムズコースの対象学生については、在学2学期目以降で足りるものとする
 4. 申請時において、所属研究科の修了に必要な要件を満たす見込^{*2}のある学生であること
 5. 申請学期において、在学中であること^{*3}
 6. 申請時において、当該年次に在籍した学期の「学費^{*4}その他の納入金」の全額を納めていること
- この願い出は、原則として取り下げることができないので慎重に行うこと。特別修了願を提出し特別修了を許可された場合の「学費^{*4}その他の納入金」は、学費^{*4}その他の納入金の2分の1額^{*5}とする。
- ※1: 休学中の期間は、在学年数ならびに在学学期数に含まれない
 ※2: 当該年度春学期中(9月入学者は秋学期中)に、所属研究科の修了に必要な要件を満たす見込がある学生
 ※3: 休学中・停学中でないこと
 ※4: 学費とは、授業料(在籍料含む)、実験・実習費をいう。
 ※5: 2分の1額とは、1年間に支払う学費その他の納入金の2分の1額(実験・実習費は在学となる学期に定められた金額)を意味する。
 *学費の納入額が特別修了の申請条件として納入すべき金額に不足する場合は、特別修了願を受理しない。
4. 特別修了願の配付, 受付, 許可者発表
 特別修了願の配付期間, 配付方法, 配付場所, 受付期間, 受付方法, 受付場所, 許可者発表日, 発表方法については、各研究科のR GuideおよびR GuideからリンクしているSPIRIT教務部サイト「各種手続き」ページで確認すること。
5. 学位授与式
 詳細は各研究科のR Guideを確認すること。
 時間については、許可者発表日にあわせて成績参照システムにて発表する。

6. 修業年限短縮
修了（早期修了）
- 大学院学則第5条（優れた研究業績を上げた者）の規定による標準修業年限を短縮し修了することができる制度であるが、本研究科博士課程前期課程では実施しない。

VII 学籍・学費

1 学籍

1. 学籍とは
学籍とは、本学に入学することによって取得されるものであり、本学の学生（在籍者）であることを意味する。本学を修了・退学・除籍となった場合は学籍を喪失する。
2. 在籍と在籍期間
在籍とは、本学に学籍が存在することをいい、その期間を在籍期間という。休学期間は在学年数に算入されないため、在籍期間は、在学状態の期間（在学期間）に休学状態の期間（休学期間）を加えた期間となる。
3. 修業年限と最長在学年数
本学を修了するために必要な年数（標準的な年数）のことを修業年限という。博士課程前期課程（修士課程）学生が本学を修了するためには、2年以上在学して所定の単位を修得し、各研究科の定める修了要件^{*3}を満たさなければならない。ただし、最長在学年数を超えて在学することはできない。修業年限と最長在学年数は次の表のとおりである。

	修業年限	最長在学年数 ^{*1}
学部学生	4年 ^{*2}	8年 ^{*2}
修士課程・博士課程前期課程の大学院学生	2年	4年
博士課程後期課程の大学院学生	3年	6年

※1：休学期間は最長在学年数には算入されない。休学については **2 休学・復学** を参照すること。

※2：編入学、学内転部、転科または転専修制度を利用した学生については、教務窓口にて確認すること。大学院学生に該当する制度はない。

※3：各研究科の **1 学位授与** についてを確認すること。

4. 在学年数と在学学期数
博士課程前期課程（修士課程）学生の修業年限である「2年以上在学して」を学期に置き換えると、「4学期以上在学して」となり、以下の表のとおりである。

年次	1年次		2年次	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
在学学期	1学期	2学期	3学期	4学期

※1：9月入学者は「春学期」を「秋学期」に、「秋学期」を「春学期」に読み替えること。

2 休学・復学

1. 休学とは
病気その他やむを得ない事由により満2ヶ月以上就学することができないときは、所定の受付期間に、所定の書式（休学願）により、保証人連署をもって願い出て、許可を受けて当該学期間休学することができる。休学中の期間は在学年数に算入しない。なお、休学の理由によっては、その事実を証明する書面の提出を求める場合があるので指示に従うこと。
- 兵役のために休学する場合は例外措置が適用になる場合があるので、休学する前に必ず兵役による休学であることを申し出ること。

休学期間は理由の如何を問わず、休学願を提出した時期により定められている。2学期以上にわたって休学するときは、学期ごとに定められた休学願提出期間内に改めて休学願を提出することが必要である。

各学期の休学願提出時期、休学期間の詳細は各学部のR Guideを確認すること。

2. 復学について

休学した者は、休学期間終了後、自動的に復学となる。なお、復学の時期は以下のとおりである。

復学時期

■春学期を休学した場合の復学日 ⇒ 9月20日

■秋学期を休学した場合の復学日 ⇒ 4月1日

3. 休学期と年次の扱いについて

休学中の期間は在学年数に算入しないと同時に、在学学期数にも算入しない。ただし、在学学期数にかかわらず年次は自動的に進む。

〈博士課程前期（修士）の学生が1学期休学した場合〉～3学期目を休学し、2年次秋学期に復学した場合の例～

年次 学期	1年次		2年次		3年次	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
在学学期	1学期	2学期	休学	3学期	4学期 ※2	5学期 ※1

※1・2：「4. 修了の時期について」を参照すること。

* 9月入学者は「春学期」を「秋学期」に、「秋学期」を「春学期」に読み替えること。

4. 修了の時期について

(1) 4月入学者

休学した学生の修了も、原則として3月31日付となる。ただし春学期で4学期以上在学となる場合は、特別修了を申請し許可を受けることにより9月19日付で修了することができる。詳細は「修了に関する事項」を参照すること。

なお、休学中に修了・特別修了はできないので注意すること。

〈1学期休学した場合〉～2学期目を休学し、2年次春学期に復学した場合の例～

年次 学期	1年次		2年次		3年次	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
在学学期	1学期	休学	2学期	3学期	4学期 ※2	5学期 ※1

※1：通常の修了時期は秋学期の終了日である。

※2：特別修了を申請し許可された場合の修了時期は春学期の終了日である。

(2) 9月入学者

休学した学生の修了も、原則として9月19日付となる。ただし秋学期で4学期以上在学となる場合は、特別修了を申請し許可を受けることにより3月31日付で修了することができる。詳細は「修了に関する事項」を参照すること。

なお、休学中に修了・特別修了はできないので注意すること。

〈1学期休学した場合〉～2学期目を休学し、2年次秋学期に復学した場合の例～

年次 学期	1年次		2年次		3年次	
	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期
在学学期	1学期	休学	2学期	3学期	4学期 ※2	5学期 ※1

※1：通常の修了時期は春学期の終了日である。

※2：特別修了を申請し許可された場合の修了時期は秋学期の終了日である。

5. 利用回数の上
限について

休学制度の利用回数には上限が設けられている。いかなる理由においても上限回数を超えて休学することはできない。学期の初めから休学した場合でも学期の途中から休学した場合でも、いずれも1回として計算される。なお、上限回数は通算の休学回数である。2学期間連続して休学した場合や、1学期以上の在学期間をはさみ2学期間休学した場合は、休学回数は2回となる。

	休学制度を利用できる回数
学部学生	8回
修士課程・博士課程前期課程の大学院学生	4回
博士課程後期課程の大学院学生	6回

※学内転部、転科または転専修制度を利用し、学部、学科または専修が変更になった場合、変更前の休学回数は変更後の学部、学科または専修に引き継がれる。大学院学生に該当する制度はない。

※本学を退学後、再入学した場合、退学前の休学回数は引き継がれる。

※本学を卒業・修了・退学した後、選抜試験に合格し、入学（再入学を除く）した場合は、過去に休学した回数は引き継がれない。

6. 休学願の配付
・提出先につ
いて

休学願の配付期間、配付方法、配付場所、提出期間、提出方法、提出場所については、各研究科のR GuideおよびR GuideからリンクしているSPIRIT教務部サイト「各種手続き」ページで確認すること。

7. 休学許可通知
について

休学願を提出し各研究科委員会で許可された場合、本人及び保証人に対して休学許可通知を郵送する。休学の許可についてはこの通知で確認すること。在籍料（「9. 休学中の学費について」参照）等、休学中にかかる諸経費の支払いは、休学許可通知の発送後、別途郵送にて通知するのでその指示に従うこと。

8. 就学の問い合
わせについて

休学している学生に対して、「就学問い合わせ」を郵送する^{※1}。引き続き休学を希望する場合は休学願を、退学を希望する場合は退学願を、必ず締切期日までに提出すること。締切期日は同封の書簡にて指示する。休学願または退学願を提出しない場合は、休学期間終了後、「2. 復学について」に示す日付をもって自動的に復学となるので注意すること。

休学学期	就学問い合わせの 送付時期 ^{※3}	就学問い合わせの 回答締切	回答時の提出書類		
			休学	退学	復学
春学期	7月末 ^{※5}	8月下旬	休学願	退学願	手続不要
秋学期	1月末 ^{※4}	2月中旬			

※1：保証人住所宛に郵送する。

※2：兵役のために休学する場合は例外措置が適用になる場合があるので、休学する前に必ず兵役による休学であることを申し出ること。

※3：自己都合で休学した学期の後、間をあげずに派遣留学又は認定校留学に出発する場合は就学問い合わせを送付しない。

※4：4月入学者で1月末時点において当該年次に納入すべき学費及び在籍料の全額または一部が未納の場合、就学問い合わせは当該年次に納入すべき所定の学費及び在籍料の全額を納入した後に発送する。

※5：9月入学者で7月末時点において当該年次に納入すべき学費及び在籍料の全額または一部が未納の場合、就学問い合わせは当該年次に納入すべき所定の学費及び在籍料の全額を納入した後に発送する。

9. 休学中の学費
について

休学願を提出し休学を許可された場合、当該休学学期間の在籍料およびその他の納入金を除く学費を免除する。在籍料は、在籍保証、在籍管理事務の経費として所属研究科にかかわらず1学期につき60,000円を、休学した学期ごとに徴収する。なお、休学が許可された場合、許可された時点の学費そ

の他の納入金の納入状況により返金を行うことがある。学費その他の納入金の納入額が休学時に納入すべき金額に満たない場合は、これを徴収する。

詳細は、SPIRIT「学費・納入金」サイトの「休学・退学時の学費」ページで確認すること。

(<http://s.rikkyo.ac.jp/kyutaigaku>)

3 退学

1. 退学とは

病気その他の事由により退学しようとする場合は、所定の受付期間に、所定の書式（退学願）により、保証人連署をもって願い出て、許可を受けなければならない（学生証を返却のこと）。なお、退学の理由によっては、その事実を証明する書面の提出を求める場合があるので指示に従うこと。
2. 提出時期と学費の減免について

退学願を提出し退学を許可された場合、退学願を提出した時期により学費その他の納入金の一部を減免する。なお、退学が許可された場合、許可された時点の学費の納入状況により返金を行うことがある。学費の納入額が退学願を提出した時点で退学時に納入すべき金額に不足する場合は、退学願を受理しない。

提出時期、学費減免額の詳細は、SPIRIT「学費・納入金」サイトの「休学・退学時の学費」ページで確認すること。

(<http://s.rikkyo.ac.jp/kyutaigaku>)
3. 退学願の配付・提出先について

退学願の配付期間、配付方法、配付場所、提出期間、提出方法、提出場所については、各研究科のR GuideおよびR GuideからリンクしているSPIRIT教務部サイト「各種手続き」ページで確認すること。
4. 退学許可通知について

退学願を提出し各研究科委員会で許可された場合、本人及び保証人に対して退学許可通知を郵送する。退学の許可についてはこの通知で確認すること。学費の減免に関する手続きが生じる場合は、退学許可通知の発送後、別途郵送にて通知するのでその指示に従うこと。

4 特別修了

特別修了については [VI](#) 修了に関する事項を参照すること。

5 再入学

1. 再入学とは

病気その他の理由で退学した者が再入学を希望するときは、所定の書式により、保証人連署をもって願い出て、年度の始め（4月1日付）^{*1}に再入学を許可されることがある。再入学を申し出る場合は、再入学する前年度の10月初日（初日が窓口閉室の場合は直後の窓口開室日）から11月下旬の締切日^{*2}までに所定の書式を提出すること。再入学に必要な所定の書式及び手続の詳細については下記まで問い合わせること。

※1：9月入学者は9月20日付

※2：9月入学者は再入学する年の3月初日（初日が窓口閉室日の場合は直後の窓口開室日）から4月下旬の締切日
2. 再入学に関する問合せ先

教務窓口（「教務事項の伝達について」参照）

6 学費

1. 学費通知の発送
学費通知の発送についての詳細は、SPIRIT「学費・納入金」サイトの「納入スケジュール」ページで確認すること。(http://s.rikkyo.ac.jp/schedule)
2. 延納制度
経済的な事情により、定められた期限までに納入ができない場合、もしくは資金の用意が難しい場合には、事前に本学SPIRIT学費・納入金ページから「学費延納申請」を行うこと。「学費延納申請」を行い認められた場合には、納入期限を一定の範囲で延期することができる。延納申請の提出は、定められた期間のみ認められる。詳細は、各学期に財務部経理課から送付される学費案内、またはSPIRIT「学費・納入金」サイトの「納入スケジュール」ページを参照すること。
3. 滞納した場合
当該年次に学費の未納がある場合は、除籍となる。

VIII 平和・コミュニティ研究機構提供科目

立教大学平和・コミュニティ研究機構（以下、「研究機構」）は、従来の平和研究の視野をより拡大し、安全・公正・人権の原理に立つ持続的コミュニティのあり方を探求しつつ、「平和」の条件を研究するセンターとして2004年3月に設立された。研究機構は、大学院博士課程前期課程にも授業科目を提供し、専門性と広い視野および現実関心を養い、国際関係、人の安全保障、持続的開発、市民社会的協力、移動と多文化共生などのテーマを相互関連的に学ぶ方途を大学院生に提供するものである。

詳細は平和・コミュニティ研究機構のホームページ（<http://www.rikkyo.ac.jp/research/institute/ipcs/>）を参照のこと。平和・コミュニティ研究機構提供科目は、自専攻で開講されている科目以外は他専攻・他研究科科目の扱いとなる。

- | | |
|------------|--|
| 1. 履修登録方法 | 履修登録方法は、開講研究科の定める方法によりおこなうこと。 |
| 2. 修得単位の扱い | 所属する研究科各専攻の履修規定による。 |
| 3. その他 | <p>(1) 本研究機構提供科目は年度により担当者、科目内容が変更になる場合がある。</p> <p>(2) 平和・コミュニティ関連の研究に関心を持つ大学院生は、研究機構が別途に行う「セミナー」および「フォーラム」にも積極的に参加し、研究を深める機会とされたい。</p> |

博 士 課 程
前 期 課 程
専 攻 ぞ と の
履 修 規 定
カ リ キ ュ ラ ム

日 本 文 学 専 攻

英 米 文 学 専 攻

ド イ ツ 文 学 専 攻

フ ラ ン ス 文 学 専 攻

史 学 専 攻

超 域 文 化 学 専 攻

教 育 学 専 攻

比 較 文 明 学 専 攻

日本文学専攻 履修規定

1. 修士論文提出までのロードマップ

〈研究指導基本スケジュール〉

時 期	行事項目	行事項目説明	参照
〈1年次〉			
4月初旬	入学式・履修ガイダンス・履修登録	ガイダンス時に、研究指導基本スケジュール（ロードマップ）・研究倫理教育に関する説明を受ける。	R Guide
	指導教員（正・副）の決定	学生各自の希望により正・副指導教員を決定する。	
4月下旬	上級生の修士論文構想発表会に参加	1年次生も必ず出席する。	
随時	指導教員（正・副）による論文作成に向けての指導	各指導教員の指示に従う。	
10月初旬	上級生の修士論文中間発表会に参加	1年次生も必ず出席する。	
〈2年次以上〉			
4月初旬	履修ガイダンス		R Guide
	修士論文登録	定められた期間に正の指導教員の修士論文登録を届け出る。	V 修士論文について
4月下旬	修士論文構想発表会	修士論文履修者は必ず発表する。その他の2年次生以上も必ず出席する。	
随時	指導教員(正・副)による論文作成に向けての指導	各指導教員の指示に従う。	
10月初旬	修士論文中間発表会	修士論文履修者は必ず発表する。その他の2年次生以上も必ず出席する。	
1月中旬	修士論文提出	指導教員の指導のもとで完成論文を提出する。	V 修士論文について
1月下旬～ 2月初旬	論文最終面接	提出した修士論文についての質疑に応答する。	
3月下旬	大学院学位授与式 (修士学位授与)		R Guide

2. 履修上の注意
- (1) 前期課程修了に必要な単位30単位のうち、17単位以上は日本文学専攻の設置科目から修得しなければならない。
- (2) 前期課程修了に必要な単位30単位のうち、13単位を限度として、他大学の大学院（外国の大学院含む）の単位と他専攻／他研究科科目および本学「平和・コミュニティ研究機構」で修得した単位を、修了に必要な単位に振り替えることができる。
 その場合については、Ⅱ 履修規定 4 他大学の大学院／本学文学研究科他専攻／本学他研究科／本学「平和・コミュニティ研究機構」提供科目について に定める規定に従うこと。
- (3) 原則として単位振替のできない科目もあるので注意すること。本学の大学院他研究科・文学研究科他専攻の不許可科目については、当該研究科の掲示板または履修登録システムを参照すること。

3. 指導教員
 (正・副)登録

指導教員（正・副）登録方法については、ガイダンスで指示する。2年次以降はあわせてR Guideの「その他登録一覧」および「科目表」に掲載の「修士論文」正指導教員を確認し、定められた期間に届け出ること。

4. 科目表

科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位
選択科目					
日本文学演習1 A	2	日本文学演習1 B	2	日本文学演習2 A	2
日本文学演習2 B	2	日本文学演習3 A	2	日本文学演習3 B	2
日本文学演習4 A	2	日本文学演習4 B	2	日本文学演習5 A	2
日本文学演習5 B	2	日本文学演習6 A	2	日本文学演習6 B	2
日本文学演習7 A	2	日本文学演習7 B	2	日本語学演習1	2
日本語学演習2	2	日本文学研究1 A	2	日本文学研究1 B	2
日本文学研究2 A	2	日本文学研究2 B	2	日本文学研究3 A	2
日本文学研究3 B	2	日本文学研究4 A	2	日本文学研究4 B	2
日本文学研究5 A	2	日本文学研究5 B	2	日本文学研究6 A	2
日本文学研究6 B	2	日本語学研究1 A	2	日本語学研究1 B	2
日本語学研究2 A	2	日本語学研究2 B	2	中国文学研究1	2
中国文学研究2	2				

※上記の科目表は入学年度4月時点のものである。担当者、開講学期、配当年次、登録方法を含む最新の科目表はR Guideで確認すること。

英米文学専攻 履修規定

1. 修士論文提出までのロードマップ

〈研究指導基本スケジュール〉

時 期	行事項目	行事項目説明	参照
〈1年次〉			
4月上旬	入学式・履修ガイダンス・正副指導教員決定	学生の希望および研究テーマに基づき、博士後期課程の手順に倣って、正指導教員、副指導教員を決定し、4月上旬に発表する	R Guide ＜参考＞「英米文学専攻履修規定（博士課程後期課程）」2. 研究指導について
5月中旬-下旬	研究計画発表会	英米文学専攻の教員、大学院学生全員参加の「英米文学研究方法論2」の年度最初の授業で、博士課程前期課程での研究計画を発表する。	
随時	面談指導	学生の希望により、正副指導教員はオフィスアワーなどを利用して、研究計画の進捗全般に関わる面談指導を行なう。	
11月下旬-12月上旬	研究報告会	英米文学専攻の教員、大学院学生全員参加の「英米文学研究方法論2」の年度最終回授業で、今年度の研究進捗状況について報告する。	
〈2年次以上〉			
4月上旬	履修ガイダンス 修士論文登録	定められた期間に正の指導教員の修士論文登録を届け出る。	R Guide Ⅴ 修士論文について
5月中旬-下旬	研究計画発表会	英米文学専攻の教員、大学院学生全員参加の「英米文学研究方法論2」の年度最初の授業で、前年度までの研究成果を踏まえて、指導教員の指導のもとに決定した修士論文の主題と方法を含む計画を発表する。	
随時	面談指導・論文添削	学生の希望により、正副指導教員はオフィスアワーなどを利用して、研究計画の進捗全般に関わる面談指導・論文添削を行なう。	
11月下旬-12月上旬	研究報告会・中間発表会	英米文学専攻の教員、大学院学生全員参加の「英米文学研究方法論2」の年度最終回授業で、今年度の研究進捗状況について報告する。修士論文提出予定者は、今年度の研究成果を踏まえて、指導教員の指導のもとに決定した修士論文の題名、章立てについて中間発表を行なう。	
12月上旬-1月上旬	修士論文提出直前最終チェック	修士論文提出予定者は、指導教員に修士論文の原稿を提出し、面談により最終チェックを受ける。	
1月中旬	修士論文提出	指導教員の最終査読・校閲を受けた修士論文を提出する。	Ⅴ 修士論文について
1月下旬／2月上旬	修士論文最終面接	提出された修士論文につき、最終面接を受ける。	
3月下旬	大学院学位授与式 (修士学位授与)		R Guide

2. 履修上の注意

- (1) 前期課程修了に必要な単位30単位のうち、17単位以上は本学英米文学専攻の設置科目から修得しなければならない。なお、「英米文学研究方法論1・2」、4単位は必修とし、重複履修は不可とする。なお、「英米文学研究方法論2」は、2年次以上の学生は自動登録とする。残り13単位以上は、英文学、米文学、英語学の各分野から2分野以上にわたって修得すること。
- (2) 前期課程修了に必要な単位30単位のうち、13単位を限度として次の①～③にかかげる単位を修了に必要な単位にあてることができる。
- ① 大学院英文学専攻課程協議会（「英専協」）加盟校の専攻課程において修得した単位のうち、13単位を上限として、修了に必要な単位にあてることができる。
- ② 派遣留学制度・認定校留学制度により外国の大学院で修得した単位は、前期課程修了に必要な30単位のうち、13単位を限度として、修了要件単位として認定される場合がある。**II 履修規定 6 派遣留学制度・認定校留学制度による単位認定**に定める規定に従うこと。
- ③ 本学の平和・コミュニティ研究機構、大学院他研究科、および文学研究科他専攻の科目を履修し、単位を修得した場合、10単位を限度として、修了に必要な単位にあてることができる。
- (3) 履修方法について
注意(2)の①～③から修得した場合には、**II 履修規定 4 他大学の大学院／本学文学研究科他専攻／本学他研究科／本学「平和・コミュニティ研究機構」提供科目について**に定める規定に従うこと。

2. -2
他大学の
大学院科目
(単位互換協
定大学院科
目)について

〔(英専協) 委託聴講手続き〕
大学院英文学専攻課程協議会（「英専協」）の加盟校は、青山学院大学、上智大学、聖心女子大学、津田塾大学、東京女子大学、東北学院大学、東洋大学、法政大学、明治学院大学、日本女子大学、明治大学、立教大学の12大学である。
「英専協」の科目を履修するには、本学英米文学専攻主任の許可が必要となる。
申し込みの手続き方法については、本履修要項 **II 履修規定 4 他大学の大学院／本学文学研究科他専攻／本学他研究科／本学「平和・コミュニティ研究機構」提供科目について**「3. 他大学の大学院科目（単位互換協定大学院科目）の手続き」を確認すること。

3. 指導教員
(正・副)登録

指導教員（正・副）登録方法については、ガイダンスで指示する。2年次以降はあわせてR Guideの「その他登録一覧」および「科目表」に掲載の「修士論文」正指導教員を確認し、定められた期間に届け出ること。

4. 科目表

科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位
必修科目					
英米文学研究方法論1	2	英米文学研究方法論2	2		
選択科目					
英文学特殊研究1 A	2	英文学特殊研究1 B	2	英文学特殊研究2 A	2
英文学特殊研究2 B	2	英文学特殊研究3 A	2	英文学特殊研究3 B	2
英文学特殊研究4 A	2	英文学特殊研究4 B	2	英文学特殊研究5 A	2
英文学特殊研究5 B	2	英文学特殊研究6 A	2	英文学特殊研究6 B	2
英文学特殊研究7 A	2	英文学特殊研究7 B	2	米文学特殊研究1 A	2
米文学特殊研究1 B	2	米文学特殊研究2 A	2	米文学特殊研究2 B	2
米文学特殊研究3 A	2	米文学特殊研究3 B	2	米文学特殊研究4 A	2
米文学特殊研究4 B	2	米文学特殊研究5 A	2	米文学特殊研究5 B	2
米文学特殊研究6 A	2	米文学特殊研究6 B	2	米文学特殊研究7 A	2
米文学特殊研究7 B	2	米文学特殊研究8 A	2	米文学特殊研究8 B	2
英語学特殊研究1 A	2	英語学特殊研究1 B	2	英語学特殊研究2 A	2
英語学特殊研究2 B	2	英語学特殊研究3 A	2	英語学特殊研究3 B	2
英語学特殊研究4 A	2	英語学特殊研究4 B	2		

※上記の科目表は入学年度4月時点のものである。担当者、開講学期、配当年次、登録方法を含む最新の科目表はR Guideで確認すること。

ドイツ文学専攻 履修規定

1. 修士論文提出までのロードマップ

〈研究指導基本スケジュール〉

時 期	行事項目	行事項目説明	参照
〈1年次〉			
4月上旬	入学式・履修ガイダンス・正指導教員、副指導教員の決定	入学試験時の学生の希望および研究テーマに基づき、正指導教員、副指導教員を決定し、4月上旬に発表する。	R Guide
春学期前半（4月・5月）	研究の構想報告（コロキウムにて実施）	指導教員および他のドイツ文学専攻の教員、学生全員参加の「コロキウム」で、博士課程前期課程での研究の構想を報告。	
随時	面談指導	必要に応じて、正副指導教員は研究計画の進捗全般に関わる面談指導を行う。	
秋学期	研究の進捗状況報告（コロキウムにて実施）	指導教員および他のドイツ文学専攻の教員、学生全員参加の「コロキウム」で、研究の進捗状況について報告。	
随時	面談指導	必要に応じて、正副指導教員は研究計画の進捗全般に関わる面談指導を行う。	
〈2年次以上〉			
4月上旬	履修ガイダンス 修士論文登録	定められた期間に正の指導教員の修士論文登録を届け出る。	R Guide Ⅴ 修士論文について
春学期	修士論文のテーマ・構想報告（コロキウムにて実施）	指導教員および他のドイツ文学専攻の教員、学生全員参加の「コロキウム」で、指導教員の指導のもとに決定した修士論文のテーマと方法について報告。	
随時	面談指導	正副指導教員は、修士論文の進捗全般に関わる面談指導を行う。	
秋学期	修士論文の進捗状況報告	指導教員および他のドイツ文学専攻の教員、学生全員参加の「コロキウム」で、指導教員の指導のもと、修士論文の中間報告。	
随時	面談指導	正副指導教員に修士論文の原稿を提出、面談により添削指導を受ける。	
1月中旬	修士論文提出	指導教員の最終査読・校閲を受けた修士論文を提出する。	Ⅴ 修士論文について
1月下旬／ 2月初旬	修士論文最終試験	提出された修士論文につき、口頭試問を受ける。	
3月下旬	大学院学位授与式（修士学位授与）		R Guide

2. 履修上の注意

(1) 履修方法

前期課程修了に必要な単位30単位のうち、17単位以上はドイツ文学専攻設置の指定科目A（4単位以上）、指定科目B（4単位以上）、から修得しなければならない。

区分名	修了要件単位数
指定科目A	4以上
指定科目B	4以上
計	30以上

(2) 前期課程修了に必要な単位30単位のうち、13単位を限度として、他大学の大学院（外国の大学院含む）の単位と他専攻／他研究科科目および本学「平和・コミュニティ研究機構」で修得した単位を、修了に必要な単位に振り替えることができる。

その場合については、II 履修規定 4 他大学の大学院／本学文学研究科他専攻／本学他研究科／本学「平和・コミュニティ研究機構」提供科目について に定める規定に従うこと。

3. 指導教員

(正・副)登録

指導教員（正・副）登録方法については、履修ガイダンスで指示する。2年次以降はあわせてR Guideの「その他登録一覧」および「科目表」に掲載の「修士論文」正指導教員を確認し、定められた期間に届け出ること。

4. 科目表

科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位
選択科目（指定科目A）					
ドイツ文学特殊研究1A	2	ドイツ文学特殊研究1B	2	ドイツ文学特殊研究2A	2
ドイツ文学特殊研究2B	2	ドイツ文学特殊研究3A	2	ドイツ文学特殊研究3B	2
ドイツ文学特殊研究4A	2	ドイツ文学特殊研究4B	2	ドイツ文学特殊研究5A	2
ドイツ文学特殊研究5B	2	ドイツ文学特殊研究6A	2	ドイツ文学特殊研究6B	2
ドイツ文学特殊研究7A	2	ドイツ文学特殊研究7B	2	ドイツ文学特殊研究8A	2
ドイツ文学特殊研究8B	2	ドイツ文学特殊研究9A	2	ドイツ文学特殊研究9B	2
選択科目（指定科目B）					
ドイツ語学特殊研究1A	2	ドイツ語学特殊研究1B	2	ドイツ語学特殊研究2A	2
ドイツ語学特殊研究2B	2	ドイツ語学特殊研究3A	2	ドイツ語学特殊研究3B	2
ドイツ語教育特殊研究1A	2	ドイツ語教育特殊研究1B	2	ドイツ語教育特殊研究2A	2
ドイツ語教育特殊研究2B	2	ドイツ学特殊研究A	2	ドイツ学特殊研究B	2
ドイツ文化史特殊研究A	2	ドイツ文化史特殊研究B	2		

※上記の科目表は入学年度4月時点のものである。担当者、開講学期、配当年次、登録方法を含む最新の科目表はR Guideで確認すること。

フランス文学専攻 履修規定

1. 修士論文提出までのロードマップ

〈研究指導基本スケジュール〉

時 期	行事項目	行事項目説明	参照
〈1年次〉			
4月上旬	入学式・履修ガイダンス 正・副指導教員決定	ガイダンスの際に行うアンケートにおいて学生が希望した研究テーマに基づき、正指導教員、副指導教員各一名を決定し、4月上旬に発表する。	R Guide
4月～5月中旬	文学研究の方法論の習得	「フランス語学特殊研究1A」の授業を数回使って、主題の設定の仕方、文献調査の方法、論文の構成など、文学研究の方法論の基礎を学ぶ。 この科目は必修科目であり、できれば1年次に履修することが望ましい。	
10月	修士論文構想発表	必修科目「フランス語学特殊研究1B」の中で、数回授業を使って、修士論文の構想について発表させる。	
〈2年次以上〉			
4月上旬	履修ガイダンス 修士論文登録	定められた期間に正の指導教員の修士論文登録を届け出る。	R Guide Ⅴ 修士論文について
7月	指導面談	秋学期の最初に行う「中間発表会」に向けて、指導教員に修士論文の概要、参考文献リストなどを提出し、面談により添削指導を受ける。	
9月下旬	修士論文中間報告会	フランス文学専攻の全教員、およびすべての学生が参加する報告会で、修士論文の中間報告を行う。	
随時	指導面談	指導教員に適宜、修士論文の原稿を提出し、面談により添削指導を受ける。	
1月中旬	修士論文提出	指導教授の最終査読・校閲を受けた修士論文を提出する。	Ⅴ 修士論文について
1月下旬／ 2月初旬	修士論文最終面接	提出された修士論文につき、口頭試問を受ける。	
3月下旬	大学院学位授与式 (修士学位授与)		R Guide

2. 履修上の注意

(1) 履修方法

前期課程修了に必要な単位30単位は以下の表に沿って修得しなければならない。

なお、以下の科目は必修科目とする。

- ・「フランス語学特殊研究1A」・「フランス語学特殊研究1B」（各2単位）
- ・「フランス語学演習1A」・「フランス語学演習1B」（各2単位）

修了要件単位数を超えてこれらの科目を重複履修した際は、自由選択科目の単位となる。

区分名・科目名		修了要件単位数
必修科目	「フランス語学特殊研究1A」	2
	「フランス語学特殊研究1B」	2
	「フランス語学演習1A」	2
	「フランス語学演習1B」	2
自由選択科目		22以上
計		30以上

(2) 前期課程修了に必要な単位30単位のうち、13単位を限度として、他大学の大学院（外国の大学院含む）の単位と他専攻／他研究科科目および本学「平和・コミュニティ研究機構」で修得した単位を、修了に必要な単位に振り替えることができる。

その場合については、II 履修規定 4 他大学の大学院／本学文学研究科他専攻／本学他研究科／本学「平和・コミュニティ研究機構」提供科目についてに定める規定に従うこと。

3. 指導教員

(正・副)登録

指導教員（正・副）登録方法については、ガイダンスで指示する。2年次以降はあわせてR Guideの「その他登録一覧」および「科目表」に掲載の「修士論文」正指導教員を確認し、定められた期間に届け出ること。

4. 科目表

科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位
必修科目					
フランス語学特殊研究1A	2	フランス語学特殊研究1B	2	フランス語学演習1A	2
フランス語学演習1B	2				
選択科目					
フランス文学特殊研究1A	2	フランス文学特殊研究1B	2	フランス文学特殊研究2A	2
フランス文学特殊研究2B	2	フランス文学特殊研究3A	2	フランス文学特殊研究3B	2
フランス文学特殊研究4A	2	フランス文学特殊研究4B	2	フランス文学特殊研究5A	2
フランス文学特殊研究5B	2	フランス文学演習1A	2	フランス文学演習1B	2
フランス文学演習2A	2	フランス文学演習2B	2	フランス語学演習2A	2
フランス語学演習2B	2	フランス語学演習3A	2	フランス語学演習3B	2

※上記の科目表は入学年度4月時点のものである。担当者、開講学期、配当年次、登録方法を含む最新の科目表はR Guideで確認すること。

史学専攻 履修規定

1. 修士論文提出までのロードマップ

〈研究指導基本スケジュール〉

時 期	行事項目	行事項目説明	参照
〈1年次〉			
4月上旬	履修ガイダンス 正・副指導教員決定	①【正・副指導教員の決定方法】 入試の際に希望した主たる研究分野ごとに担当教員と協議し、研究指導を受ける正・副指導教員を決定する。	R Guide
6月～7月	研究テーマ報告会	②【研究計画報告会概要】 「修士論文指導演習」の中で行う。 ・報告者：前期課程1年次学生全員 ・担当者（教員）：全専任教員（報告者の正副指導教員とその他の所属コース教員） ・参加者（大学院学生、学部学生）：前期課程学生、後期課程学生（登録者）、学部学生（任意） ・実施形態：報告会形式（コース毎各履修者半期一回：初回に開催日を決定する） ・内容：大学院学生が修士論文のテーマについて説明、質疑応答、教員から指導を受ける。	
10月～12月	研究計画報告会	③【研究計画報告会概要】 「修士論文指導演習」の中で行う。 ・報告者：前期課程1年次学生全員 ・担当者（教員）：全専任教員（報告者の正副指導教員とその他の所属コース教員） ・参加者（大学院学生、学部学生）：前期課程学生、後期課程学生（登録者）、学部学生（任意） ・実施形態：報告会形式（コース毎各履修者半期一回） ・内容：大学院学生が修士論文の構想内容について説明、質疑応答、教員から指導を受ける。	

時 期	行事項目	行事項目説明	参照
〈2年次以上〉			
4月上旬	履修ガイダンス 修士論文登録	定められた期間に正の指導教員の修士論文登録を届け出る。	R Guide Ⅴ 修士論文について
4月～7月上旬	研究中間報告会	④ 【研究中間報告会概要】 「修士論文指導演習」の中で行う。 ・報告者：前期課程2年次学生全員，前期課程3・4年次生履修者 ・担当者（教員）：全専任教員（報告者の正副指導教員とその他の所属コース教員） ・参加者（大学院学生，学部学生）：前期課程学生，後期課程学生（登録者），学部学生（任意） ・実施形態：報告会形式（コース毎各履修者半期一回：初回に報告順と開催日を決定する） ・内容：大学院学生が修士論文に関する研究の進捗状況説明，質疑応答，教員から指導を受ける。	
11月～12月	研究報告会	⑤ 【研究中間報告会概要】 「修士論文指導演習」の中で行う。 ・報告者：前期課程2年次学生全員，前期課程3・4年次生履修者 ・担当者（教員）：全専任教員（報告者の正副指導教員とその他の所属コース教員） ・参加者（大学院生，学部学生）：前期課程学生，後期課程学生（登録者），学部学生（任意） ・実施形態：報告会形式（コース毎各履修者半期一回：初回に開催日を決定する） ・内容：大学院学生が修士論文執筆の進捗状況説明，質疑応答，教員から指導を受ける。	
1月中旬	修士論文提出	指導教員の指導のもとで完成論文を提出する。	Ⅴ 修士論文について
1月下旬～ 2月初旬	論文最終面接	提出した修士論文についての質疑に回答する。	
3月下旬	大学院学位授与式 (修士学位授与)		R Guide

2. 履修上の注意

(1) 前期課程修了に必要な30単位のうち、「修士論文指導演習」(各学期1単位)2単位を必修とし、計4単位までを修了要件単位に算入する。4単位を超えて修得した単位は、修了に必要な30単位には算入されない。

「修士論文指導演習」は、計4単位を修得するまで自動登録される。原則として各学期1単位ずつ、在学学期の継続する4学期にわたって履修することを強くすすめる。4単位を超えて履修を希望する場合は、科目コード登録を行うこと。

(2) 修了に必要な30単位のうち、13単位を限度として次の①～③にかかげる単位を修了に必要な単位にあてることができる。

- ① 協定校の特別聴講生として履修する他大学の大学院の科目において修得した単位
- ② 派遣留学制度・認定校留学制度により外国の大学院で修得した単位のうち、修了に必要な単位として認められた単位
- ③ 本学の平和・コミュニティ研究機構、大学院他研究科、および文学研究科他専攻の科目を履修し、修得した単位

(3) 上記(2)の履修に際しては、Ⅱ 履修規定 4 他大学の大学院／本学文学研究科他専攻／本学他研究科／本学「平和・コミュニティ研究機構」提供科目について に定める規定に従うこと。

2. -2

他大学の
大学院科目
(単位互換協
定大学院科
目)について

<史学専攻 協定校>

[11大学大学院特別聴講生(史学専攻)手続きについて]

本史学専攻は、青山学院大学・中央大学・上智大学・國學院大學・国士舘大学・駒澤大学・明治大学・専修大学・東海大学・東洋大学の各大学院文学研究科史学専攻との間に、相互に単位互換の協定を結んでいる。

協定校の科目を履修するには、本学史学専攻主任の許可が必要となる。この協定に基づいて、修得した単位は、13単位を限度として本史学専攻課程の履修単位として認める。

申し込みの手続き方法については、本履修要項Ⅱ 履修規定 4 他大学の大学院／本学文学研究科他専攻／本学他研究科／本学「平和・コミュニティ研究機構」提供科目について「3. 他大学の大学院科目(単位互換協定大学院科目)の手続き」を確認すること。

3. 指導教員

(正・副)登録

指導教員(正・副)登録方法については、ガイダンスで指示する。2年次以降はあわせてR Guideの「その他登録一覧」および「科目表」に掲載の「修士論文」正指導教員を確認し、定められた期間に届け出ること。

4. 科目表

科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位
必修科目					
修士論文指導演習（2単位まで必修）			1		
選択科目					
日本史特殊研究 1 A	2	日本史特殊研究 1 B	2	日本史特殊研究 2 A	2
日本史特殊研究 2 B	2	日本史特殊研究 3 A	2	日本史特殊研究 3 B	2
日本史特殊研究 4 A	2	日本史特殊研究 4 B	2	日本史特殊研究 5 A	2
日本史特殊研究 5 B	2	日本史演習 1	2	日本史演習 2	2
日本史演習 3	2	日本史演習 4	2	日本史演習 5	2
日本史演習 6	2	史学史 A	2	史学史 B	2
東洋史特殊研究 1 A	2	東洋史特殊研究 1 B	2	東洋史特殊研究 2	4
東洋史特殊研究 3 A	2	東洋史特殊研究 3 B	2	東洋史特殊研究 4 A	2
東洋史特殊研究 4 B	2	東洋史特殊研究 5 A	2	東洋史特殊研究 5 B	2
東洋史演習 1 A	2	東洋史演習 1 B	2	東洋史演習 2 A	2
東洋史演習 2 B	2	東洋史演習 3 A	2	東洋史演習 3 B	2
東洋史演習 4 A	2	東洋史演習 4 B	2	西洋史特殊研究 1	4
西洋史特殊研究 2 A	2	西洋史特殊研究 2 B	2	西洋史特殊研究 3 A	2
西洋史特殊研究 3 B	2	西洋史特殊研究 4 A	2	西洋史特殊研究 4 B	2
西洋史特殊研究 5 A	2	西洋史特殊研究 5 B	2	西洋史演習 1 A	2
西洋史演習 1 B	2	西洋史演習 2 A	2	西洋史演習 2 B	2
西洋史演習 3 A	2	西洋史演習 3 B	2		

※上記の科目表は入学年度4月時点のものである。担当者、開講学期、配当年次、登録方法を含む最新の科目表はR Guideで確認すること。

超域文化学専攻 履修規定

1. 修士論文提出までのロードマップ

〈研究指導基本スケジュール〉

時 期	行事項目	行事項目説明	参照
〈1年次〉			
4月上旬	入学式・履修ガイダンス	専攻の教員紹介と今後の指導について説明。	R Guide
4月中旬	正指導教員決定	①【正指導教員の決定方法】学生が入試の際に希望した主たる研究分野ごとに担当教員と協議し、研究指導を受ける指導教員を決定する。	
	副指導教員決定	②【副指導教員の決定方法】学生のテーマ設定をふまえ、正指導教員と関連分野の教員を決定する。	
春学期	修士論文テーマ検討・研究レビュー報告	「地域社会研究方法論A」にて、3回程度修士論文に向けた研究テーマと関連する研究レビューについて報告し、教員からの指導を受ける。	
秋学期	修士論文テーマ・内容・方法の決定報告	「地域社会研究方法論B」にて、3回程度修論テーマの決定に関して報告し、教員の指導、参加者のアドバイスを受ける。	
1月上旬	修士論文構想発表会	③【報告会概要】 報告者：前期課程1年次生全員 参加者（教員）：専攻教員 参加者（大学院学生，学部学生）：大学院学生（全員），学部学生（任意） 実施形態：報告会形式（合同ゼミ） 内容：前期課程1年次生による修士論文の構想内容の説明，参加者による質疑応答，教員からの指導。	
〈2年次以上〉			
4月上旬	履修ガイダンス 修士論文登録	定められた期間に正の指導教員の修士論文登録を届け出る。	R Guide V 修士論文について
春学期	修士論文の調査進捗報告	「地域社会研究方法論A」にて、3回程度修士論文に関わる調査研究進捗状況を報告し、教員の指導、参加者のアドバイスを受ける。	
7月上旬	修士論文中間報告会	④【報告会概要】 報告者：前期課程2年次生全員 参加者（教員）：専攻教員 参加者（大学院学生，学部学生）：大学院学生（全員），学部学生（任意） 実施形態：報告会形式（合同ゼミ） 内容：前期課程2年次生による修士論文の内容と進捗状況の説明，参加者による質疑応答，教員からの指導。	
秋学期	修士論文作成報告	「地域社会研究方法論B」にて、3回程度修論論文作成の進捗状況を報告し、教員の指導、参加者のアドバイスを受ける。	
1月中旬	修士論文提出	修士論文を提出する。	
1月下旬／ 2月初旬	修士論文最終試験	提出された修士論文につき、口頭試問を受ける。	V 修士論文について
3月下旬	大学院学位授与式 (修士学位授与)		R Guide

2. 履修上の注意

- (1) 演習科目を8単位以上修得すること。
- (2) 前期課程修了に必要な単位30単位のうち、15単位を限度として、他大学の大学院（外国の大学院含む）の単位と他専攻／他研究科科目および本学「平和・コミュニティ研究機構」で修得した単位を、修了に必要な単位に振り替えることができる。
- その場合については、Ⅲ 履修規定 4 他大学の大学院／本学文学研究科他専攻／本学他研究科／本学「平和・コミュニティ研究機構」提供科目についてに定める規定に従うこと。

3. 指導教員
(正・副)登録

指導教員（正・副）登録方法については、ガイダンスで指示する。2年次以降はあわせてR Guideの「その他登録一覧」および「科目表」に掲載の「修士論文」正指導教員を確認し、定められた期間に届け出ること。

4. 科目表

科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位
選択科目					
地域社会研究方法論 A	2	地域社会研究方法論 B	2	地理学特殊研究 1 A	2
地理学特殊研究 1 B	2	地理学特殊研究 2 A	2	地理学特殊研究 2 B	2
地理学特殊研究 3 A	2	地理学特殊研究 3 B	2	文化人類学特殊研究 1 A	2
文化人類学特殊研究 1 B	2	文化人類学特殊研究 2 A	2	文化人類学特殊研究 2 B	2
文化人類学特殊研究 3 A	2	文化人類学特殊研究 3 B	2	地理学調査演習 A	2
地理学調査演習 B	2	地域社会調査演習 A	2	地域社会調査演習 B	2
地理学演習 1 A	2	地理学演習 1 B	2	地理学演習 2 A	2
地理学演習 2 B	2	文化人類学演習 1 A	2	文化人類学演習 1 B	2
文化人類学演習 2 A	2	文化人類学演習 2 B	2	超域文化学演習 1 A	2
超域文化学演習 1 B	2	超域文化学演習 2 A	2	超域文化学演習 2 B	2
超域文化学特殊研究 1	2	超域文化学特殊研究 2	2	超域文化学特殊研究 3	2

※上記の科目表は入学年度4月時点のものである。担当者、開講学期、配当年次、登録方法を含む最新の科目表はR Guideで確認すること。

教育学専攻 履修規定

1. 修士論文提出までのロードマップ

〈研究指導基本スケジュール〉

時 期	行事項目	行事項目説明	参照
〈1年次〉			
4月上旬	入学式・履修ガイダンス	ガイダンス時にロードマップの説明のうえ、とくに指導教員未定の学生には早期に決定するよう指導をする。(期限内に専攻主任に希望する指導教員名を提出。)	R Guide
4月中旬	正・副指導教員決定	①【正指導教員の決定方法】学生の研究テーマをふまえ、正・副指導教員を決定し、4月中旬に発表する。	
1月中旬	研究レポートの提出	②【提出物概要】提出者：前期課程1年次生全員，提出先：正・副指導教員，分量は約8,000字	
〈2年次以上〉			
4月上旬	履修ガイダンス 修士論文登録	定められた期間に正の指導教員の修士論文登録を届け出る。	R Guide Ⅶ 修士論文について
7月下旬	修士論文中間報告会	③【報告会概要】 報告者：前期課程2年次生全員 参加者（教員）：全専任教員 参加者（学生）：前期課程2年次生，前期課程1年次生，学部学生（任意） 実施形態：報告会形式（授業外） 内容：大学院学生が修士論文の構想内容の説明，教員，大学院学生による質疑応答，教員からの指導。	Ⅶ 修士論文について
1月下旬～2月上旬	修士論文審査会，最終試験	④【審査会概要】 報告者：修士論文提出者全員 参加者（教員）：全専任教員 参加者（学生）：前期課程2年次生，前期課程1年次生，学部学生（任意） 実施形態：公開面接形式 内容：大学院学生が修士論文の概要を説明，査読教員による口頭試問，その他の教員から質疑応答。	
2月下旬	修了予定者発表		
3月下旬	大学院学位授与式（修士学位授与）		R Guide

2. 履修上の注意
- (1) 前期課程修了に必要な単位30単位のうち、10単位を限度として次の①・②にかかげる単位を修了に必要な単位にあてることができる。
- ① 協定校の特別聴講生として履修する他大学の大学院の科目において修得した単位
- ② 本学の平和・コミュニティ研究機構、大学院他研究科、および文学研究科他専攻の科目を履修し、修得した単位
- (2) 履修方法について
- 上記(1)については、Ⅱ 履修規定 4 他大学の大学院／本学文学研究科他専攻／本学他研究科／本学「平和・コミュニティ研究機構」提供科目について に定める規定に従うこと。

2. -2
他大学の
大学院科目
(単位互換協
定大学院科
目)について

[日本女子大学大学院人間社会研究科教育学専攻課程委託聴講手続きについて]

本教育学専攻課程は、日本女子大学大学院人間社会研究科教育学専攻課程と、特別聴講生に関する協定を結んでいる。

協定校の科目を履修するには、本学教育学専攻主任の許可が必要となる。

この協定に基づいて、修得した単位は、10単位を限度として本教育学専攻課程の履修単位として認める。

申し込みの手続き方法については、本履修要項Ⅱ 履修規定 4 他大学の大学院／本学文学研究科他専攻／本学他研究科／本学「平和・コミュニティ研究機構」提供科目について「3. 他大学の大学院科目（単位互換協定大学院科目）の手続き」を確認すること。

3. 指導教員
(正・副)登録

指導教員（正・副）登録方法については、ガイダンスで指示する。2年次以降はあわせてR Guideの「その他登録一覧」および「科目表」に掲載の「修士論文」正指導教員を確認し、定められた期間に届け出ること。

4. 科目表

科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位
選択科目					
教育哲学研究 1	2	教育哲学研究 2	2	日本教育史研究 1	2
日本教育史研究 2	2	外国教育史研究 1	2	外国教育史研究 2	2
教育社会学研究 1	2	教育社会学研究 2	2	教育心理学研究 1	2
教育心理学研究 2	2	教育方法学研究 1	2	教育方法学研究 2	2
社会教育研究 1	2	社会教育研究 2	2	比較教育学研究 1	2
比較教育学研究 2	2	教育思想史研究 1	2	教育思想史研究 2	2
教育学特殊研究 1	2	教育学特殊研究 2	2	教育学特殊研究 3	2
教育学特殊研究 4	2	教育学特殊研究 5	2	教育学演習 1	2
教育学演習 2	2	教育学演習 3	2	教育学演習 4	2
教育学演習 5	2	教育学演習 6	2	教育学演習 7	2
教育学演習 8	2	教育学演習 9	2		

※上記の科目表は入学年度4月時点のものである。担当者、開講学期、配当年次、登録方法を含む最新の科目表はR Guideで確認すること。

1. 修士論文提出までのロードマップ

〈研究指導基本スケジュール〉

時 期	行事項目	行事項目説明	参照
〈1年次〉			
4月上旬	入学式・履修ガイダンス, 正・副指導教員の決定	入学試験時の院生の希望および研究テーマに基づき, 正・副指導教員を決定し, 4月上旬に発表する。	R Guide
4~7月	修士論文構想報告	「現代文明学特殊研究1」の授業で, 修士論文の構想について発表を行うとともに, 準備の一環として書評を執筆する。	
随時	個別指導	指導教員に論文の構想・進め方について, 個別に指導を受ける。	
9~1月	修士論文構想報告	「現代文明学特殊研究5」の授業で, 修士論文の構想について発表を行い, 1章分を完成させて提出課題とする。また同授業内で展開する「研究交流会」には教員全員が参加し, 指導を行う。	
〈2年次以上〉			
4月初旬	履修ガイダンス 修士論文登録	定められた期間に正の指導教員の修士論文登録を届け出る。	R Guide Ⅶ 修士論文について
4~7月	修士論文中間報告	「現代文明学特殊研究1」の授業で, 修士論文の中間報告を行う。	
9~10月	修士論文中間報告	「現代文明学特殊研究5」の授業で, 修士論文の進捗状況について報告を行う。また同授業内で展開する「研究交流会」には教員全員が参加し, 指導を行う。	
10月以降	個別指導	指導教員に修士論文の原稿を提出し, 随時指導を受ける。	
1月中旬	修士論文提出	指導教員の最終査読・校閲を受けた修士論文を提出する。	Ⅶ 修士論文について
1月下旬/ 2月初旬	論文最終面接	提出された修士論文につき, 口頭試問を受ける。	
3月下旬	大学院学位授与式 (修士学位授与)		R Guide

2. 履修上の注意

- (1) 本専攻は現代文明学，文明工学，言語多文化学，文明表象学の4分野で構成される。なお，文明表象学分野の科目はR Guideの「科目表」の備考欄に「*文明表象学」と記された科目である。
- (2) 指導教員を選ぶ際には自分の研究する分野の教員を第一希望にすること。
- (3) 博士課程前期課程修了に必要な単位30単位のうち，「現代文明学特殊研究1」または「現代文明学特殊研究5」のうちから1科目2単位を修得すること（選択必修）。ただし，毎年2科目とも履修することがのぞましい。2単位を超えて修得した場合は選択科目に算入される。
- (4) 選択科目は，①現代文明学，②文明工学，③言語多文化学の3科目群にわたって10科目20単位以上修得すること。ただし，注意(3)で選択した1科目2単位は，この10科目20単位には含まれない。

		単位
選択必修	現代文明学特殊研究 1	2
	現代文明学特殊研究 5	
選択科目	上記以外の科目*	20以上
	計	30以上

* ①現代文明学，②文明工学，③言語多文化学の3科目群にわたって20単位以上修得すること。

- (5) 前期課程修了に必要な単位30単位のうち，13単位を限度として，他大学の大学院（外国の大学院含む）の単位と他専攻／他研究科科目および本学「平和・コミュニティ研究機構」で修得した単位を，修了に必要な単位に振り替えることができる。

その場合については，II 履修規定 4 他大学の大学院／本学文学研究科他専攻／本学他研究科／本学「平和・コミュニティ研究機構」提供科目についてに定める規定に従うこと。

- (6) 分野別教員名については，R Guideの科目表を確認すること。

3. 指導教員

（正・副）登録

指導教員（正・副）登録方法については，ガイダンスで指示する。2年次以降はあわせてR Guideの「その他登録一覧」および「科目表」に掲載の「修士論文」正指導教員を確認し，定められた期間に届け出ること。

4. 科目表

2020年度以降入学者に適用

科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位
選択科目					
現代文明学特殊研究 1 （比較方法研究）	2	現代文明学特殊研究 2	2	現代文明学特殊研究 3	2
現代文明学特殊研究 4	2	現代文明学特殊研究 5 （文明批判論）	2	現代文明学演習 1	2
現代文明学演習 2	2	現代文明学演習 3	2	現代文明学演習 4	2
現代文明学演習 5	2	文明工学特殊研究 1	2	文明工学特殊研究 2	2
文明工学特殊研究 3	2	文明工学特殊研究 4	2	文明工学特殊研究 5	2
文明工学演習 1	2	文明工学演習 2	2	文明工学演習 3	2
文明工学演習 4	2	文明工学演習 5	2	言語多文化学特殊研究 1	2
言語多文化学特殊研究 2	2	言語多文化学特殊研究 3	2	言語多文化学特殊研究 4	2
言語多文化学特殊研究 5	2	言語多文化学演習 1	2	言語多文化学演習 2	2
言語多文化学演習 3	2	言語多文化学演習 4	2	言語多文化学演習 5	2

※上記の科目表は入学年度4月時点のものである。担当者，開講学期，配当年次，登録方法を含む最新の科目表はR Guideで確認すること。

博士課程 後期課程

2020年度以降入学者に適用

博士課程後期課程 全専攻にかかわる履修規定その他注意事項
博士課程後期課程 専攻ごとの履修規定カリキュラム

I 学位授与について

1 学位授与等について

- 要件** 後期課程に3年以上在学し、6単位以上を修得し、かつ学位論文の作成等に関する指導（以下「研究指導」という）を受けた上、博士学位申請論文を提出し、その審査および最終試験に合格した者に、博士の学位を授与する。
- ただし、優れた研究業績をあげた者については、1年以上在学すれば足りるものとする。
- ㊦ 修了要件単位については、各専攻の履修規定カリキュラムにて詳細を確認すること。

2 修業年限短縮修了（早期修了）

大学院学則第6条（優れた研究業績を上げた者）の規定による標準修業年限を短縮し修了することができる制度である。

〈修業年限短縮修了（早期修了）の条件等について〉

本研究科に在学している者で、かつ本学大学院学則第6条に規定する優れた研究業績をあげた者が、6単位以上を修得した上で、博士学位申請論文を提出しその審査および最終試験に合格した場合、標準修業年限を短縮し博士の学位を授与する。

1. 優れた研究業績について

- (1) 研究を進める中でその研究が飛躍的に進行した場合
- (2) 論文が、国内外の学会論文賞、またはそれに相当する高い評価を受けた場合

2. 申請手続きについて

(1) 資格申請

- ① 修業年限短縮修了（早期修了）を希望する者は、指導教員と相談し了承を得たうえ、所定の書式である「文学研究科標準修業年限短縮資格審査申請書」と当該申請書に添付する書類を提出し、資格審査を受けなければならない。
- ② ①にある申請書等の提出時期については、博士論文中間報告書の提出時期と同時期とする。

(2) 資格審査

- ① 申請書等が提出された場合、研究科委員長は、速やかに修業年限短縮資格審査委員会（以下、審査委員会とする）を設置する。審査委員会は、研究科委員長が委嘱する委員3名以上をもって構成する。審査委員会委員長は研究科委員長が指名する。なお、指導教員は委員長になることができない。
- ② 審査は提出された書類によって行う。
- ③ 審査委員会委員長は、審査報告書を作成し、研究科委員長に提出する。その後、研究科委員会において修業年限短縮資格審査結果について審議する。
- ④ 研究科委員長は、審議の結果について申請者に通知する。

3. 資格審査許可後の博士学位の申請について

資格審査の許可を受けた者は、博士学位申請論文を提出することができる。博士学位の申請については、**V** [博士学位申請](#) に準ずる。

3 「証」の授与

外国人学生で「証」の授与を希望する場合は、当該専攻主任へ申し出ること。「証」の授与は一回限りとし、授与の時期は9月または3月とする。

II-1 履修規定（単位）

1 単位制度

単位制度については、「博士課程前期課程 [II 履修規定 1 単位制度](#)」を参照すること

2 全体についての注意事項

後期課程においては修了までに6単位の修得を必要とする。

それ以外の注意事項については「博士課程前期課程 [II 履修規定 3 履修についての注意事項](#)」を参照すること。

3 他大学の大学院科目

後期課程の超域文化学専攻をのぞく各専攻においては、所定の手続きを経た場合に限り、2単位を上限として、他大学の大学院科目の単位を修了要件とすることが認められている。

手続き等については「博士課程前期課程 [II 履修規定 4 他大学の大学院／本学文学研究科他専攻／本学他研究科／本学「平和・コミュニティ研究機構」提供科目について](#)」を参照すること。

4 派遣留学生・認定校留学生の履修について

派遣留学生・認定校留学生の履修については、「博士課程前期課程 [II 履修規定 5 派遣留学生・認定校留学生の履修](#)」を参照すること。

5 単位認定について

(1) 派遣留学制度・認定校留学制度による単位認定

研究科の学生が、派遣留学（在学留学）もしくは認定校留学（在学留学）によって外国の大学院で修得した単位は、2単位を上限として、修了要件単位として認定されることがある。

(2) 入学前に修得した単位の認定

超域文化学専攻をのぞく各専攻では、本学入学以前に、他大学の大学院後期課程において修得した単位、および科目等履修生・特別外国人学生として本研究科において修得した単位について、入学年度に願い出ることにより、2単位を上限として認定されることがある。

(3) 認定手続きについて

手続き等については「博士課程前期課程 [II 履修規定 6 派遣留学制度・認定校留学制度による単位認定](#) および [7 入学前に修得した単位の認定](#)」を参照すること。

II-2 履修規定（研究）

1 研究指導

研究指導概要

担当指導教員より週2時間の個別研究指導を受ける。各学期ごとに提出される研究報告書内容と当該学期の研究活動、および博士学位取得に向けた研究の進捗状況などを総合的に判断して学期ごとに成績を評価する。各学期の研究指導が終了と認められた場合、その成績は「認」をもって表す。

- * 後期課程の学生は、専攻の定めるところに従い、担当の指導教員より研究指導を受けるものとする。
- * 指導教員は、文学研究科教員がこれに当たり、正・副各1名とする。なお、指導教員の変更を必要とする場合は、これを認めることがある。
- * 研究指導の登録方法は [III 履修登録](#) 1. [研究指導](#) を確認すること。

2 研究報告書

研究報告書の提出について

研究報告書は各学期に、各専攻の定めるところに従って、研究報告書を提出すること。なお、学術雑誌などに発表した論文の抜き刷りを、研究報告書に代えることができる。また、博士論文中間報告書を提出し受理された者は、その期の研究報告書を提出する必要はない。

書式等については、指導教員に確認すること。また、提出方法・期間等についてはR Guideで確認すること。その他、体裁の詳細は各専攻の指示に従うこと。

3 博士論文中間報告書

博士論文中間報告書

- (1) 課程博士として博士学位申請論文を提出しようとする者は、それに先立って博士論文中間報告書を提出しなければならない。
- (2) 博士論文中間報告書は後期課程2年次秋学期に、3学期分の研究指導を終了している者が、博士学位申請論文提出の前年度までに提出すること。
 - *ただし、修業年限短縮修了などにより、博士論文中間報告書と博士学位申請論文を同一年度内に提出する必要があるものについては、研究科委員会が事前に許可した場合に限り、6月末日までに中間報告書を提出することができる。
- (3) 博士論文中間報告書は3部（正本1部、コピー2部）を提出すること。提出方法・期間等については、R Guideで確認すること。
 - *同一年度内に博士論文中間報告書と博士学位申請論文の提出を希望する者は、指導教員に相談の上、研究科委員会の許可を事前に得ること。その際の博士論文中間報告書提出期間はR Guideで確認すること。
- (4) 博士論文中間報告書には、博士学位申請論文の主題・構成の概略が明らかになるような章立て（目次案）と、論文執筆のための基本的構想および論文の中心となる論旨、かつ予定される論文の序章もしくは数章を盛り込み、最後に詳細な参考文献リストを付すものとする。
- (5) 博士論文中間報告書の体裁は各専攻の規定による。ただし、以下は同一とする。
 - ① 表紙と扉には「*年度 博士論文中間報告書」と明記し、題目・指導教員名・研究科・専攻・学年・学生番号・氏名を必ず明記すること。
 - ② 表紙の題目・氏名等は、他の紙を添付することなく、直接表紙上を書くこと。また背表紙にも可能なら年度・題目・氏名を記入すること。
 - ③ 資料・写真集等別冊を用意するときも、題目・氏名を明記すること。

- ④ その他、不明の点は、必ず指導教員に問い合わせること。
 - * 各専攻の履修規定カリキュラムも必ず参照すること。
 - * 最新の情報はR Guideで確認すること。
- (6) 博士論文中間報告書の受理・不受理の決定は、正・副指導教員を含む3名の専任教員による口頭試問を経た上で、研究報告書締切日の前に本人に通知される。
- 審査の結果、受理されなかった場合は、前回の提出から3ヶ月以上を経過し、かつ、専攻主任の許可があれば再提出することができる。
- (7) 博士論文中間報告書を受理されたものは、休学期間を含む翌2年度の間、博士学位申請論文提出資格を得る。^{注1)}したがって、博士論文中間報告書の受理から3年目の年度より後に博士学位申請論文を提出する場合も、原則として博士論文中間報告書を再提出すること。
- 注1) ただし、(2)の特認により6月に中間報告書を提出した者が、同一年度内に博士学位申請論文を提出できなかった場合、博士論文中間報告書は翌年度以降、再提出しなければならない。
- (8) 博士学位申請論文の主題や構想が博士論文中間報告書の内容と異なる場合は博士論文中間報告書を再提出し、審査を受けなければならない。

Ⅲ 履修登録

履修登録の方法については、博士課程前期課程履修規定その他注意事項 [Ⅲ 履修登録](#) を参照すること。

- 1. 研究指導
 - (1) 研究指導担当者コード（正・副指導教員とも）を、R Guide「その他登録一覧」で定められた期間・方法で届け出ること。研究指導担当者は、R Guideの「科目表」に掲載の各専攻の「研究指導担当予定の教員・研究指導領域・研究指導概要」を参照すること。
- 2. 授業
 - (1) 博士課程前期課程および後期課程の科目を履修する場合は、科目コード登録を行うこと。
 - (2) 他研究科の科目を履修する場合は科目コード登録を行うこと。

Ⅳ 試験・成績

- (1) 研究指導の成績については、[Ⅱ-2 履修規定（研究） 1. 研究指導](#)を参照すること。
 - (2) (1)以外の博士課程後期課程科目および博士課程前期課程の科目を履修した場合、その科目の試験・成績については、博士課程前期課程履修規定その他注意事項 [Ⅳ 試験・成績](#) を参照すること。
- ただし、博士課程後期課程在籍者の秋学期科目および通年科目の成績発表は、2月末日となる。また、秋学期科目および通年科目の成績評価調査の申請期間は2月末～3月上旬となる。申請期間の詳細はR Guideにて確認すること。

V

博士学位申請

- 博士論文
- (1) 博士の学位取得を希望する者は、博士学位申請論文を池袋キャンパス教務事務センターに提出しなければならない。
 - (2) 博士学位申請論文は後期課程3年次秋学期に、5学期分の研究指導を終了している者が提出することを原則とする。教務事務センターに提出する時点において、当該学期末までに修了要件単位を修得済あるいは修得見込みであること。また、最長在学年度内に提出しない場合には、博士の学位の取得は認められない。
 - (3) 学位授与は9月と3月の年2回行われる。

〈博士学位の申請期限（論文提出期限）〉

学位の授与を希望する時期	申請期限（論文提出期限）
9月	当年4月末日
3月	前年11月末日

- (4) 博士学位申請論文の提出の手続きは、立教大学博士学位申請手続要領の定めるところによる。以下を池袋キャンパス教務事務センターに提出すること。また最新の情報は、R Guideで確認すること。
 - 仮製本論文 3部
仮製本とは、本文に表紙を付し、紐やホチキスまたは2穴以上の綴じ具を用いたフラットファイル等で散逸しない状態に綴じられた状態のことを指す。
 - PDF版 1部
 - 学位申請関係書類（各3部、うち2部はコピー可）
なお、提出に先立ち、池袋キャンパス教務事務センターで学位申請関係書類の交付ならびに手続きに関する説明を受けること。
- (5) 本学大学院後期課程に3年以上在学して退学した者が、博士の学位の授与を申請する場合には、論文博士の規程（立教大学学位規則第4条第3項）に従う。
- (6) 論文審査は次の基準にもとづいて行う。
 - 1 研究テーマが明確で専門的かつ独創的であること
 - 2 研究内容と方法が適切で専門的であること
 - 3 論文の構成が適切で、論旨展開が論理的で明晰であること
 - 4 使用する文献・史資料の引証が明確で適切であること
 - 5 当該研究分野において独創的な学術的貢献をなしていること
 - 6 研究に対して高い倫理性を有していること
 - 7 学位授与の方針に定めた知識、能力等を有すると認められること
- (7) その他
仮製本の提出後、審査委員会の指示により、くすみ製本1部の提出が必要となる。

VI

学籍・学費

博士課程前期課程履修規定その他注意事項 [VII](#) 学籍・学費 および R Guide の「諸規則（大学院学則第4章）」を参照すること。

本研究科における最長在学年数は、後期課程にあっては、6年とする。

* 休学した期間は在学年数には算入しない。

博 士 課 程
後 期 課 程
専 攻 ご と の
履 修 規 定
カ リ キ ュ ラ ム

2020年度以降入学者に適用

日 本 文 学 専 攻

英 米 文 学 専 攻

ド イ ツ 文 学 専 攻

フ ラ ン ス 文 学 専 攻

史 学 専 攻

超 域 文 化 学 専 攻

教 育 学 専 攻

比 較 文 明 学 専 攻

1. 博士論文提出までのロードマップ

〈研究指導基本スケジュール〉

時 期	行事項目	行事項目説明	参照
〈1年次〉			
4月上旬	入学式・履修ガイダンス	ガイダンス時に研究指導基本スケジュール(ロードマップ)・研究倫理教育に関する説明を受ける。	R Guide
春学期	正・副指導教員登録 履修科目登録	【正・副指導教員の決定方法】研究テーマをふまえ、正・副指導教員を選択して、定められた期間に届け出ること。 所定の修了要件単位数に注意し、履修科目を登録する。	II-2 1 研究指導 III 履修登録
7月上旬～ 中旬	研究報告書の提出	提出者：後期課程在学者全員	II-2 2 研究報告書
秋学期	正・副指導教員登録 履修科目登録	【正・副指導教員の決定方法】研究テーマをふまえ、正・副指導教員を選択して、定められた期間に届け出ること。 所定の修了要件単位数に注意し、履修科目を登録する。	II-2 1 研究指導 III 履修登録
1月下旬～ 2月中旬	研究報告書の提出	提出者：後期課程在学者全員	II-2 2 研究報告書
〈2年次〉			
4月上旬	履修ガイダンス		R Guide
春学期	正・副指導教員登録 履修科目登録	【正・副指導教員の決定方法】研究テーマをふまえ、正・副指導教員を選択して、定められた期間に届け出ること。 所定の修了要件単位数に注意し、履修科目を登録する。	II-2 1 研究指導 III 履修登録
7月上旬～ 中旬	研究報告書の提出	提出者：後期課程在学者全員	II-2 2 研究報告書
秋学期	正・副指導教員登録 履修科目登録	【正・副指導教員の決定方法】研究テーマをふまえ、正・副指導教員を選択して、定められた期間に届け出ること。 所定の修了要件単位数に注意し、履修科目を登録する。	II-2 1 研究指導 III 履修登録
1月上旬～ 中旬	博士論文中間報告書提出		II-2 3 博士論文中間報告書
1月下旬～ 2月中旬	研究報告書の提出	提出者：博士論文中間報告書を受理されたものを除く後期課程在学者全員	II-2 2 研究報告書
〈3年次以上〉			
4月上旬	履修ガイダンス		R Guide
春学期	正・副指導教員登録 履修科目登録	【正・副指導教員の決定方法】研究テーマをふまえ、正・副指導教員を選択して、定められた期間に届け出ること。 所定の修了要件単位数に注意し、履修科目を登録する。	II-2 1 研究指導 III 履修登録

博士課程後期課程・日本文学専攻（2020年度以降入学者に適用）

時 期	行事項目	行事項目説明	参照
(4月末日)	(博士学位申請論文提出)	(6学期分以上の研究指導を終了見込みかつ、	V 博士学位申請
7月上旬～ 中旬	研究報告書の提出	9月に学位の授与を希望する場合) 提出者：後期課程在学者全員	II-2 ② 研究報告書
(9月中旬)	大学院学位授与式（博士学位授与）		R Guide
秋学期	正・副指導教員登録 履修科目登録	【正・副指導教員の決定方法】研究テーマをふまえ、正・副指導教員を選択して、定められた期間に届け出ること。 所定の修了要件単位数に注意し、履修科目を登録する。	II-2 ① 研究指導 III 履修登録
11月末日	博士学位申請論文提出	(3月に学位の授与を希望する場合)	V 博士学位申請
1月	博士学位申請論文最終面接		
1月下旬～ 2月中旬	研究報告書の提出	提出者：後期課程在学者全員	II-2 ② 研究報告書
3月下旬	大学院学位授与式（博士学位授与）		R Guide

2. 研究指導について

研究指導担当予定の教員・研究指導領域・研究指導概要についてはR Guideを確認すること。

3. 博士論文中間報告書についての注意

博士論文中間報告書の内容体裁

- 博士論文の全体像が分かる「論文の構想」, 「研究の意義」, 「章立て」などを明記し、その一部にあたる論考を入れること。ただし、論考に関しては既発表論文の抜き刷りも可とする。
- ワープロ原稿の場合はA4判を原則とする。縦書き、横書きなどの形式は自由とする。手書き原稿の場合は400字詰め原稿用紙を使用すること。
- 枚数は400字詰め原稿用紙にして50～60枚程度を基準とする。ワープロの場合には字数の換算値を付記すること。
- 報告書の製本体裁はR Guideを参照すること。コピーを2部同時に提出すること。
- 内容については事前に指導教員と相談し指示を受けること。

4. 修了要件単位数

博士課程後期課程を修了するためには、日本文学専攻（博士課程後期課程）の設置科目から6単位以上の修得が必要である。ただし、専攻以外で修得した科目の単位の扱いについては「II-1 履修規定（単位）」に定めるところに従うこと。

5. 科目表

2020年度以降入学者に適用

科 目 名	単 位	科 目 名	単 位	科 目 名	単 位
選択科目					
日本文学特殊研究P 1 A	2	日本文学特殊研究P 1 B	2	日本文学特殊研究P 2 A	2
日本文学特殊研究P 2 B	2	日本文学特殊研究P 3 A	2	日本文学特殊研究P 3 B	2
日本文学特殊研究P 4 A	2	日本文学特殊研究P 4 B	2	日本文学特殊研究P 5 A	2
日本文学特殊研究P 5 B	2	日本文学特殊研究P 6 A	2	日本文学特殊研究P 6 B	2
日本語学特殊研究P 1 A	2	日本語学特殊研究P 1 B	2	日本語学特殊研究P 2 A	2
日本語学特殊研究P 2 B	2	中国文学特殊研究P 1 A	2	中国文学特殊研究P 1 B	2

※上記の科目表は入学年度4月時点のものである。担当者、開講学期、配当年次、登録方法を含む最新の科目表はR Guideで確認すること。

1. 博士論文提出までのロードマップ

(研究指導基本スケジュール)

時 期	行事項目	行事項目説明	参照
(1年次)			
4月上旬	入学式・履修ガイダンス	ガイダンス時に研究指導基本スケジュール(ロードマップ)の説明を受ける。	R Guide
春学期	正・副指導教員登録 履修科目登録	【正・副指導教員の決定方法】研究テーマをふまえ、正・副指導教員を選択して、定められた期間に届け出ること。 所定の修了要件単位数に注意し、履修科目を登録する。	II-2 1 研究指導 III 履修登録
7月上旬～ 中旬	研究報告書の提出	提出者：後期課程在学者全員	II-2 2 研究報告書
秋学期	正・副指導教員登録 履修科目登録	【正・副指導教員の決定方法】研究テーマをふまえ、正・副指導教員を選択して、定められた期間に届け出ること。 所定の修了要件単位数に注意し、履修科目を登録する。	II-2 1 研究指導 III 履修登録
1月下旬～ 2月中旬	研究報告書の提出	提出者：後期課程在学者全員	II-2 2 研究報告書
(2年次)			
4月上旬	履修ガイダンス		R Guide
春学期	正・副指導教員登録 履修科目登録	【正・副指導教員の決定方法】研究テーマをふまえ、正・副指導教員を選択して、定められた期間に届け出ること。 所定の修了要件単位数に注意し、履修科目を登録する。	II-2 1 研究指導 III 履修登録
7月上旬～ 中旬	研究報告書の提出	提出者：後期課程在学者全員	II-2 2 研究報告書
秋学期	正・副指導教員登録 履修科目登録	【正・副指導教員の決定方法】研究テーマをふまえ、正・副指導教員を選択して、定められた期間に届け出ること。 所定の修了要件単位数に注意し、履修科目を登録する。	II-2 1 研究指導 III 履修登録
1月上旬～ 中旬	博士論文中間報告書提出		II-2 3 博士論文中間報告書
1月下旬～ 2月中旬	研究報告書の提出	提出者：博士論文中間報告書を受理されたものを除く後期課程在学者全員	II-2 2 研究報告書
(3年次以上)			
4月上旬	履修ガイダンス		R Guide
春学期	正・副指導教員登録 履修科目登録	【正・副指導教員の決定方法】研究テーマをふまえ、正・副指導教員を選択して、定められた期間に届け出ること。 所定の修了要件単位数に注意し、履修科目を登録する。	II-2 1 研究指導 III 履修登録
(4月末日)	(博士学位申請論文提出)	(6学期分以上の研究指導を終了見込みかつ、9月に学位の授与を希望する場合)	V 博士学位申請
7月上旬～ 中旬	研究報告書の提出	提出者：後期課程在学者全員	II-2 2 研究報告書

時 期	行事項目	行事項目説明	参照
(9月中旬)	大学院学位授与式（博士学位授与）		R Guide
秋学期	正・副指導教員登録 履修科目登録	【正・副指導教員の決定方法】研究テーマをふまえ、正・副指導教員を選択して、定められた期間に届け出ること。 所定の修了要件単位数に注意し、履修科目を登録する。	II-2 1 研究指導 III 履修登録
11月末日	博士学位申請論文提出	(3月に学位の授与を希望する場合)	V 博士学位申請
1月	博士学位申請論文最終面接		
1月下旬～ 2月中旬	研究報告書の提出	提出者：後期課程在学者全員	II-2 2 研究報告書
3月下旬	大学院学位授与式（博士学位授与）		R Guide

2. 研究指導について

- (1) 学生は、その年度に正指導担当として研究指導を受けたいと思う教員と協議し、研究計画を立てたうえで、副指導教員を選び、当該教員の了承を得たうえで登録する。
- (2) 研究指導担当者の登録は年2回、学期ごとに自分で行なわなければならない。この手続きを怠ると登録は完了しない。
- (3) 正副指導教員名は履修登録状況画面で各自確認すること。
- (4) 学生は各学期末の所定の期日に、項目すべてを記入した「研究報告書」を、指導教員に提出する。また、少なくとも年度内のいずれかの学期に、未発表の研究論文を添付しなければならない。
- (5) 研究論文の分量は、日本語の場合A4判横書き40字×30行で16,000字程度、英語の場合A4判1ページ26～28行約300語で6,500語程度。研究論文添付の際は、「研究報告書」と一緒に提出すること。
- (6) 本大学院あるいは「英専協」の加盟校の講座を受講する場合、本大学院の前期課程、および「英専協」加盟校の所定の手続きを取らなければならない。
- (7) 研究指導担当予定の教員・研究指導領域・研究指導概要についてはR Guideを確認すること。

3. 博士論文中間報告書についての注意

博士論文中間報告書の内容体裁

(1) 内容

中間報告書には、①予定される博士論文全体の概略が明らかになる章立て（目次案）を示すものとする。次に、中心となる論旨についての素描的構想を、A4判1ページ26～28行300語程度から成る25ページ以上の英語で記述すること。②上記①とは別途、予定される博士論文のうちの1章ないしは2章の草稿を添付すること。これは、既発表論文の抜き刷り等をもって代用できる。③同時に、bibliographyを付すこと。④加えて、レジュメ（日本文4000字前後）を付すこと。

(2) 体裁、書式

中間報告書の製本体裁はR Guideを参照すること。表紙には、「*年度 博士論文中間報告書」と明記し、題目、指導教員名、研究科、専攻、学年、学生番号、氏名を入れる。その他、II-2 3 博士論文中間報告書を参照すること。

なお、(1)②の規定に従って論文等の抜き刷りを添付する場合は、A4判でなくてよい。中間報告書の書式は、①に関しては、最新版 *MLA Handbook* の Works Cited 方式に従う。③に関しては、参照予定の書籍・資料等を含むものとする。

(3) 提出部数

オリジナル1部、コピー2部、計3部を池袋キャンパス教務事務センターに提出すること。なお、レジュメもまた、3部提出のこと。

(4) 中間報告書の審査および受理

池袋キャンパス教務事務センターを窓口として仮受理し、その後、英米文学専攻にて審査委

博士課程後期課程・英米文学専攻（2020年度以降入学者に適用）

員会を構成（指導教員を含め3名）、この委員会が審査する。審査委員会の審査結果を受けて、専攻による口頭試問を行い、受理の諾否を決定する。

(5) 提出時期と審査期間

中間報告書の提出期限は、原則として、同年度の修士論文の提出期限と同日とし専攻による口頭試問も修士論文の口頭試問と同日とする。

研究指導の半導化により、中間報告書は3学期分の研究指導を終了した者が、4学期目（2年次秋学期）に提出することを原則とする。中間報告書の提出時期が春学期になる場合、主任会の許可が必要となる。また、中間報告書と学位申請論文を同じ学期に提出することはできない。

4. 修了要件単位数

博士課程後期課程を修了するためには、英米文学専攻（博士課程後期課程）の設置科目から6単位数以上の修得が必要である。ただし、専攻以外で修得した科目の単位の扱いについては「[II-1 履修規定](#)」に定めるところに従うこと。

5. 科目表

2020年度以降入学者に適用

科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位
選択科目					
英文学特論 1 A	2	英文学特論 1 B	2	英文学特論 2 A	2
英文学特論 2 B	2	英文学特論 3 A	2	英文学特論 3 B	2
米文学特論 1 A	2	米文学特論 1 B	2	米文学特論 3 A	2
米文学特論 3 B	2	米文学特論 5 A	2	米文学特論 5 B	2
米文学特論 7 A	2	米文学特論 7 B	2	米文学特論 8 A	2
米文学特論 8 B	2	英語学特論 1 A	2	英語学特論 1 B	2

※上記の科目表は入学年度4月時点のものである。担当者、開講学期、配当年次、登録方法を含む最新の科目表はR Guideで確認すること。

6. 他大学の
大学院科目
(単位互換協定
大学院科目に
ついて)

単位互換協定については専攻の定めるところに従うこと。科目履修が認められた場合の手続きについては前期課程に準じるものとする。

1. 博士論文提出までのロードマップ

(研究指導基本スケジュール)

時 期	行事項目	行事項目説明	参照
<1年次>			
4月上旬	入学式・履修ガイダンス	ガイダンス時に研究指導基本スケジュール(ロードマップ)の説明を受ける。	R Guide
春学期	正・副指導教員登録 履修科目登録	【正・副指導教員の決定方法】研究テーマをふまえ、正・副指導教員を選択して、定められた期間に届け出ること。 所定の修了要件単位数に注意し、履修科目を登録する。	II-2 1 研究指導 III 履修登録
7月上旬～ 中旬	研究報告書の提出	提出者：後期課程在学者全員	II-2 2 研究報告書
秋学期	正・副指導教員登録 履修科目登録	【正・副指導教員の決定方法】研究テーマをふまえ、正・副指導教員を選択して、定められた期間に届け出ること。 所定の修了要件単位数に注意し、履修科目を登録する。	II-2 1 研究指導 III 履修登録
1月下旬～ 2月中旬	研究報告書の提出	提出者：後期課程在学者全員	II-2 2 研究報告書
<2年次>			
4月上旬	履修ガイダンス		R Guide
春学期	正・副指導教員登録 履修科目登録	【正・副指導教員の決定方法】研究テーマをふまえ、正・副指導教員を選択して、定められた期間に届け出ること。 所定の修了要件単位数に注意し、履修科目を登録する。	II-2 1 研究指導 III 履修登録
7月上旬～ 中旬	研究報告書の提出	提出者：後期課程在学者全員	II-2 2 研究報告書
秋学期	正・副指導教員登録 履修科目登録	【正・副指導教員の決定方法】研究テーマをふまえ、正・副指導教員を選択して、定められた期間に届け出ること。 所定の修了要件単位数に注意し、履修科目を登録する。	II-2 1 研究指導 III 履修登録
1月上旬～ 中旬	博士論文中間報告書提出		II-2 3 博士論文中間報告書
1月下旬～ 2月中旬	研究報告書の提出	提出者：博士論文中間報告書を受理されたものを除く後期課程在学者全員	II-2 2 研究報告書
<3年次以上>			
4月上旬	履修ガイダンス		R Guide
春学期	正・副指導教員登録 履修科目登録	【正・副指導教員の決定方法】研究テーマをふまえ、正・副指導教員を選択して、定められた期間に届け出ること。 所定の修了要件単位数に注意し、履修科目を登録する。	II-2 1 研究指導 III 履修登録
(4月末日)	(博士学位申請論文提出)	(6学期分以上の研究指導を終了見込みかつ、9月に学位の授与を希望する場合)	V 博士学位申請
7月上旬～ 中旬	研究報告書の提出	提出者：後期課程在学者全員	II-2 2 研究報告書

時 期	行事項目	行事項目説明	参照
(9月中旬)	大学院学位授与式（博士学位授与）		R Guide
秋学期	正・副指導教員登録 履修科目登録	【正・副指導教員の決定方法】研究テーマをふまえ、正・副指導教員を選択して、定められた期間に届け出ること。 所定の修了要件単位数に注意し、履修科目を登録する。	II-2 1 研究指導 III 履修登録
11月末日	博士学位申請論文提出	(3月に学位の授与を希望する場合)	V 博士学位申請
1月	博士学位申請論文最終面接		
1月下旬～ 2月中旬	研究報告書の提出	提出者：後期課程在学者全員	II-2 2 研究報告書
3月下旬	大学院学位授与式（博士学位授与）		R Guide

2. 研究指導について

毎年2人以上の後期課程担当教員より研究指導を受け、各学期末にその成果を報告しなければならない。

研究指導担当予定の教員・研究指導領域・研究指導概要についてはR Guideを確認すること。

3. 博士論文中間報告書についての注意

博士論文中間報告書の内容体裁

(1) 用紙・体裁

報告書の製本体裁はR Guideを参照すること。

(2) 用語

日本語ないしドイツ語を用いる。

(3) 分量

本文の分量は註も含めて、日本文の場合20,000字（400字詰め原稿用紙に換算して50枚）以上、ドイツ文の場合48,000ストローク以上とする。なお、表紙、目次、図版および参考文献表はこの分量に含まれない。

(4) 要約

上記報告には本文が日本文の場合はドイツ語で、ドイツ文の場合は日本語で記した要約を付す（日本語の場合1,200字程度、ドイツ語の場合7,200ストローク程度）。

(5) 部数

正本1部、複写本2部、計3部を池袋キャンパス教務事務センターに提出すること。

4. 修了要件単位数

博士課程後期課程を修了するためには、ドイツ文学専攻（博士課程後期課程）の設置科目から6単位数以上の修得が必要である。ただし、専攻以外で修得した科目の単位の扱いについては「II-1 履修規定」に定めるところに従うこと。

5. 科目表

2020年度以降入学者に適用

科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位
選択科目					
ドイツ文学特殊研究 8 A	2	ドイツ文学特殊研究 8 B	2	ドイツ語教育特殊研究 1 A	2
ドイツ語教育特殊研究 1 B	2	ドイツ文化史特殊研究 A	2	ドイツ文化史特殊研究 B	2

※上記の科目表は入学年度4月時点のものである。担当者、開講学期、配当年次、登録方法を含む最新の科目表はR Guideで確認すること。

1. 博士論文提出までのロードマップ

(研究指導基本スケジュール)

時 期	行事項目	行事項目説明	参照
<1年次>			
4月上旬	入学式・履修ガイダンス	ガイダンス時に研究指導基本スケジュール(ロードマップ)の説明を受ける。	R Guide
春学期	正・副指導教員登録 履修科目登録	【正・副指導教員の決定方法】研究テーマをふまえ、正・副指導教員を選択して、定められた期間に届け出ること。 所定の修了要件単位数に注意し、履修科目を登録する。	II-2 1 研究指導 III 履修登録
7月上旬～ 中旬	研究報告書の提出	提出者：後期課程在学者全員	II-2 2 研究報告書
秋学期	正・副指導教員登録 履修科目登録	【正・副指導教員の決定方法】研究テーマをふまえ、正・副指導教員を選択して、定められた期間に届け出ること。 所定の修了要件単位数に注意し、履修科目を登録する。	II-2 1 研究指導 III 履修登録
1月下旬～ 2月中旬	研究報告書の提出	提出者：後期課程在学者全員	II-2 2 研究報告書
<2年次>			
4月上旬	履修ガイダンス		R Guide
春学期	正・副指導教員登録 履修科目登録	【正・副指導教員の決定方法】研究テーマをふまえ、正・副指導教員を選択して、定められた期間に届け出ること。 所定の修了要件単位数に注意し、履修科目を登録する。	II-2 1 研究指導 III 履修登録
7月上旬～ 中旬	研究報告書の提出	提出者：後期課程在学者全員	II-2 2 研究報告書
秋学期	正・副指導教員登録 履修科目登録	【正・副指導教員の決定方法】研究テーマをふまえ、正・副指導教員を選択して、定められた期間に届け出ること。 所定の修了要件単位数に注意し、履修科目を登録する。	II-2 1 研究指導 III 履修登録
1月上旬～ 中旬	博士論文中間報告書提出		II-2 3 博士論文中間報告書
1月下旬～ 2月中旬	研究報告書の提出	提出者：博士論文中間報告書を受理されたものを除く後期課程在学者全員	II-2 2 研究報告書
<3年次以上>			
4月上旬	履修ガイダンス		R Guide
春学期	正・副指導教員登録 履修科目登録	【正・副指導教員の決定方法】研究テーマをふまえ、正・副指導教員を選択して、定められた期間に届け出ること。 所定の修了要件単位数に注意し、履修科目を登録する。	II-2 1 研究指導 III 履修登録
(4月末日)	(博士学位申請論文提出)	(6学期分以上の研究指導を終了見込みかつ、9月に学位の授与を希望する場合)	V 博士学位申請
7月上旬～ 中旬	研究報告書の提出	提出者：後期課程在学者全員	II-2 2 研究報告書

時 期	行事項目	行事項目説明	参照
(9月中旬)	大学院学位授与式（博士学位授与）		R Guide
秋学期	正・副指導教員登録 履修科目登録	【正・副指導教員の決定方法】研究テーマをふまえ、正・副指導教員を選択して、定められた期間に届け出ること。 所定の修了要件単位数に注意し、履修科目を登録する。	II-2 1 研究指導 III 履修登録
11月末日	博士学位申請論文提出	(3月に学位の授与を希望する場合)	V 博士学位申請
1月	博士学位申請論文最終面接		
1月下旬～ 2月中旬	研究報告書の提出	提出者：後期課程在学者全員	II-2 2 研究報告書
3月下旬	大学院学位授与式（博士学位授与）		R Guide

2. 研究指導について

学生は、文学研究科フランス文学専攻で行われるガイダンスの際に、その年度において研究指導を受けたいと希望する教員1名を、当該専攻の研究指導担当の教員のなかから指名する。指名された教員は、原則としてその学生の正指導教員となり学生の研究テーマを考慮して、副指導教員1名を依頼し、それを後日、その学生に通知する。

学期末には、所定の期日に、自己の研究テーマに即した研究報告書を正指導教員に提出する。研究指導担当予定の教員・研究指導領域・研究指導概要についてはR Guideを確認すること。

3. 博士論文中間報告書についての注意

博士論文中間報告書の内容体裁

- (1) 用紙・体裁
報告書の製本体裁はR Guideを参照すること。
- (2) 用語
日本語ないしフランス語を用いる。
- (3) 分量
本文の分量は註も含めて、日本文の場合12,000字（400字詰め原稿用紙に換算して30枚）以上、フランス文の場合1頁30行、1行半角80字で15枚以上とする。表紙、目次、図版および参考文献表はこの分量に含まれない。なお、コピー2部を必ず添えること。
- (4) レジュメ
上記報告には本文が日本文の場合はフランス語で、フランス文の場合は日本語で内容要約を付す（日本語の場合1,200字程度、フランス語の場合上記(3)の要領で3枚程度）。

4. 修了要件単位数

博士課程後期課程を修了するためには、フランス文学専攻（博士課程後期課程）の設置科目から6単位数以上の修得が必要である。ただし、専攻以外で修得した科目の単位の扱いについては「II-1 履修規定」に定めるところに従うこと。

5. 科目表

2020年度以降入学者に適用

科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位
選択科目					
フランス文学特殊研究1 A	2	フランス文学特殊研究1 B	2	フランス文学特殊研究2 A	2
フランス文学特殊研究2 B	2	フランス文学特殊研究3 A	2	フランス文学特殊研究3 B	2
フランス文学特殊研究4 A	2	フランス文学特殊研究4 B	2	フランス文学特殊研究5 A	2
フランス文学特殊研究5 B	2	フランス語学特殊研究1 A	2	フランス語学特殊研究1 B	2

※上記の科目表は入学年度4月時点のものである。担当者、開講学期、配当年次、登録方法を含む最新の科目表はR Guideで確認すること。

1. 博士論文提出までのロードマップ

(研究指導基本スケジュール)

時 期	行事項目	行事項目説明	参照
<1年次>			
4月上旬	入学式・履修ガイダンス	ガイダンス時に研究指導基本スケジュール(ロードマップ)の説明を受ける。	R Guide
春学期	正・副指導教員登録 履修科目登録	【正・副指導教員の決定方法】研究テーマをふまえ、正・副指導教員を選択して、定められた期間に届け出ること。 所定の修了要件単位数に注意し、履修科目を登録する。	II-2 1 研究指導 III 履修登録
7月上旬～中旬	研究報告書の提出	提出者：後期課程在学者全員	II-2 2 研究報告書
秋学期	正・副指導教員登録 履修科目登録	【正・副指導教員の決定方法】研究テーマをふまえ、正・副指導教員を選択して、定められた期間に届け出ること。 所定の修了要件単位数に注意し、履修科目を登録する。	II-2 1 研究指導 III 履修登録
1月下旬～2月中旬	研究報告書の提出	提出者：後期課程在学者全員	II-2 2 研究報告書
<2年次>			
4月上旬	履修ガイダンス		R Guide
春学期	正・副指導教員登録 履修科目登録	【正・副指導教員の決定方法】研究テーマをふまえ、正・副指導教員を選択して、定められた期間に届け出ること。 所定の修了要件単位数に注意し、履修科目を登録する。	II-2 1 研究指導 III 履修登録
7月上旬～中旬	研究報告書の提出	提出者：後期課程在学者全員	II-2 2 研究報告書
秋学期	正・副指導教員登録 履修科目登録	【正・副指導教員の決定方法】研究テーマをふまえ、正・副指導教員を選択して、定められた期間に届け出ること。 所定の修了要件単位数に注意し、履修科目を登録する。	II-2 1 研究指導 III 履修登録
1月上旬～中旬	博士論文中間報告書提出		II-2 3 博士論文中間報告書
1月下旬～2月中旬	研究報告書の提出	提出者：博士論文中間報告書を受理されたものを除く後期課程在学者全員	II-2 2 研究報告書
<3年次以上>			
4月上旬	履修ガイダンス		R Guide
春学期	正・副指導教員登録 履修科目登録	【正・副指導教員の決定方法】研究テーマをふまえ、正・副指導教員を選択して、定められた期間に届け出ること。 所定の修了要件単位数に注意し、履修科目を登録する。	II-2 1 研究指導 III 履修登録
(4月末日)	(博士学位申請論文提出)	(6学期分以上の研究指導を終了見込みかつ、9月に学位の授与を希望する場合)	V 博士学位申請
7月上旬～中旬	研究報告書の提出	提出者：後期課程在学者全員	II-2 2 研究報告書

博士課程後期課程・史学専攻（2020年度以降入学者に適用）

時 期	行事項目	行事項目説明	参照
(9月中旬)	大学院学位授与式（博士学位授与）		R Guide
秋学期	正・副指導教員登録 履修科目登録	【正・副指導教員の決定方法】研究テーマをふまえ、正・副指導教員を選択して、定められた期間に届け出ること。 所定の修了要件単位数に注意し、履修科目を登録する。	II-2 1 研究指導 III 履修登録
11月末日	博士学位申請論文提出	(3月に学位の授与を希望する場合)	V 博士学位申請
1月	博士学位申請論文最終面接		
1月下旬～ 2月中旬	研究報告書の提出	提出者：後期課程在学者全員	II-2 2 研究報告書
3月下旬	大学院学位授与式（博士学位授与）		R Guide

2. 研究指導について

研究指導担当予定の教員・研究指導領域・研究指導概要についてはR Guideを確認すること。

3. 博士論文中間報告書についての注意

博士論文中間報告書の内容体裁

- 本文の分量は、註も含めて400字詰め原稿用紙で50枚以上とする。ただし、表紙・目次・図版および参考文献リストは、この分量に含めない。
- 表紙およびとびらには「◇◇年度 博士論文中間報告書」と明記し、指導教授名・題目・研究科・専攻・課程・学年・学生番号・氏名を記すこと。
- 表紙とびらに次ぎ、2,000字程度の論文要旨を目次の前に綴じ込むこと。
- 博士論文中間報告書の製本体裁はR Guideを参照すること。
- ワープロ使用の場合、A4判またはB5判用紙を用い、1頁字数を1,200字または800字に設定すること。

[提出部数] 正本1部、複写本2部、計3部を、池袋キャンパス教務事務センターに提出すること。

4. 修了要件単位数

博士課程後期課程を修了するためには、史学専攻（博士課程後期課程）の設置科目から6単位数以上の修得が必要である。ただし、専攻以外で修得した科目の単位の扱いについては「II-1 履修規定」に定めるところに従うこと。

5. 科目表

2020年度以降入学者に適用

科 目 名	単 位	科 目 名	単 位	科 目 名	単 位
選択科目					
史学研究方法論A	1	史学研究方法論B	1	日本史特論A	2
日本史特論B	2	日本史特論C	2	日本史特論D	2
日本史特論E	2	日本史特論F	2	東洋史特論A	2
東洋史特論B	2	東洋史特論C	2	東洋史特論D	2
東洋史特論E	2	東洋史特論F	2	西洋史特論A	2
西洋史特論B	2	西洋史特論C	2	西洋史特論D	2
史学史研究A	2	史学史研究B	2		

※上記の科目表は入学年度4月時点のものである。担当者、開講学期、配当年次、登録方法を含む最新の科目表はR Guideで確認すること。

6. 他大学の
大学院科目
（単位互換協定
大学院科目に
ついて）

単位互換協定については専攻の定めるところに従うこと。科目履修が認められた場合の手続きについては前期課程に準じるものとする。

1. 博士論文提出までのロードマップ

(研究指導基本スケジュール)

時 期	行事項目	行事項目説明	参照
<1年次>			
4月上旬	入学式・履修ガイダンス	ガイダンス時に研究指導基本スケジュール(ロードマップ)の説明を受ける。	R Guide
春学期	正・副指導教員登録 履修科目登録	【正・副指導教員の決定方法】研究テーマをふまえ、正・副指導教員を選択して、定められた期間に届け出ること。 所定の修了要件単位数に注意し、履修科目を登録する。	II-2 1 研究指導 III 履修登録
7月上旬～中旬	研究報告書の提出	提出者：後期課程在学者全員	II-2 2 研究報告書
秋学期	正・副指導教員登録 履修科目登録	【正・副指導教員の決定方法】研究テーマをふまえ、正・副指導教員を選択して、定められた期間に届け出ること。 所定の修了要件単位数に注意し、履修科目を登録する。	II-2 1 研究指導 III 履修登録
1月下旬～2月中旬	研究報告書の提出	提出者：後期課程在学者全員	II-2 2 研究報告書
<2年次>			
4月上旬	履修ガイダンス		R Guide
春学期	正・副指導教員登録 履修科目登録	【正・副指導教員の決定方法】研究テーマをふまえ、正・副指導教員を選択して、定められた期間に届け出ること。 所定の修了要件単位数に注意し、履修科目を登録する。	II-2 1 研究指導 III 履修登録
7月上旬～中旬	研究報告書の提出	提出者：後期課程在学者全員	II-2 2 研究報告書
秋学期	正・副指導教員登録 履修科目登録	【正・副指導教員の決定方法】研究テーマをふまえ、正・副指導教員を選択して、定められた期間に届け出ること。 所定の修了要件単位数に注意し、履修科目を登録する。	II-2 1 研究指導 III 履修登録
1月上旬～中旬	博士論文中間報告書提出		II-2 3 博士論文中間報告書
1月下旬～2月中旬	研究報告書の提出	提出者：博士論文中間報告書を受理されたものを除く後期課程在学者全員	II-2 2 研究報告書
<3年次以上>			
4月上旬	履修ガイダンス		R Guide
春学期	正・副指導教員登録 履修科目登録	【正・副指導教員の決定方法】研究テーマをふまえ、正・副指導教員を選択して、定められた期間に届け出ること。 所定の修了要件単位数に注意し、履修科目を登録する。	II-2 1 研究指導 III 履修登録
(4月末日)	(博士学位申請論文提出)	(6学期分以上の研究指導を終了見込みかつ、9月に学位の授与を希望する場合)	V 博士学位申請
7月上旬～中旬	研究報告書の提出	提出者：後期課程在学者全員	II-2 2 研究報告書

時 期	行事項目	行事項目説明	参照
(9月中旬)	大学院学位授与式（博士学位授与）		R Guide
秋学期	正・副指導教員登録 履修科目登録	【正・副指導教員の決定方法】研究テーマをふまえ、正・副指導教員を選択して、定められた期間に届け出ること。 所定の修了要件単位数に注意し、履修科目を登録する。	II-2 1 研究指導 III 履修登録
11月末日	博士学位申請論文提出	(3月に学位の授与を希望する場合)	V 博士学位申請
1月	博士学位申請論文最終面接		
1月下旬～ 2月中旬	研究報告書の提出	提出者：後期課程在学者全員	II-2 2 研究報告書
3月下旬	大学院学位授与式（博士学位授与）		R Guide

2. 研究指導について

研究指導担当予定の教員・研究指導領域・研究指導概要についてはR Guideを確認すること。

3. 博士論文中間報告書についての注意

博士論文中間報告書の内容体裁

- (1) 原本に添えてコピーを2部提出すること。
- (2) 手書きの場合、原稿用紙はA4判横書き400字詰め原稿用紙を使用すること。鉛筆書きは認めない。
- (3) ワープロ使用の場合はA4判用紙に各ページ1,000字、もしくは1,200字詰め。ただし、プリンター等機器の故障は提出遅延の理由とはならないので注意すること。
- (4) とびらに次ぎ、400字詰め3枚程度のレジュメを目次の前に綴じ込むこと。
- (5) 報告書の製本体裁はR Guideを参照すること。

[提出部数] 正本1部、複写本2部、計3部を、池袋キャンパス教務事務センターに提出すること。

4. 修了要件単位数

博士課程後期課程を修了するためには、超域文化学専攻（博士課程後期課程）の設置科目から6単位数以上の修得が必要である。ただし、専攻以外で修得した科目の単位の扱いについては「II-1 履修規定」に定めるところに従うこと。

5. 科目表

2020年度以降入学者に適用

科 目 名	単 位	科 目 名	単 位	科 目 名	単 位
選択科目					
地域社会調査特殊研究 A	2	地域社会調査特殊研究 B	2	地域社会調査実習 A	2
地域社会調査実習 B	2	地理学調査実習 A	2	地理学調査実習 B	2

※上記の科目表は入学年度4月時点のものである。担当者、開講学期、配当年次、登録方法を含む最新の科目表はR Guideで確認すること。

1. 博士論文提出までのロードマップ

(研究指導基本スケジュール)

時 期	行事項目	行事項目説明	参照
<1年次>			
4月上旬	入学式・履修ガイダンス	ガイダンス時に研究指導基本スケジュール(ロードマップ)の説明を受ける。	R Guide
春学期	正・副指導教員登録 履修科目登録	【正・副指導教員の決定方法】研究テーマをふまえ、正・副指導教員を選択して、定められた期間に届け出ること。 所定の修了要件単位数に注意し、履修科目を登録する。	II-2 1 研究指導 III 履修登録
7月上旬～中旬	研究報告書の提出	提出者：後期課程在学者全員	II-2 2 研究報告書
秋学期	正・副指導教員登録 履修科目登録	【正・副指導教員の決定方法】研究テーマをふまえ、正・副指導教員を選択して、定められた期間に届け出ること。 所定の修了要件単位数に注意し、履修科目を登録する。	II-2 1 研究指導 III 履修登録
1月下旬～2月中旬	研究報告書の提出	提出者：後期課程在学者全員	II-2 2 研究報告書
<2年次>			
4月上旬	履修ガイダンス		R Guide
春学期	正・副指導教員登録 履修科目登録	【正・副指導教員の決定方法】研究テーマをふまえ、正・副指導教員を選択して、定められた期間に届け出ること。 所定の修了要件単位数に注意し、履修科目を登録する。	II-2 1 研究指導 III 履修登録
7月上旬～中旬	研究報告書の提出	提出者：後期課程在学者全員	II-2 2 研究報告書
秋学期	正・副指導教員登録 履修科目登録	【正・副指導教員の決定方法】研究テーマをふまえ、正・副指導教員を選択して、定められた期間に届け出ること。 所定の修了要件単位数に注意し、履修科目を登録する。	II-2 1 研究指導 III 履修登録
1月上旬～中旬	博士論文中間報告書提出		II-2 3 博士論文中間報告書
1月下旬～2月中旬	研究報告書の提出	提出者：博士論文中間報告書を受理されたものを除く後期課程在学者全員	II-2 2 研究報告書
<3年次以上>			
4月上旬	履修ガイダンス		R Guide
春学期	正・副指導教員登録 履修科目登録	【正・副指導教員の決定方法】研究テーマをふまえ、正・副指導教員を選択して、定められた期間に届け出ること。 所定の修了要件単位数に注意し、履修科目を登録する。	II-2 1 研究指導 III 履修登録
(4月末日)	(博士学位申請論文提出)	(6学期分以上の研究指導を終了見込みかつ、9月に学位の授与を希望する場合)	V 博士学位申請
7月上旬～中旬	研究報告書の提出	提出者：後期課程在学者全員	II-2 2 研究報告書
7月下旬	博士論文中間報告会	【報告会概要】 報告者：後期課程3年次生全員 参加者(教員)：全専任教員 参加者(学生)：後期課程1, 2年次生 実施形態：報告会形式(授業外) 内容：博士論文の構想内容の説明, 教員, 学生による質疑応答, 教員からの指導	

時 期	行事項目	行事項目説明	参照
(9月中旬)	大学院学位授与式（博士学位授与）		R Guide
秋学期	正・副指導教員登録 履修科目登録	【正・副指導教員の決定方法】研究テーマをふまえ、正・副指導教員を選択して、定められた期間に届け出ること。 所定の修了要件単位数に注意し、履修科目を登録する。	II-2 1 研究指導 III 履修登録
11月末日	博士学位申請論文提出	(3月に学位の授与を希望する場合)	V 博士学位申請
1月	博士学位申請論文最終面接		
1月下旬～ 2月中旬	研究報告書の提出	提出者：後期課程在学者全員	II-2 2 研究報告書
3月下旬	大学院学位授与式（博士学位授与）		R Guide

2. 研究指導について

研究指導担当予定の教員・研究指導領域・研究指導概要についてはR Guideを確認すること。

3. 博士論文中間報告書についての注意

博士論文中間報告書の内容体裁

- (1) 手書きの場合、原稿用紙はA4判横書き用400字詰めを使用のこと。鉛筆書きは認めない。
- (2) ワープロ使用の場合はA4判用紙に各ページ1,200字詰め（40字×30行）。ただし、プリンター等機器の故障は提出遅延の理由とはならないので注意すること。
- (3) 枚数は400字詰め40枚程度。
- (4) とびらに次ぎ、2,000字程度のレジュメを目次の前に綴じ込むこと。
- (5) 報告書の製本体裁はR Guideを参照すること。
- (6) コピー2部を原本に添えて提出すること。

4. 修了要件単位数

博士課程後期課程を修了するためには、教育学専攻（博士課程後期課程）の設置科目から6単位以上の修得が必要である。ただし、専攻以外で修得した科目の単位の扱いについては「II-1 履修規定」に定めるところに従うこと。

5. 科目表

2020年度以降入学者に適用

科 目 名	単 位	科 目 名	単 位	科 目 名	単 位
選択科目					
教育哲学基礎研究	2	日本教育史基礎研究	2	外国教育史基礎研究	2
教育社会学基礎研究	2	教育心理学基礎研究	2	教育方法学基礎研究	2
社会教育学基礎研究	2	比較教育学基礎研究	2	教育思想史基礎研究	2
教育学特論1	2	教育学特論2	2	教育学特論3	2
教育学特論4	2	教育学特論5	2	教育学特論6	2
教育学特論7	2	教育学特論8	2	教育学特論9	2

※上記の科目表は入学年度4月時点のものである。担当者、開講学期、配当年次、登録方法を含む最新の科目表はR Guideで確認すること。

6. 他大学の大学院科目（単位互換協定大学院科目について）

単位互換協定については専攻の定めるところに従うこと。科目履修が認められた場合の手続きについては前期課程に準じるものとする。

1. 博士論文提出までのロードマップ

(研究指導基本スケジュール)

時 期	行事項目	行事項目説明	参照
<1年次>			
4月上旬	入学式・履修ガイダンス	ガイダンス時に研究指導基本スケジュール(ロードマップ)の説明を受ける。	R Guide
春学期	正・副指導教員登録 履修科目登録	【正・副指導教員の決定方法】研究テーマをふまえ、正・副指導教員を選択して、定められた期間に届け出ること。 所定の修了要件単位数に注意し、履修科目を登録する。	II-2 1 研究指導 III 履修登録
7月上旬～ 中旬	研究報告書の提出	提出者：後期課程在学者全員	II-2 2 研究報告書
秋学期	正・副指導教員登録 履修科目登録	【正・副指導教員の決定方法】研究テーマをふまえ、正・副指導教員を選択して、定められた期間に届け出ること。 所定の修了要件単位数に注意し、履修科目を登録する。	II-2 1 研究指導 III 履修登録
1月下旬～ 2月中旬	研究報告書の提出	提出者：後期課程在学者全員	II-2 2 研究報告書
<2年次>			
4月上旬	履修ガイダンス		R Guide
春学期	正・副指導教員登録 履修科目登録	【正・副指導教員の決定方法】研究テーマをふまえ、正・副指導教員を選択して、定められた期間に届け出ること。 所定の修了要件単位数に注意し、履修科目を登録する。	II-2 1 研究指導 III 履修登録
7月上旬～ 中旬	研究報告書の提出	提出者：後期課程在学者全員	II-2 2 研究報告書
秋学期	正・副指導教員登録 履修科目登録	【正・副指導教員の決定方法】研究テーマをふまえ、正・副指導教員を選択して、定められた期間に届け出ること。 所定の修了要件単位数に注意し、履修科目を登録する。	II-2 1 研究指導 III 履修登録
1月上旬～ 中旬	博士論文中間報告書提出		II-2 3 博士論文中間報告書
1月下旬～ 2月中旬	研究報告書の提出	提出者：博士論文中間報告書を受理されたものを除く後期課程在学者全員	II-2 2 研究報告書
<3年次以上>			
4月上旬	履修ガイダンス		R Guide
春学期	正・副指導教員登録 履修科目登録	【正・副指導教員の決定方法】研究テーマをふまえ、正・副指導教員を選択して、定められた期間に届け出ること。 所定の修了要件単位数に注意し、履修科目を登録する。	II-2 1 研究指導 III 履修登録
(4月末日)	(博士学位申請論文提出)	(6学期分以上の研究指導を終了見込みかつ、9月に学位の授与を希望する場合)	V 博士学位申請
7月上旬～ 中旬	研究報告書の提出	提出者：後期課程在学者全員	II-2 2 研究報告書

時 期	行事項目	行事項目説明	参照
(9月中旬)	大学院学位授与式（博士学位授与）		R Guide
秋学期	正・副指導教員登録 履修科目登録	【正・副指導教員の決定方法】研究テーマをふまえ、正・副指導教員を選択して、定められた期間に届け出ること。 所定の修了要件単位数に注意し、履修科目を登録する。	II-2 1 研究指導 III 履修登録
11月末日	博士学位申請論文提出	(3月に学位の授与を希望する場合)	V 博士学位申請
1月	博士学位申請論文最終面接		
1月下旬～ 2月中旬	研究報告書の提出	提出者：後期課程在学者全員	II-2 2 研究報告書
3月下旬	大学院学位授与式（博士学位授与）		R Guide

2. 研究指導について

研究指導担当予定の教員・研究指導領域・研究指導概要についてはR Guideを確認すること。

3. 博士論文中間報告書についての注意

博士論文中間報告書の内容体裁

- (1) 手書きの場合、原稿用紙はA4判横書き用400字詰めを使用のこと。鉛筆書きは認めない。
- (2) ワープロ使用の場合はA4判用紙に各ページ1,200字詰め（40字×30行）。ただし、プリンター等機器の故障は提出遅延の理由とはならないので注意すること。
- (3) 内容には、博士論文の主題・構成の概略が明らかになるような章立て（目次案）と、博士論文執筆のための基本的構想および博士論文の中心となる論旨、かつ予定される論文の序章もしくは数章を盛り込み、最後に詳細な参考文献リストを付することとする。
- (4) とびらに次ぎ、2,000字程度のレジュメ（日本語）を目次の前に綴じ込むこと。
- (5) コピーを2部作成し、正本に添えて提出すること。
- (6) 報告書の製本体裁はR Guideを参照すること。

4. 修了要件単位数

博士課程後期課程を修了するためには、比較文明学専攻（博士課程後期課程）の設置科目から必修科目4単位、選択科目2単位、計6単位以上の修得が必要である。必修科目を重複して修得した場合は随意科目となり、修了要件単位には算入されない。ただし、専攻以外で修得した科目の単位の扱いについては「II-1 履修規定」に定めるところに従うこと。

5. 科目表

2020年度以降入学者に適用

科 目 名	単 位	科 目 名	単 位	科 目 名	単 位
必修科目					
比較文明学特殊研究 1	2	比較文明学特殊研究 2	2		
選択科目					
比較文明学特殊研究 3	2	比較文明学特殊研究 4	2	比較文明学特殊研究 5	2
比較文明学特殊研究 6	2	比較文明学特殊研究 7	2	比較文明学特殊研究 8	2
比較文明学特殊研究 9	2				

※上記の科目表は入学年度4月時点のものである。担当者、開講学期、配当年次、登録方法を含む最新の科目表はR Guideで確認すること。

個人情報 保護

プライバシーポリシー
立教大学における個人情報の取扱いについて

※最新の情報は、R Guideで確認すること。

プライバシーポリシー

個人情報の取扱いについては、以下をご覧ください。

<https://rec.rikkyo.ac.jp/privacypolicy/>



各種 案内

- 1 大規模地震の警戒宣言が発令された場合の措置
- 2 地震発生時の心得
- 3 台風の接近等が予想される場合の措置
- 4 授業中にJアラートが作動した場合（弾道ミサイル発射時）の対応
- 5 緊急連絡システムについて

※最新の情報は、R Guideで確認すること。

1 大規模地震の警戒宣言が発令された場合の措置

大学は、大規模な地震の発生が予想され、大規模地震対策特別措置法に基づき地震防災対策強化地域判定会（*）の招集が確認された場合には、授業を休講とし、次の措置をとります。

1. 在宅中および通学途中の者は、登校を中止してください。
2. 在学中の者は、大学からの連絡及び指示に従ってください。
3. 警戒宣言解除後の授業の再開については、以下のとおりとします。
 - (1) 警戒宣言が午前5時までに解除された場合は、平常どおり授業を行います。
 - (2) 警戒宣言が午前9時までに解除された場合は、午前中の授業を休講とし、午後からの授業を行います。
 - (3) 警戒宣言が午前9時までに解除されない場合は、当日の授業を全日休講とします。なお、全日休講の場合は、大学の諸業務（窓口業務を含む）を行いません。

* 地震防災対策強化地域判定会

大規模地震対策特別措置法第3条1項に規定する地震防災対策強化地域に係る大規模な地震の発生のおそれに関する判定を行うために、気象庁長官の要請によって招集される判定会をいう。

緊急時の連絡は、立教大学緊急時情報サイト、SPIRITトップページ、立教大学Webサイト、掲示等で確認してください。

[立教大学緊急時情報サイト](https://sites.google.com/rikkyo.ac.jp/emergency)

<https://sites.google.com/rikkyo.ac.jp/emergency>

[SPIRITトップページ](https://spirit.rikkyo.ac.jp)

<https://spirit.rikkyo.ac.jp>

[立教大学Webサイト](https://www.rikkyo.ac.jp)

<https://www.rikkyo.ac.jp>

2 地震発生時の心得

建物は大きな地震にも耐えられる構造となっています。震災が発生した場合は次の事項に注意し、安全を確認したうえで冷静に避難してください。

1. 地震が起きたら、すぐに外へ飛び出すことは危険です。慌てず指示があるまで教室内で待機するとともに、頭上からの落下物等に対して、頭を守る等の対応をして下さい。
 - ・机の下などに身を伏せ、しばらく様子を見て下さい。
 - ・固定していない机の下に身を隠す場合は、机の足をしっかり握ってください。
 - ・頭上からの落下物（蛍光灯・窓ガラスなど）に注意し、上着やその他のもので頭をおおってください。
2. 火災により被害は倍増します。初期消火にできるだけ協力してください。

3. 避難の際は、ブロック塀の倒壊や商店の看板落下などに特に注意してください。
4. 本学院の小・中・高校生も同時に避難することになりますので、避難・救出に協力し、安全地帯を早く確認してください。
5. 交通機関の不通により、帰宅できないときは、本学の避難場所において、状況が判明するまで待機してください。
6. 本学の避難場所は建物内および構内空地（瓦やガラスなどの落下物に注意）です。
7. 学内の非常放送により連絡することもありますので注意してください。
8. 教職員や消防士などの指示に従ってください。

3 台風の接近等が予想される場合の措置

台風の接近等により、授業を平常通り行うことができないと判断した場合は、休講などの特別措置をとることがあります。特別措置の内容については、立教大学緊急時情報サイト、SPIRITトップページ、掲示等で確認してください。

[立教大学緊急時情報サイト](https://sites.google.com/rikkyo.ac.jp/emergency)

<https://sites.google.com/rikkyo.ac.jp/emergency>

[SPIRITトップページ](https://spirit.rikkyo.ac.jp/)

<https://spirit.rikkyo.ac.jp/>

* 試験期間についてもこの措置をとることがあります。

* 大学の窓口業務、諸施設の利用については、各主管部局のSPIRITページまたは掲示等でお知らせします。

4 授業中にJアラートが作動した場合（弾道ミサイル発射時）の対応

授業中のキャンパスが警戒対象となった場合、身の安全確保を第一に行動してください。なお、大学からは避難行動等の混乱による事故防止を主目的として、直ちに一斉放送を行います。

なお、放送時間は、池袋キャンパス・新座キャンパス共に、①授業期間中の月～土及び祝日授業日は8：30～22：00、②休日及び休業期間中は8：30～19：00とします。

《参考》

内閣官房国民保護ポータルサイト <http://www.kokuminhogo.go.jp/>

5 緊急連絡システムについて

1. 緊急連絡システム

(※本システムは本学学生および専任教職員を対象としています。)

緊急連絡システムとは、大規模地震が発生した際に、大学から自動的にみなさんの携帯電話等のメールアドレス宛てにメールを送信し、みなさんの安否を確認するシステムです。送信する宛先は、入学時または履修登録時に届け出ていただいたアドレスですが、在学中に変更した場合は、必ず教務関係窓口（教務事務センター〈池袋〉、教務事務センター〈新座〉、セカンドステージ大学事務室）に届け出てください（教職員は人事部人事課に届け出てください）。

なお、この緊急連絡システムが正常に機能するかを確認するために、年1～2回のテストを実施します。

また、この緊急連絡システムを利用して、緊急時の全学休講など重要なお知らせをすることもあります。

2. 連絡方法

大規模地震が発生したら、次のいずれかの方法で安否の状況を大学に報告してください（下図参照）。

携帯電話等が使用可能な場合

みなさんの携帯電話等に送られてきた大学からのメールに返信してください。

携帯電話等が使用できない場合

- キャンパス内または周辺にいる場合……

防災のしおりの巻末にある「安否確認カード」を池袋キャンパス警備室、新座キャンパス門衛所に設置された「安否確認投入箱」に投函してください。

- キャンパス外にいる場合……

下記の「大規模災害時の大学内主要連絡先」に電話連絡してください（郵送可）。

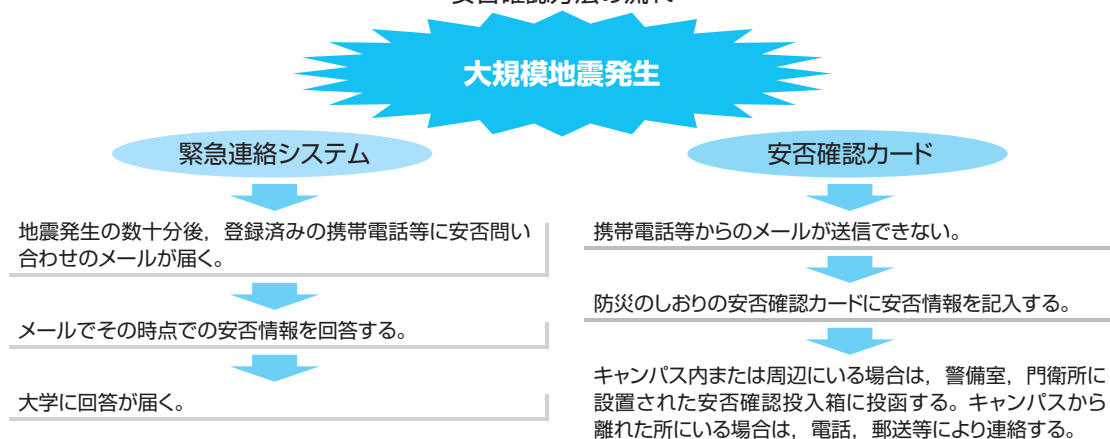
池袋キャンパス 東京都豊島区西池袋3-34-1

総務部総務課……………03-3985-2253
 学生部……………03-3985-2438
 警備室（24時間）……………03-3985-2288

新座キャンパス 埼玉県新座市北野1-2-26

総務部（新座）……………048-471-6674
 学生部……………048-471-6673
 新座キャンパス門衛所（24時間）……………048-471-6600

安否確認方法の流れ



【災害時伝言板サービス】

携帯電話各社では「災害時伝言板サービス」の利用ができます。災害発生時に家族との連絡がとれるように準備しておくことをお勧めします。

※利用についての詳細は各社のホームページをご覧ください。

※毎月1日や防災週間等に体験版の利用ができます。

- NTT docomo

https://www.nttdocomo.co.jp/info/disaster/disaster_board/

- au

<https://www.au.com/mobile/anti-disaster/saigai-dengen/>

- SoftBank

<http://www.softbank.jp/mobile/service/dengen/>

- Y!mobile

<http://www.ymobile.jp/service/dengen/>

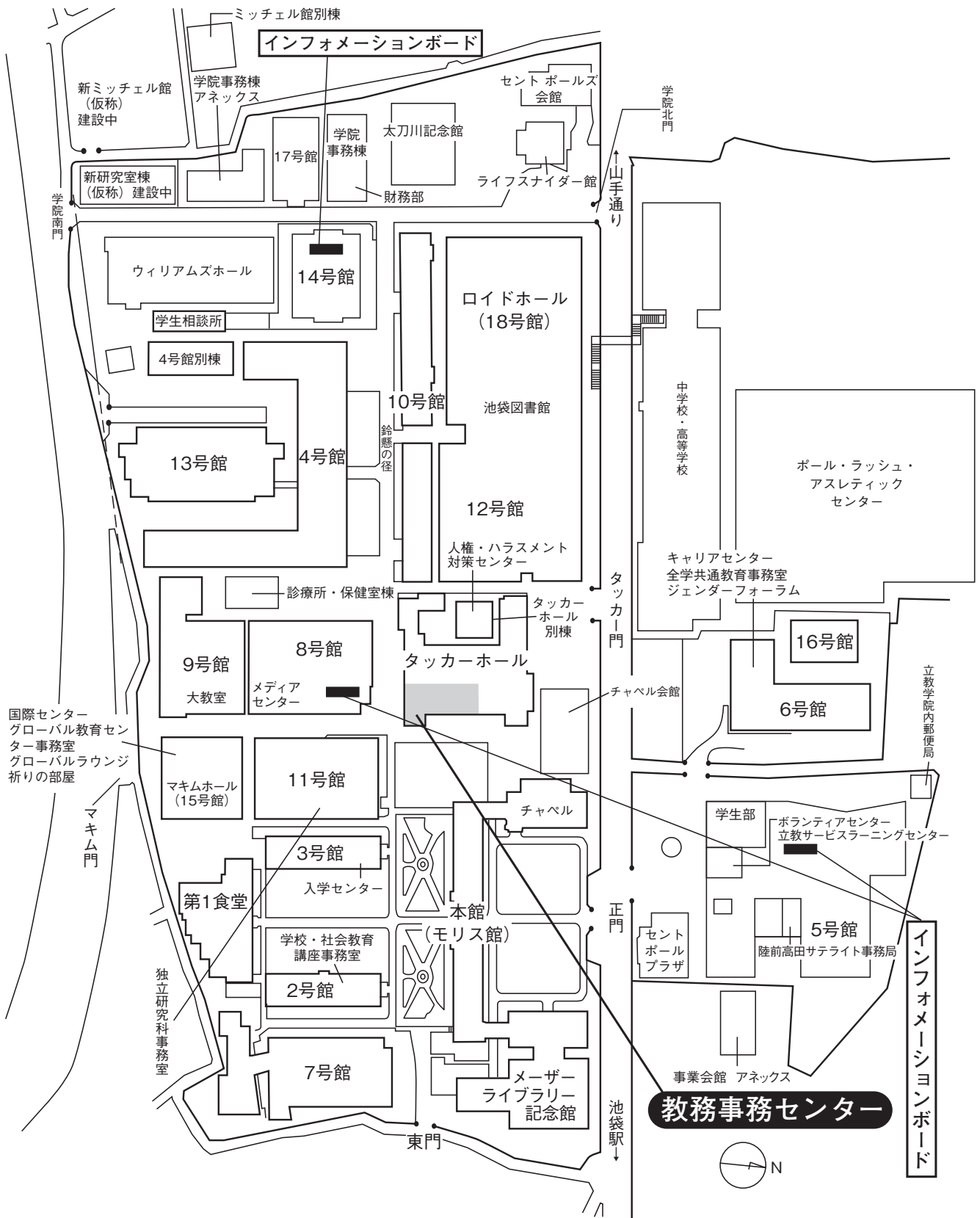
案内図

構内案内図・教室案内図(池袋キャンパス)

構内案内図・教室案内図(新座キャンパス)

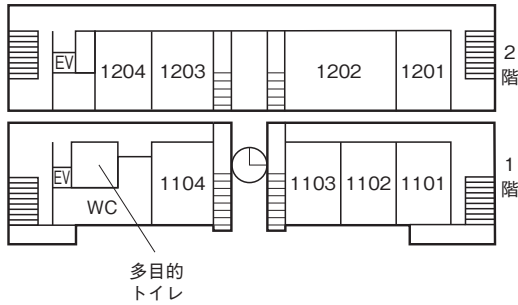
※最新の情報は、R Guideで確認すること。

池袋キャンパス構内案内図

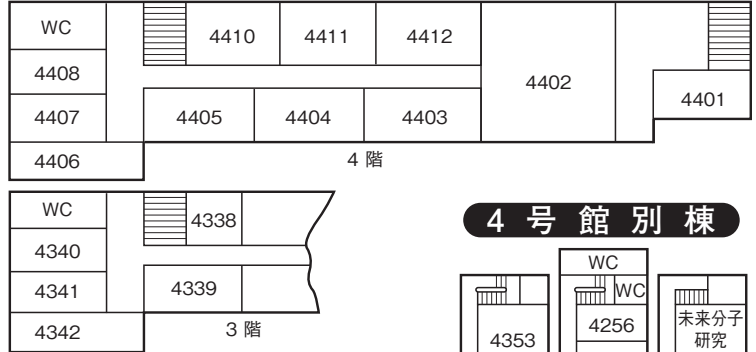


池袋キャンパス教室案内図

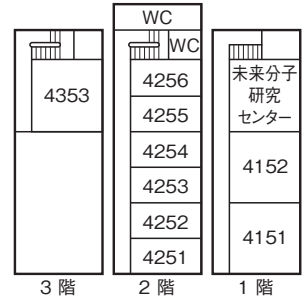
本館



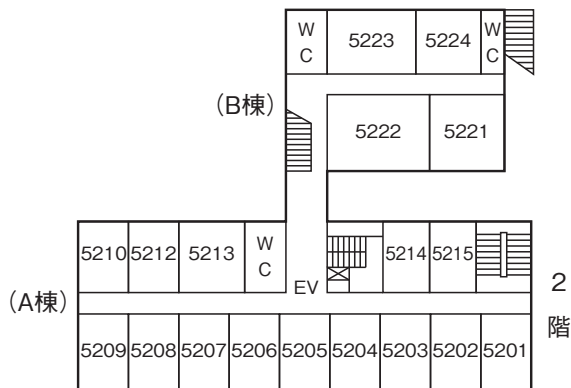
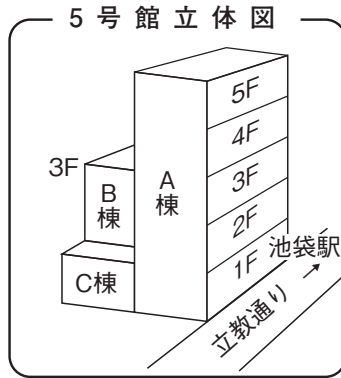
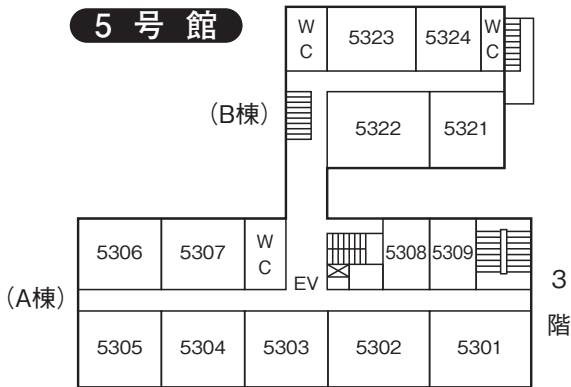
4号館



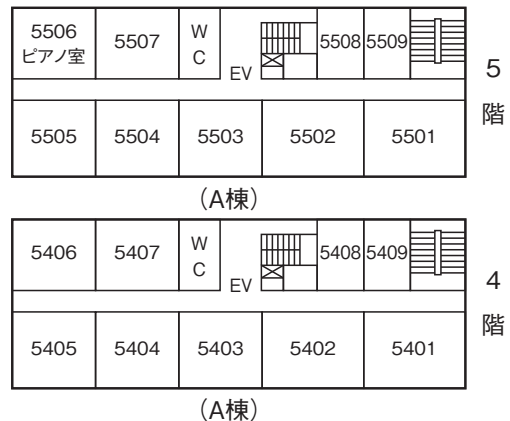
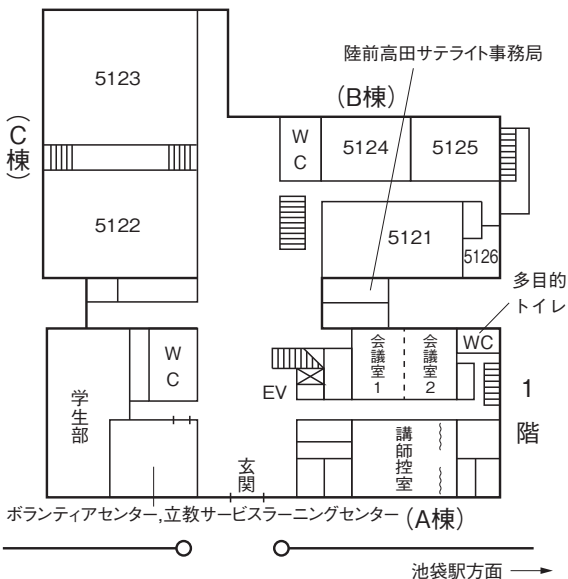
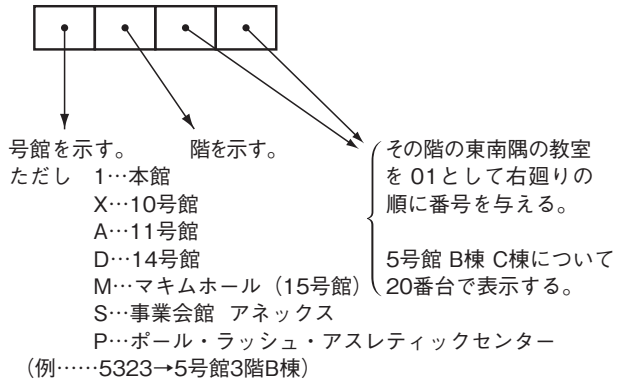
4号館別棟



5号館

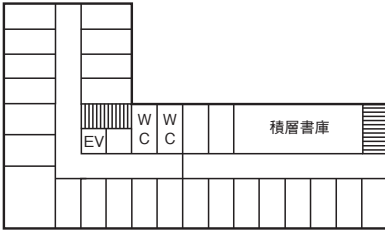


教室番号の見方

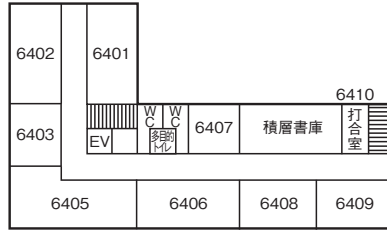


6号館

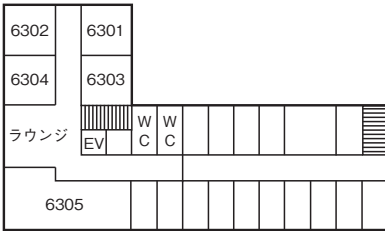
5階



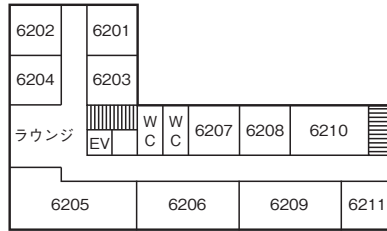
4階



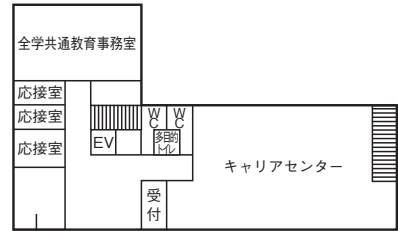
3階



2階

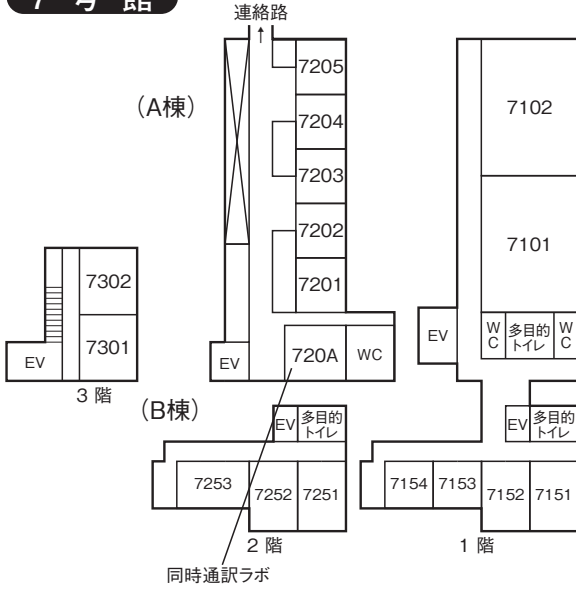


1階

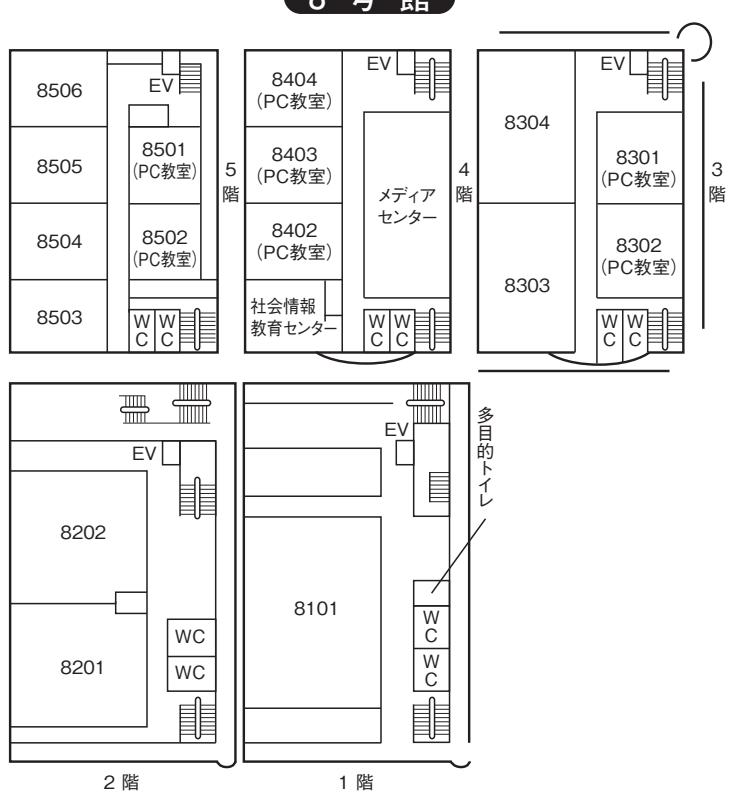


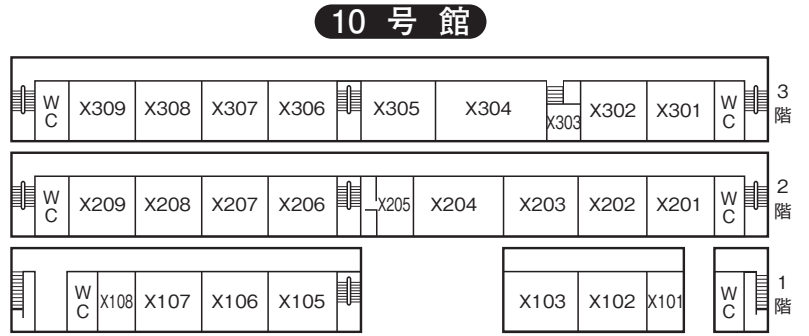
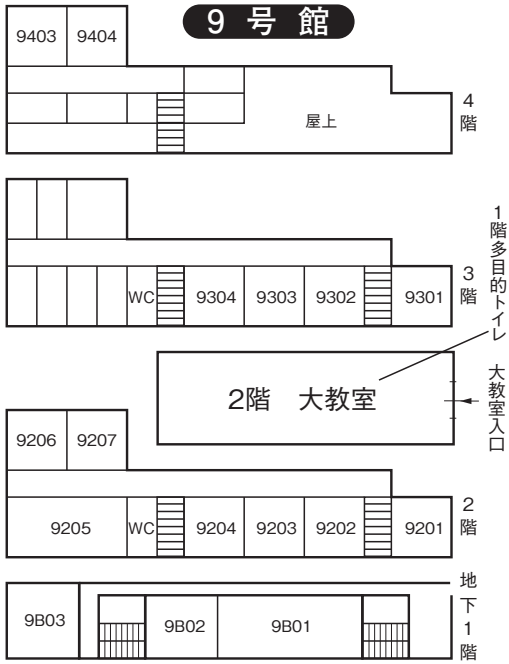
ジェンダーフォーラム

7号館

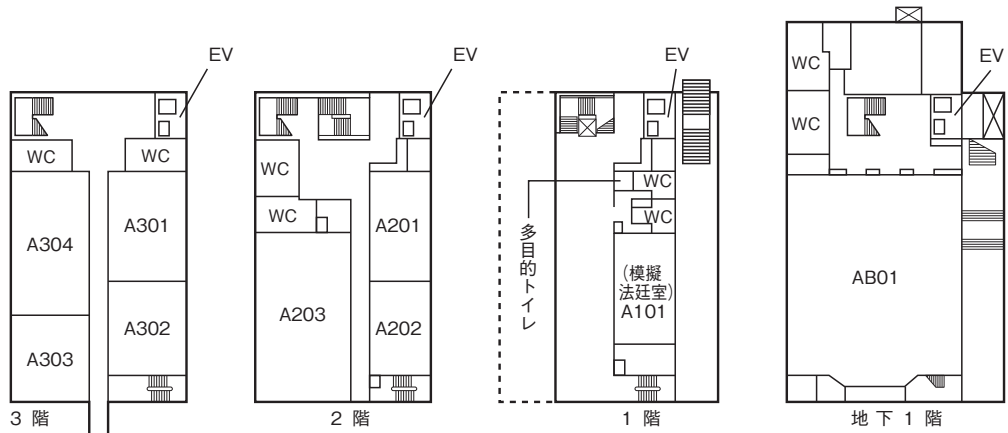


8号館

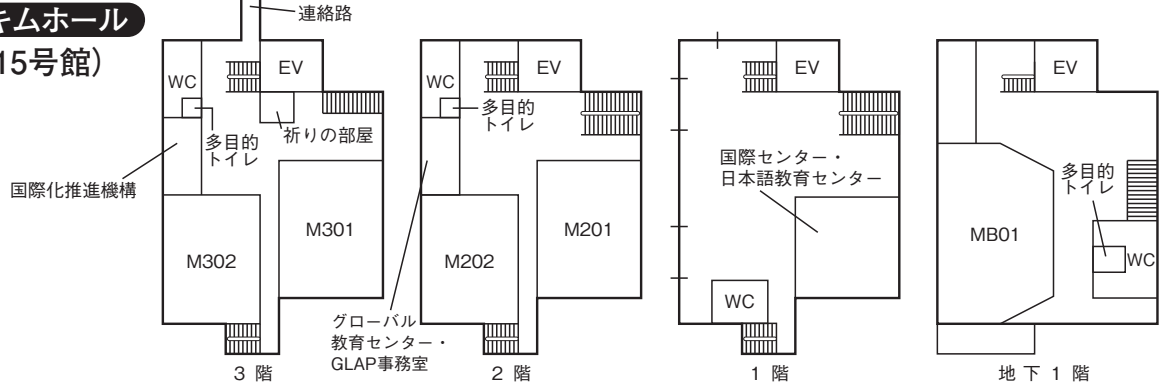




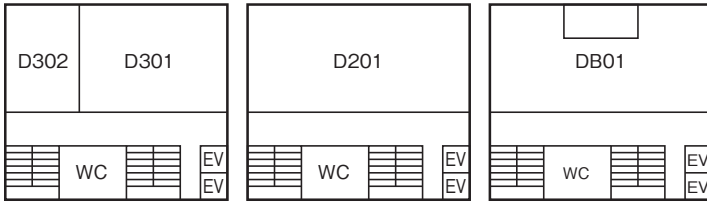
11号館



マキムホール (15号館)



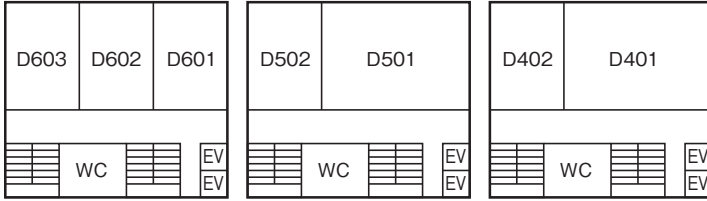
14号館



3階

2階

地下1階

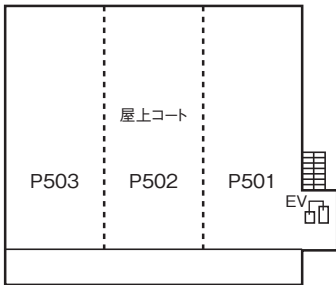


6階

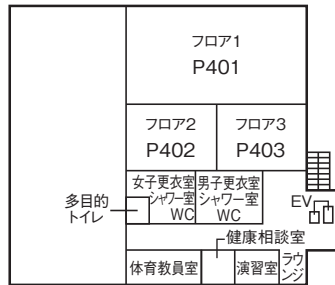
5階

4階

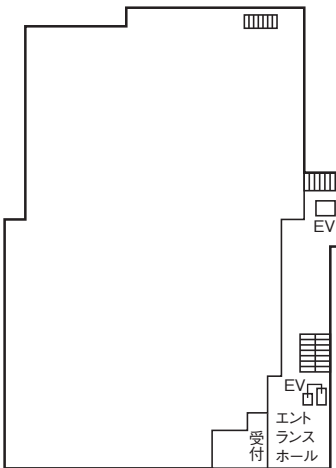
ポール・ラッシュ・アスレティックセンター



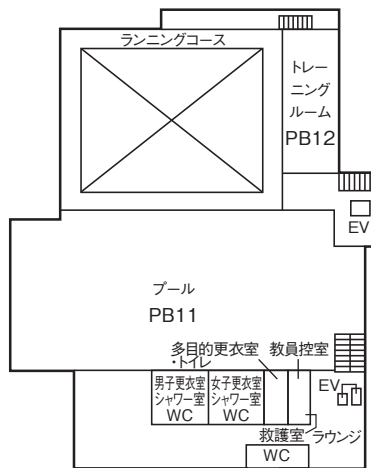
5階



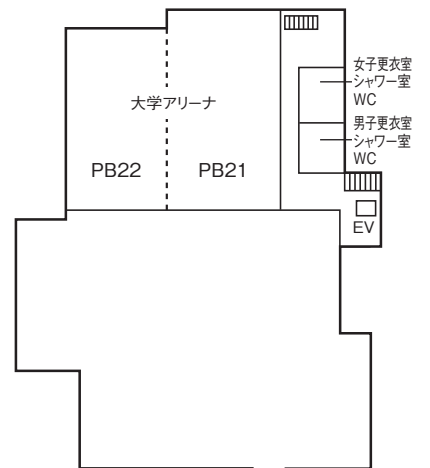
4階



1階



地下1階



地下2階

新座キャンパス構内案内図・交通案内図



■東武東上線利用【志木駅】

池袋-志木 所要時間(標準) 急行 約20分 準急 23分
 *急行・準急は昼間はおよそ10~15分間隔で運転

- (1) 志木駅南口スクールバス(無料)利用
乗車時間約7分
運行時間 10:10~22:00**
- (2) 志木駅南口西武バス利用
清瀬駅北口行き(③番乗場)
所沢駅東口行き(〃) } 「立教前」下車 乗車時間約10分
- (3) 徒歩
志木駅南口-正門 所要時間約15分

**スクールバスの運行情報
<http://www.rikkyo.ac.jp/access/niiza/schoolbus/>

■JR武蔵野線利用【新座駅】

- (1) 新座駅南口スクールバス(無料)利用
乗車時間約10分
運行時間 7:30~22:00**
(西武バス3番乗場付近)
- (2) 新座駅南口西武バス利用
志木駅南口(北野入口経由)行き(1番乗場)
「立教前」下車 乗車時間約10分
- (3) 徒歩
新座駅-正門 所要時間約25分

■西武池袋線利用【清瀬駅】

清瀬駅北口西武バス利用
志木駅南口行き(2番乗場)
「立教前」下車 乗車時間約30分

新座キャンパス教室案内図

教室番号の見方



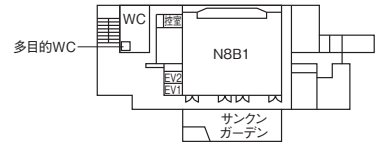
Nは新座を示す。階 号館 番号

号館

※ただしTは体育館を示す。

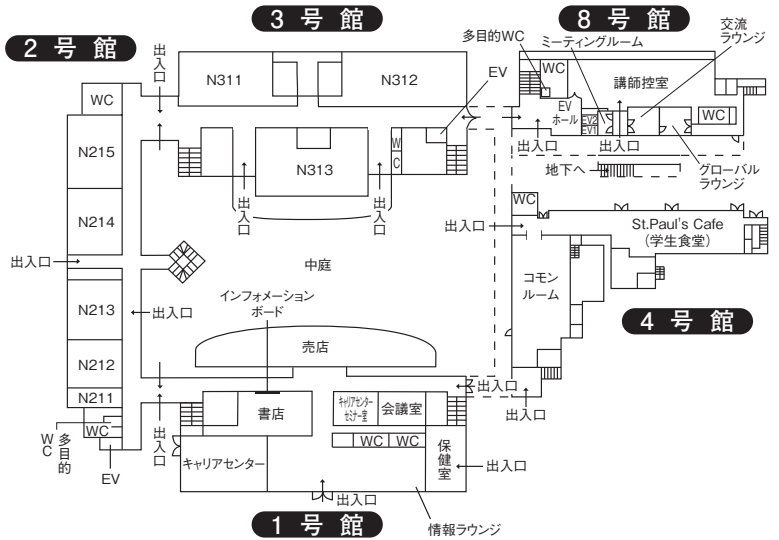
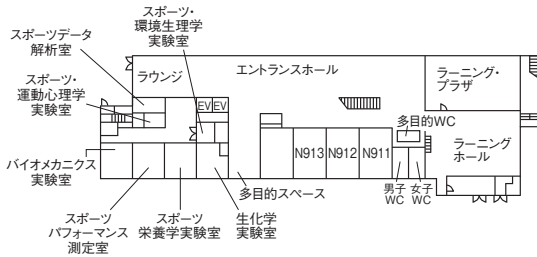
地下1階

8号館



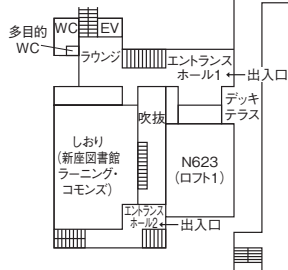
1階

9号館

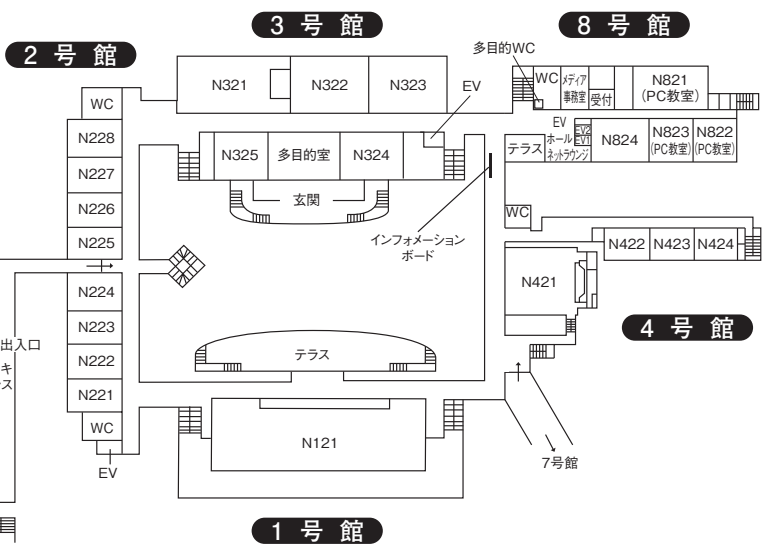
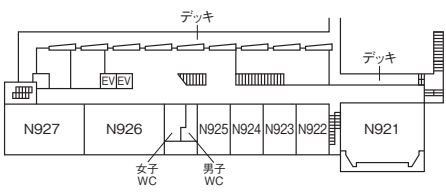


2階

6号館

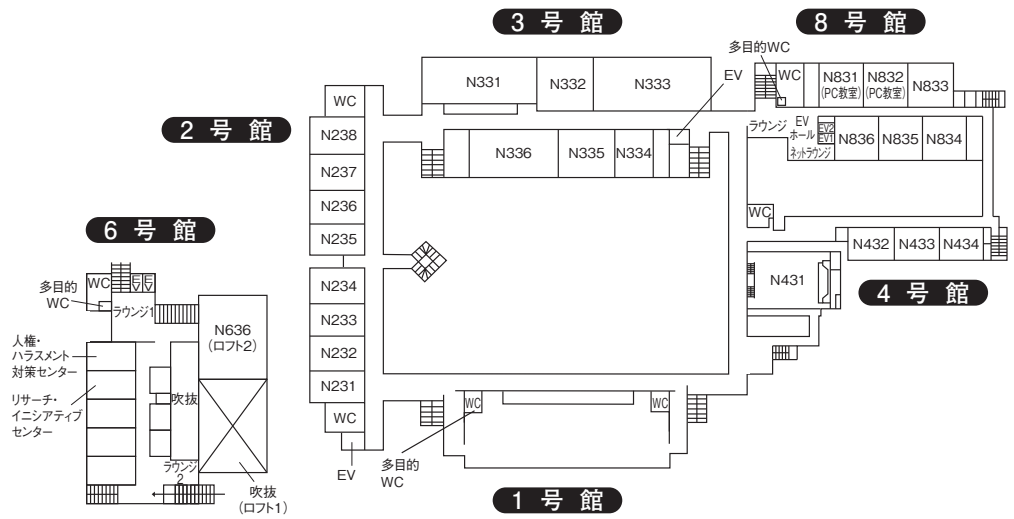


9号館

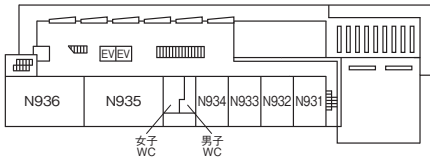


新座キャンパス教室案内図

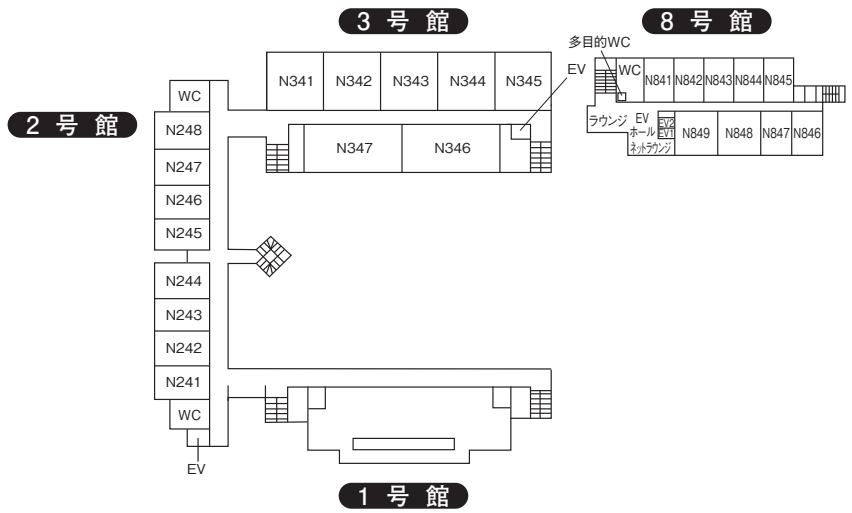
3階



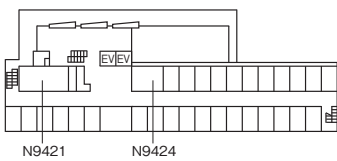
9号館



4階



9号館

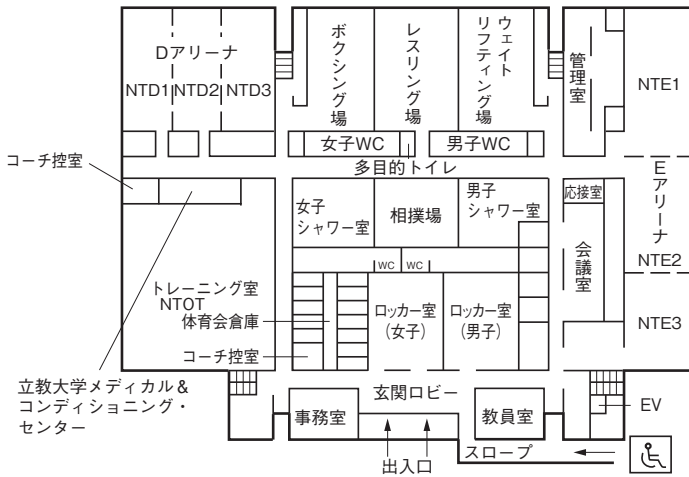


5階

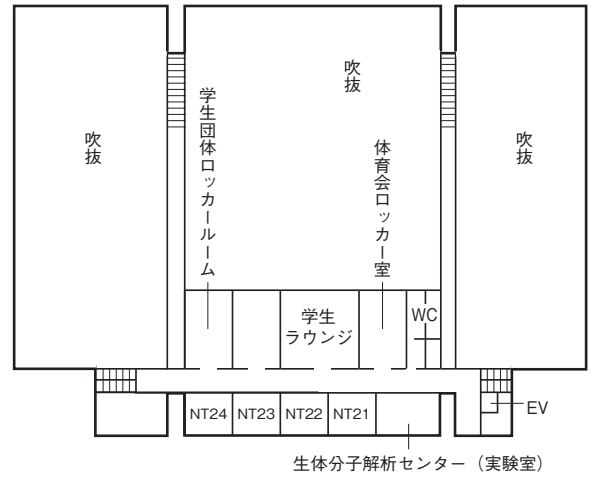


新座キャンパス体育館

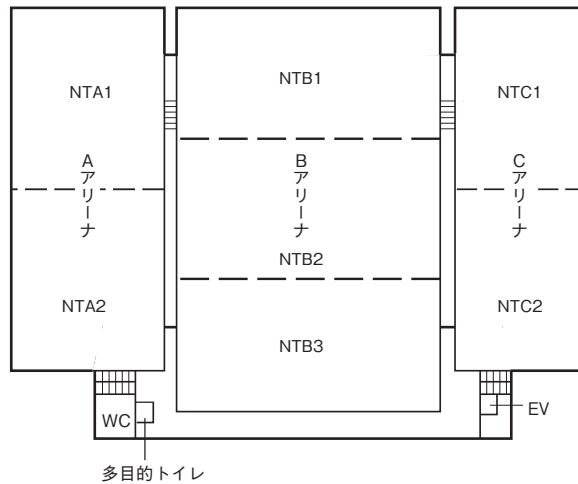
体育館 1階



体育館 2階



体育館 3階



※その他の新座キャンパス屋外施設

- ・テニスコート (NZT1)
- ・多目的グラウンド (NZA1)
- ・セントポールズ・アクアティックセンター (NPL1)
- ・セントポールズ・フィールド (NSTD)

学生番号：

氏名：

2025年4月

立 教 大 学 文 学 部
立教大学大学院文学研究科

〒171-8501 東京都豊島区西池袋3-34-1
立教大学池袋キャンパス教務事務センター

☎03-3985-2220

